

道東自動車道
占冠地区下部工工事

本流鵠川第一橋（下り線）
下部工設計図

令和 7 年 3 月

東日本高速道路株式会社
北海道支社 帯広工事事務所

目 次

1. 数量総括表	1
2. 全体一般図（その１～２）	2 ～ 3
3. 下部工座標図	4
4. A 1 橋台構造一般図（その１～２）	5 ～ 6
5. A 1 橋台配筋図（その１～２ 3）	7 ～ 29
6. P 1 橋脚構造一般図	30
7. P 1 橋脚配筋図（その１～１ 1）	31 ～ 41
8. A 2 橋台構造図（その１～２）	42 ～ 43
9. A 2 橋台配筋図（その１～２ 6）	44 ～ 69
10. A 1 橋台裏込め工図	70
11. A 2 橋台裏込め工図	71
12. A 1 橋台土留め工計画図（その１～８）	72 ～ 79
13. A 2 橋台土留め工計画図（その１～２）	80 ～ 81
14. はく落防止対策工詳細図	82

下部工施工

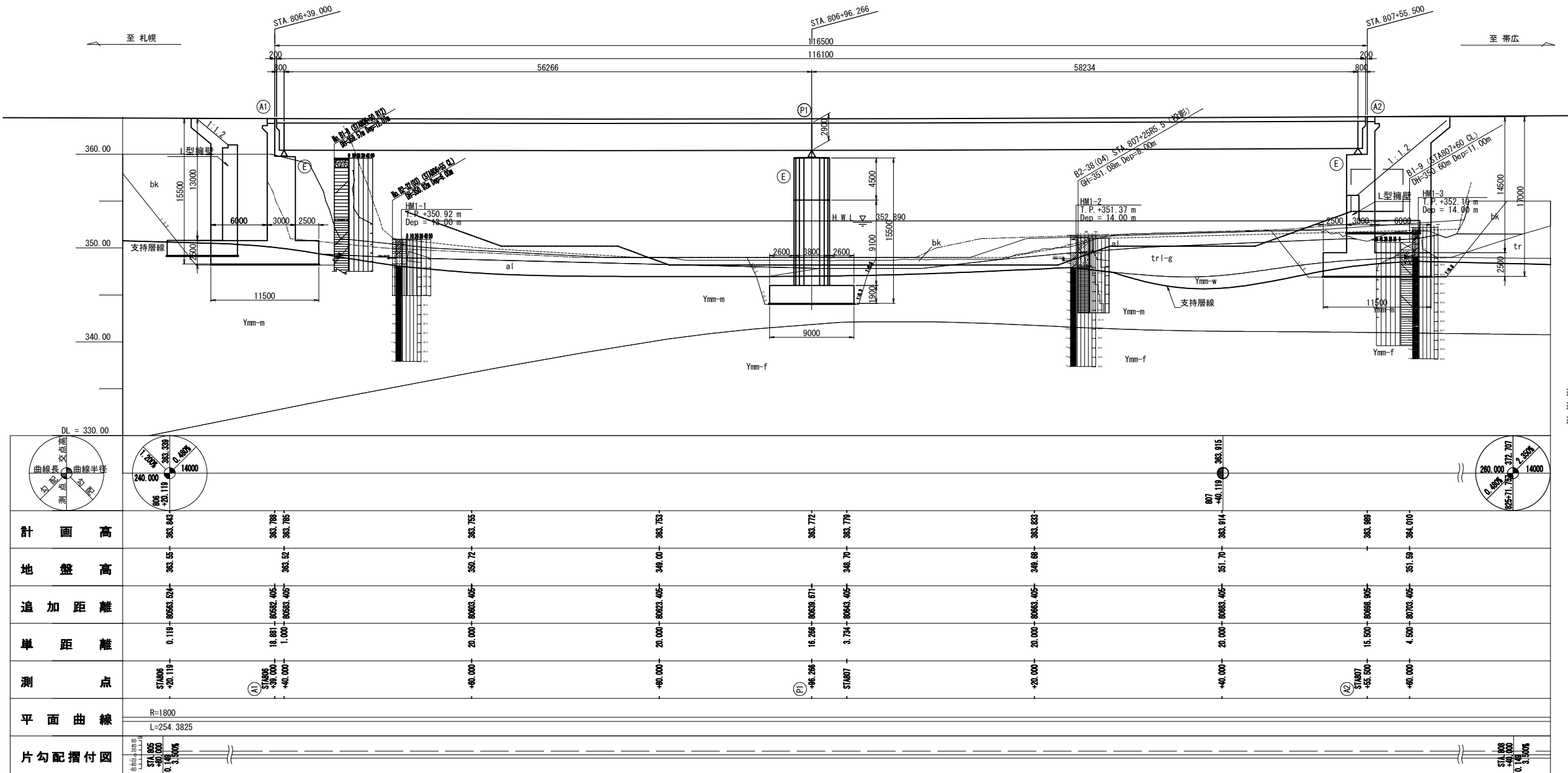
項 目	種 別		単位	第一橋				摘 要
				A 1 橋台	P 1 橋脚	A 2 橋台	合 計	
客土掘削	土砂 A 1		m3	263. 9	585. 0	1, 223. 8	2, 072. 7	
構造物掘削	普通部	土砂	m3	－	305. 2	－	305. 2	
		軟岩	m3	－	356. 2	－	356. 2	
	特殊部	土砂	m3	2, 818. 1	－	1, 973. 6	4, 791. 7	
		軟岩	m3	605. 7	－	736. 1	1, 341. 8	
構造物裏込め工	裏込め工 B 1		m3	98. 5	－	447. 6	546. 1	
地下排水工	Du-P φ0. 15-0. 50-0. 50		m	9. 5	－	14. 1	23. 6	※率計上
コンクリート	A 1－3		m3	597. 8	250. 2	887. 9	1, 735. 9	σ ck=30N/mm2
	B 2－1		m3	324. 9	153. 9	471. 5	950. 3	σ ck=24N/mm2
	D 1－1		m3	13. 5	8. 5	19. 4	41. 4	σ ck=18N/mm2
型わく	C		m2	1, 034. 6	310. 2	1, 235. 0	2, 579. 8	
	D		m2	4. 6	3. 7	5. 7	14. 0	
鉄 筋	A	D13	t	0. 019	－	0. 028	0. 047	SD345（重ね継手）
		D16～D25	t	9. 502	15. 976	7. 389	32. 867	
		D29～D32	t	1. 457	8. 640	13. 338	23. 435	
		D35	t	6. 970	－	17. 265	24. 235	
		D38	t	10. 317	17. 858	0. 896	29. 071	
		D41	t	13. 038	－	－	13. 038	
		小計	t	41. 303	42. 474	38. 916	122. 693	
	A（E）	D13	t	0. 534	－	0. 691	1. 225	SD345（重ね継手）（エポキシ樹脂塗装鉄筋）
		D16～D25	t	7. 650	－	3. 354	11. 004	
		D29～D32	t	16. 302	－	21. 033	37. 335	
		D35	t	9. 950	－	8. 584	18. 534	
		D38	t	－	－	4. 526	4. 526	
		小計	t	34. 436	－	38. 188	72. 624	
	B	D29～D32	t	3. 517 [40]	－	17. 664 [193]	21. 181 [233]	SD345(機械継手)
		D35	t	2. 324 [20]	－	－	2. 324 [20]	
		D38	t	2. 834 [20]	6. 120 [52]	3. 011 [20]	11. 965 [92]	
		D51	t	－	－	32. 414 [154]	32. 414 [154]	
		小計	t	8. 675 [80]	6. 120 [52]	53. 089 [367]	67. 884 [499]	
	B（H）	D51	t	－	26. 762 (108)	－	26. 762 (108)	SD490(機械継手)
		計	t	－	26. 762 (108)	－	26. 762 (108)	
	B（E）	D29～D32	t	2. 622 [41]	－	8. 907 [97]	11. 529 [138]	SD345（機械継手）（エポキシ樹脂塗装鉄筋）
		D38	t	－	－	30. 344 [194]	30. 344 [194]	
		計	t	2. 622 [41]	－	39. 251 [291]	41. 873 [332]	
	C	D16～D25	t	0. 939 (136)	3. 029 (494)	2. 108 (292)	6. 076 (922)	SD345(機械式鉄筋定着工法)
		小計	t	0. 939 (136)	3. 029 (494)	2. 108 (292)	6. 076 (922)	
	C（E）	D16～D25	t	4. 598 (1189)	－	6. 500 (2253)	11. 098 (3442)	SD345(機械式鉄筋定着工法)（エポキシ樹脂塗装鉄筋）
		D29～D32	t	－	－	5. 129 (255)	5. 129 (255)	
		計	t	4. 598 (1189)	－	11. 629 (2508)	16. 227 (3697)	
	合計		t	92. 573	78. 385	183. 181	354. 139	
はく落防止対策工	A		m2	－	－	15. 8	15. 8	

注1) []内は機械継手箇所数を示す。
注2) ()内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。

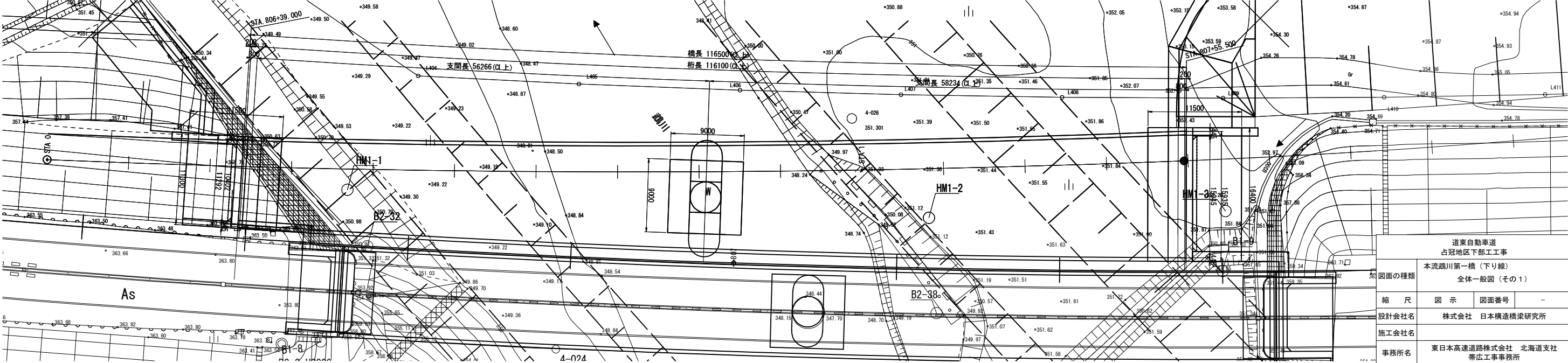
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） 数量総括表		
縮 尺	図 示	図面番号	－
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

本流鵲川第一橋（下り線） 全体一般図（その1）

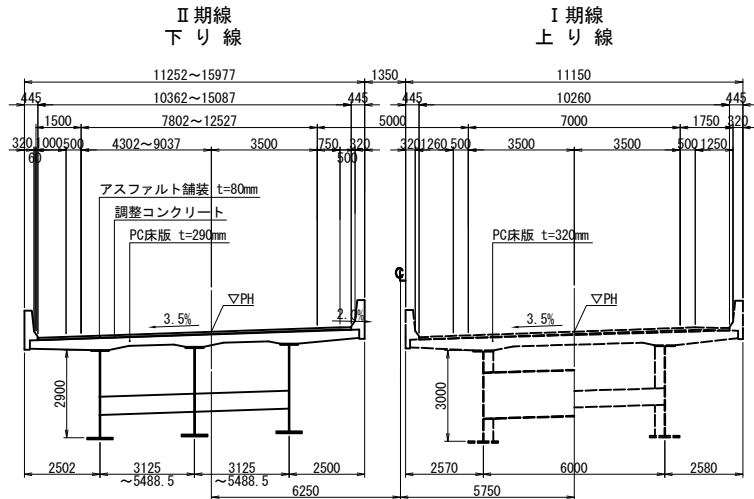
側面図 S=1:500



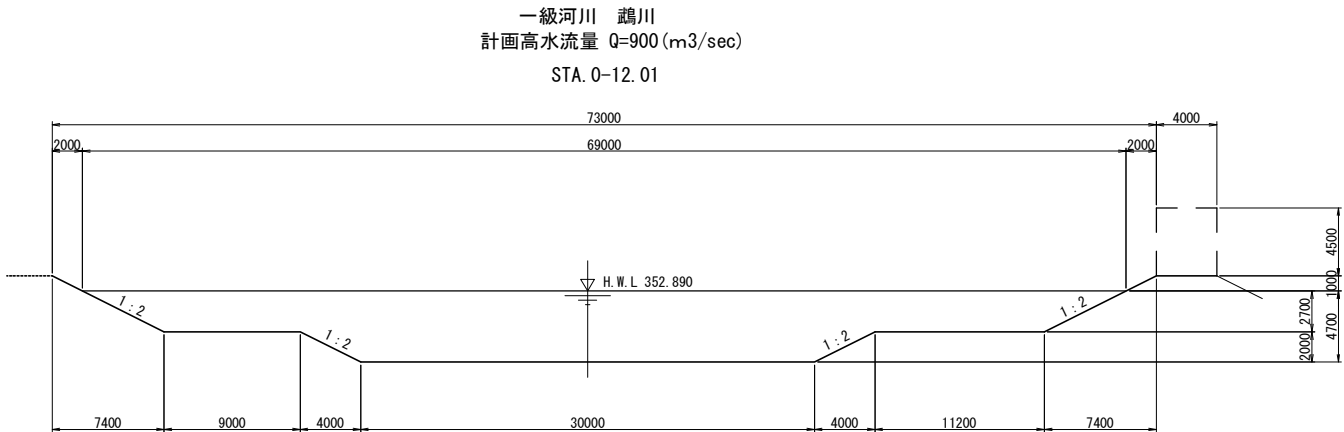
平面図 S=1:500



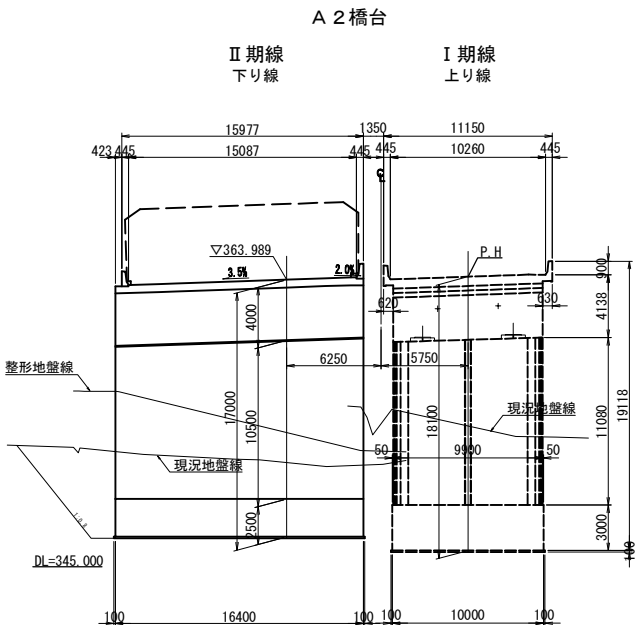
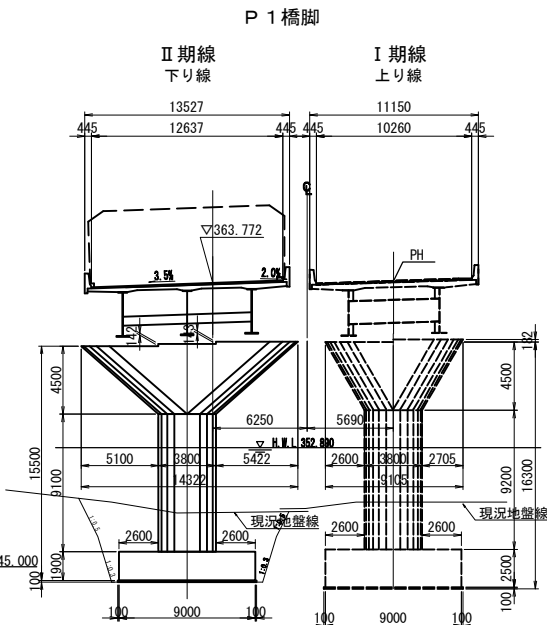
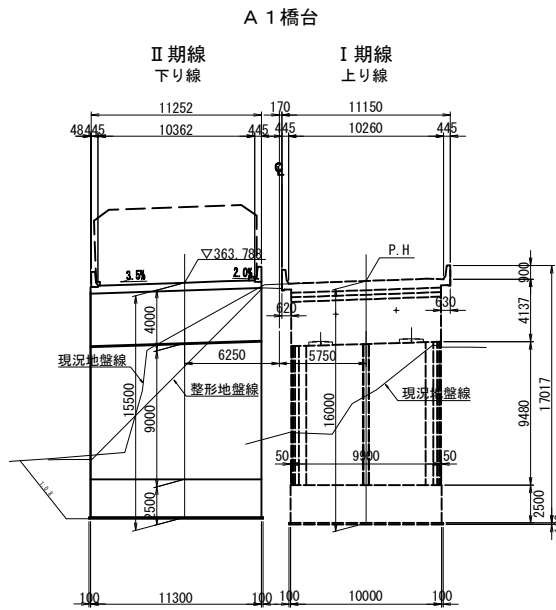
断面図 S=1:250



交差条件 S=1:500



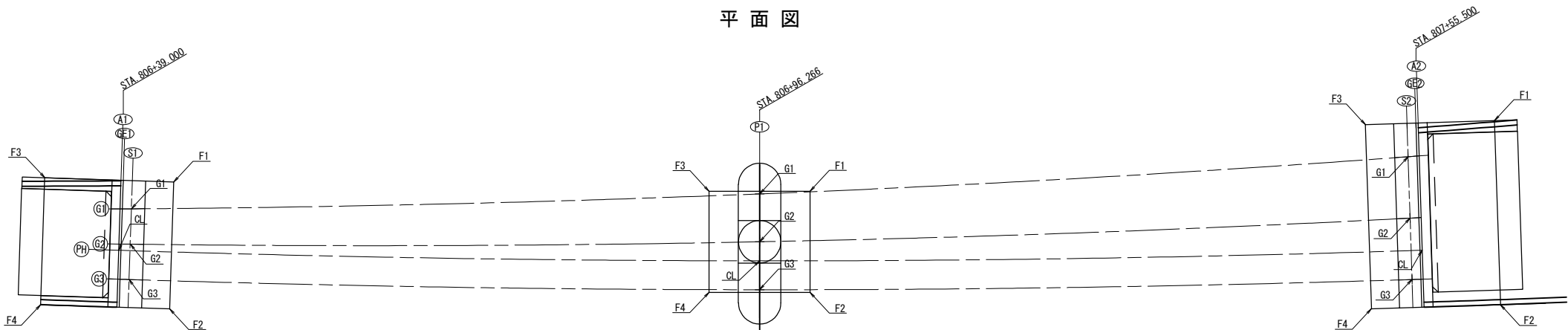
断面図 S=1:500



設 計 条 件				
基本条件	路線名	道東自動車道		
	橋名	本流鵜川第一橋 下り線		
	道路規格	第 1 種第 2 級 B 規格		
	設計速度	100km/h		
	計画交通量	8400台/日	大型車交通量：2024台/日	
	橋長	A1-A2： 116.50m (CL上)		
	桁長	A1-A2： 116.10m (CL上)		
	支間長	A1-A2： 56.266+58.234m (CL上)		
	全幅員	11.252m～15.977m	非常駐車帯部：—	
	有効幅員	10.362m～15.087m	非常駐車帯部：—	
耐用性能条件	平面線形	R=1800m		
	縦断線形	i=0.480% 〴〵		
	横断線形	i=3.500% 〴〵		
	斜角	90° 00' 00"		
	橋の耐荷性能	橋の耐荷性能 2		
	設計供用期間	100年		
	舗装荷重	アスファルト舗装 t=80mm		
	遮音壁荷重	設置しない（設計荷重は両側w=1.45kN/mとして考慮）		
	雪荷重	考慮しない		
	設計活荷重	B活荷重		
耐久性性能条件	温度変化条件	-10～ +50℃（基準温度20℃） 支承・伸縮装置 -40～+40℃（基準温度0℃）		
	橋の重要度区分	B種の橋		
	地域補正係数	B2地域： Cz=0.85、CⅠ z=1.0、CⅡ z=0.85		
	地盤種別	Ⅰ 種地盤 kh = Cz・k _h = 0.85 × 0.20 = 0.17		
	地盤の液状化	なし		
	設計水平震度	レベル1	橋軸方向： 0.17	直角方向： 0.17
		レベル2（Ⅰ）	橋軸方向： 0.84	直角方向： 0.83
		レベル2（Ⅱ）	橋軸方向： 0.75	直角方向： 0.75
		レベル1	橋軸方向： 0.90	直角方向： 0.62
	固有周期	レベル2（Ⅰ）	橋軸方向： 1.30	直角方向： 1.31
レベル2（Ⅱ）		橋軸方向： 1.29	直角方向： 1.29	
架橋環境条件	地域区分C	200m以上		
	塩害対策区分	該当なし		
	維持管理の制約	なし		
	部材の設計耐久期間	100年		
上部構造条件	鋼桁塗装仕様	C塗装系		
	鉄筋被り	床版：40mm、下部工：80mm（土中、水中）		
	橋梁形式	鋼2径間連続合成3主钣桁橋		
	防護欄形式	フロリダ型 S B 種		
使用材料	主要鋼材	SS400、SM400、SM490Y、SM520、SM570、S10T		
	コンクリート	σ _{ck} =40N/mm ² （床版） σ _{ck} =30N/mm ² （地覆、壁高欄）		
	鉄筋	SD345		
	P C 鋼材	1S28.6 (SWPR19L)		
下部構造条件	架設方法	トラッククレーンベント工法		
	構造形式	逆 T 式橋台（A1、A2橋台）、張出式橋脚（P1橋脚）		
	基礎形式	直接基礎（A1、A2橋台、P1橋脚）		
	使用材料	コンクリート	σ _{ck} =30N/mm ² （躯体） σ _{ck} =24N/mm ² （フーチング） σ _{ck} =18N/mm ² （均しコンクリート）	
		鉄筋	SD345、SD490	
		支持層	中部蝦夷層群（Ymm-m） N値270	
支承形式	橋軸方向：免震支承 橋軸直角方向：免震支承			
落橋防止システム	落橋防止構造	PCケーブル連結 段差防止構造		
維持管理条件	点検方法	上部工検査路、下部工検査路		
		本線から：法面階段、桁下から：A2橋台昇降梯子		
その他検討事項	地震時の点検補修部位	支承部他		
	第三者被害対策	はく落防止、落下物防止柵（交差道路に対して） 中央分離帯転落防止柵		
	振動・騒音条件	なし		
適用基準等	道路標示方書・同解説 I～V編（平成29年11月）日本道路協会			
	設計要領第二集（平成28年8月）東日本高速道路株式会社			

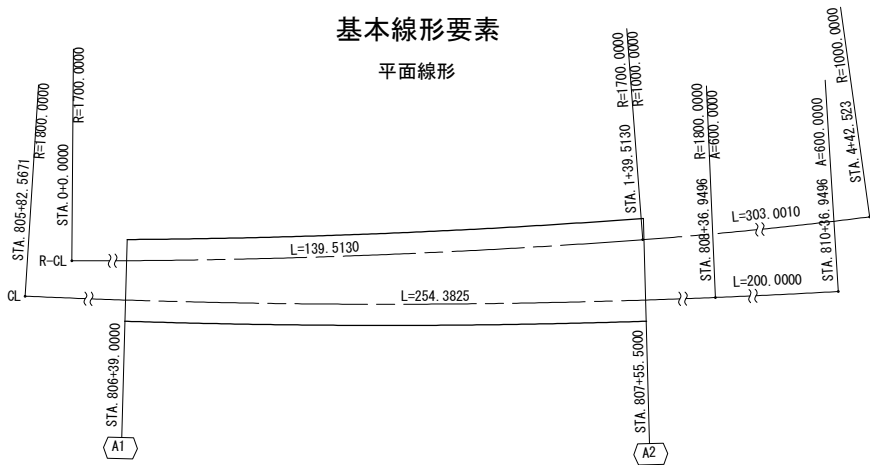
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋 (下り線) 全体一般図 (その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

平面図



基本線形要素

平面線形



主要点座標値 R-CL

主要点名	測点	X座標	Y座標	線形要素
BC 1-0	0+0.0000	-109717.500429	14507.026390	R=1700.0000
EBC 1-1	1+39.5134	-109618.980079	14605.752271	
KA 2-1	4+42.5231	-109368.816289	14774.668292	R=1000.0000

主要点座標値 CL

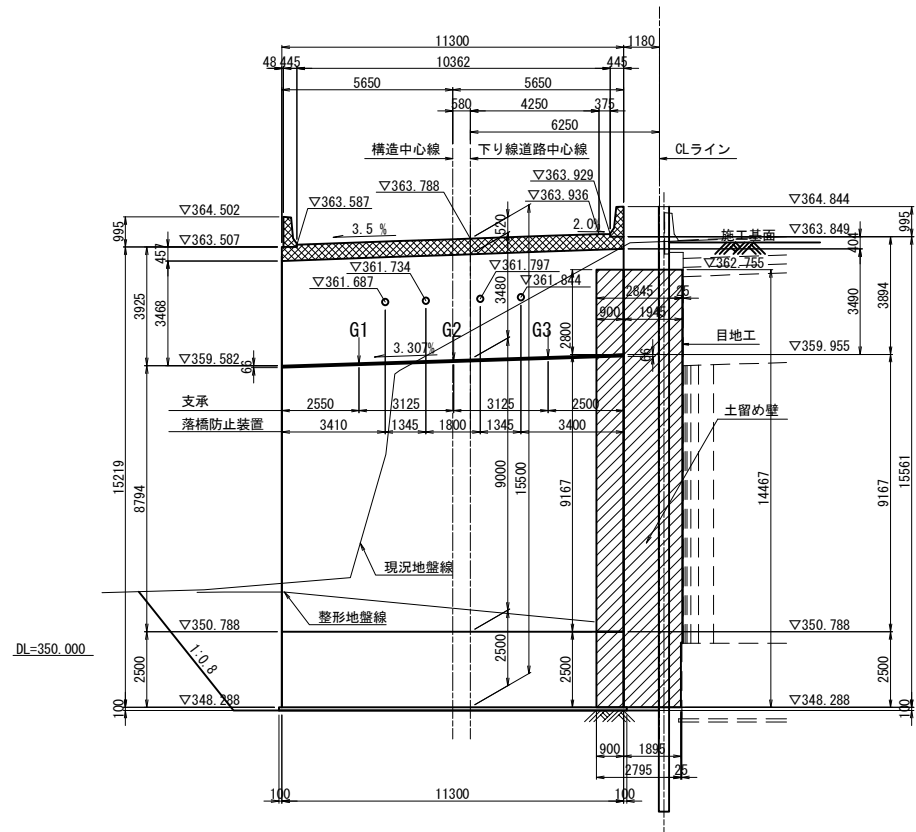
主要点名	測点	X座標	Y座標	線形要素
KE 48-1	805+82.567109	-109744.292130	14487.240454	R=1800.0000
KE 48-2	808+36.949595	-109569.622451	14671.884226	
KA 48-2	810+36.949595	-109417.379426	14801.541807	A=600.0000

下部工座標値

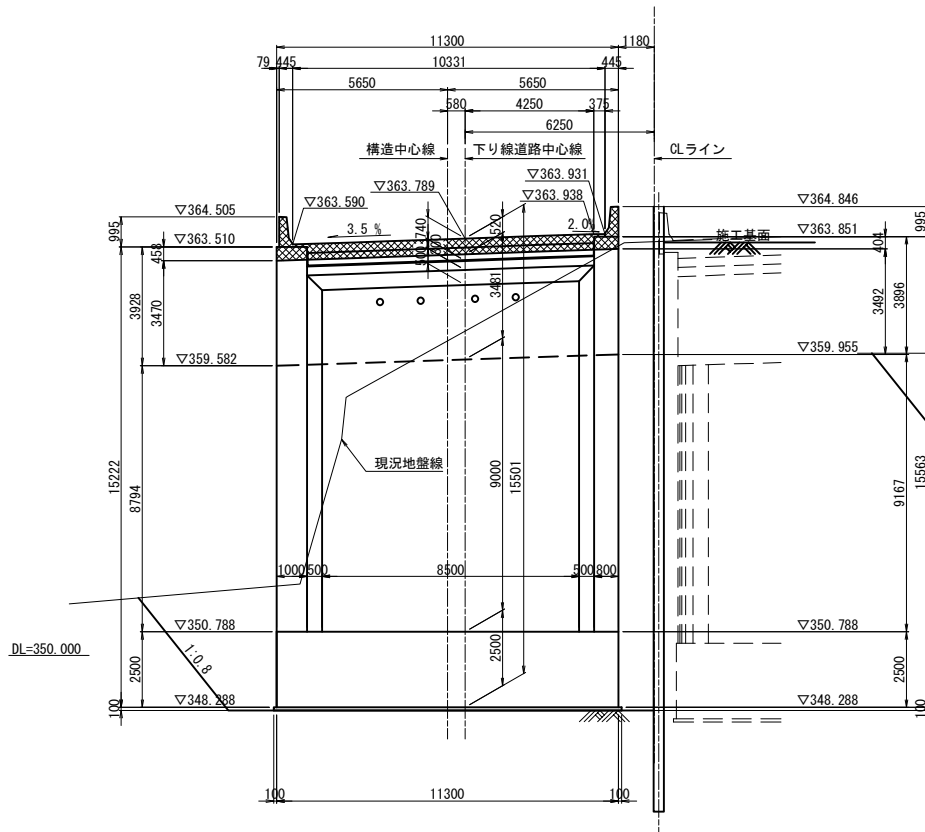
	A1橋台		P1橋脚		A2橋台	
	X	Y	X	Y	X	Y
F1	-109695.3343	14525.6293	-109657.2854	14567.6229	-109611.1102	14607.8934
F2	-109703.8421	14533.0662	-109663.8697	14573.7586	-109622.7339	14619.4628
F3	-109702.9029	14516.9709	-109663.4212	14561.0386	-109619.2229	14599.7426
F4	-109711.4107	14524.4078	-109670.0054	14567.1744	-109630.8466	14611.3120
G1	-109699.6593	14524.4956	-109660.5270	14564.4926	-109618.7158	14604.4582
G2	-109702.0271	14526.5653	-109663.6452	14567.3984	-109622.5900	14608.3144
G3	-109704.3948	14528.6349	-109666.7635	14570.3042	-109626.4643	14612.1706
CL	-109703.1181	14526.1908	-109664.8833	14568.5521	-109623.9376	14611.0666

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第一橋（下り線） 下部工座標図		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

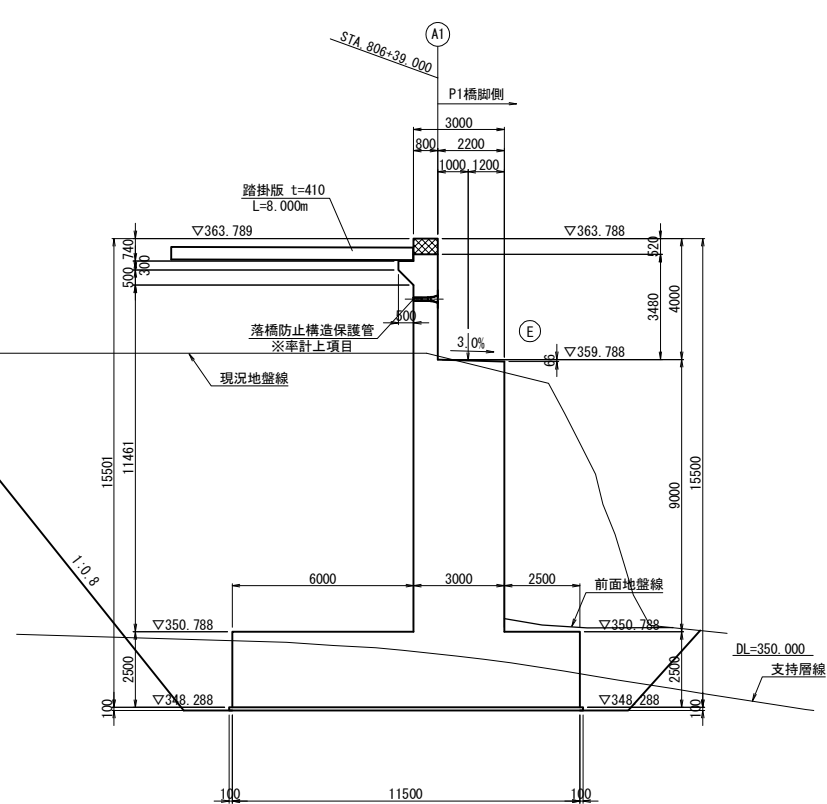
正面図（1-1）



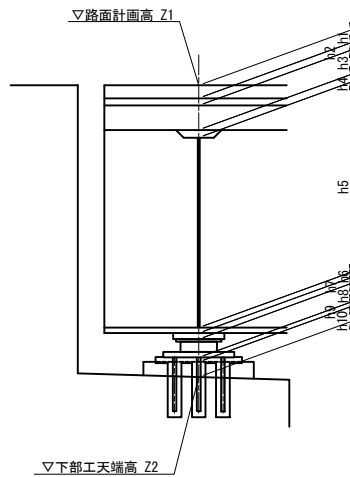
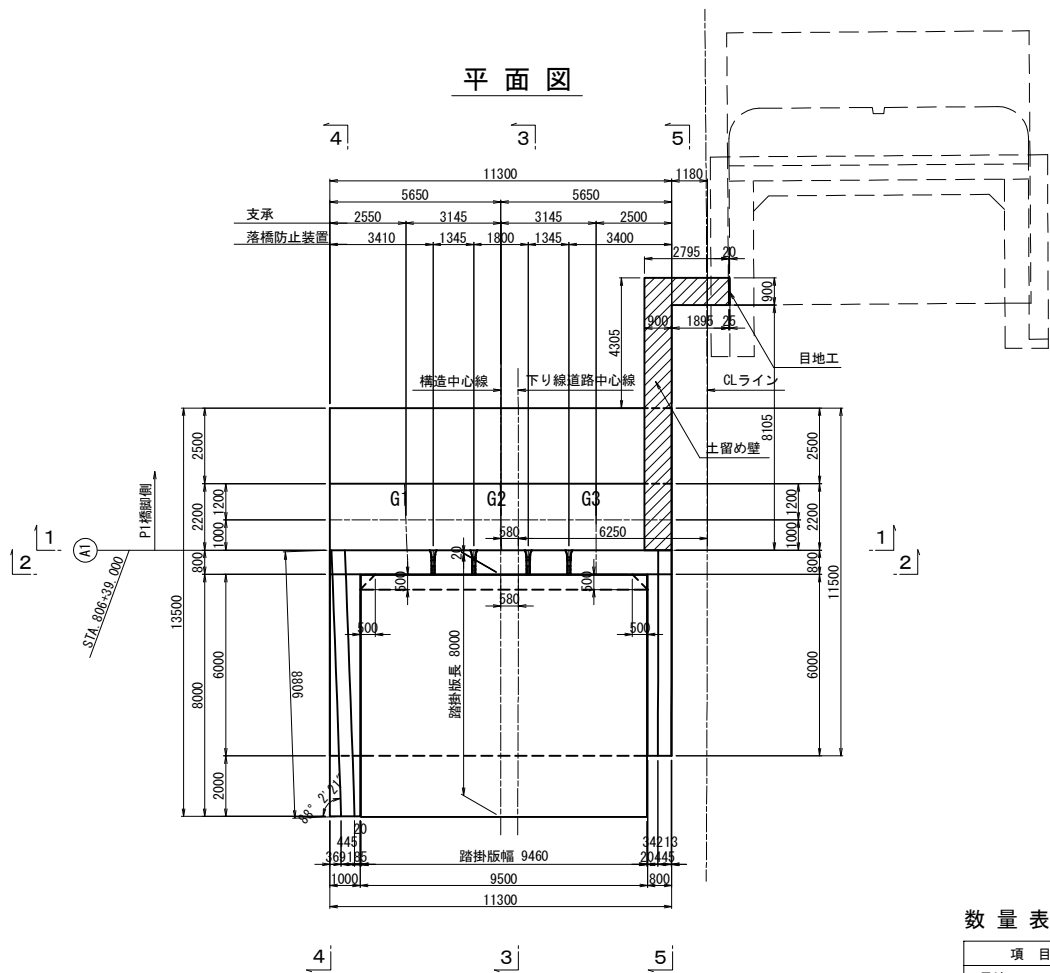
背面図（2-2）



断面図（3-3）



平面図



構造高表

		A1橋台		
		G1	G2	G3
路面計画高	Z1	363.655	363.765	363.875
舗装厚	h1	0.080	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.004	0.010	0.016
床版厚	h3	0.290	0.290	0.290
ハンチ高	h4	0.100	0.100	0.100
主桁高	h5	2.900	2.900	2.900
下フランジ厚	h6	0.027	0.027	0.027
ソールプレート厚	h7	0.040	0.040	0.040
支承高	h8	0.343	0.343	0.343
番座モルタル厚	h9	0.036	0.036	0.036
台座	h10	0.200	0.200	0.200
構造高合計	Σh	4.020	4.026	4.032
下部工天端高	Z2	359.635	359.739	359.843

使用材料表

コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	フーチング	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
鉄筋	躯体	SD345
	フーチング	SD345

注：[ハッチ] は上部工施工範囲を表す。
[斜線] は土留め壁施工範囲を表す。

数量表

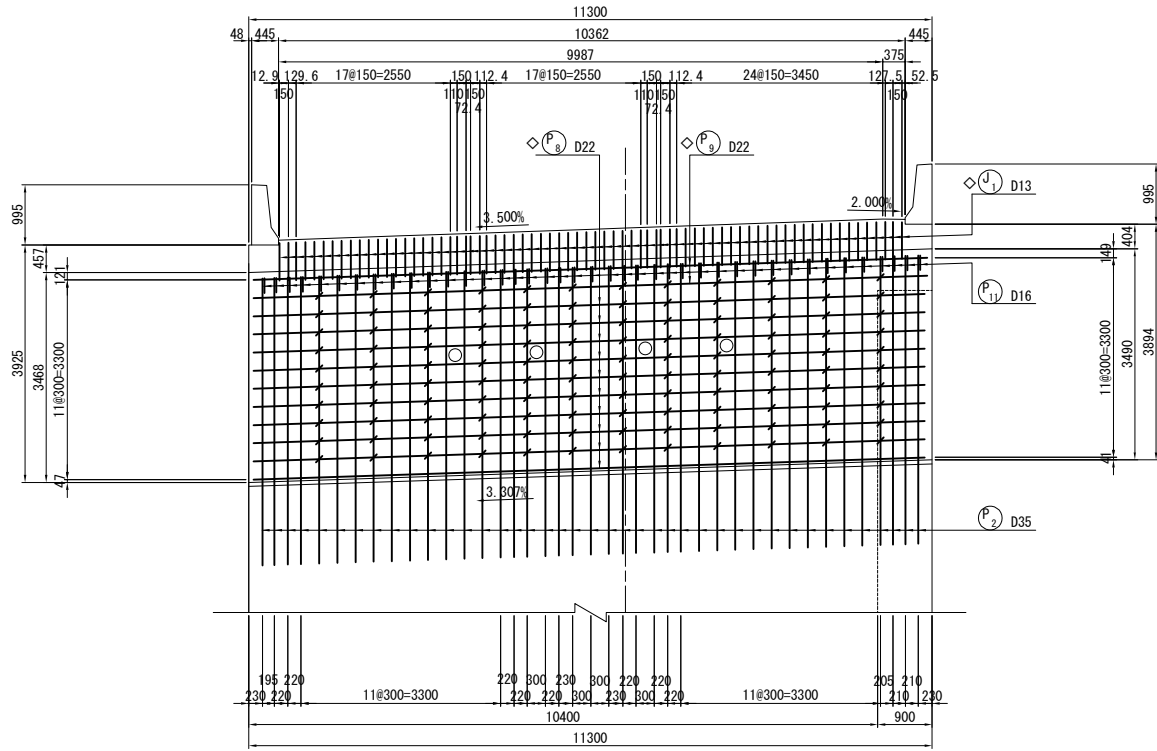
項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
目地工		m2	13.1	土留め壁

数量表

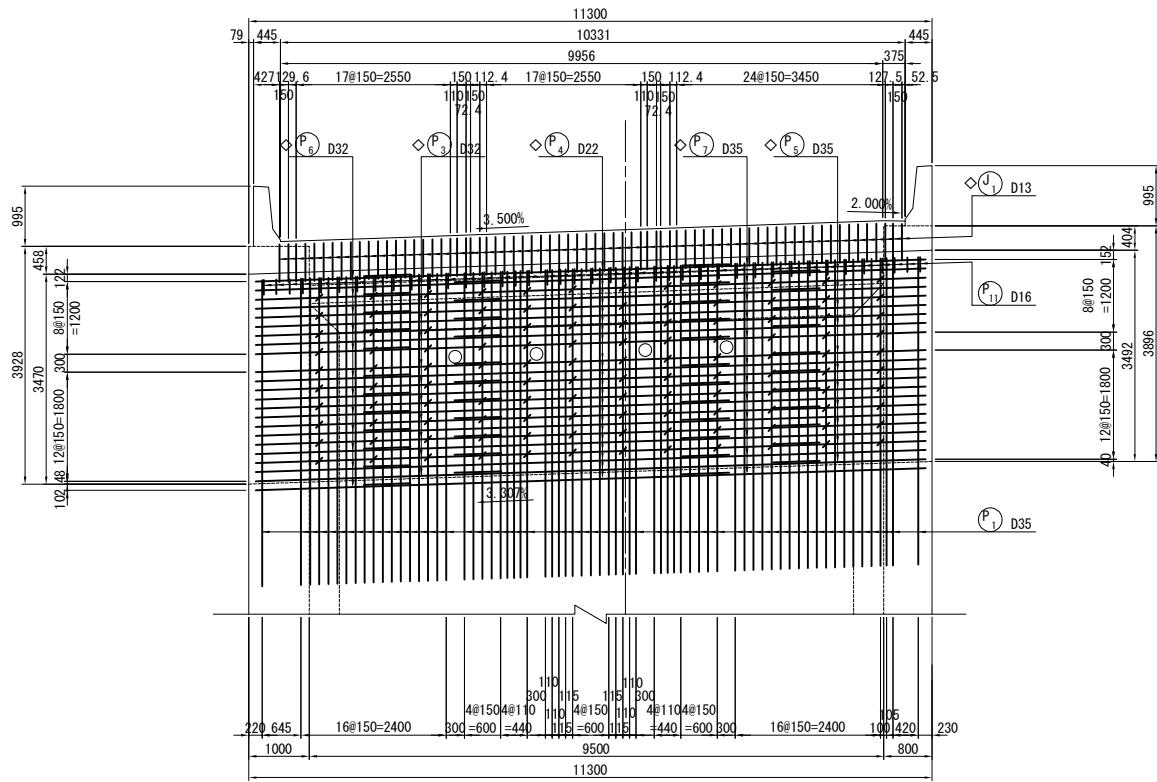
項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
構造物掘削	特殊部B 1	m3	2,818.1	土砂
		m3	605.7	軟岩

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 1 橋台構造一般図（その 1）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

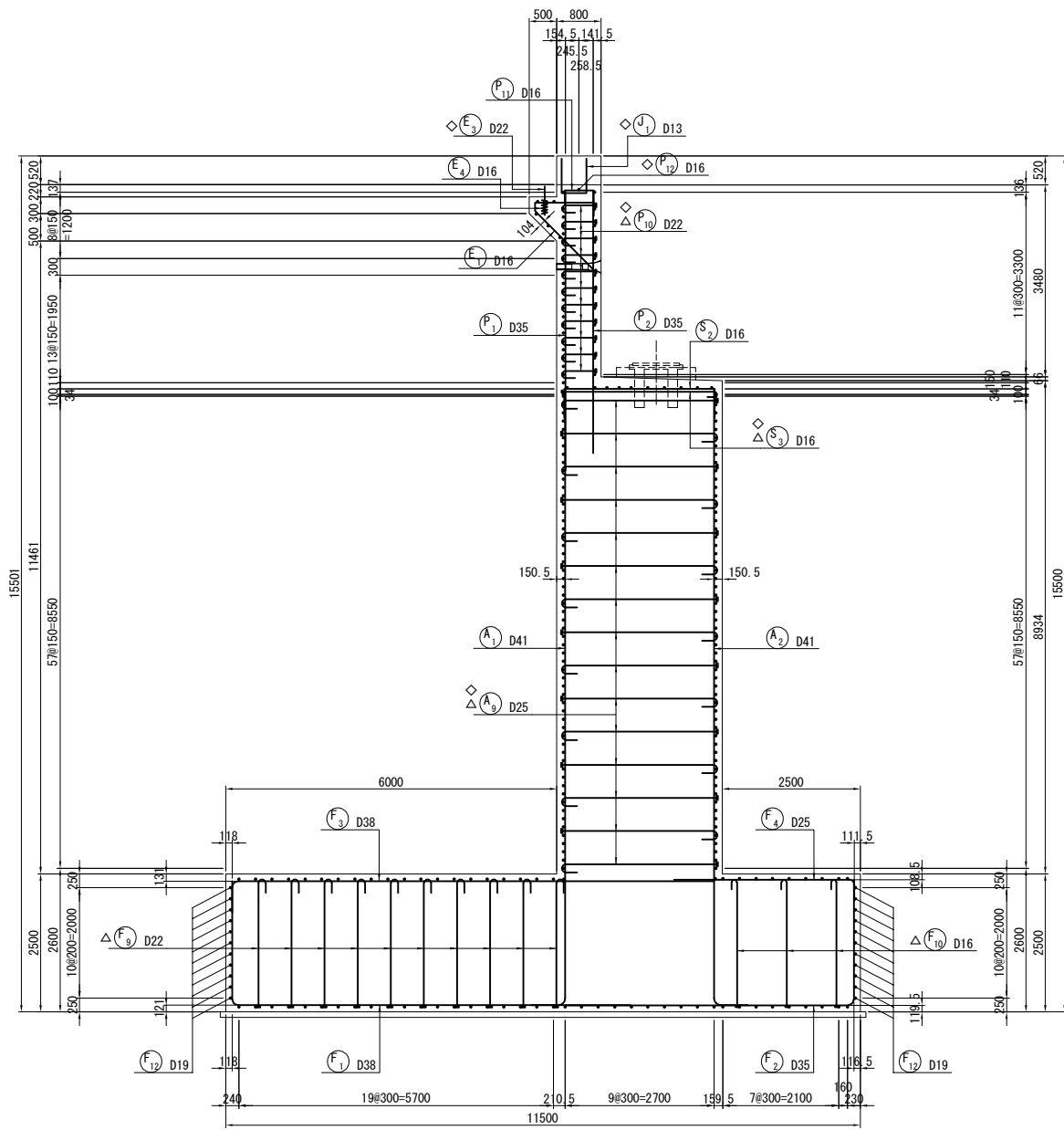
パラペット正面図
2 - 2



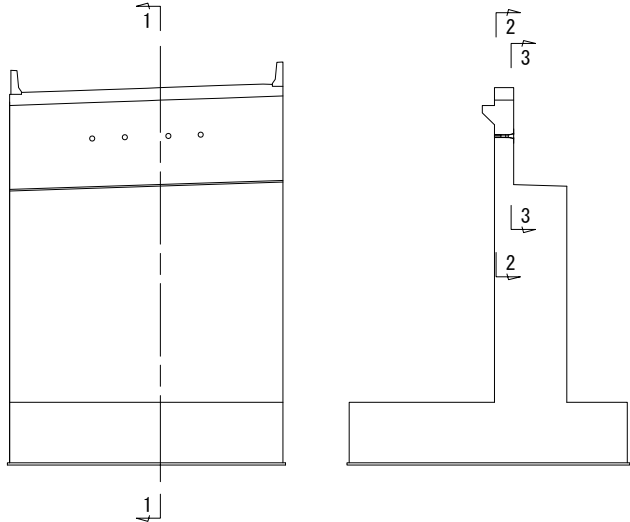
パラペット背面図
3 - 3



側面図
1 - 1

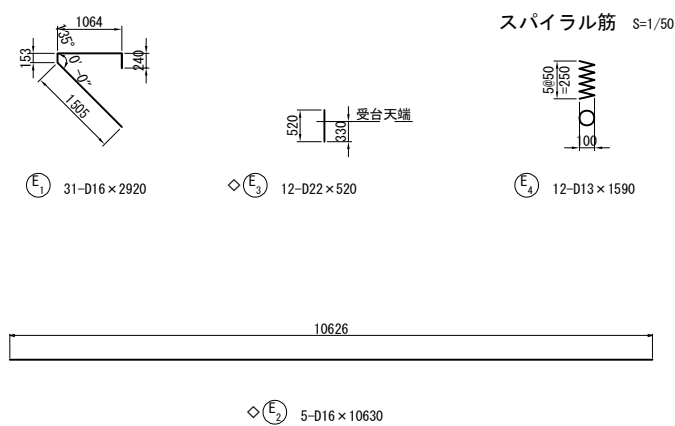
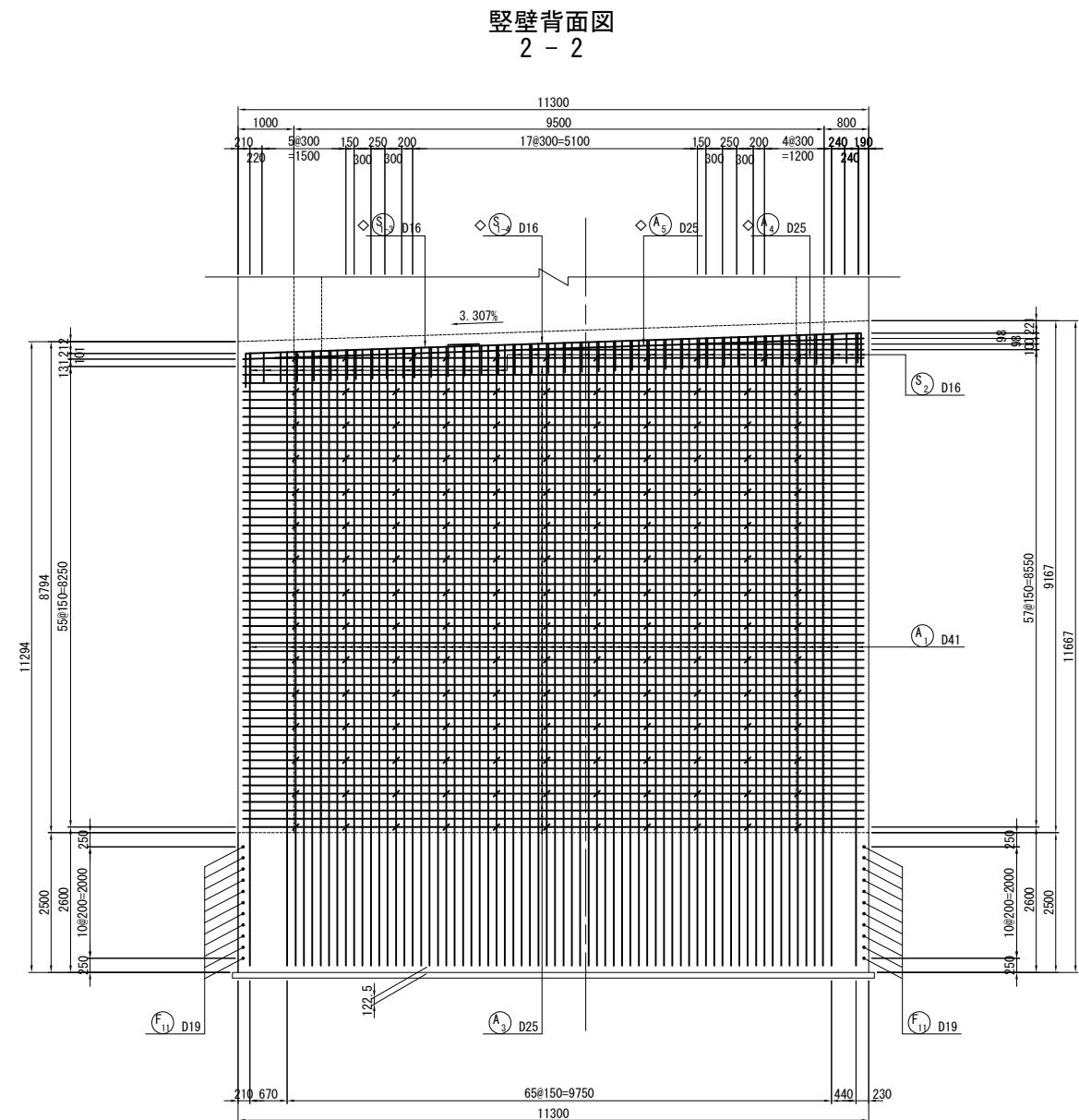
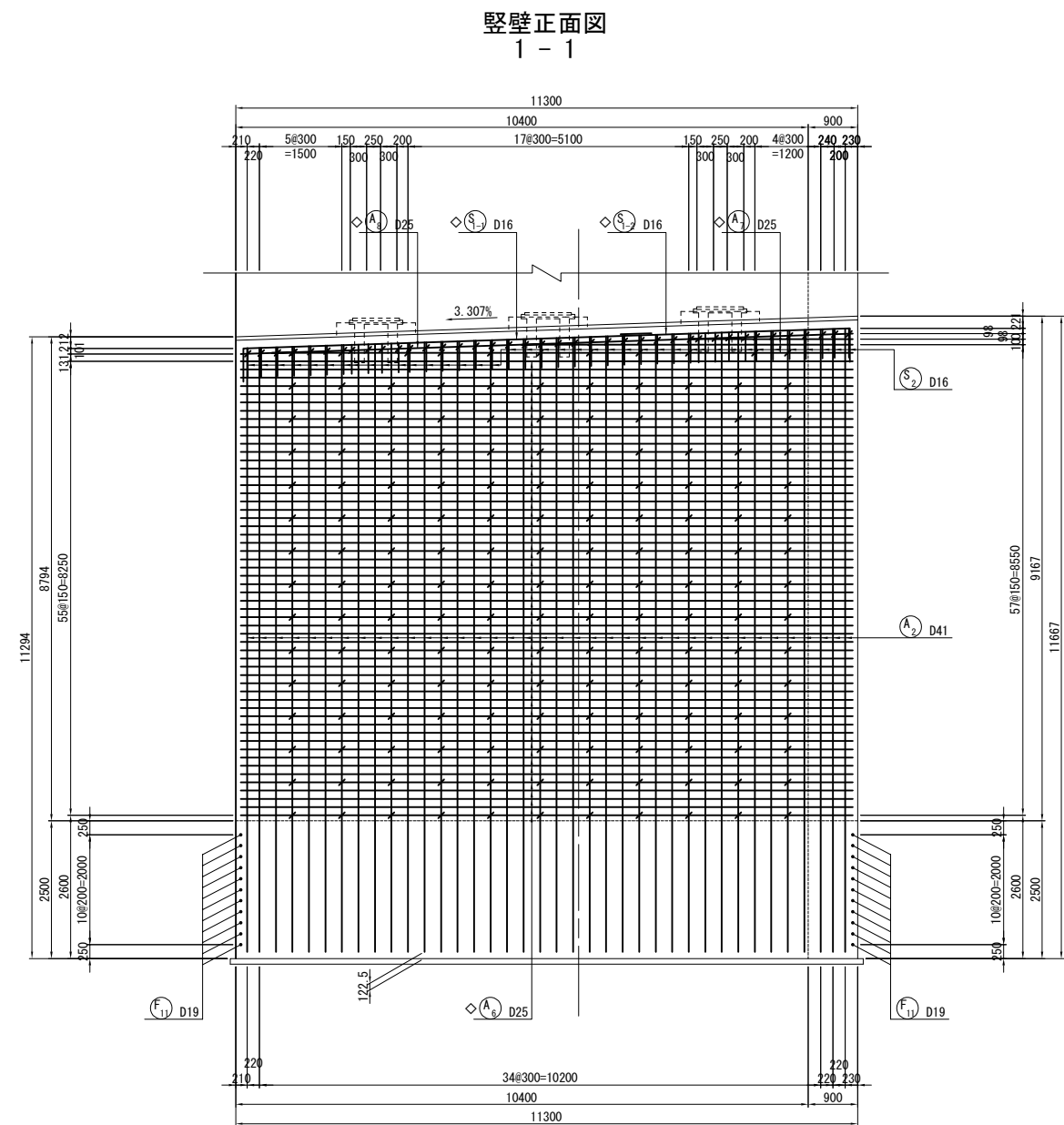


位置図

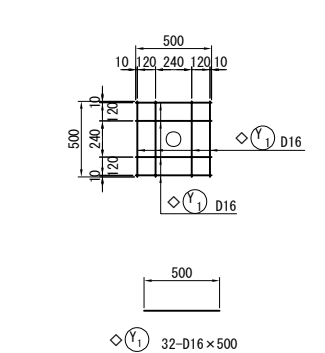
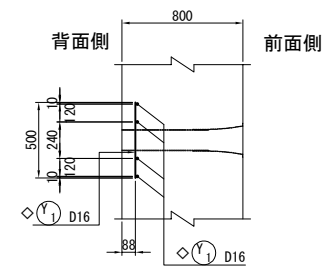


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

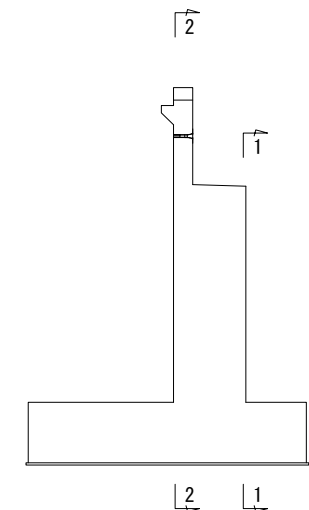
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



落橋防止構造用心鉄筋 S=1 : 50
(n=4箇所)



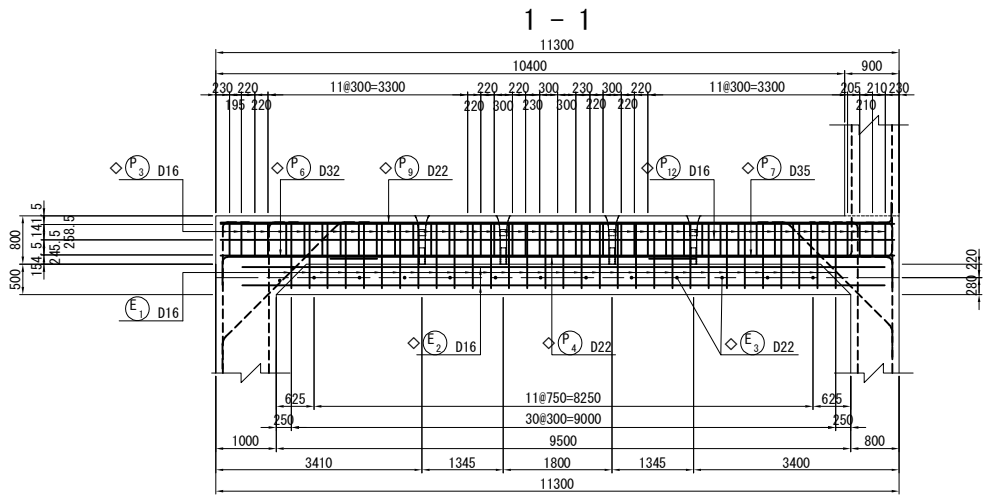
注) 用心鉄筋はコンクリート打設前にセットする。



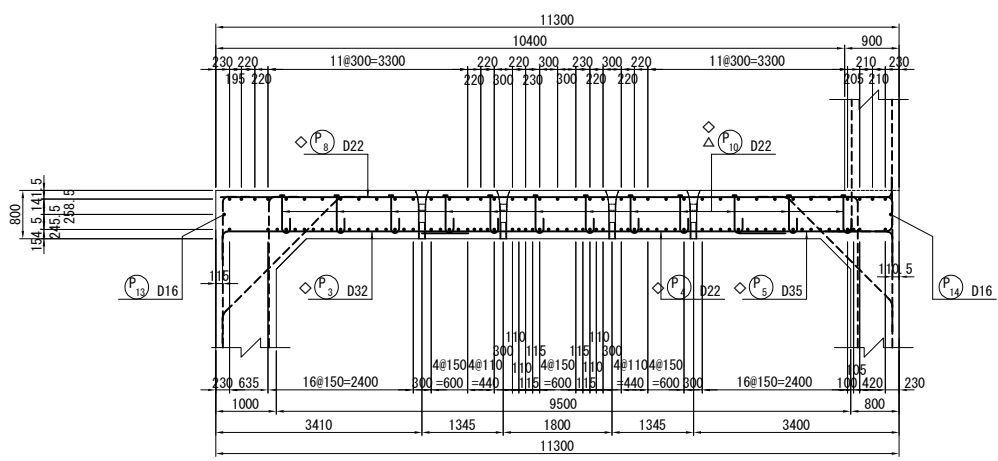
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

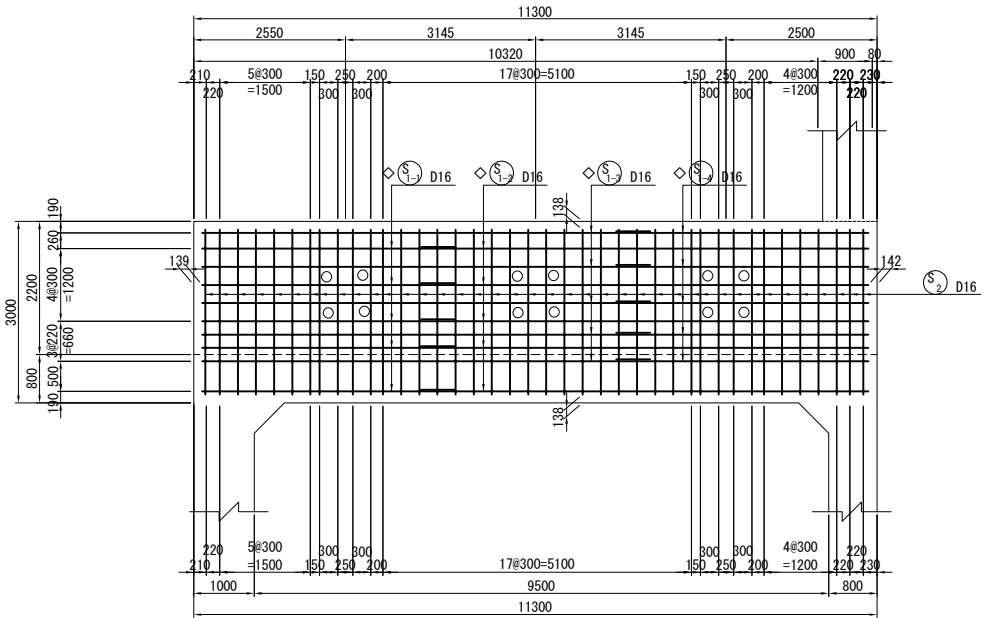
踏掛版受台平面図



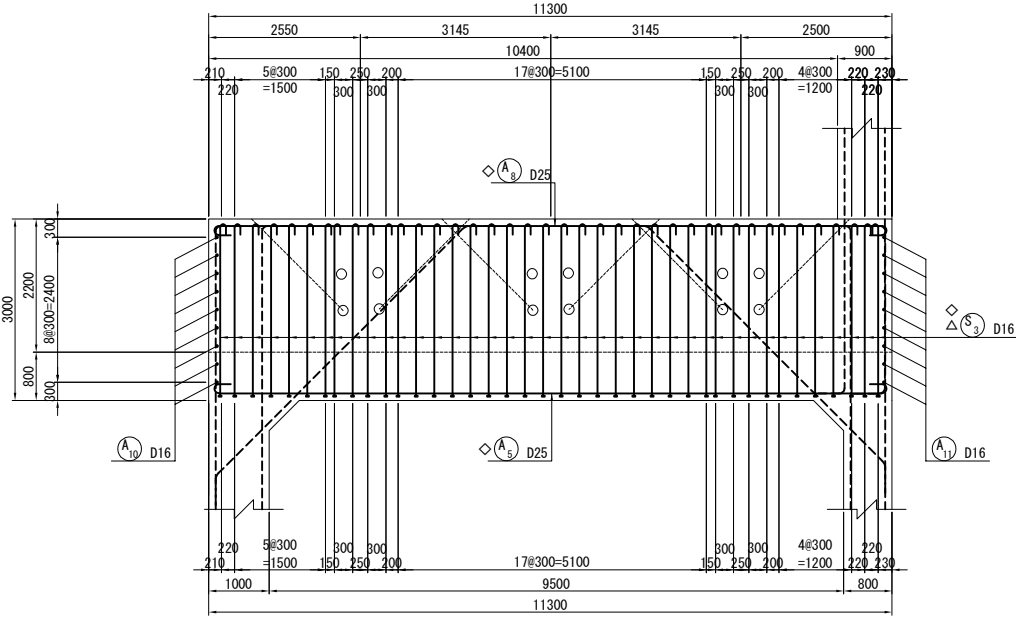
パラペット平面図
2 - 2



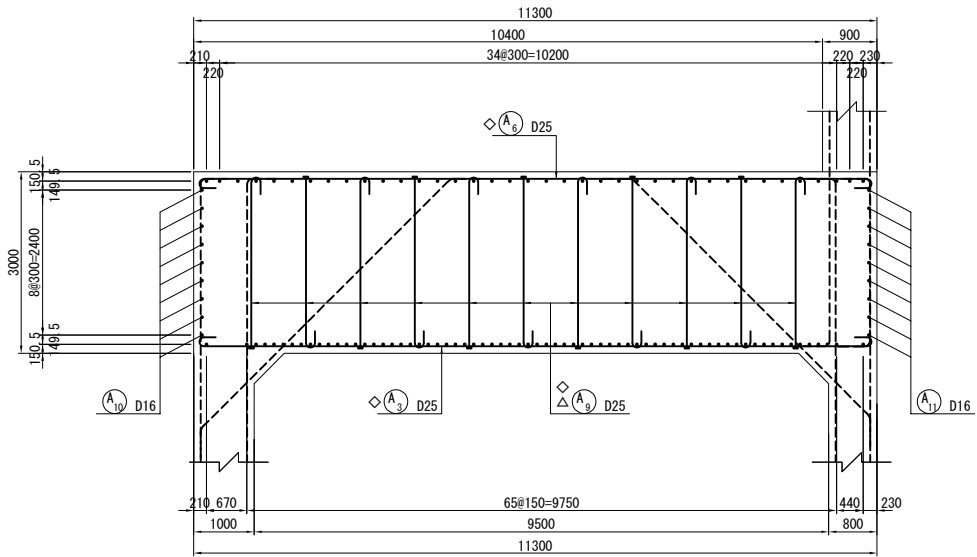
橋座平面図
3 - 3



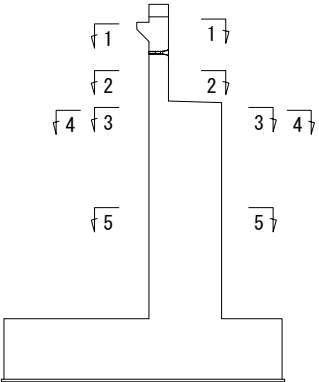
水平補強筋平面図
4 - 4



縦壁平面図（標準部）
5 - 5



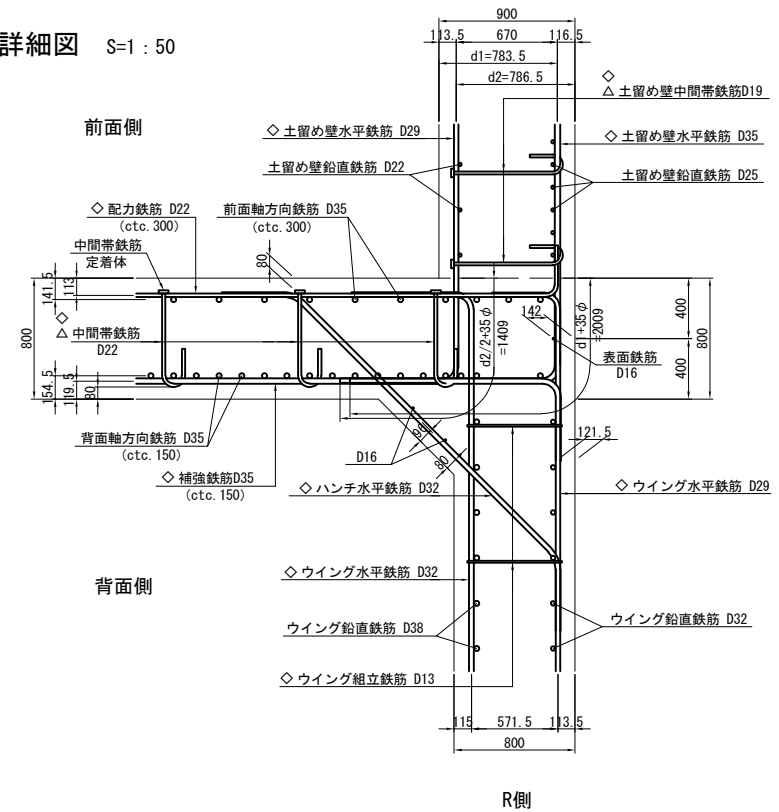
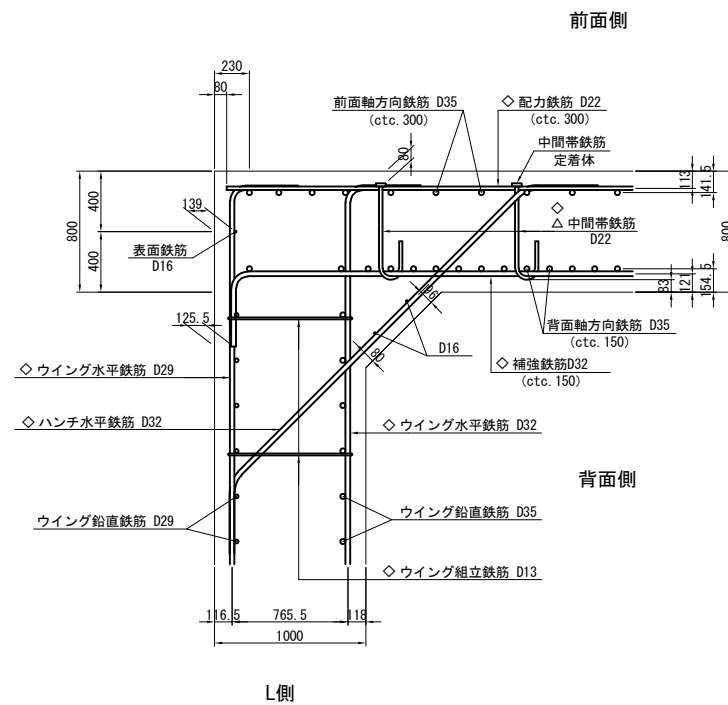
位置図



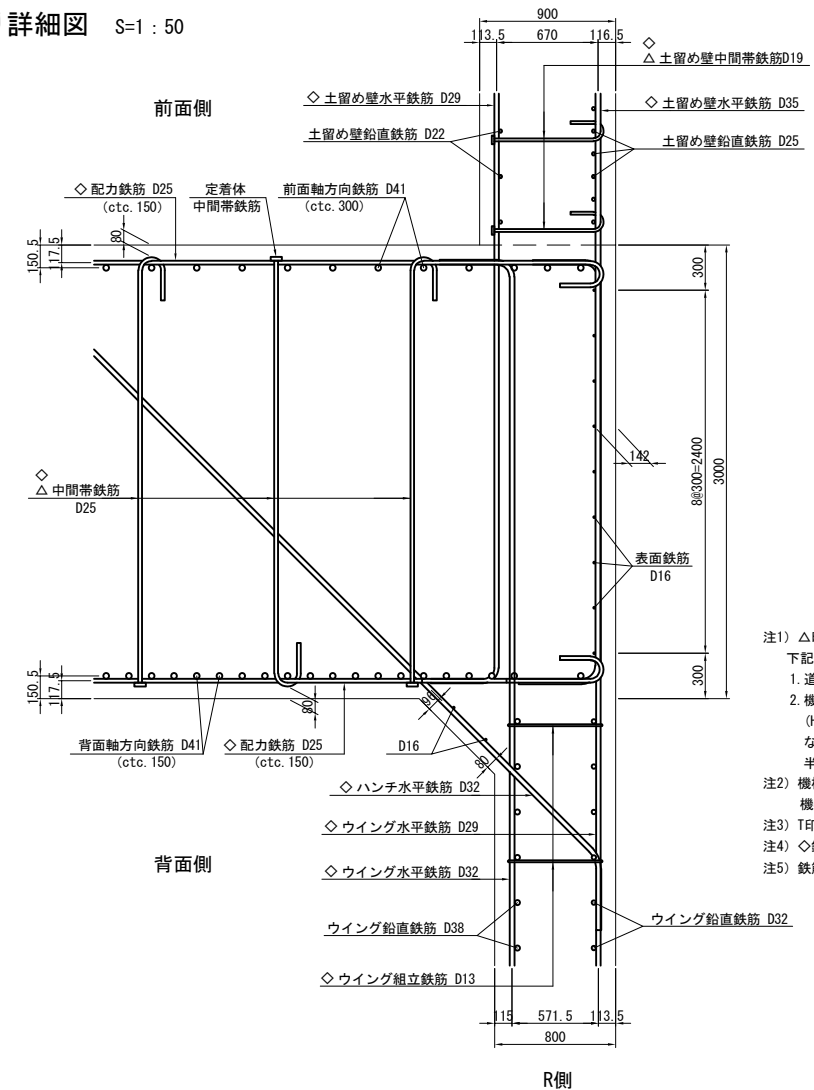
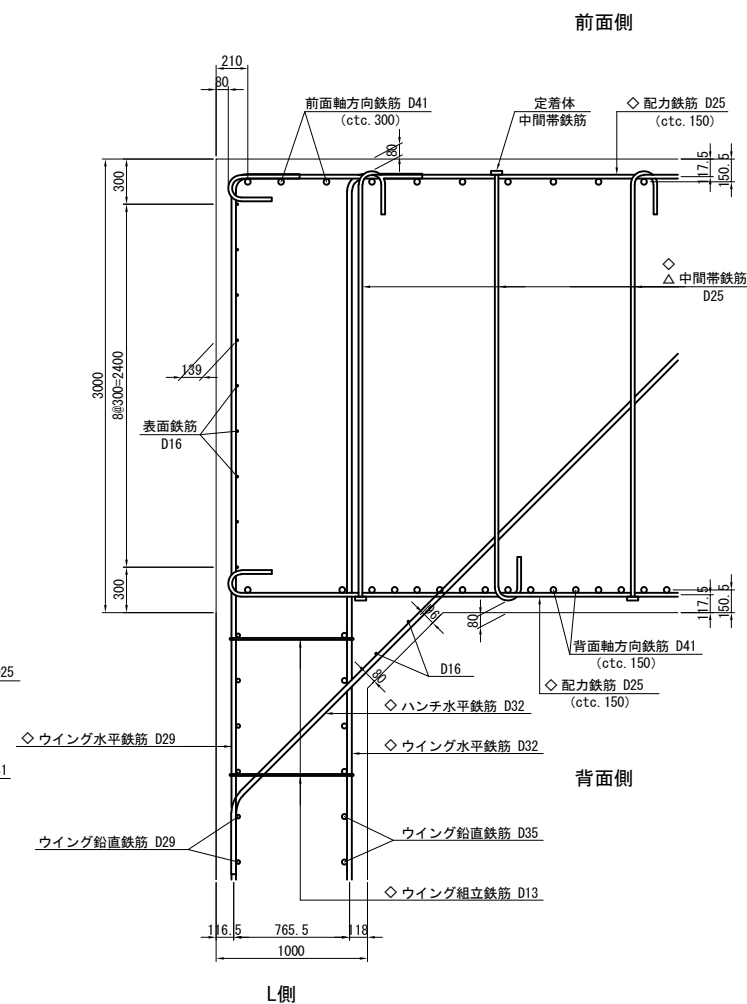
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

パラペット端部かぶり詳細図 S=1 : 50



たて壁かぶり詳細図 S=1 : 50

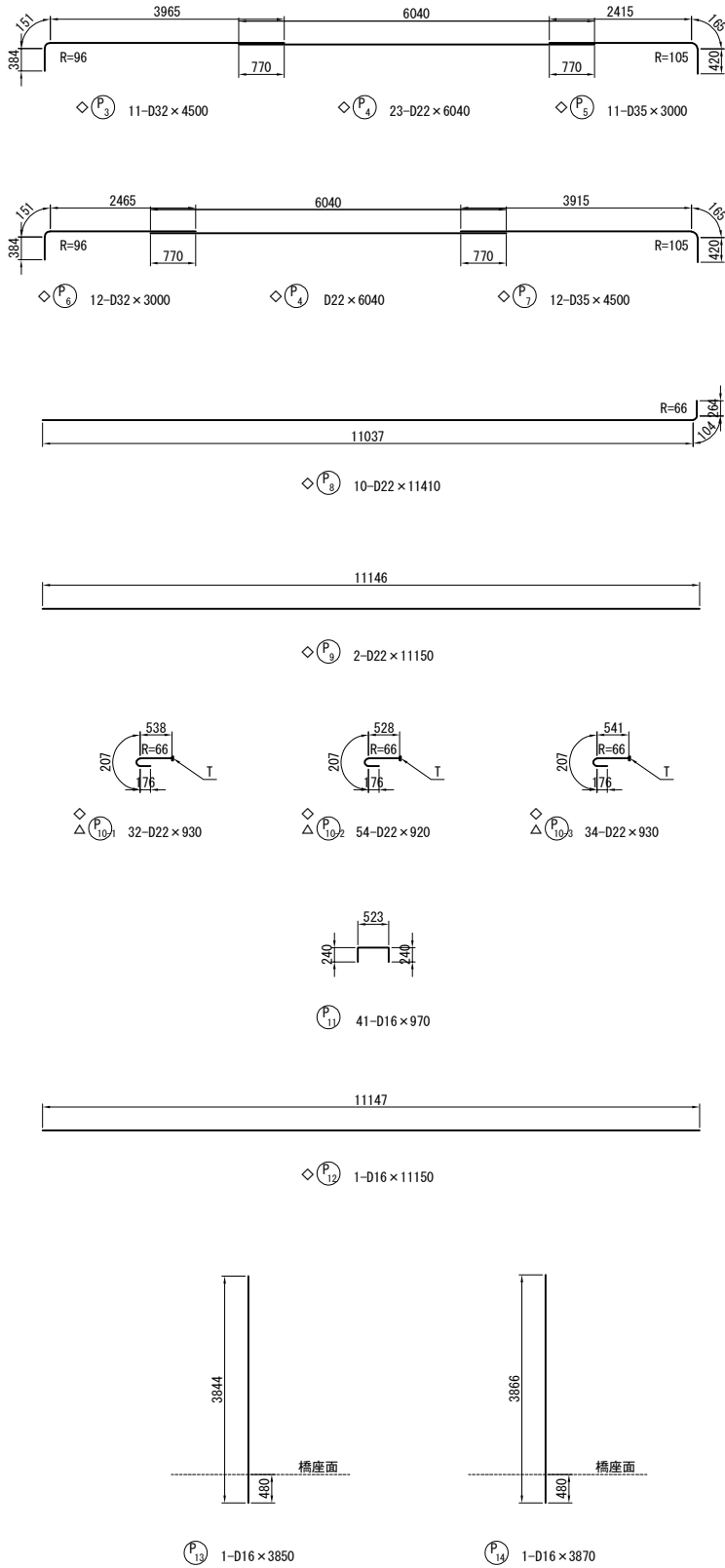


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書・同解説(H29, 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主筋間に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

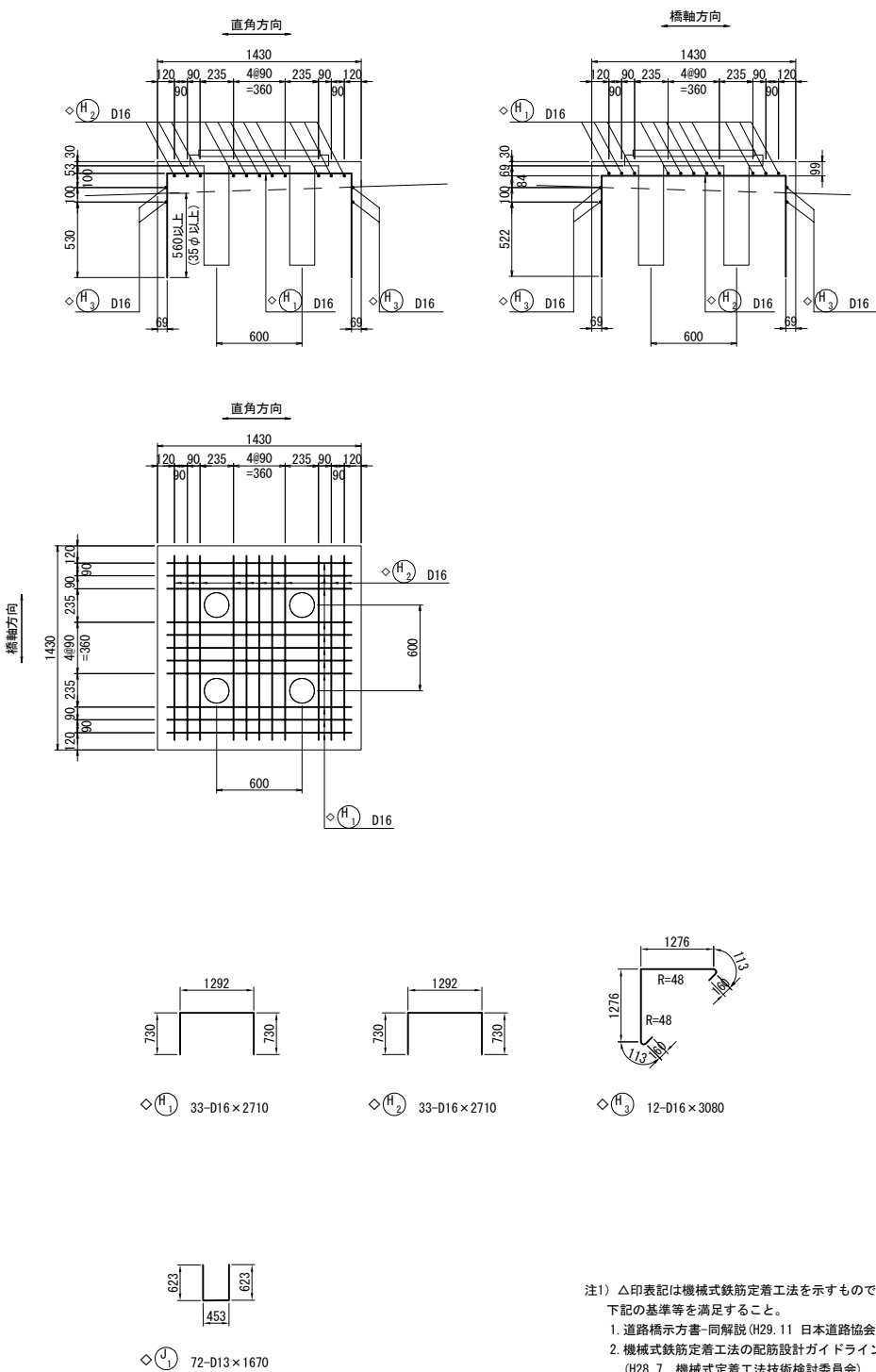
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流譚川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その４）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

<div>橋座面</div> <div><div><div></div><div></div></div><div>1606</div></div>				
P ₁ 69-D35×5080（平均長）				
記 号	径	本数	a	L
1	D35	1	5060	5060
2	D35	1	5061	5060
3	D35	1	5062	5060
4	D35	1	5062	5060
5	D35	1	5062	5060
6	D35	1	5062	5060
7	D35	1	5063	5060
8	D35	1	5063	5060
9	D35	1	5063	5060
10	D35	1	5064	5060
11	D35	1	5064	5060
12	D35	1	5064	5060
13	D35	1	5065	5070
14	D35	1	5065	5070
15	D35	1	5065	5070
16	D35	1	5065	5070
17	D35	1	5066	5070
18	D35	1	5066	5070
19	D35	1	5067	5070
20	D35	1	5067	5070
21	D35	1	5067	5070
22	D35	1	5068	5070
23	D35	1	5068	5070
24	D35	1	5068	5070
25	D35	1	5068	5070
26	D35	1	5069	5070
27	D35	1	5069	5070
28	D35	1	5069	5070
29	D35	1	5070	5070
30	D35	1	5070	5070
31	D35	1	5070	5070
32	D35	1	5070	5070
33	D35	1	5071	5070
34	D35	1	5071	5070
35	D35	1	5071	5070
36	D35	1	5071	5070
37	D35	1	5072	5070
38	D35	1	5072	5070
39	D35	1	5072	5070
40	D35	1	5072	5070
41	D35	1	5073	5070
42	D35	1	5073	5070
43	D35	1	5073	5070
44	D35	1	5074	5070
45	D35	1	5074	5070
46	D35	1	5074	5070
47	D35	1	5074	5070
48	D35	1	5075	5080
49	D35	1	5075	5080
50	D35	1	5076	5080
51	D35	1	5076	5080
52	D35	1	5076	5080
53	D35	1	5076	5080
54	D35	1	5077	5080
55	D35	1	5077	5080
56	D35	1	5077	5080
57	D35	1	5078	5080
58	D35	1	5078	5080
59	D35	1	5078	5080
60	D35	1	5079	5080
61	D35	1	5079	5080
62	D35	1	5079	5080
63	D35	1	5079	5080
64	D35	1	5080	5080
65	D35	1	5080	5080
66	D35	1	5080	5080
67	D35	1	5081	5080
68	D35	1	5081	5080
69	D35	1	5082	5080
平均長		69		5071

<div>橋座面</div> <div><div><div></div><div></div></div><div>1380</div></div>				
P ₂ 41-D35×4760（平均長）				
記 号	径	本数	a	L
1	D35	1	4744	4740
2	D35	1	4744	4740
3	D35	1	4745	4750
4	D35	1	4745	4750
5	D35	1	4746	4750
6	D35	1	4747	4750
7	D35	1	4747	4750
8	D35	1	4748	4750
9	D35	1	4748	4750
10	D35	1	4749	4750
11	D35	1	4750	4750
12	D35	1	4750	4750
13	D35	1	4751	4750
14	D35	1	4751	4750
15	D35	1	4752	4750
16	D35	1	4752	4750
17	D35	1	4753	4750
18	D35	1	4753	4750
19	D35	1	4754	4750
20	D35	1	4754	4750
21	D35	1	4755	4760
22	D35	1	4755	4760
23	D35	1	4756	4760
24	D35	1	4756	4760
25	D35	1	4757	4760
26	D35	1	4757	4760
27	D35	1	4758	4760
28	D35	1	4758	4760
29	D35	1	4759	4760
30	D35	1	4760	4760
31	D35	1	4760	4760
32	D35	1	4761	4760
33	D35	1	4761	4760
34	D35	1	4762	4760
35	D35	1	4763	4760
36	D35	1	4763	4760
37	D35	1	4764	4760
38	D35	1	4764	4760
39	D35	1	4765	4770
40	D35	1	4765	4770
41	D35	1	4766	4770
平均長		41		4755

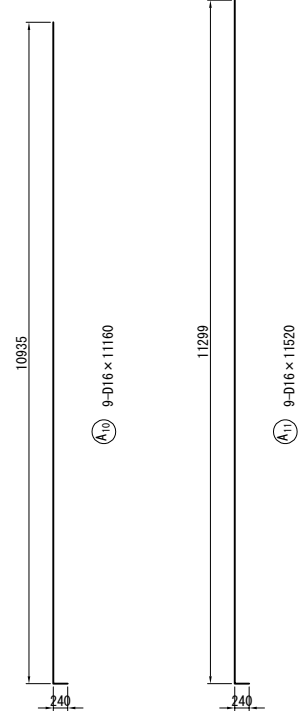
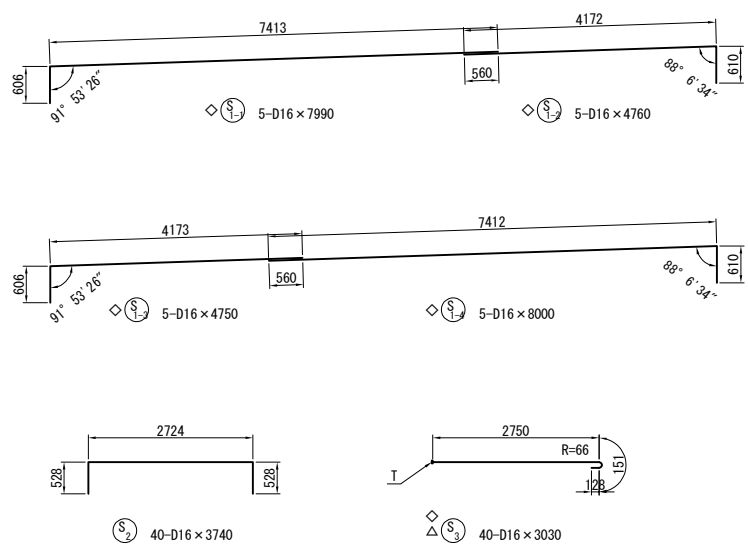
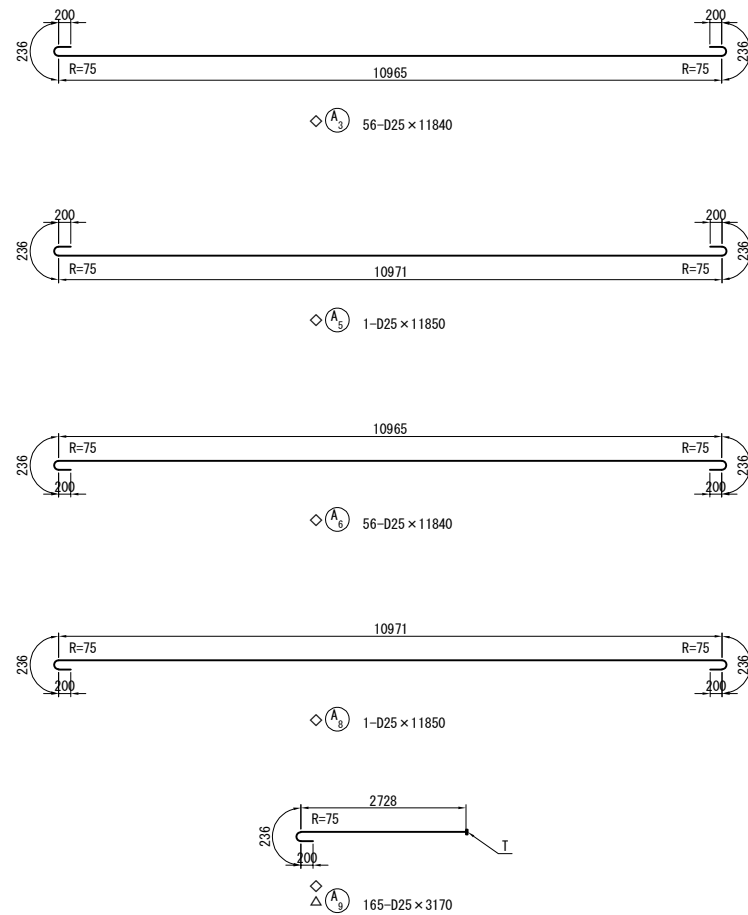
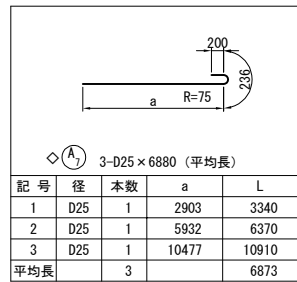
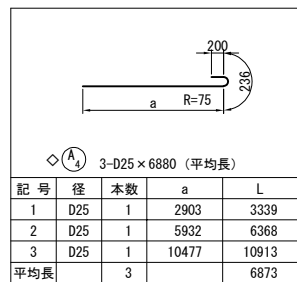
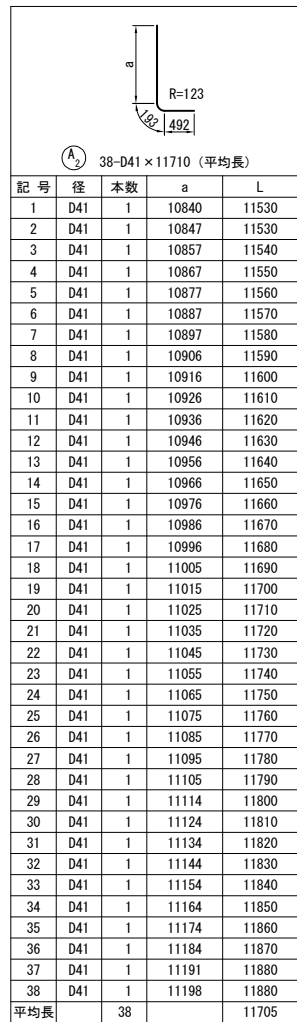


支承箱抜き補強配筋図 S=1:50
(n=3箇所)



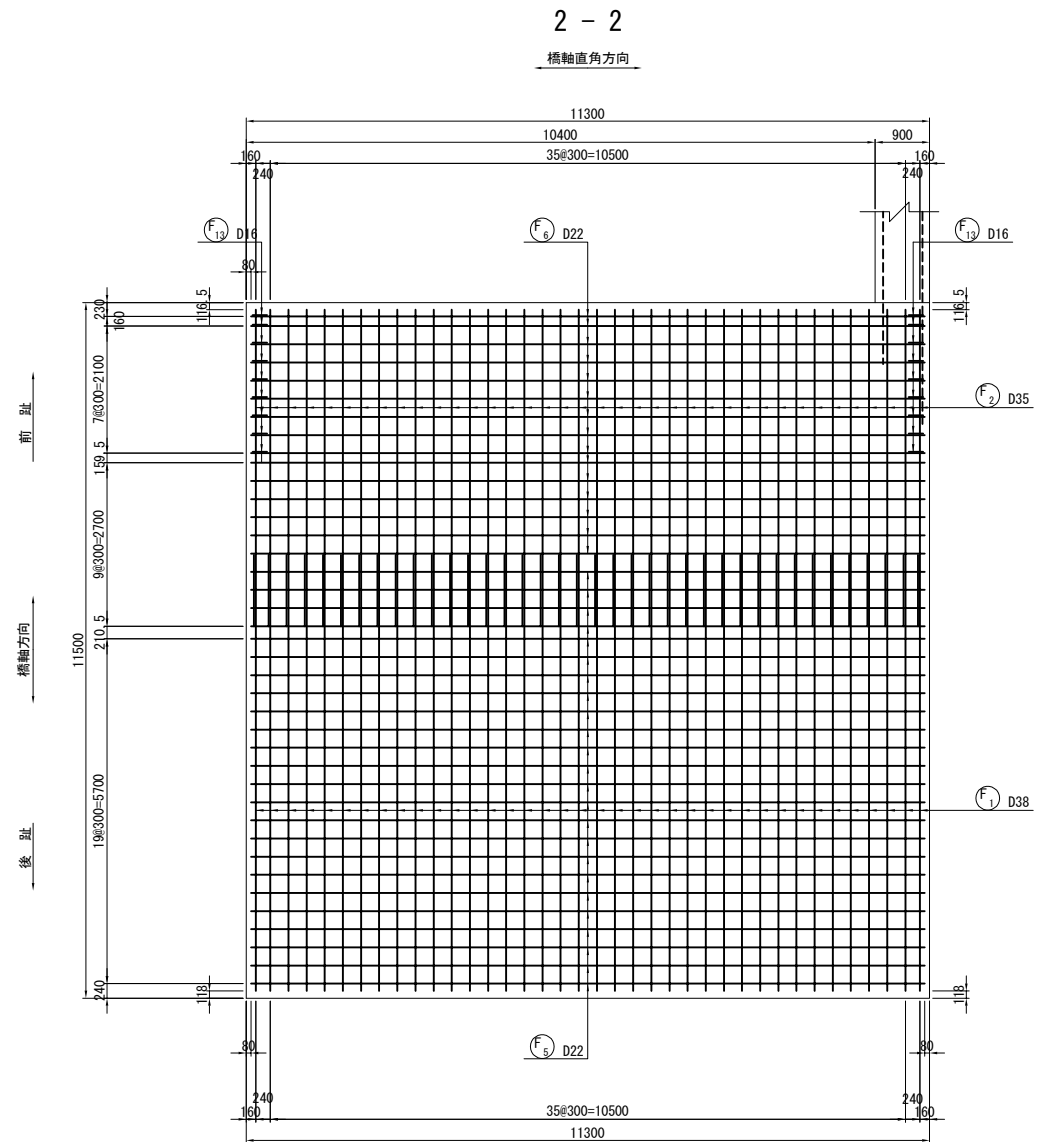
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書一斉解説(H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の設計監計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能限り近接すること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上りの10mmれめとする。

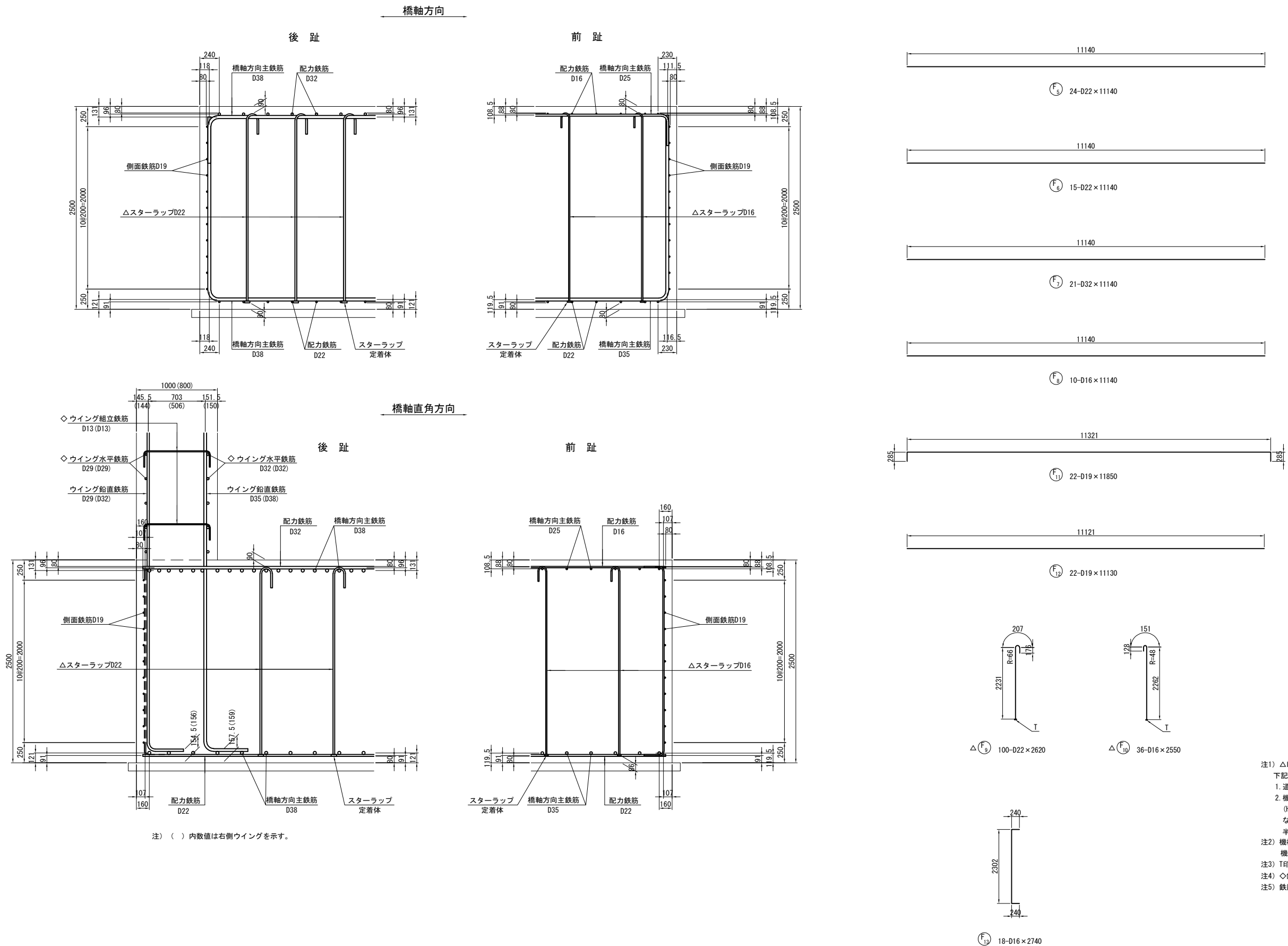
道東自動車道 占冠地区下り工事			
図面の種類	本流鶴川第一橋（下り線） A1橋台配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書・同解説(H29, 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事				
図面の種類	本流路川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その7）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

フーチングかぶり詳細図 S=1:50



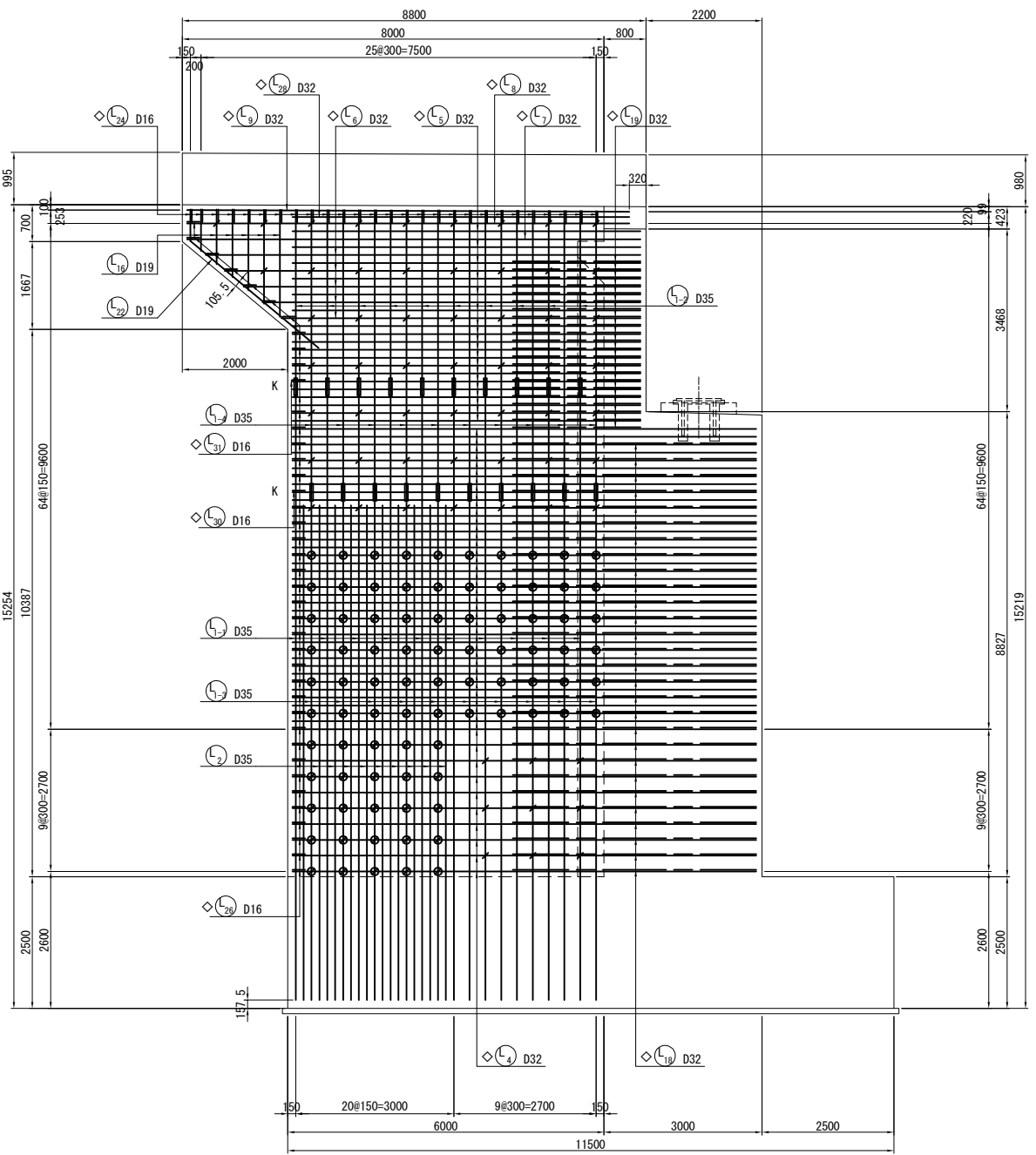
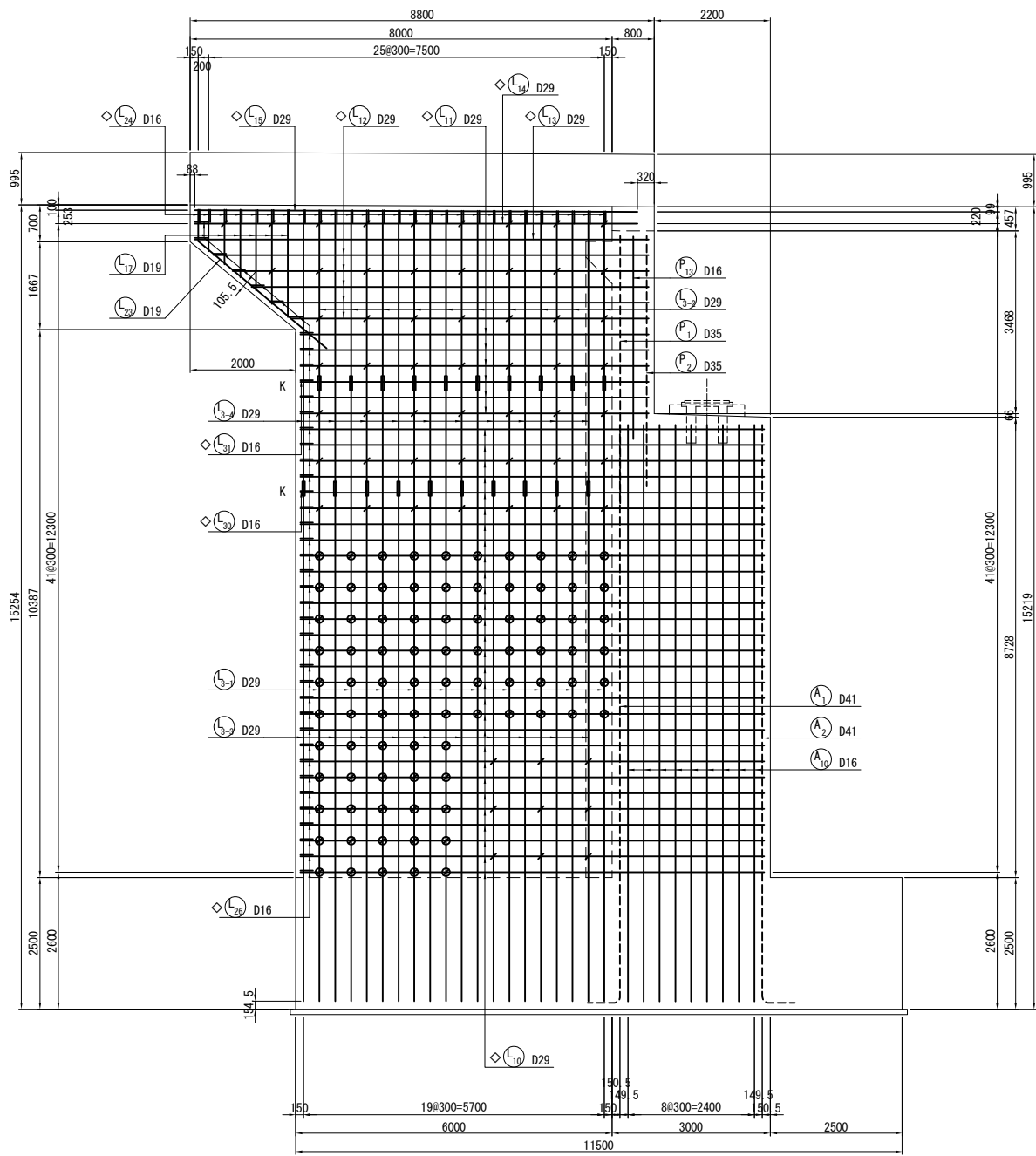
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

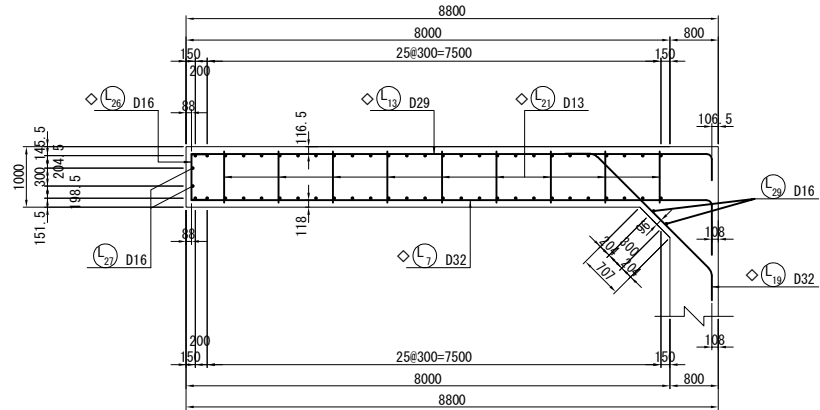
左側ウイング

1 - 1（外側）

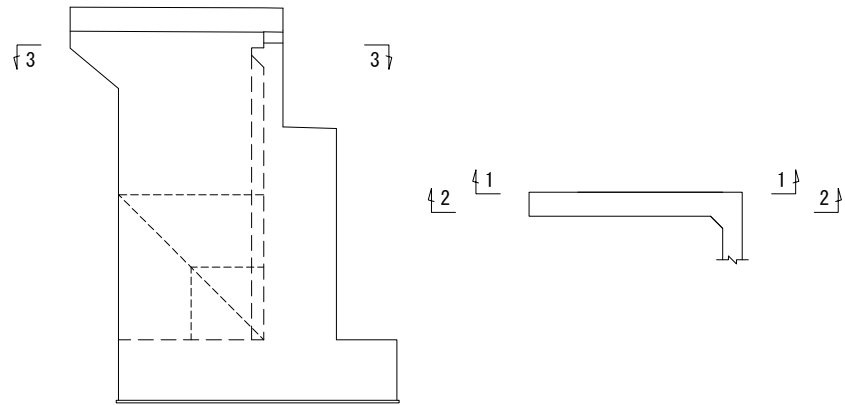
2 - 2（内側）



3 - 3

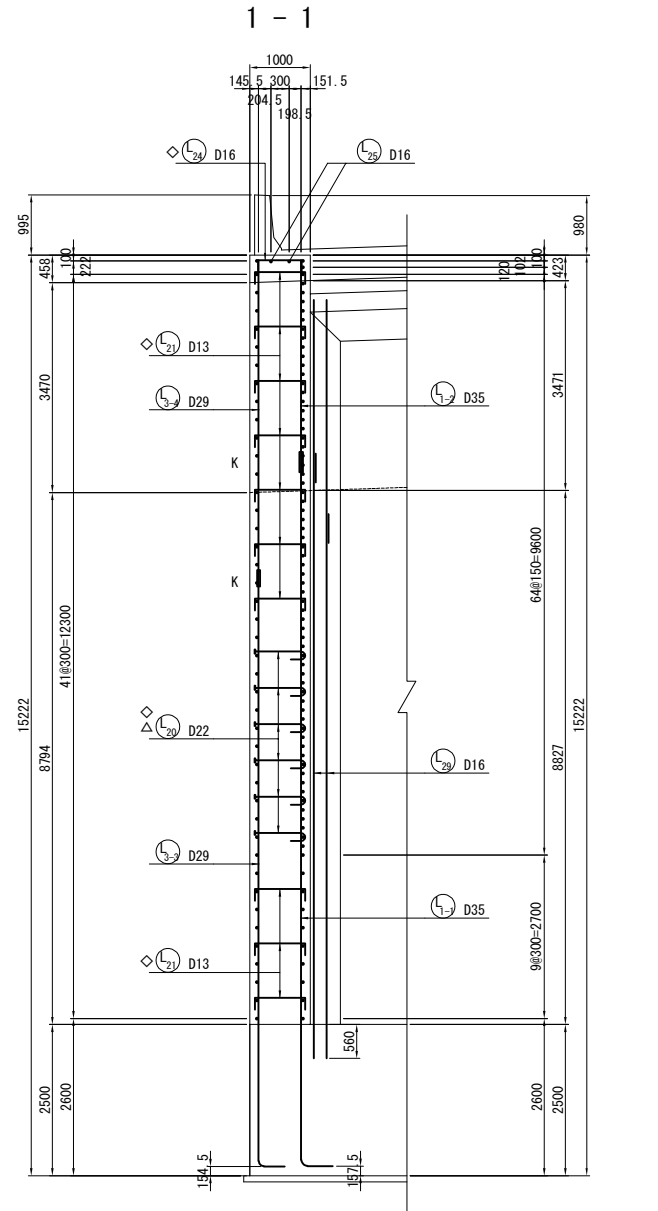


位置図

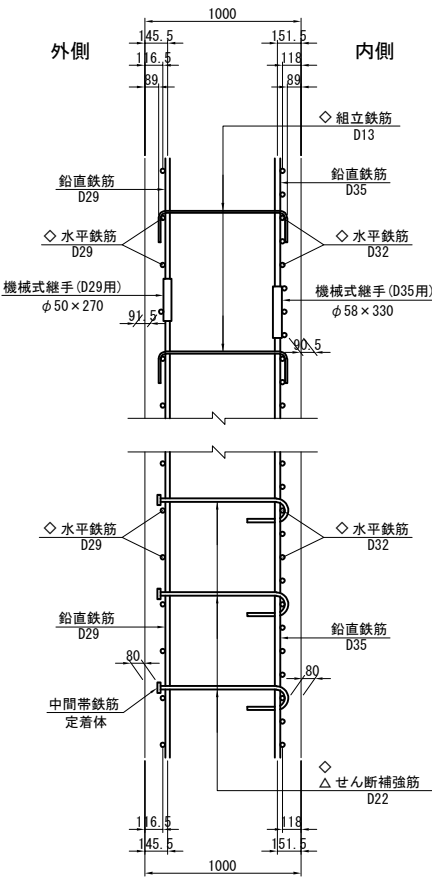


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注6) 注) の印はせん断補強鉄筋 ◇△ (L₂₀) を示す。

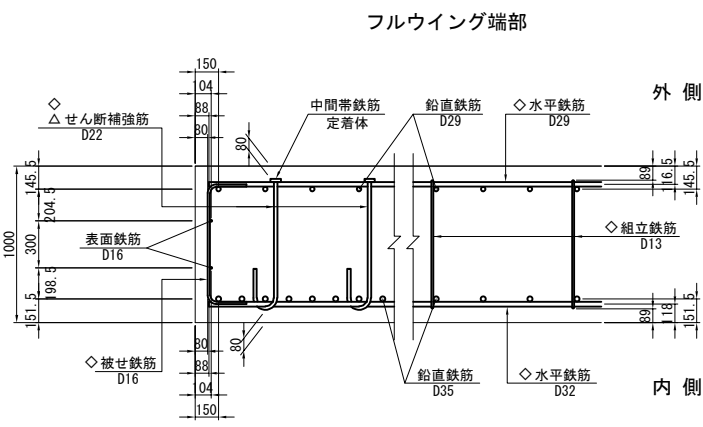
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵠川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



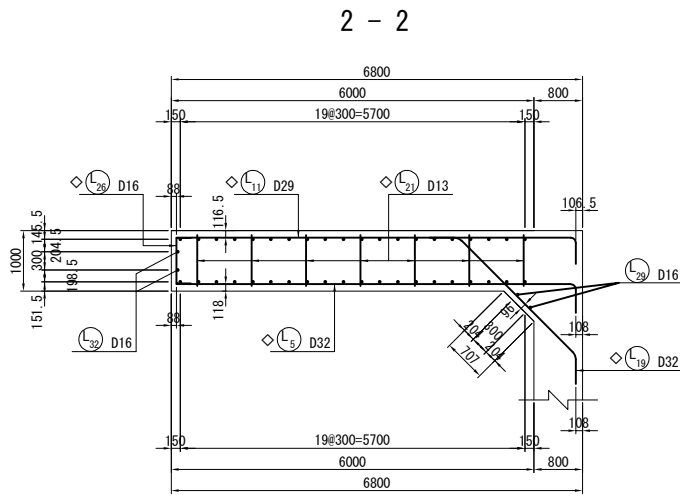
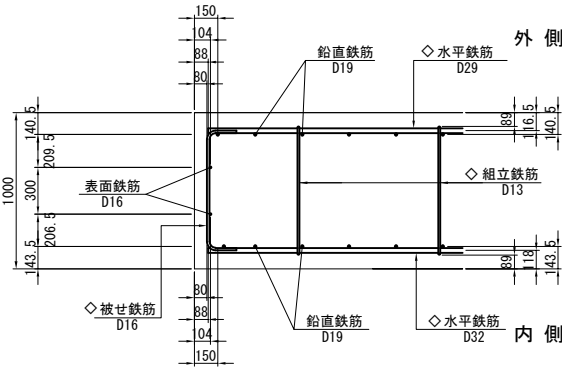
左側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50



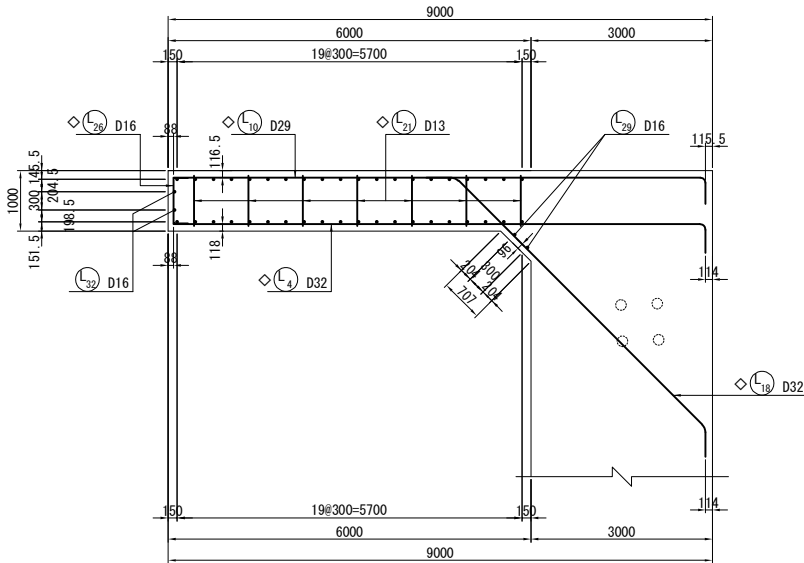
左側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



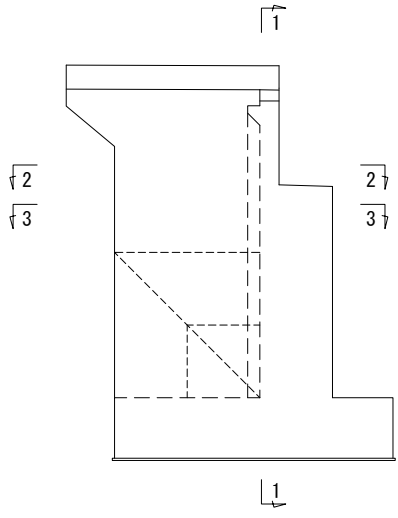
パレルウイング端部



3 - 3

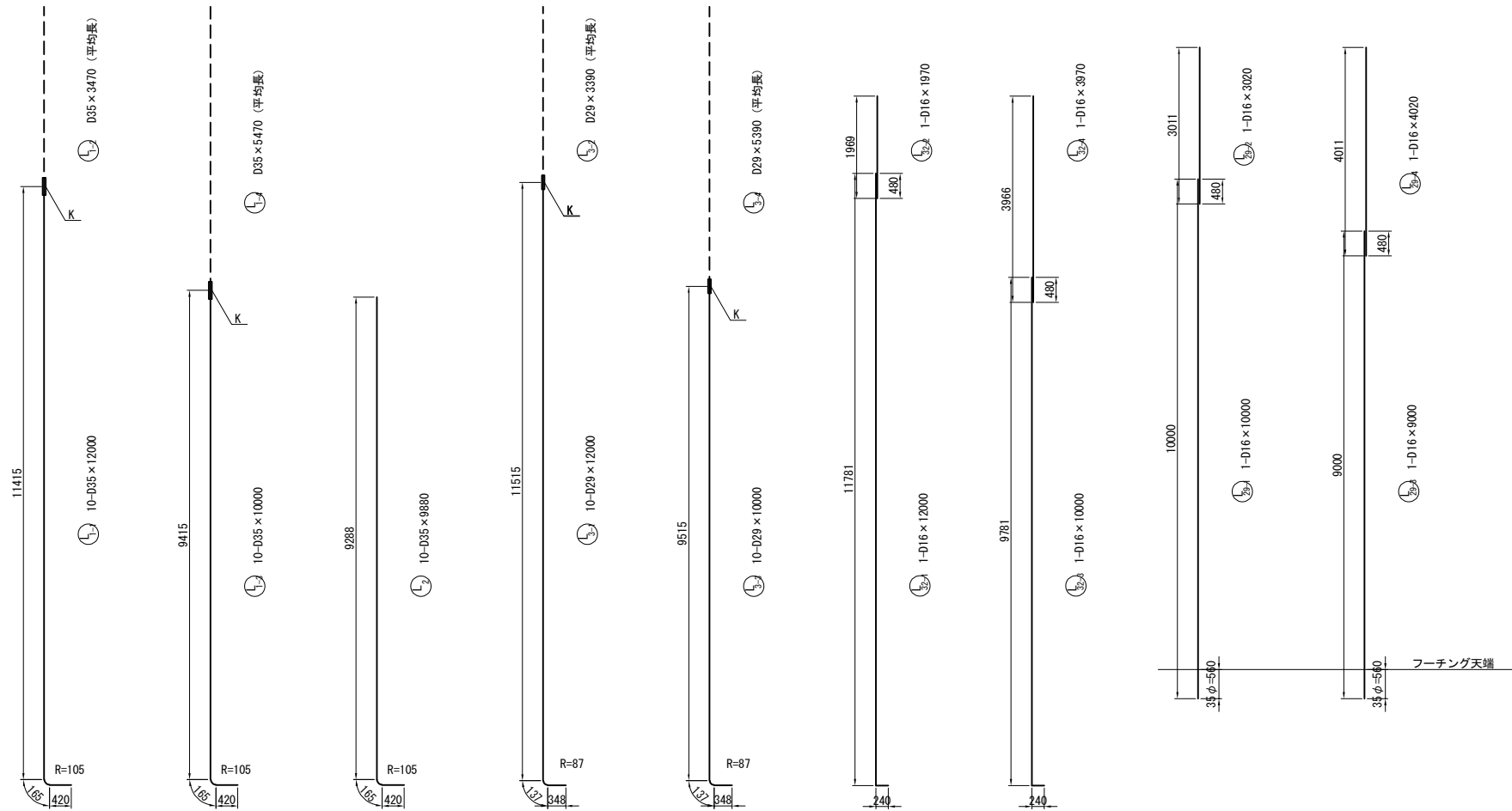


位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



10-D35 × 3470 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D35	1	3458	3460
2	D35	1	3461	3460
3	D35	1	3463	3460
4	D35	1	3465	3470
5	D35	1	3468	3470
6	D35	1	3470	3470
7	D35	1	3473	3470
8	D35	1	3475	3480
9	D35	1	3477	3480
10	D35	1	3480	3480
平均長		10		3470

10-D35 × 5470 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D35	1	5457	5460
2	D35	1	5459	5460
3	D35	1	5462	5460
4	D35	1	5464	5460
5	D35	1	5467	5470
6	D35	1	5469	5470
7	D35	1	5471	5470
8	D35	1	5474	5470
9	D35	1	5476	5480
10	D35	1	5479	5480
平均長		10		5468

10-D29 × 3390 (平均長)

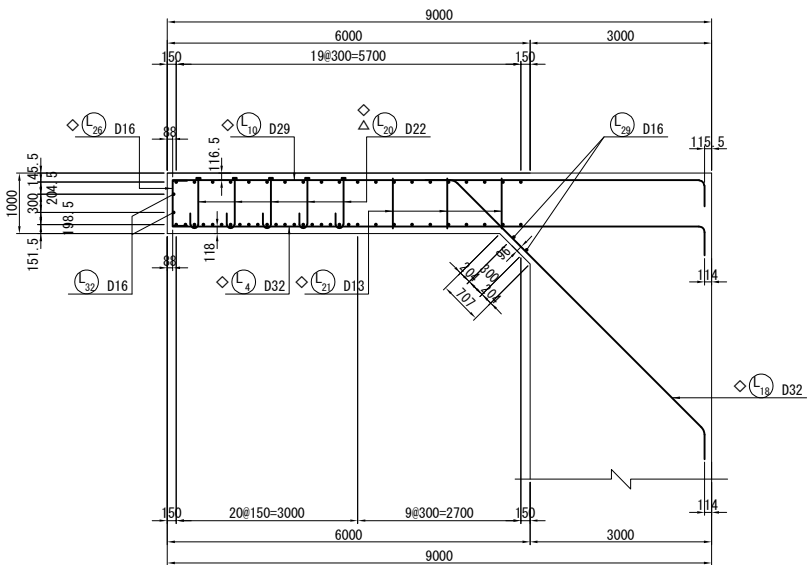
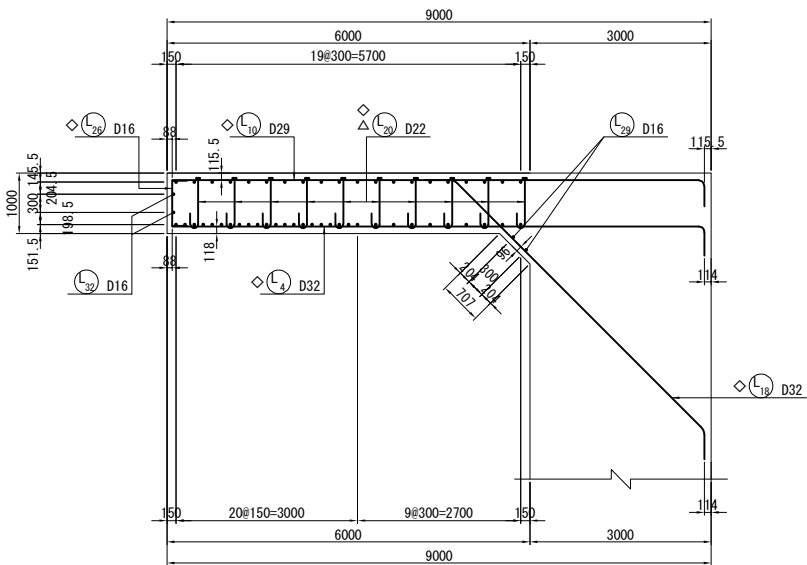
記号	径	本数	a	L
1	D29	1	3378	3380
2	D29	1	3380	3380
3	D29	1	3383	3380
4	D29	1	3385	3390
5	D29	1	3388	3390
6	D29	1	3390	3390
7	D29	1	3392	3390
8	D29	1	3395	3400
9	D29	1	3397	3400
10	D29	1	3400	3400
平均長		10		3390

10-D29 × 5390 (平均長)

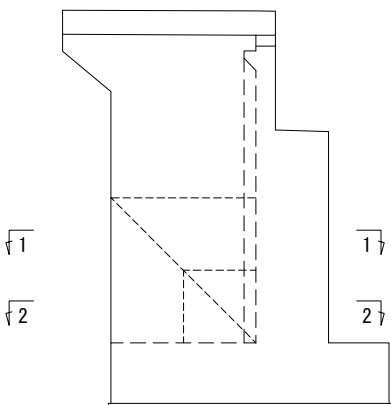
記号	径	本数	a	L
1	D29	1	5379	5380
2	D29	1	5382	5380
3	D29	1	5384	5380
4	D29	1	5386	5390
5	D29	1	5389	5390
6	D29	1	5391	5390
7	D29	1	5394	5390
8	D29	1	5396	5400
9	D29	1	5398	5400
10	D29	1	5401	5400
平均長		10		5390

1 - 1

2 - 2

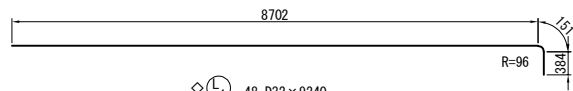


位置図

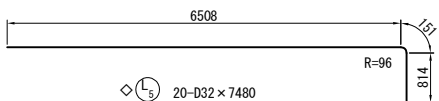


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

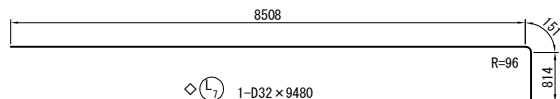
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



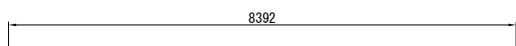
◇ L₄ 48-D32 × 9240



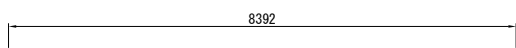
◇ L₅ 20-D32 × 7480



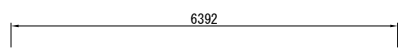
◇ L₇ 1-D32 × 9480



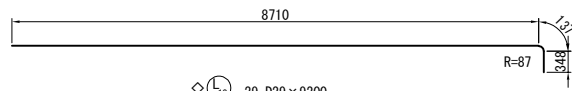
◇ L₈ 1-D32 × 8400



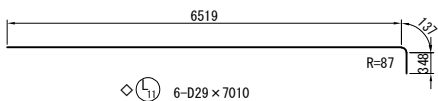
◇ L₉ 1-D32 × 8400



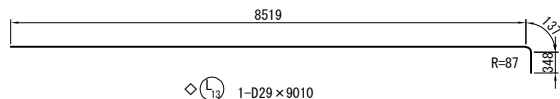
◇ L₂₈ 1-D32 × 6400



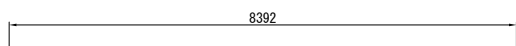
◇ L₁₀ 29-D29 × 9200



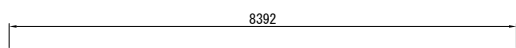
◇ L₁₁ 6-D29 × 7010



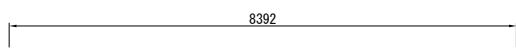
◇ L₁₉ 1-D29 × 9010



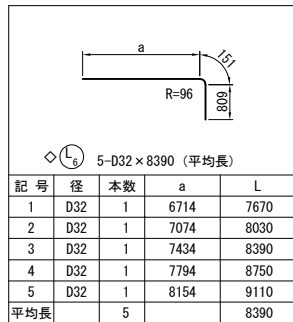
◇ L₁₉ 1-D29 × 8400



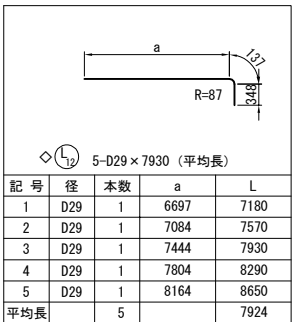
◇ L₁₉ 1-D29 × 8400



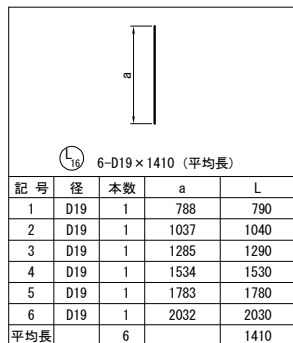
◇ L₂₆ 2-D16 × 8400



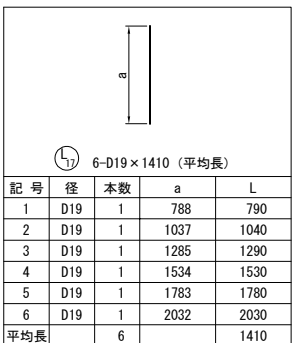
◇ L₆ 5-D32 × 8390 (平均長)



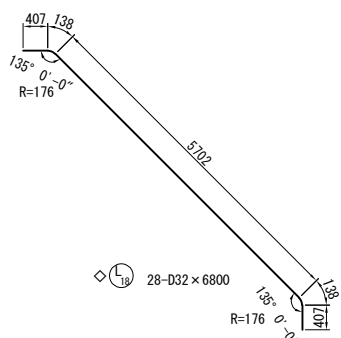
◇ L₁₂ 5-D29 × 7930 (平均長)



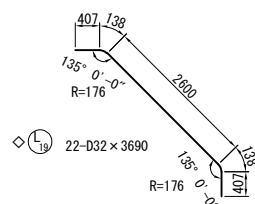
◇ L₁₆ 6-D19 × 1410 (平均長)



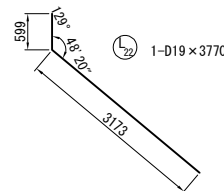
◇ L₁₇ 6-D19 × 1410 (平均長)



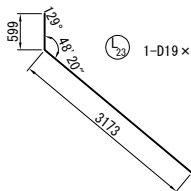
◇ L₁₉ 28-D32 × 6800



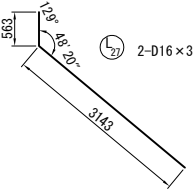
◇ L₁₉ 22-D32 × 3690



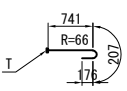
◇ L₂₀ 1-D19 × 3770



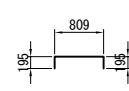
◇ L₂₀ 1-D19 × 3770



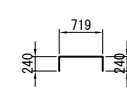
◇ L₂₁ 2-D16 × 3710



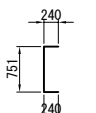
◇ L₂₀ 85-D22 × 1130



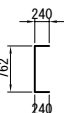
◇ L₂₁ 61-D13 × 1170



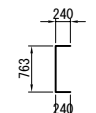
◇ L₂₄ 27-D16 × 1160



◇ L₂₆ 40-D16 × 1190



◇ L₃₀ 1-D16 × 1200



◇ L₃₁ 1-D16 × 1210

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

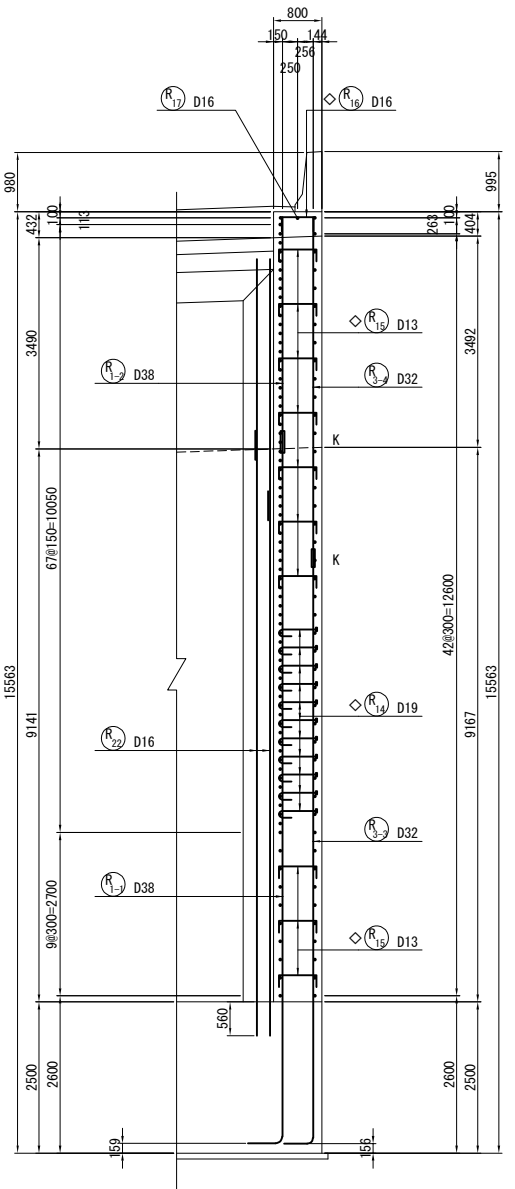
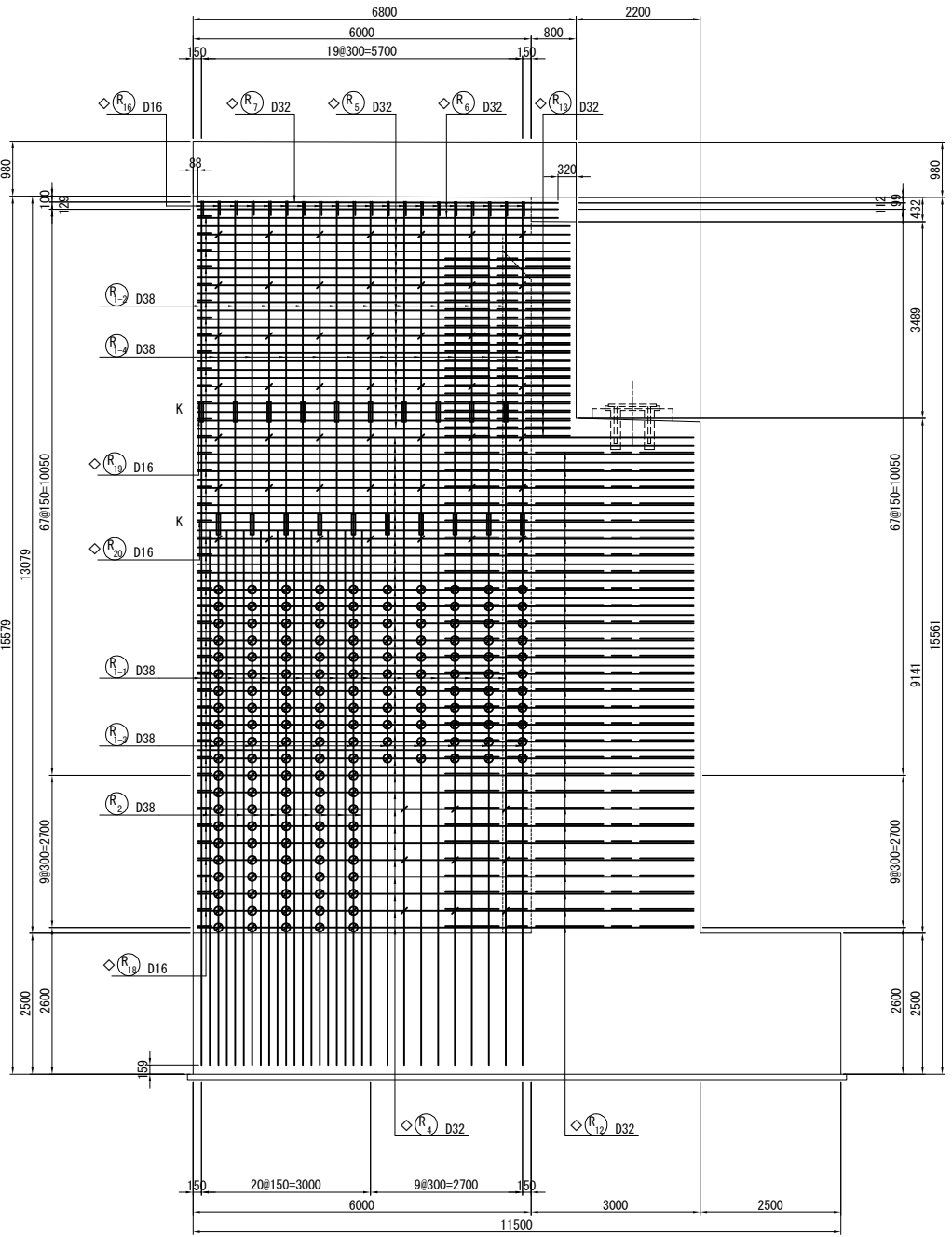
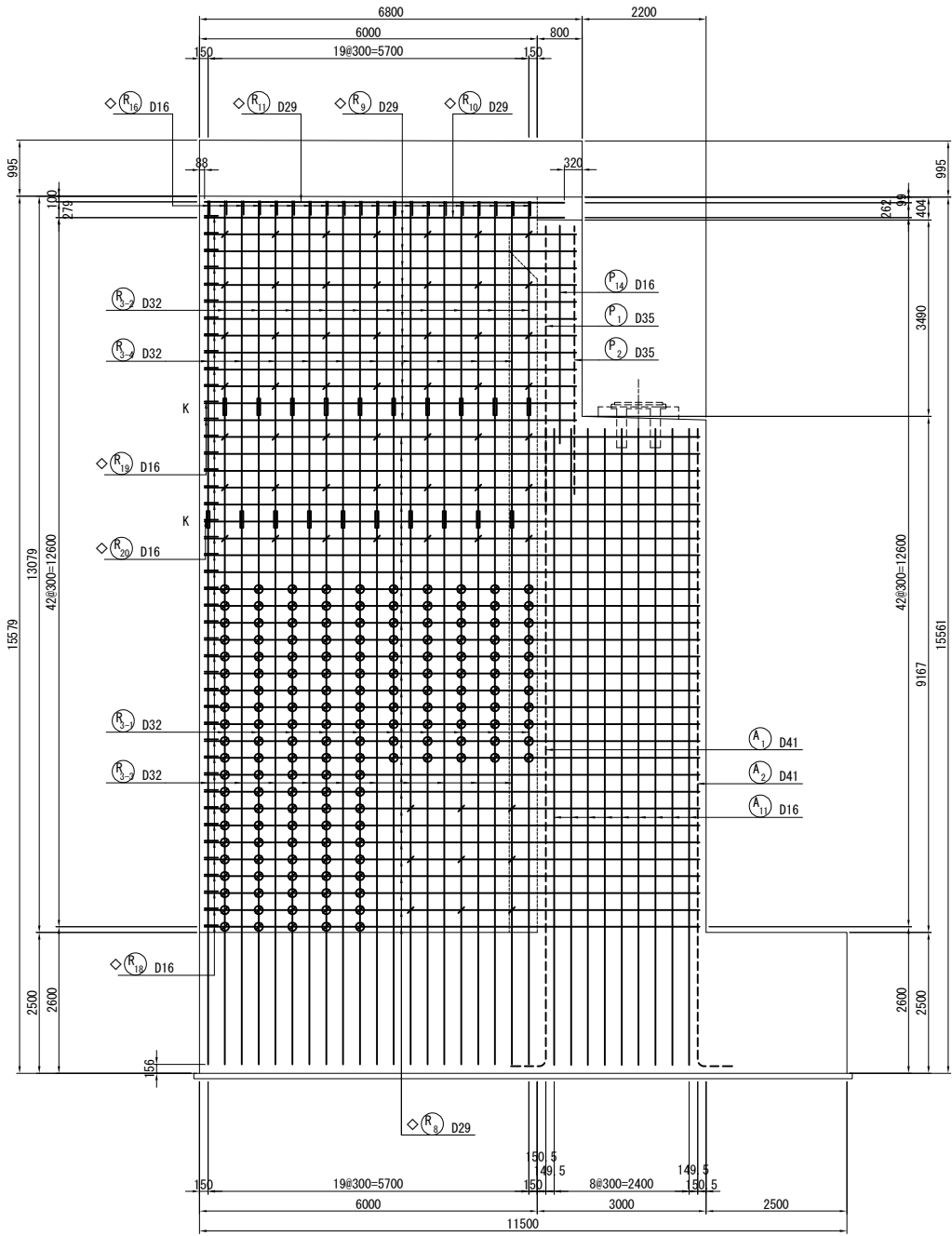
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

右側ウイング

1 - 1（外側）

2 - 2（内側）

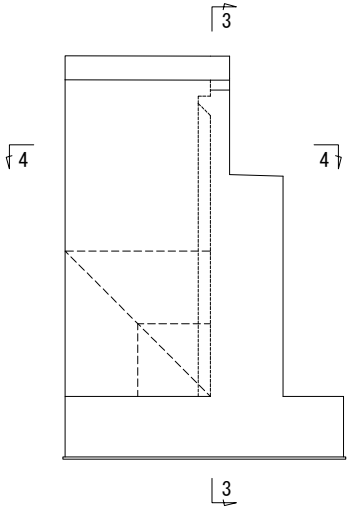
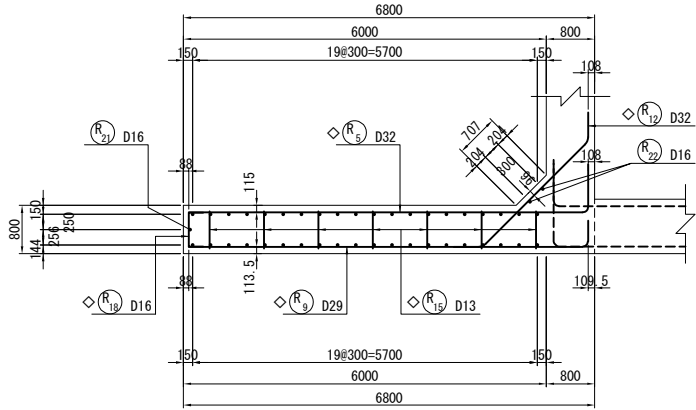
3 - 3



4 - 4

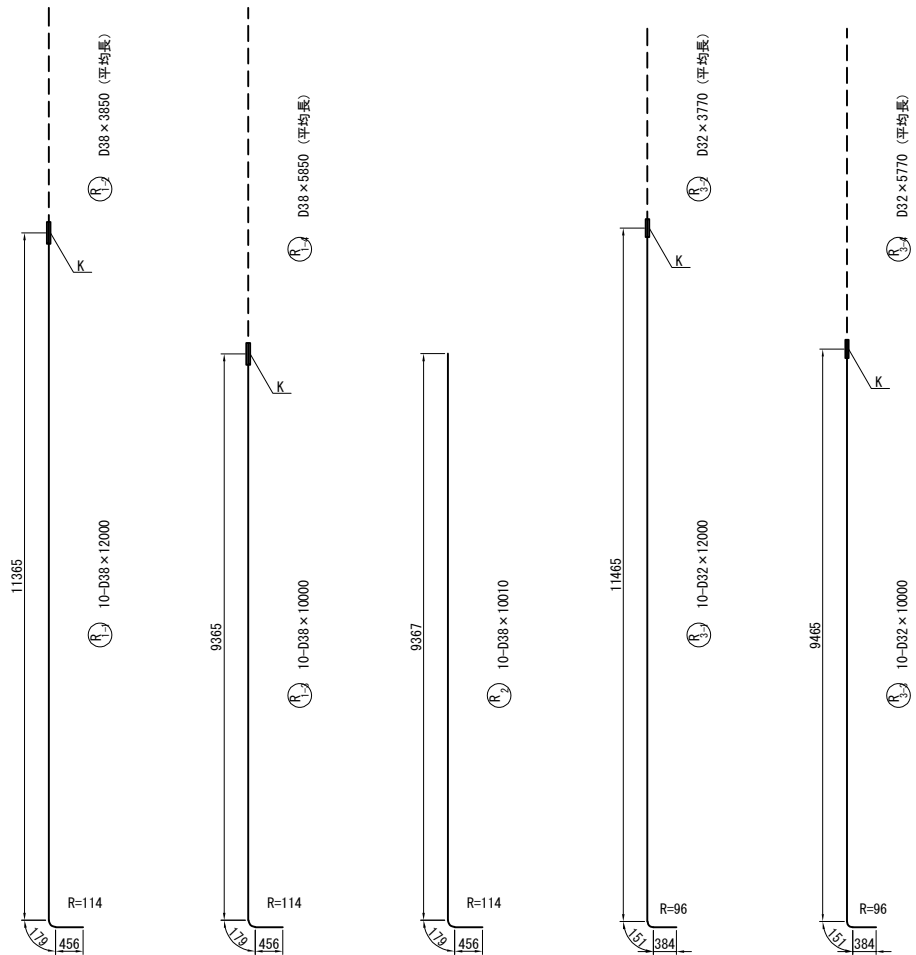
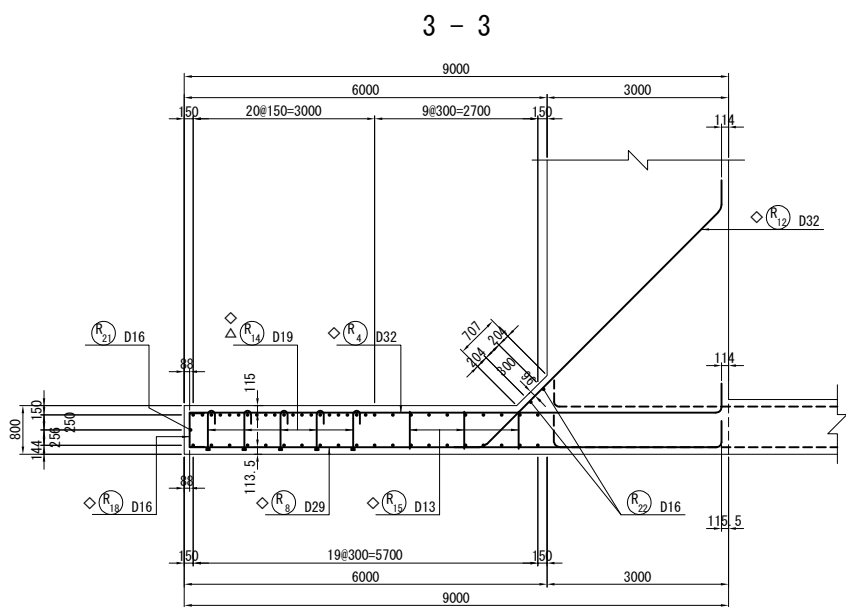
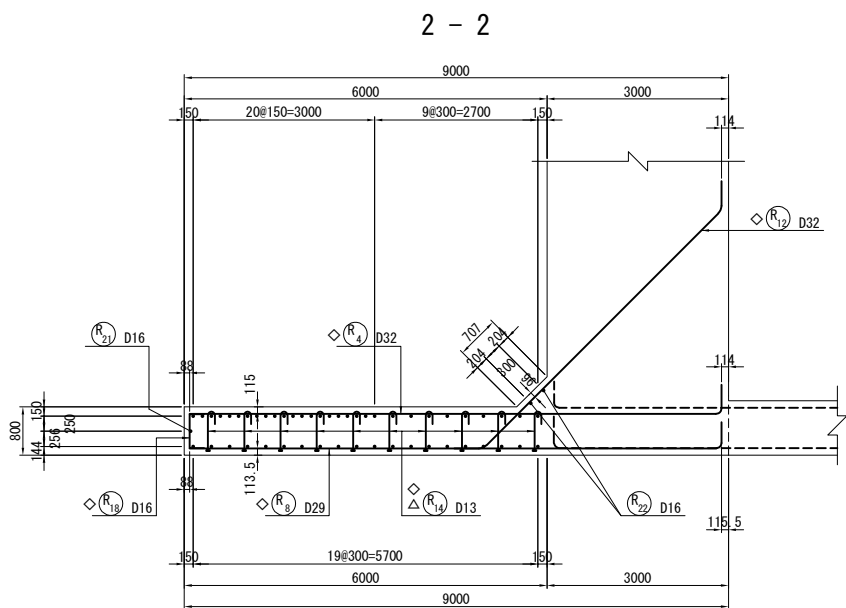
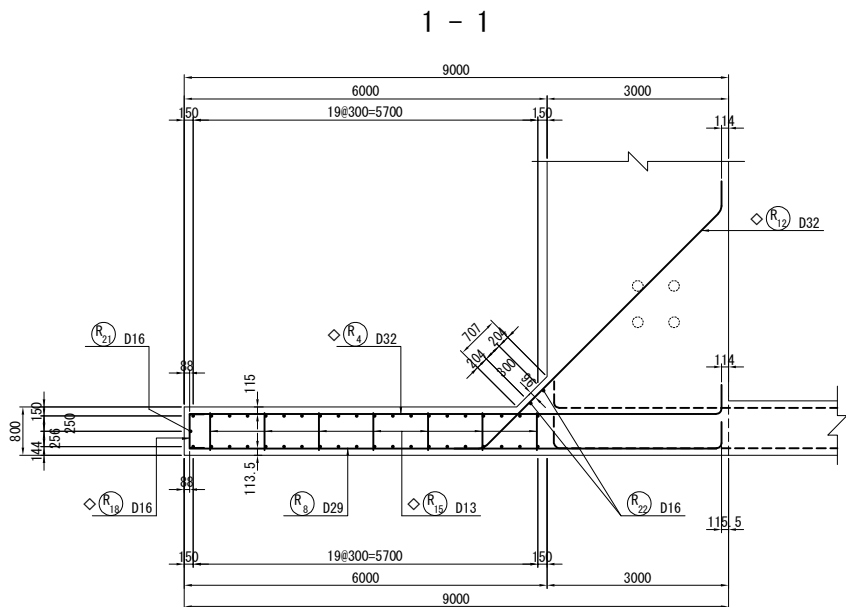
3

位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注6) 注) の印はせん断補強鉄筋 ◇△ (R₁₄) を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鷗川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



10-D32 x 3770 (平均長)

記号	径	本数	a	R
1	D32	1	3758	3760
2	D32	1	3760	3760
3	D32	1	3762	3760
4	D32	1	3763	3760
5	D32	1	3765	3770
6	D32	1	3766	3770
7	D32	1	3768	3770
8	D32	1	3769	3770
9	D32	1	3771	3770
10	D32	1	3773	3770
平均長		10		3766

10-D32 x 5770 (平均長)

記号	径	本数	a	R
1	D32	1	5759	5760
2	D32	1	5761	5760
3	D32	1	5762	5760
4	D32	1	5764	5760
5	D32	1	5766	5770
6	D32	1	5767	5770
7	D32	1	5769	5770
8	D32	1	5770	5770
9	D32	1	5772	5770
10	D32	1	5773	5770
平均長		10		5766

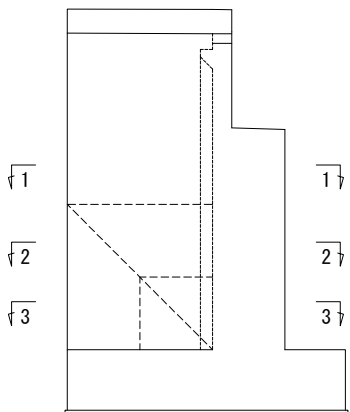
10-D38 x 3850 (平均長)

記号	径	本数	a
1	D38	1	3838
2	D38	1	3840
3	D38	1	3841
4	D38	1	3843
5	D38	1	3845
6	D38	1	3846
7	D38	1	3848
8	D38	1	3849
9	D38	1	3851
10	D38	1	3852
平均長		10	3846

10-D38 x 5850 (平均長)

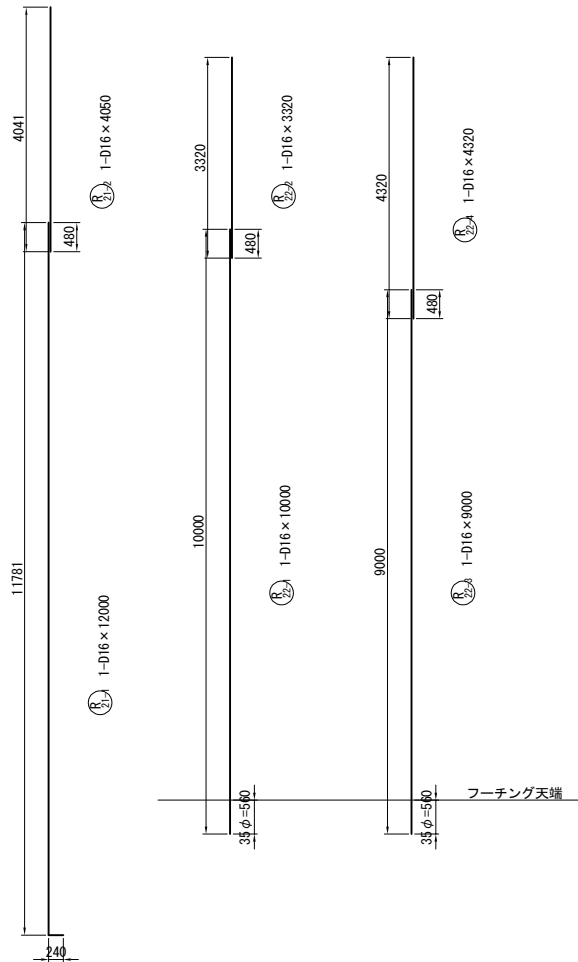
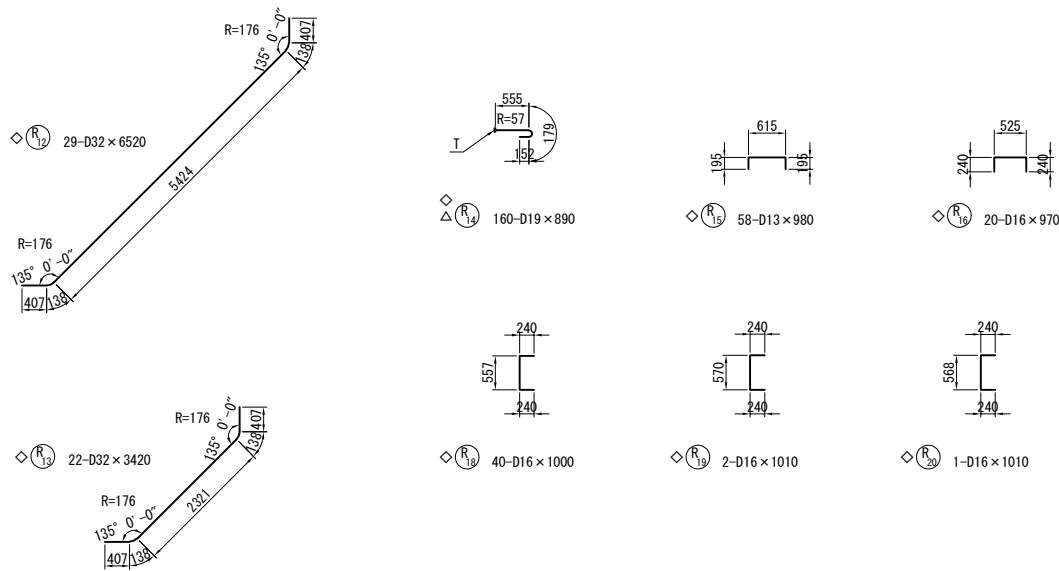
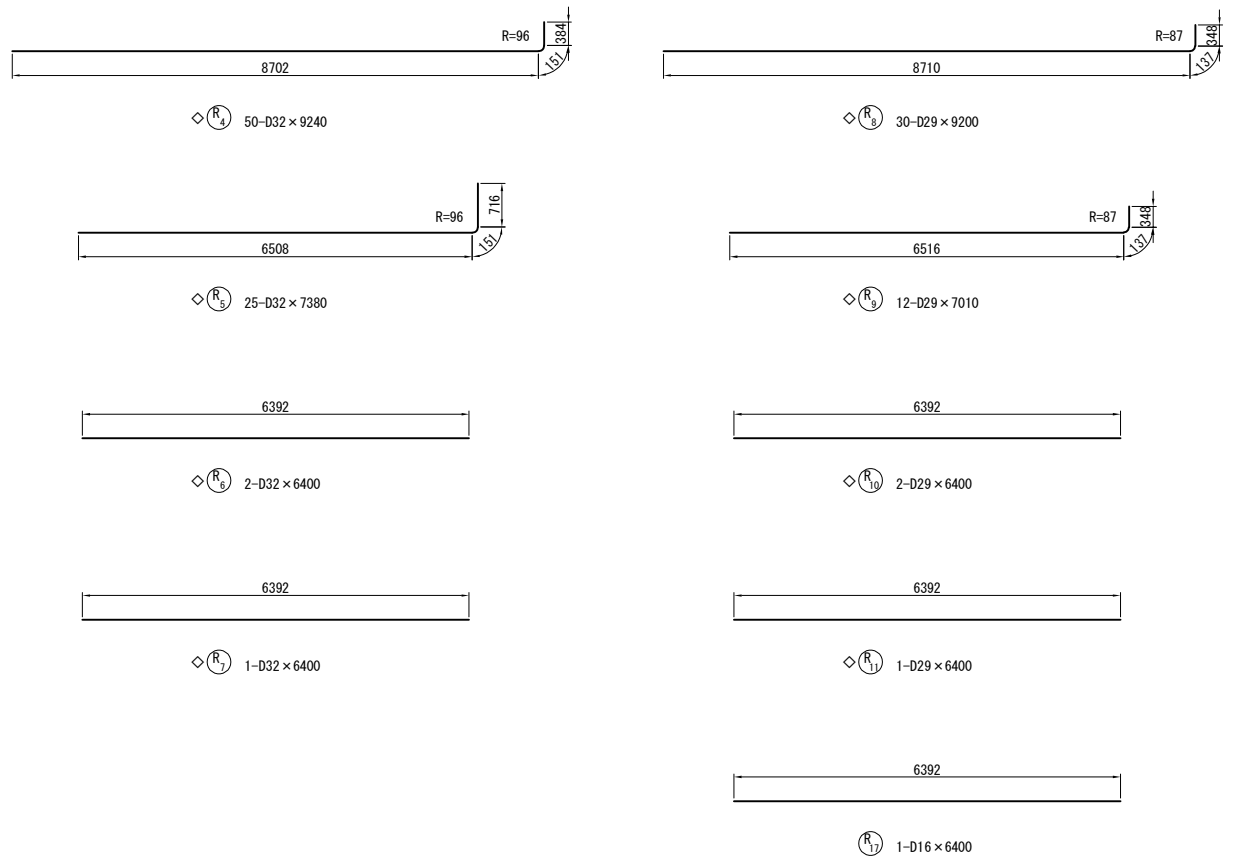
記号	径	本数	a
1	D38	1	5837
2	D38	1	5839
3	D38	1	5841
4	D38	1	5842
5	D38	1	5844
6	D38	1	5845
7	D38	1	5847
8	D38	1	5848
9	D38	1	5850
10	D38	1	5852
平均長		10	5845

位置図

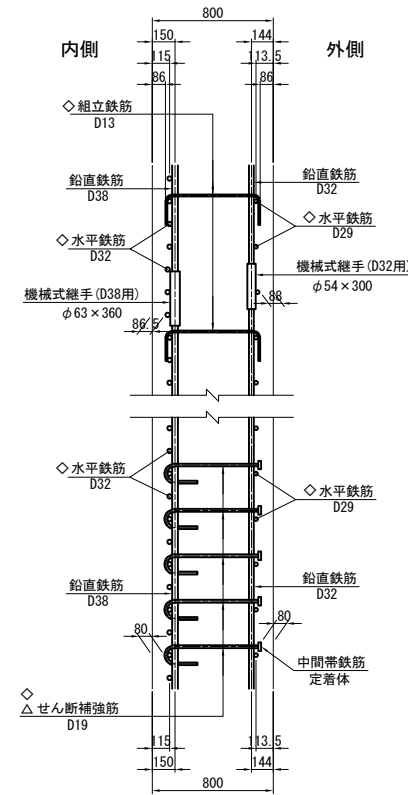


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

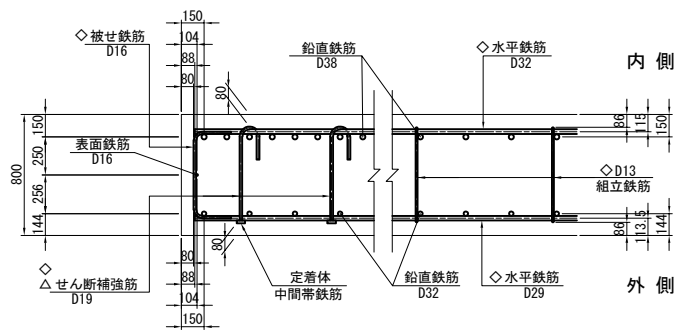


右側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50



右側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50

フルウイング端部

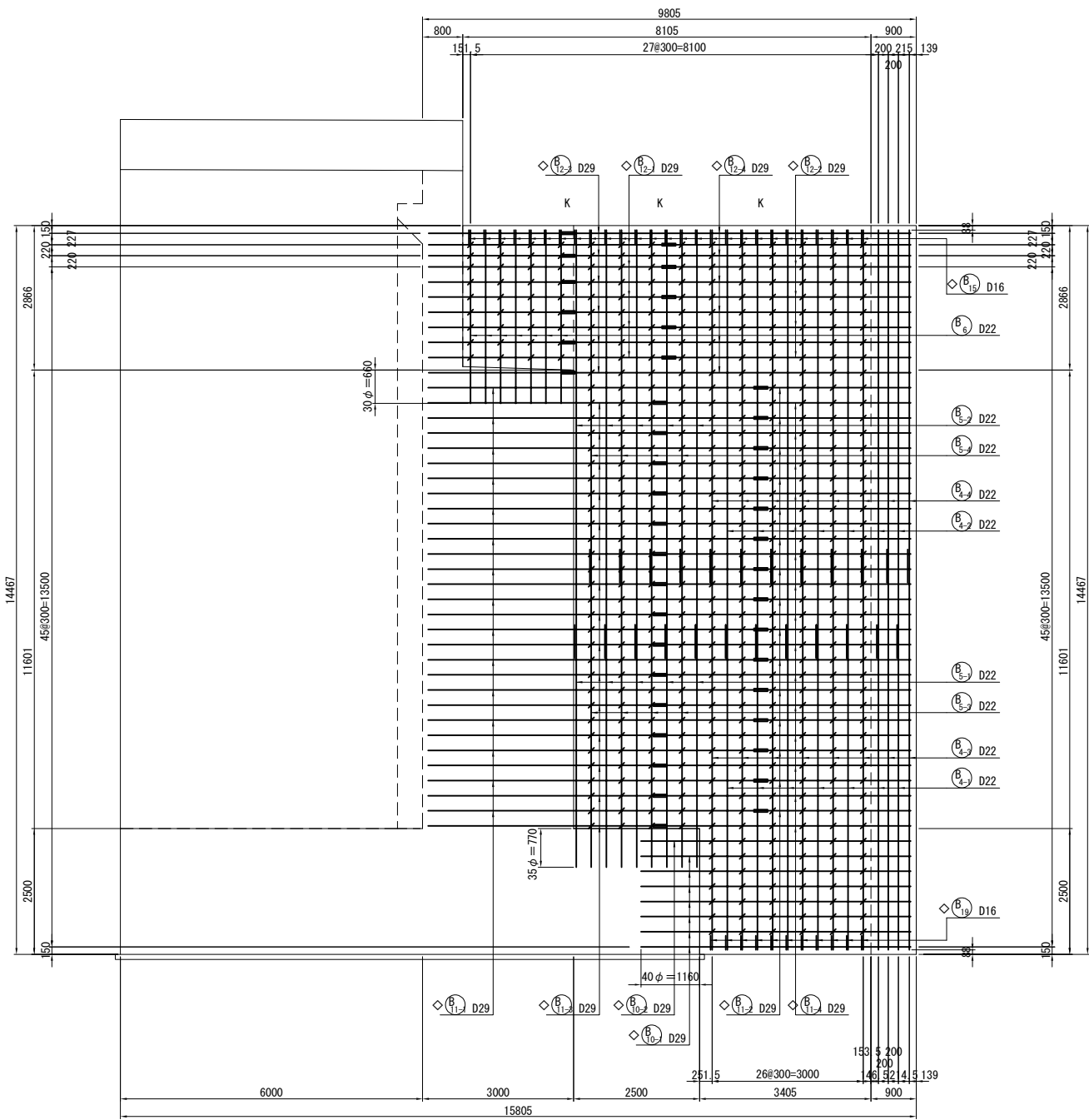


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

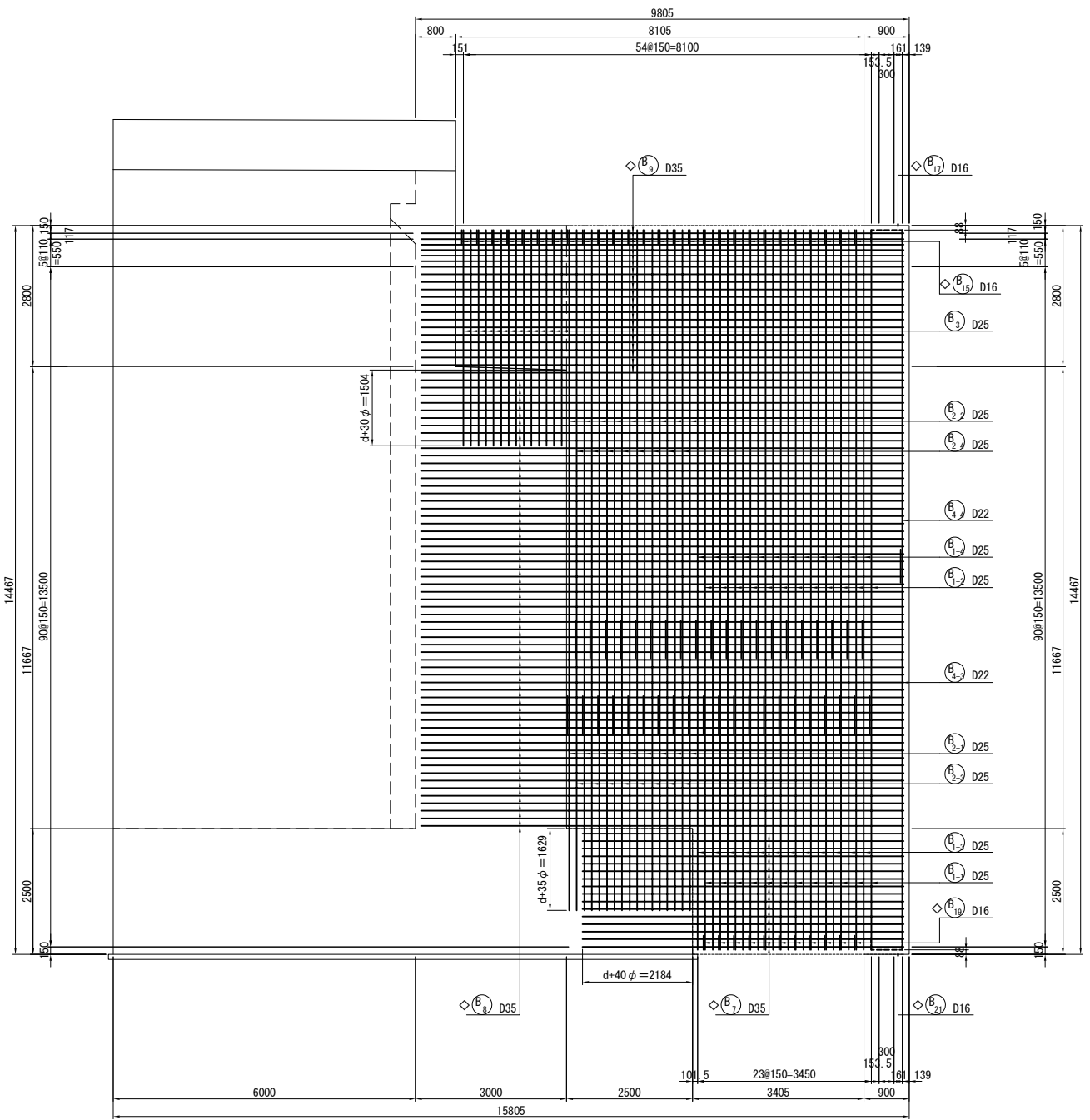
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

土留め壁

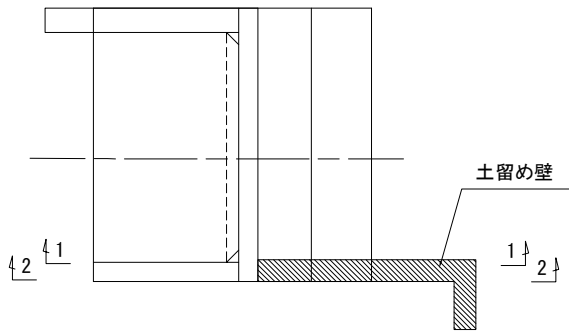
1 - 1 (橋台中心側)



2 - 2 (I期線側)



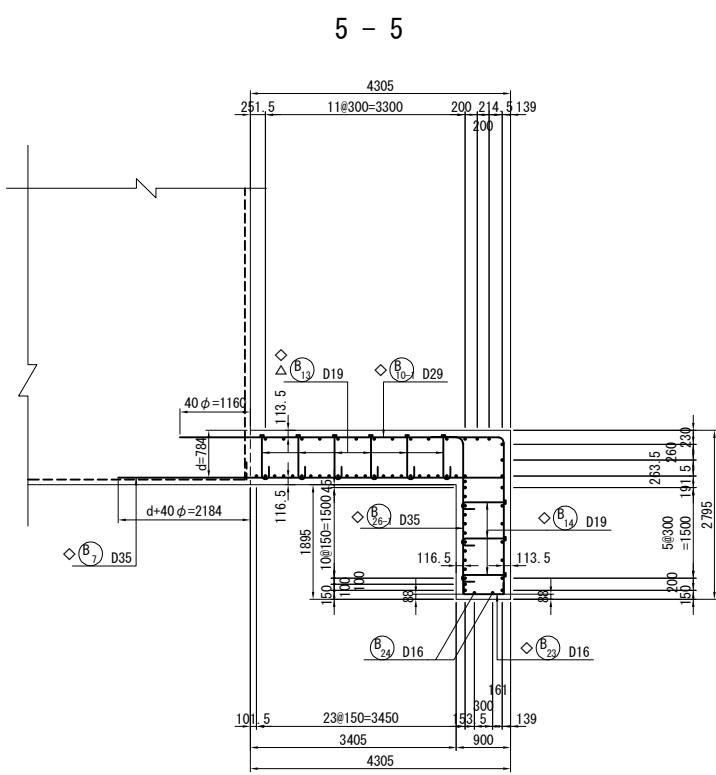
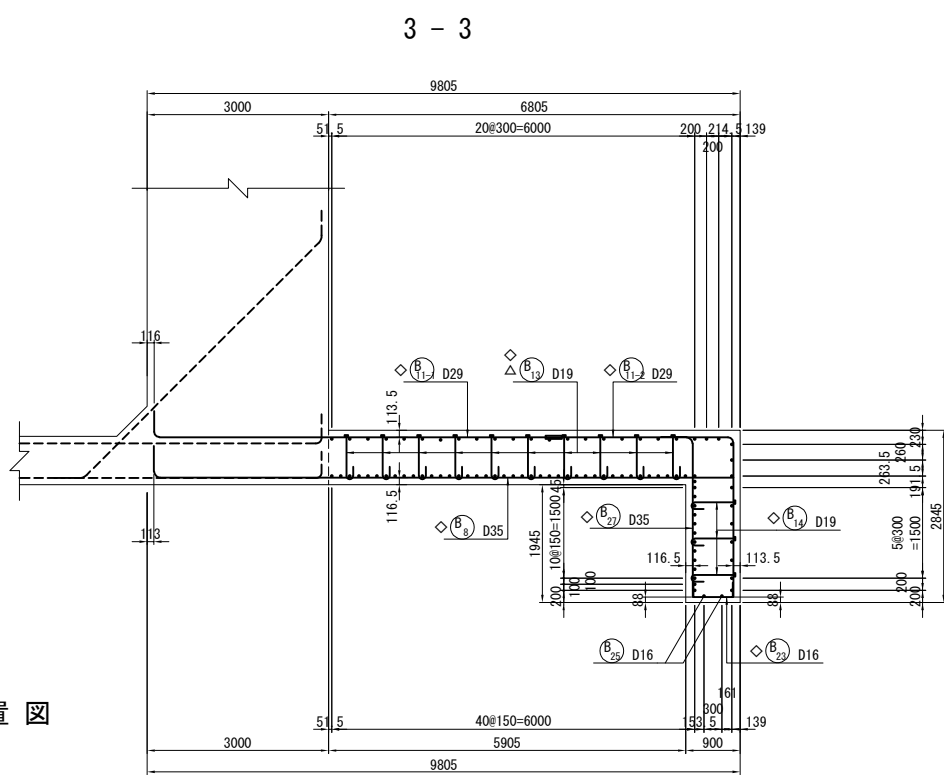
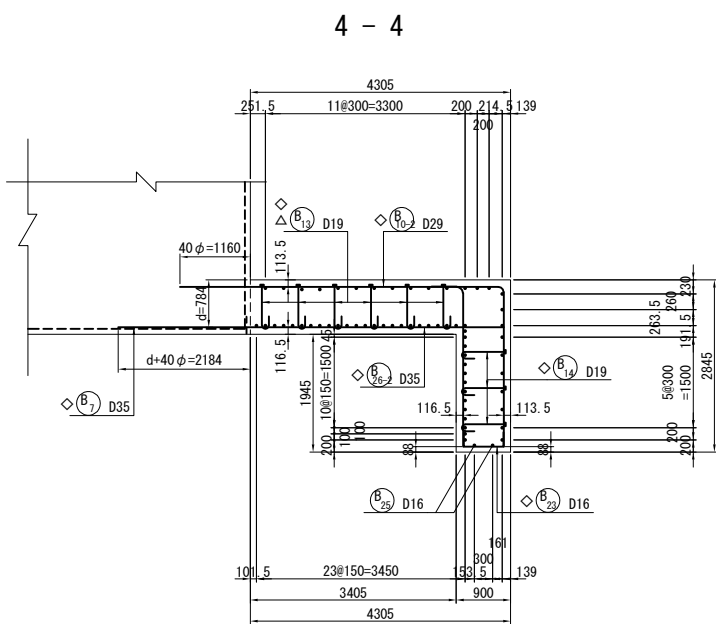
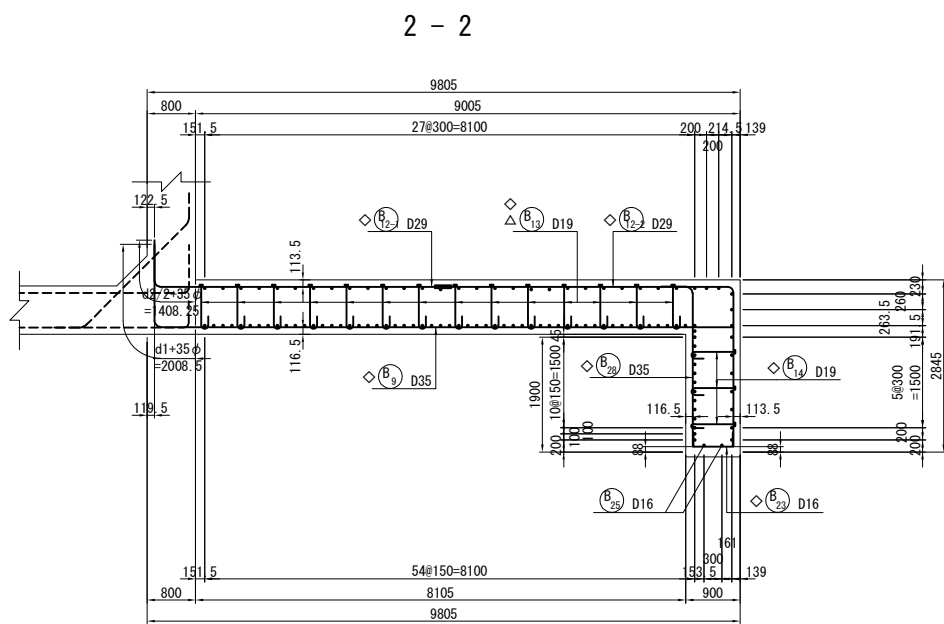
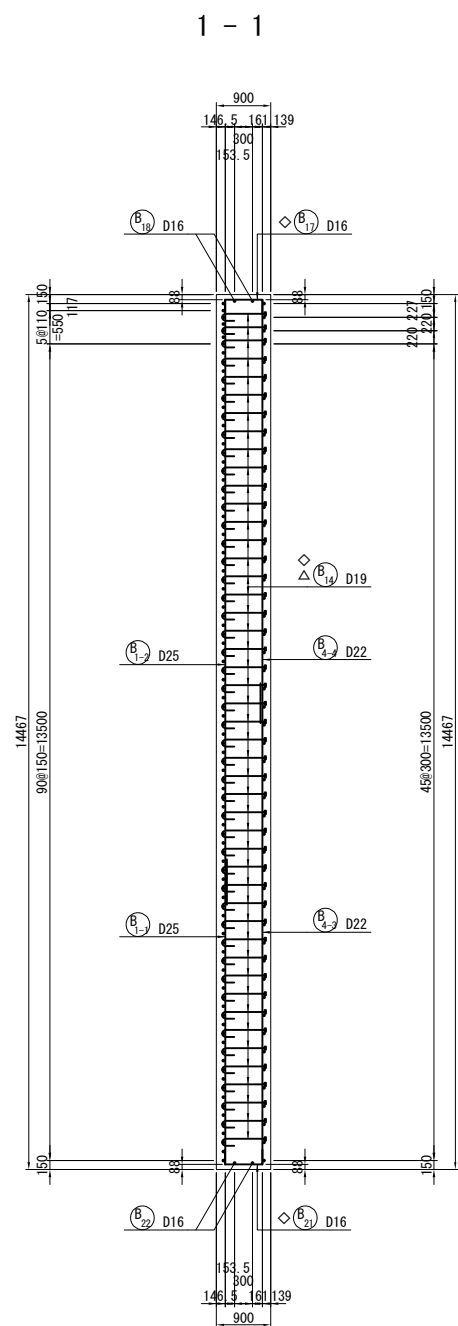
位置図



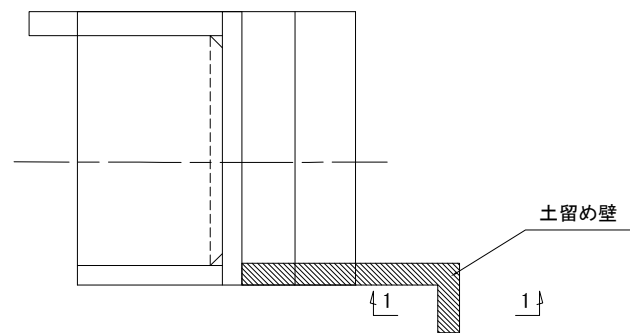
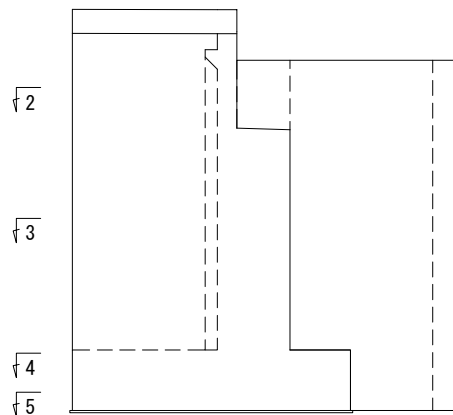
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鶴川第一橋（下り線） A 1橋台配筋図（その１７）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

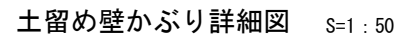


位置図

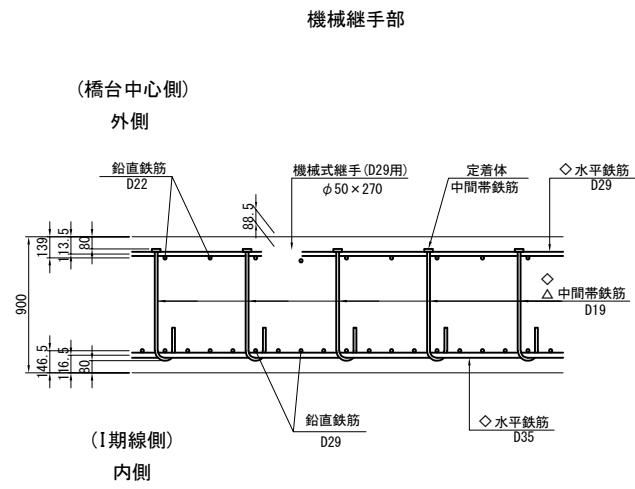


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

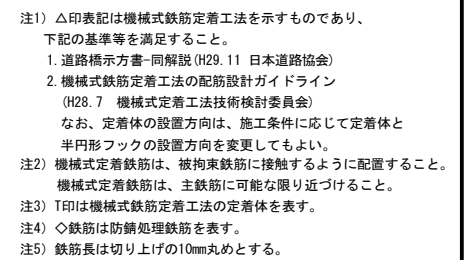
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



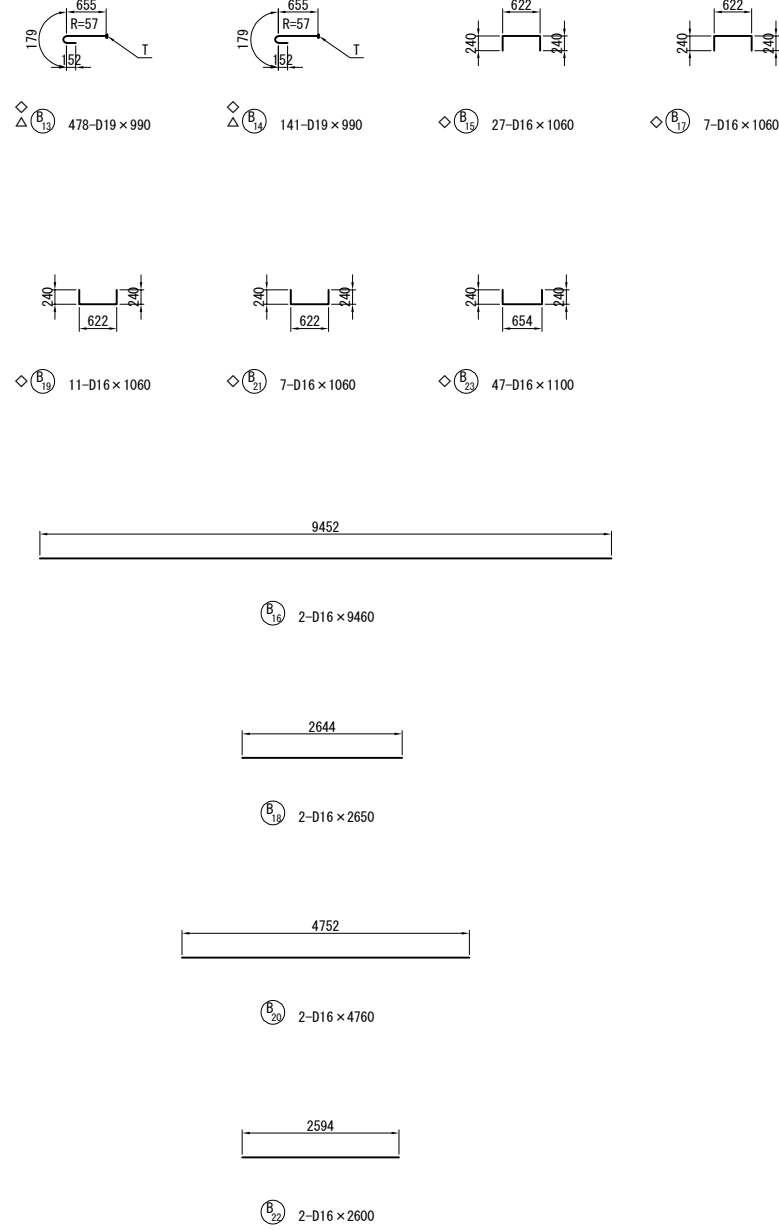
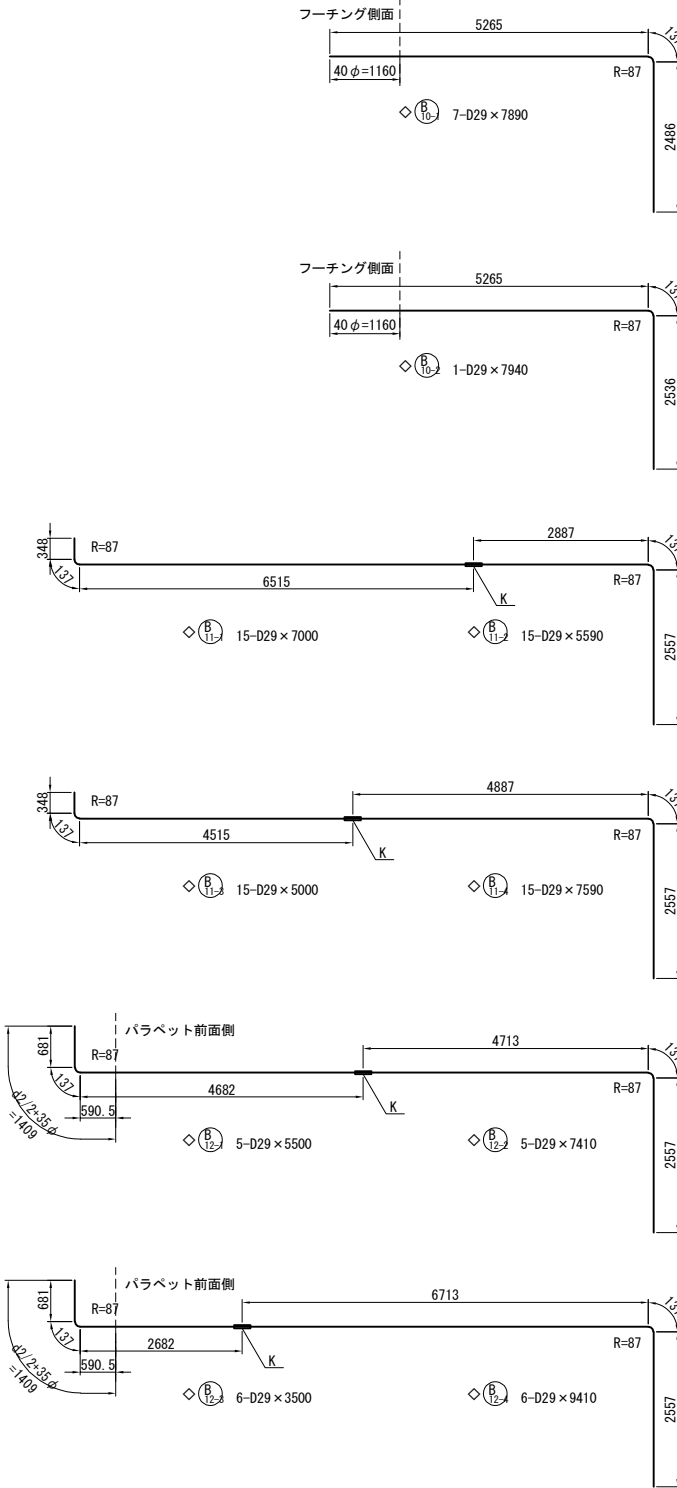
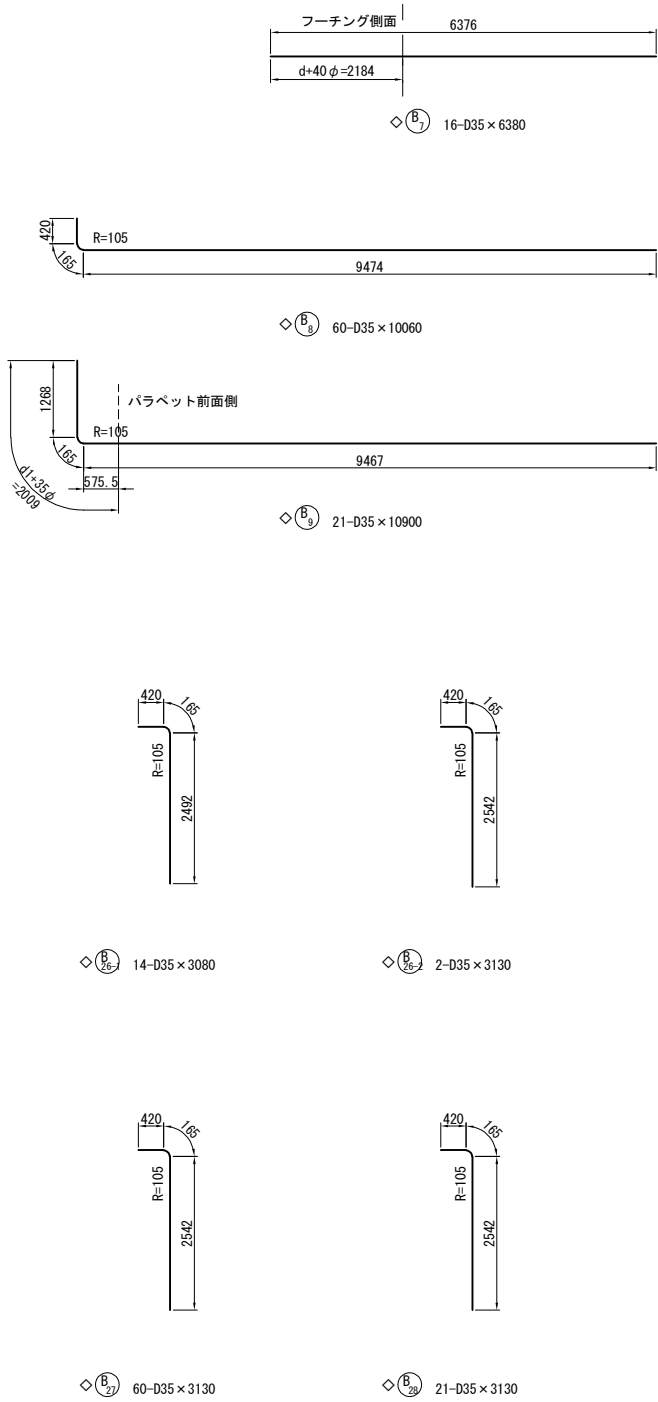
土留め壁端部かぶり詳細図 S=1 : 50



フルウイング端部



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鶴川第一橋（下り線） A 1橋台配筋図（その1 9）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

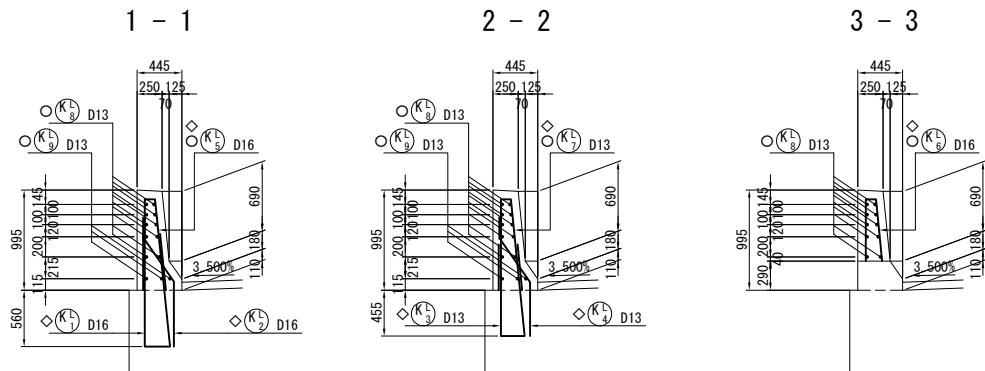


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

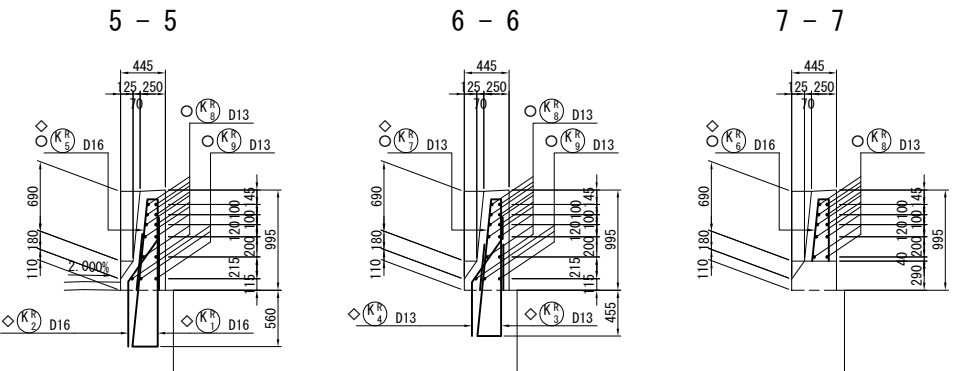
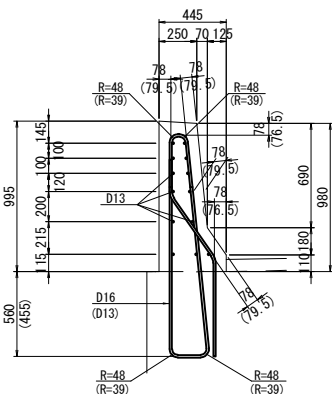
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 2 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

左側壁高欄断面図

右側壁高欄断面図

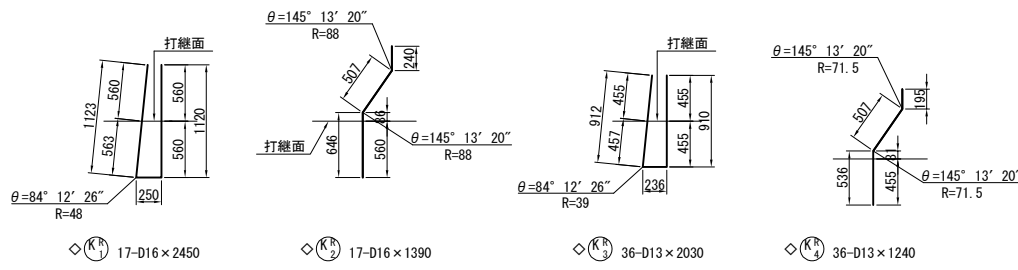
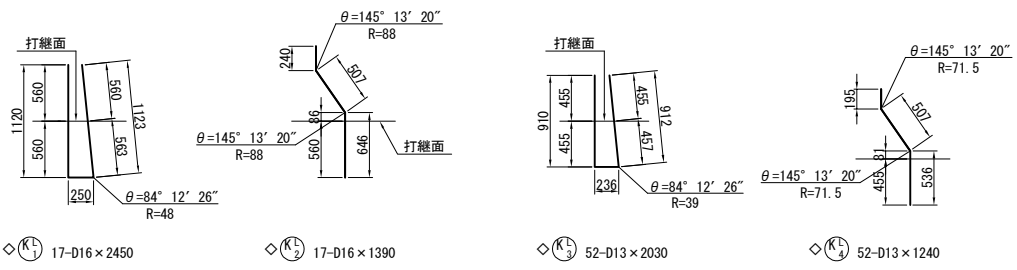
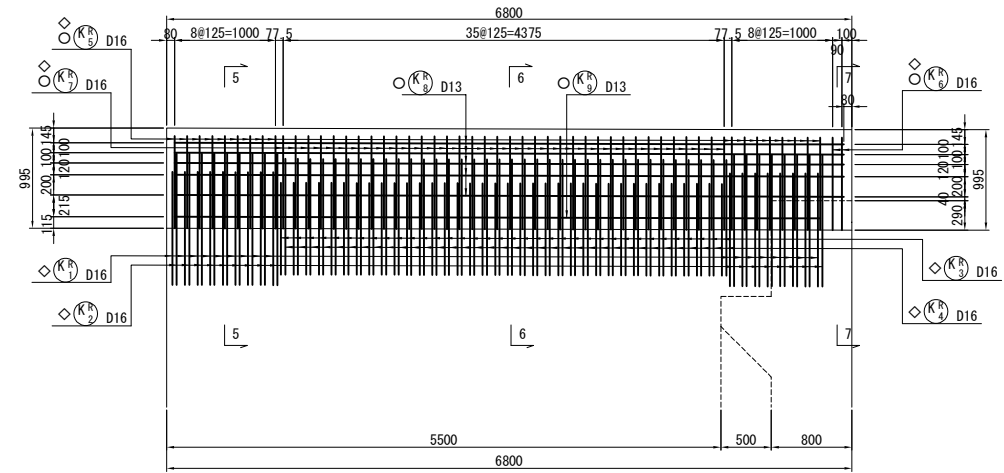
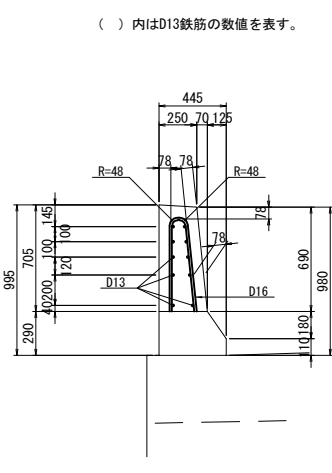
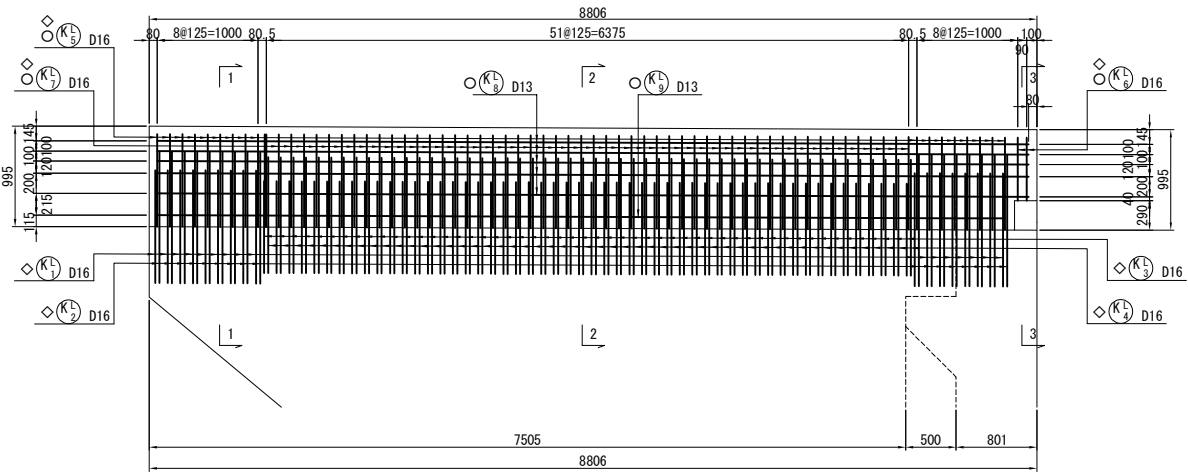


かぶり詳細図 S=1:50

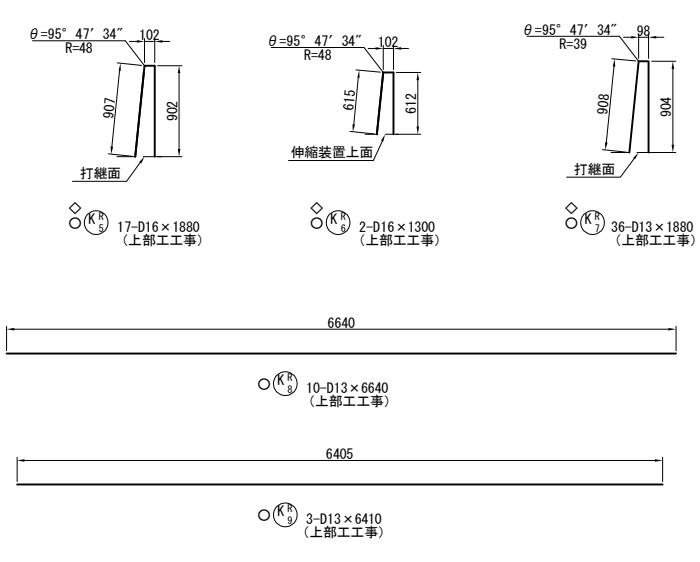
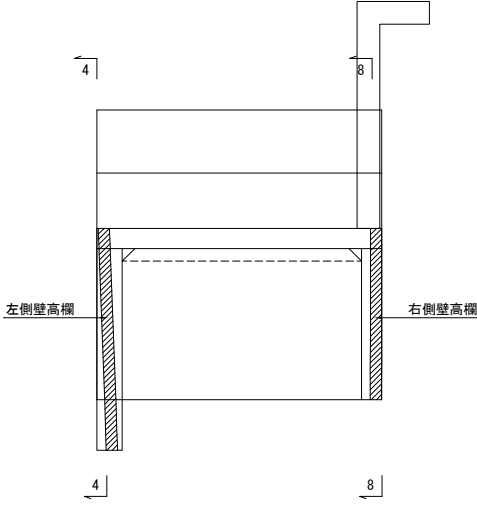


4 - 4

8 - 8



位置図



注1) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注2) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注3) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵡川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 2 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

[illegible][illegible]

道東自動車道 占冠地区下留工事			
図面の種類	本流瀧川第一橋（下り線） A 1橋台配筋図（その2）2		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表(下部工施工)

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
◇ ◇ ◇ ◇	KR 1	D16	2450	17	1.56	3.82	65
	2	D16	1390	17	1.56	2.17	37
	3	D13	2030	36	0.995	2.02	73
	4	D13	1240	36	0.995	1.23	44
219 kg							
下部工施工鉄筋質量							
普通鉄筋							
SD345				A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計 [機械継手] (機械式定着)
D41				13038			13038 kg
D38				10317	2834		13151 kg [20]
D35				6970	2324		9294 kg [20]
D32				1457	1965		3422 kg [20]
D29					1552		1552 kg [20]
D25				4086			4086 kg
D22				2898		796	3694 kg (100)
D19				1191			1191 kg
D16				1327		143	1470 kg (36)
D13				19			19 kg
合 計				41303	8675	939	50917 kg [80] (136)
下部工施工鉄筋質量							
エポキシ樹脂塗装鉄筋							
SD345				A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計 [機械継手] (機械式定着)
D41							kg
D38							kg
D35				9950			9950 kg
D32				12183			12183 kg
D29				4119	2622		6741 kg [41]
D25				5534		2079	7613 kg (165)
D22				857		630	1487 kg (205)
D19						1700	1700 kg (779)
D16				1259		189	1448 kg (40)
D13				534			534 kg
合 計				34436	2622	4598	41656 kg [41] (1189)
下部工施工鉄筋総質量							
総合計							
SD345				A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計 [機械継手] (機械式定着)
D41				13038			13038 kg
D38				10317	2834		13151 kg [20]
D35				16920	2324		19244 kg [20]
D32				13640	1965		15605 kg [20]
D29				4119	4174		8293 kg [61]
D25				9620		2079	11699 kg (165)
D22				3755		1426	5181 kg (305)
D19				1191		1700	2891 kg (779)
D16				2586		332	2918 kg (76)
D13				553			553 kg
合 計				75739	11297	5537	92573 kg [121] (1325)

機械式鉄筋定着工法数量表(箇所数)-下部工施工(普通鉄筋)

鉄筋径	0<L≦1m	1m<L≦2m	2m<L≦3m	3m<L≦4m	4m<L≦5m	5m<L≦6m	6m<L≦7m	7m<L≦8m	8m<L≦9m	9m<L≦10m
D13										
D16			36							
D19										
D22			100							
D25										
小計			136							
合計										136

鉄筋加工寸法表 (SD345)

<div><div>主 筋 せん断補強筋</div><div>鋭角フック</div><div>半円形フック</div><div>直角フック</div></div> <div><div>8φ以上で 12cm以上</div><div>△L=2L-a</div></div>										
主 筋	径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$
		a	△L	a	△L	a	△L	a	△L	△L
	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177
せん 断 補 強 筋 及 び 帯 鉄 筋	径	R=2.5φ		$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		――
				a	△L	a	△L	a	△L	――
	D13	32.5		77	80	68	45	51	14	――
	D16	40		94	99	84	55	63	17	――
	D19	47.5		112	117	99	66	75	20	――
	D22	55		130	136	115	76	86	24	――
フ ッ ク	径	R=3.0φ		鋭角フック		半円形フック		直角フック		
				a		a		a		△L
	D13	39		92		123		61		17
	D16	48		113		151		75		21
	D19	57		134		179		89		25
	D22	66		156		207		104		28
	D25	75		177		236		118		32
	D29	87		205		273		137		37

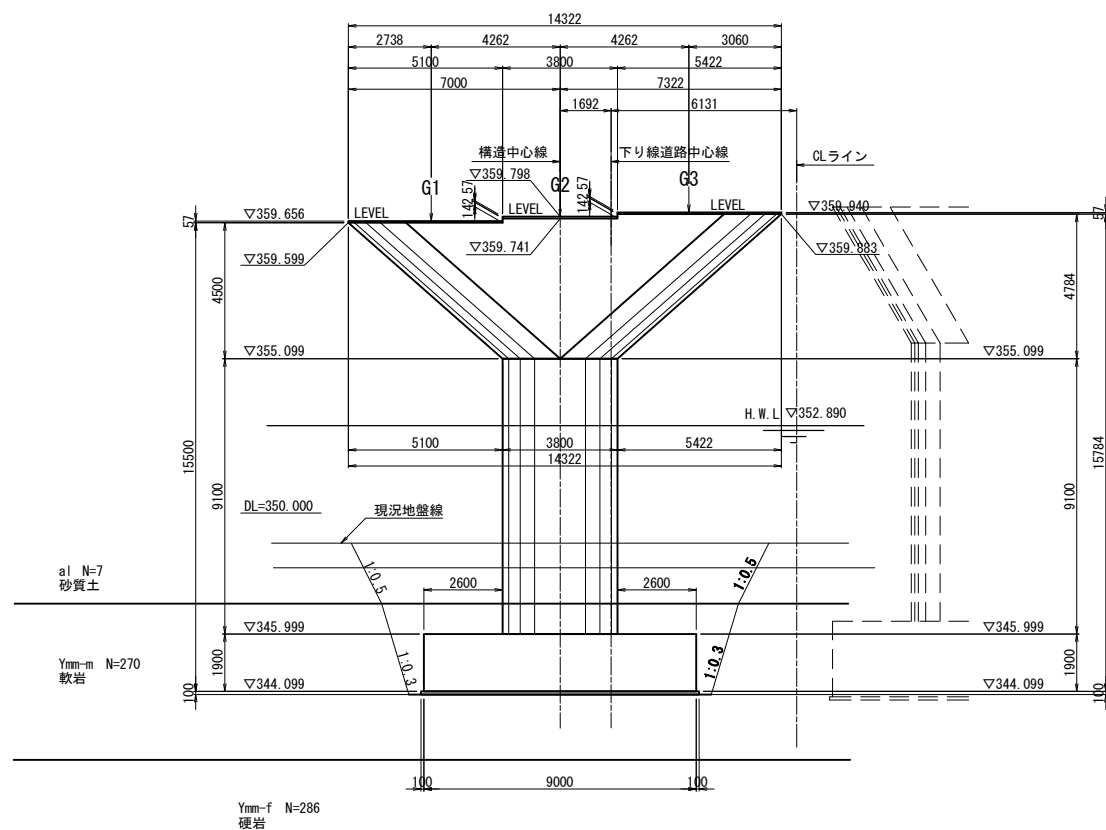
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と
半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注7) ()内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。
注8) []内は機械継手箇所数を示す。
注9) Kは機械継手を示す。
注10) Cは機械式鉄筋定着工法を示す。

機械式鉄筋定着工法数量表(箇所数)-下部工施工(エポキシ樹脂塗装鉄筋)

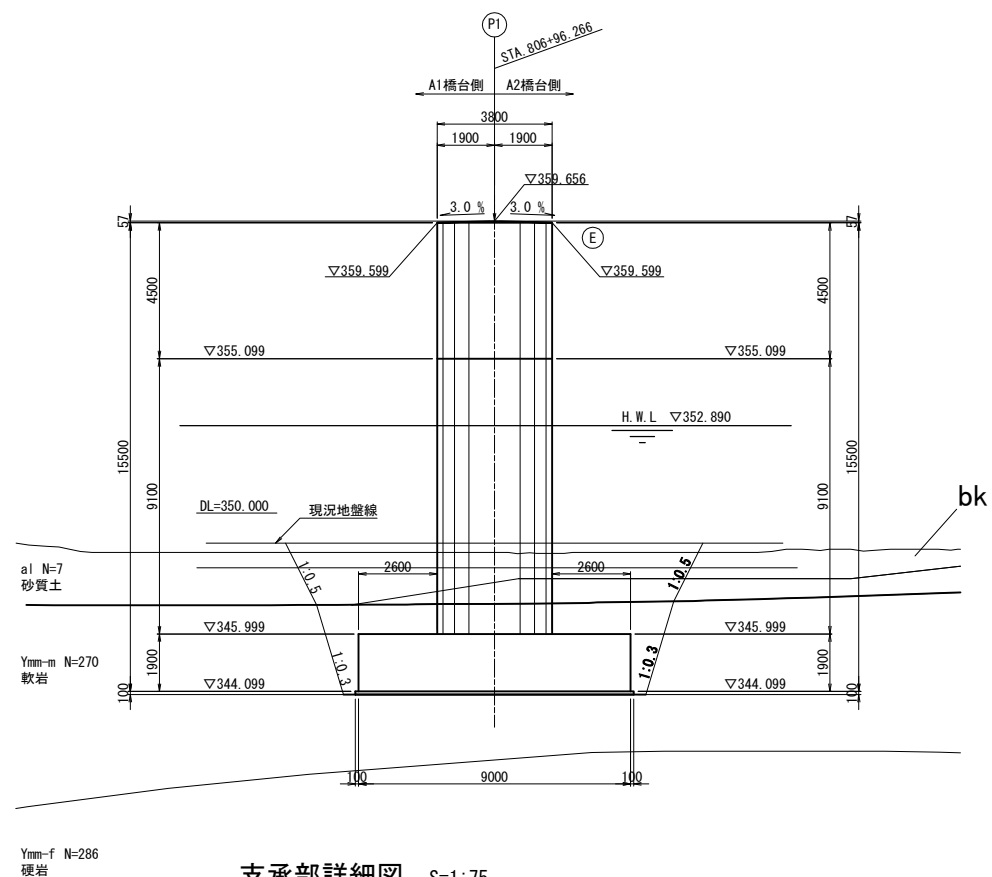
鉄筋径	0<L≦1m	1m<L≦2m	2m<L≦3m	3m<L≦4m	4m<L≦5m	5m<L≦6m	6m<L≦7m	7m<L≦8m	8m<L≦9m	9m<L≦10m
D13										
D16				40						
D19	779									
D22	120	85								
D25				165						
小計	899	85		205						
合計										1189

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第一橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 2 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

正面图(1-1)



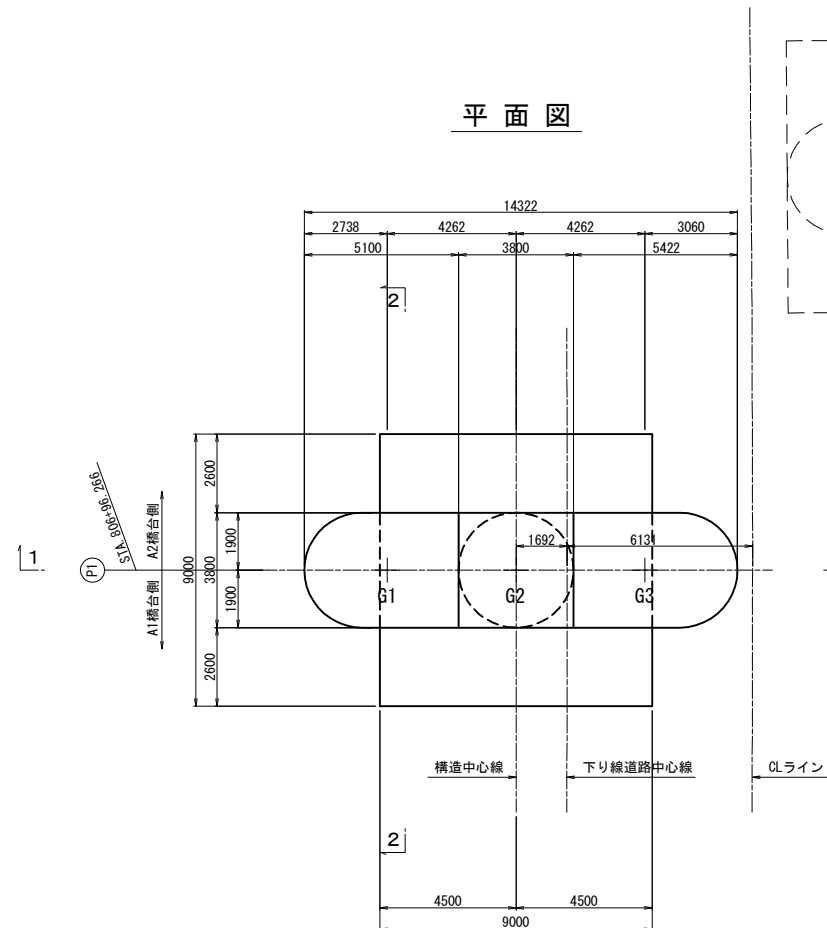
断面図(2-2)



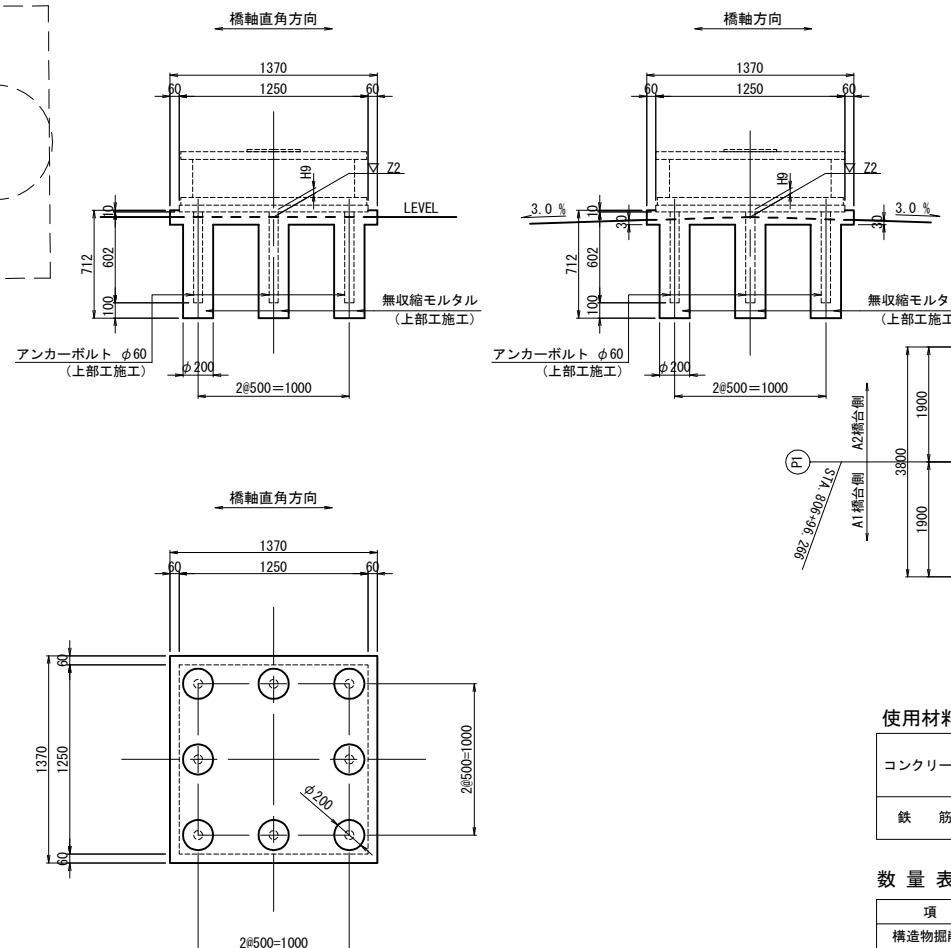
構造高表

		P1橋脚		
		G1	G2	G3
路面計画高	Z1	363.563	363.713	363.863
舗装厚	h1	0.080	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.003	0.010	0.010
床版厚	h3	0.290	0.290	0.290
ハンチ高	h4	0.100	0.100	0.100
主桁高	h5	2.900	2.900	2.900
下フランジ厚	h6	0.064	0.040	0.040
ソールプレート厚	h7	0.039	0.039	0.039
支承高	h8	0.397	0.397	0.397
資産モルタル厚	h9	0.034	0.059	0.059
台座	h10	—	—	—
構造高合計	Σh	3.907	3.915	3.923
下部工天端高	Z2	359.656	359.798	359.940

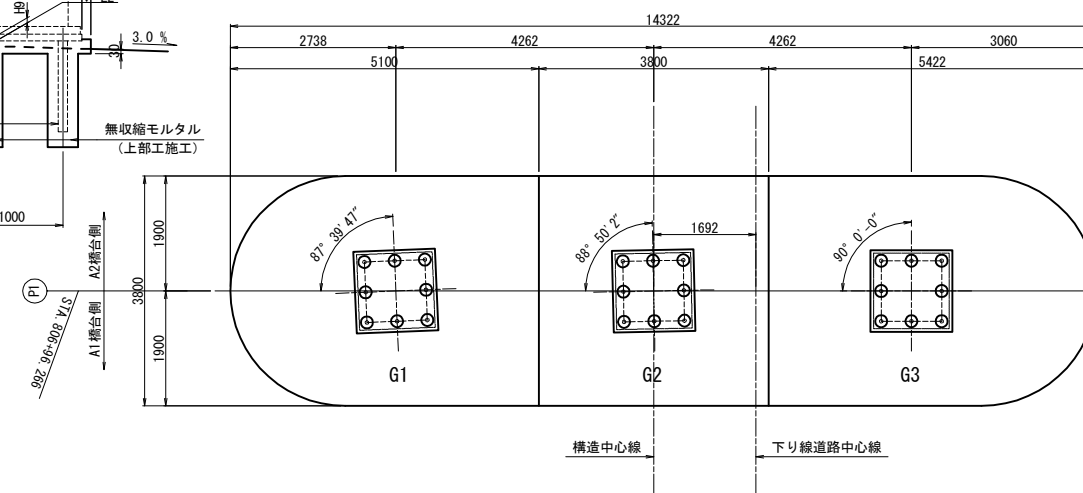
平面図



支 承 部 詳 細 図 S=1:75



支承配置図 S=1:125



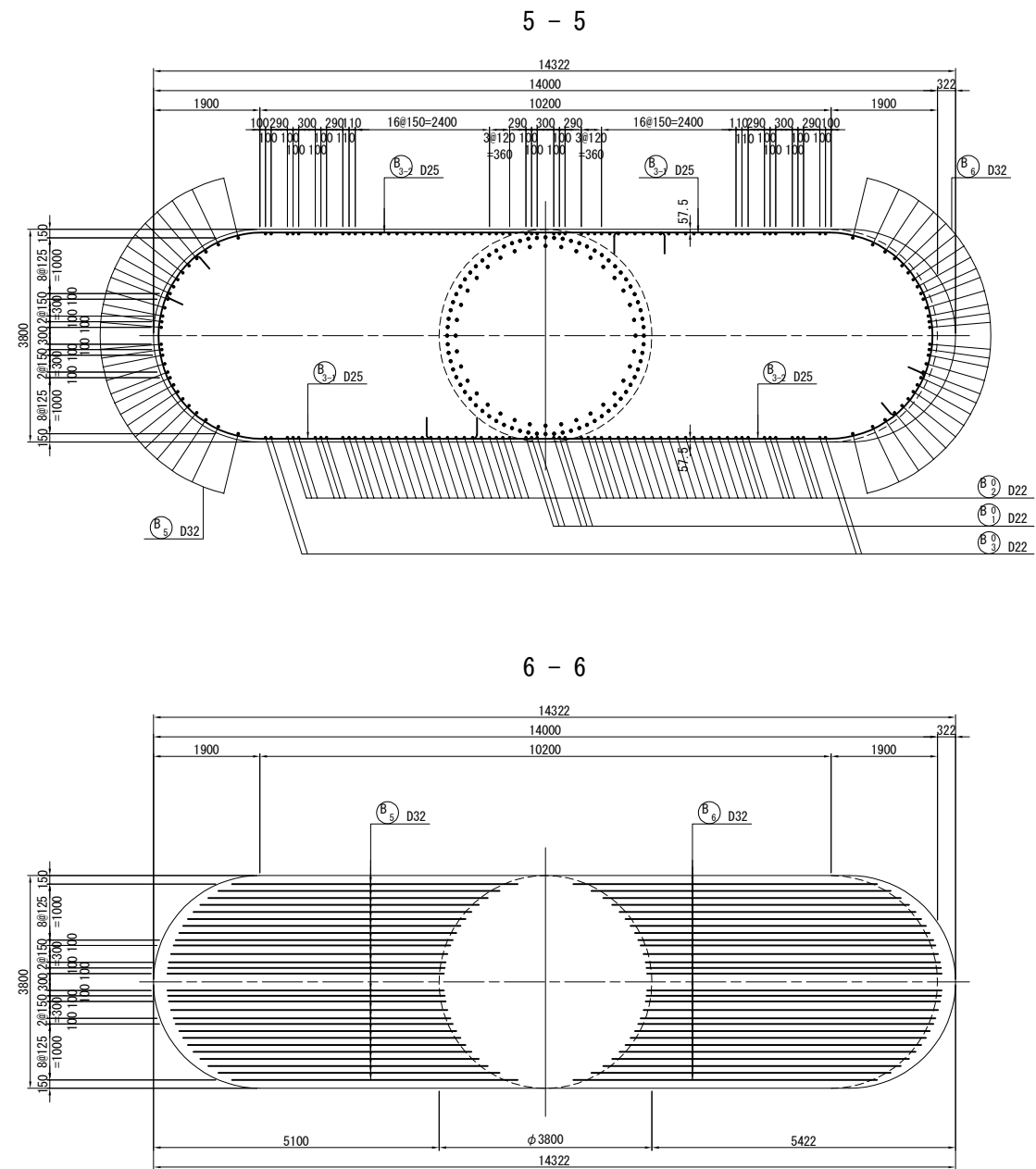
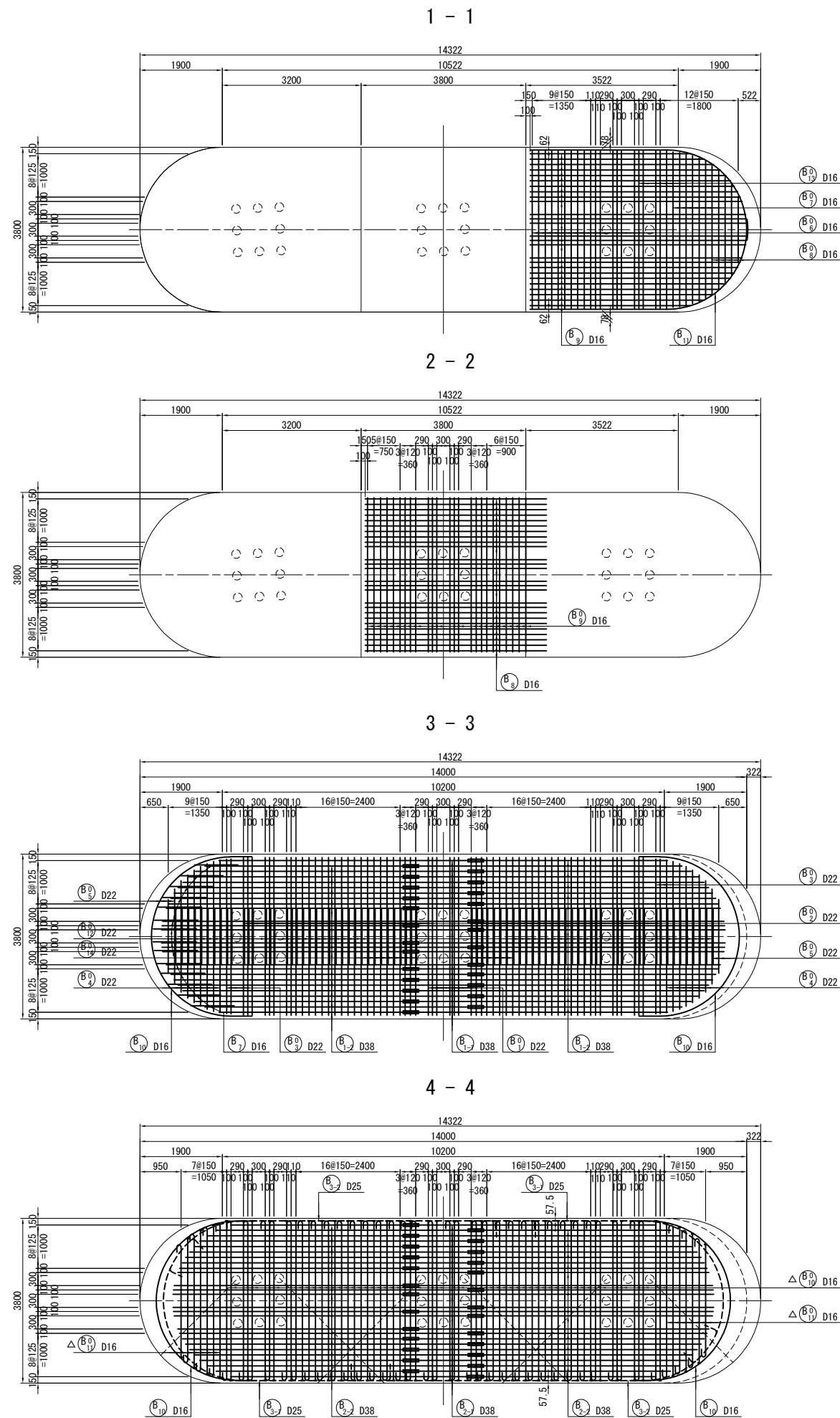
使用材料表

コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	フーチング	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
鉄筋	柱主筋	SD490
	その他	SD345

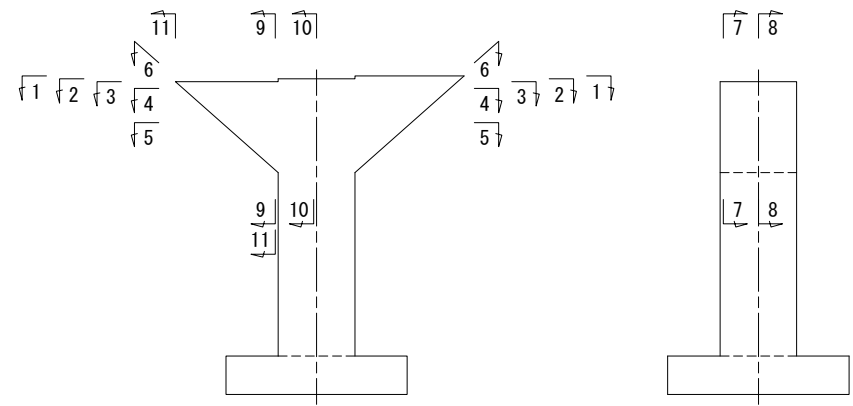
数量表

项 目	规格·寸法	单位	数 量	摘 要
构造物掘削	普通部	m3	305.2	土砂
		m3	356.2	軟岩

道東自動車道 占冠地区下郷工事			
図面の種類	本流鶴川第一橋（下り線） P 1 橋脚構造図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋構造梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



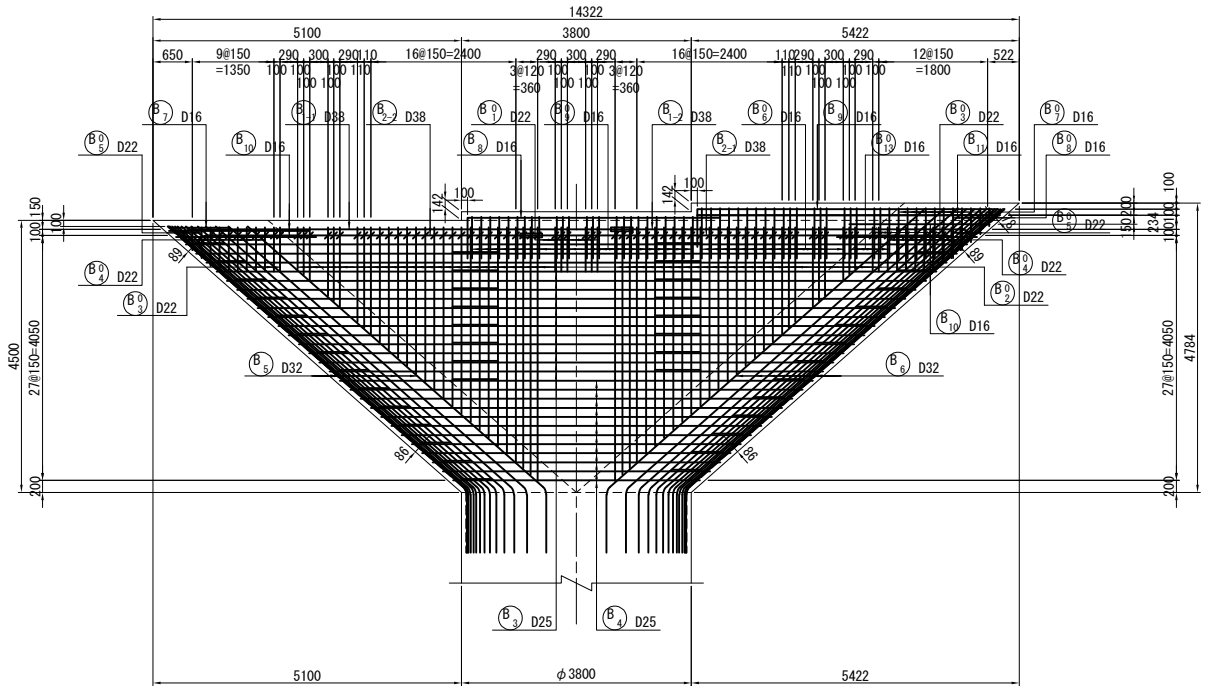
位置図



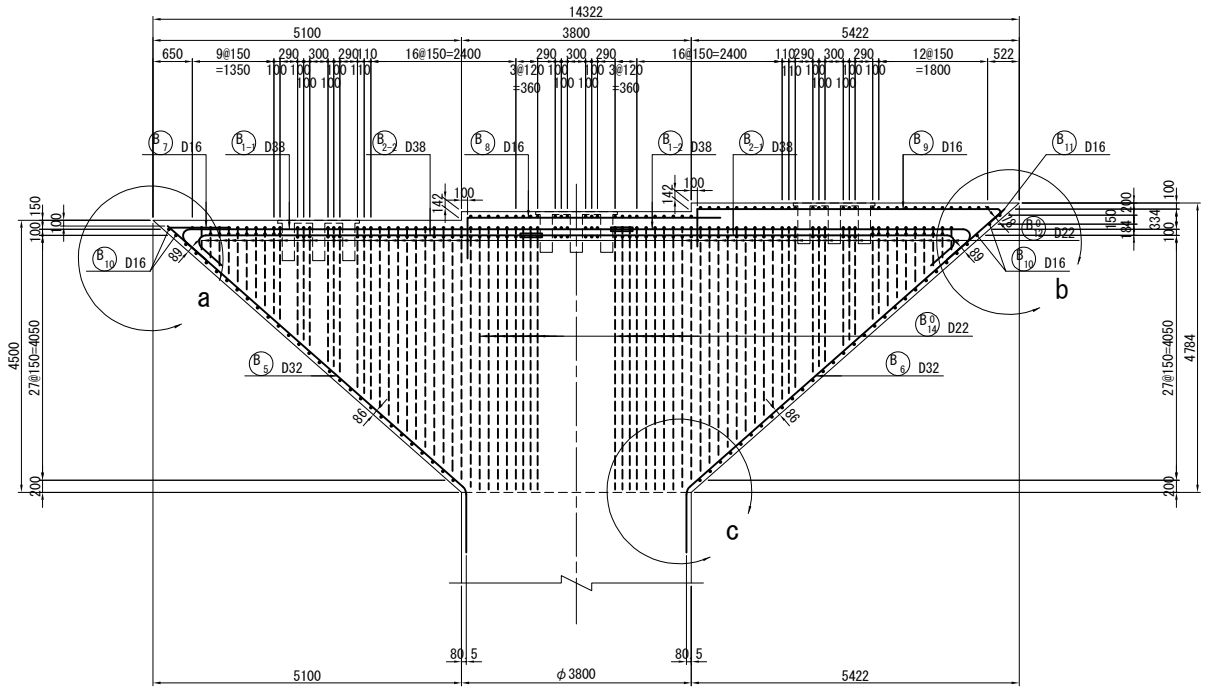
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注5) —K— は、機械継手位置を示す。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵡川第一橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

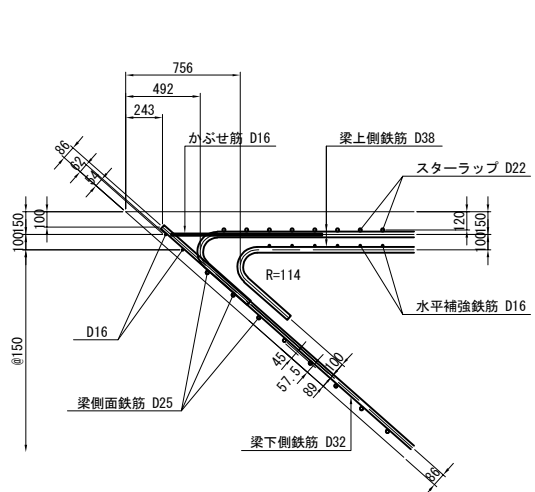
7 - 7



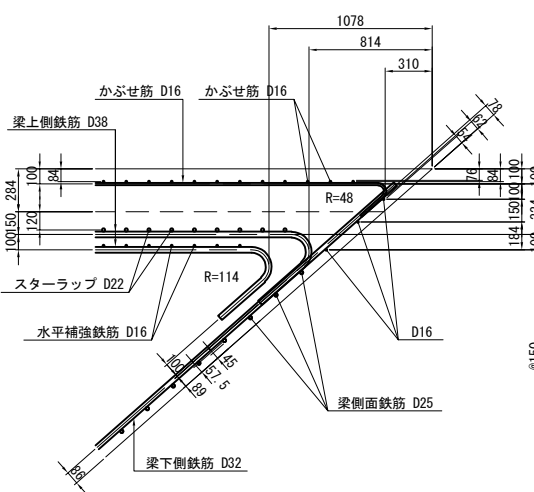
8 - 8



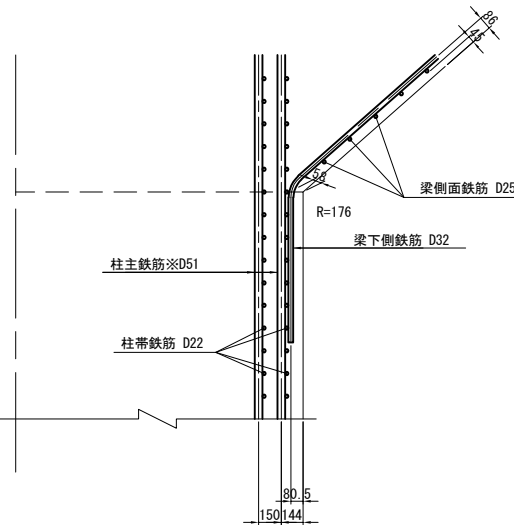
“a”部詳細図 S=1:50



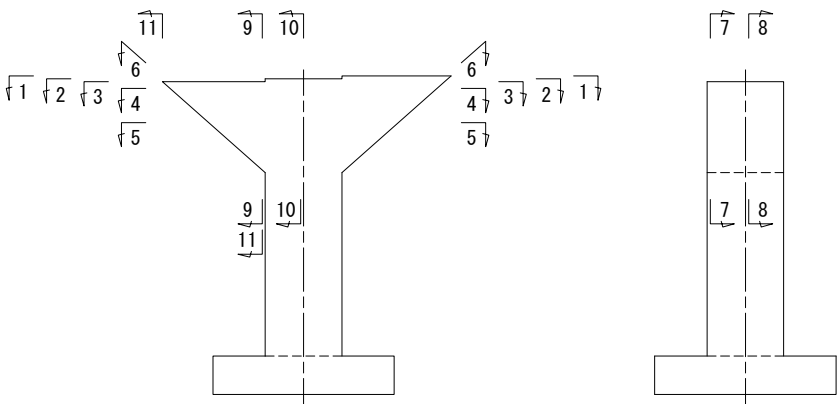
“b”部詳細図 S=1:50



“c”部詳細図 S=1:50

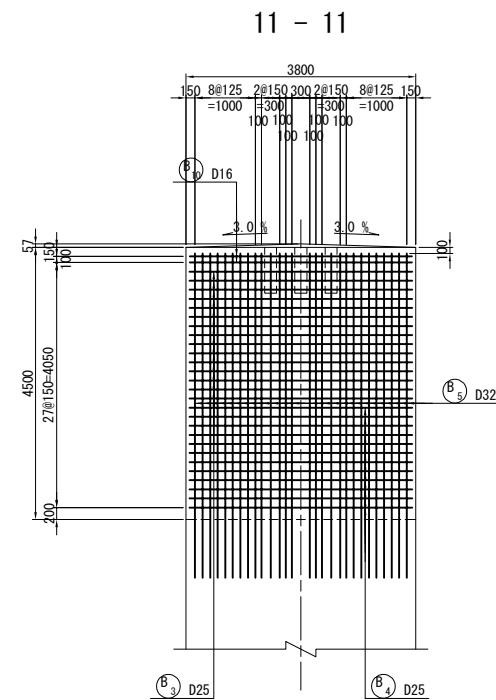
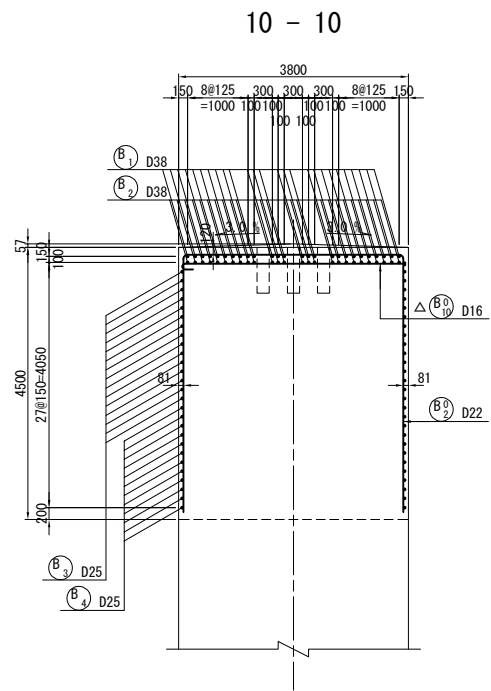
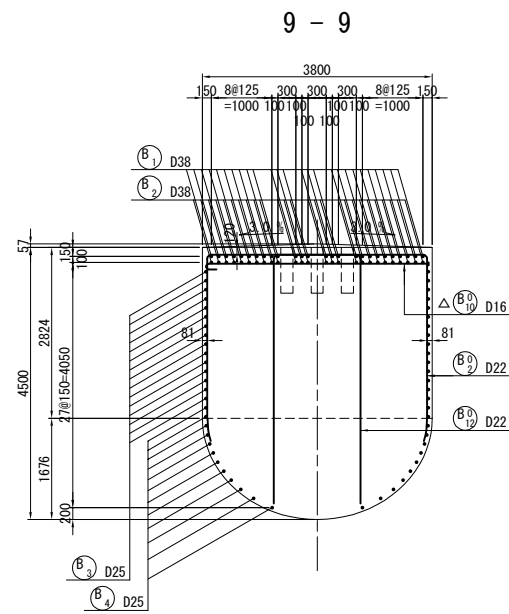


位置図

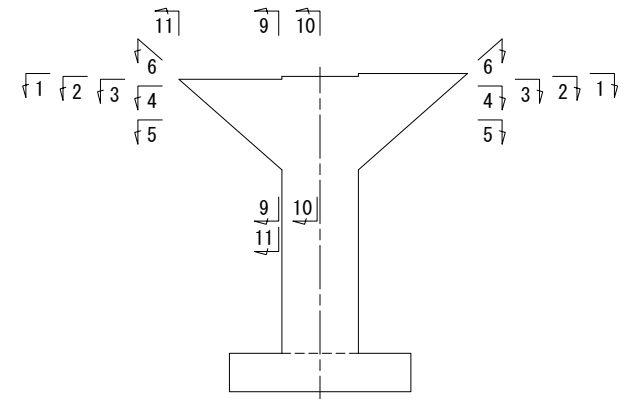


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注5) ——— は、機械継手位置を示す。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

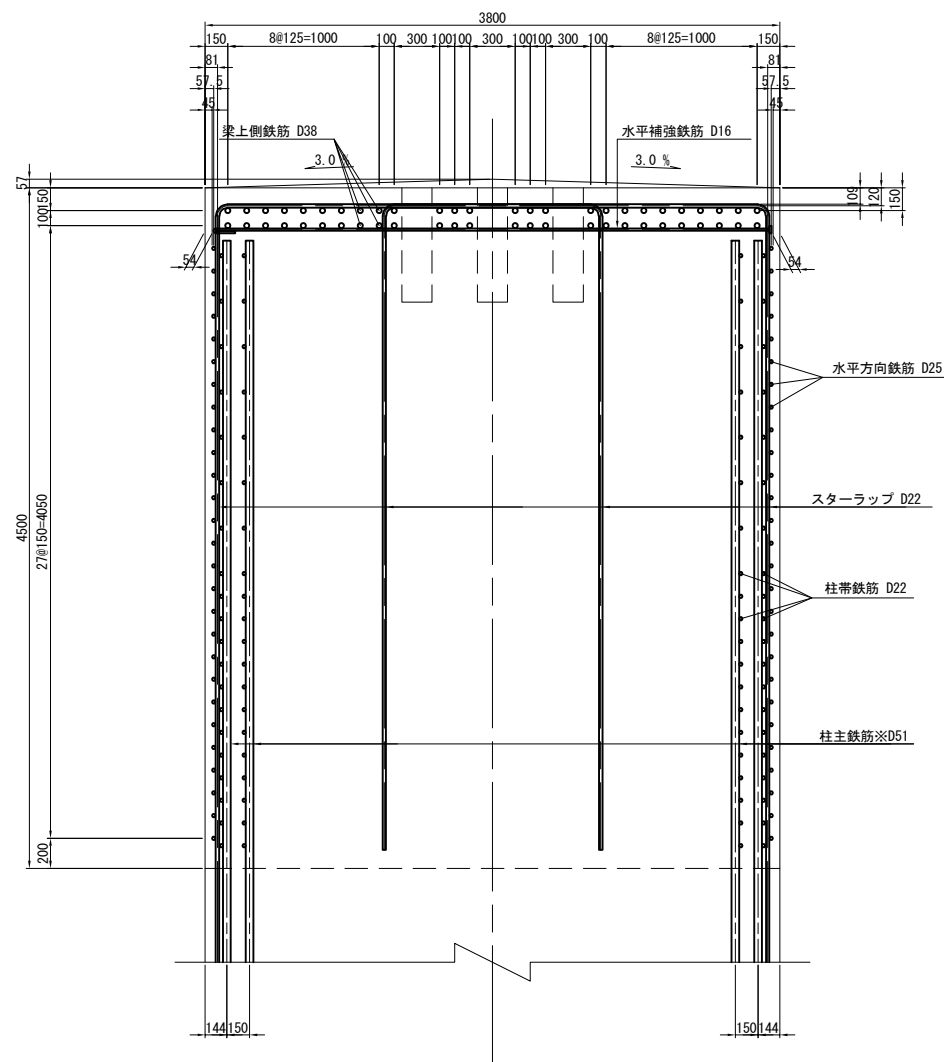
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



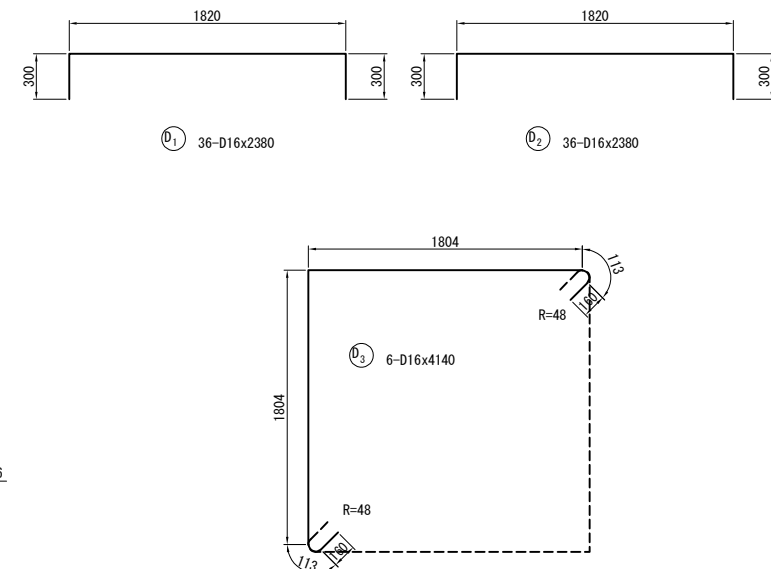
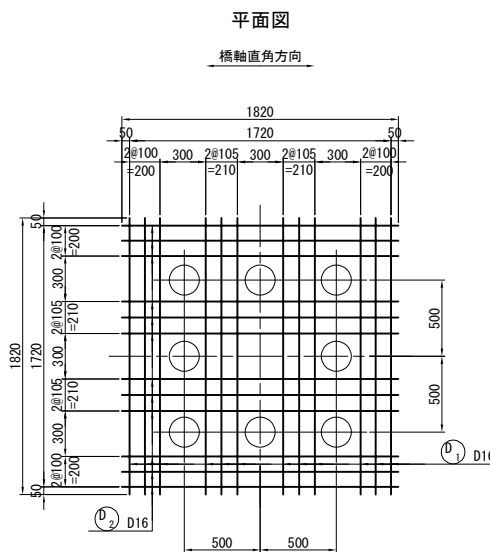
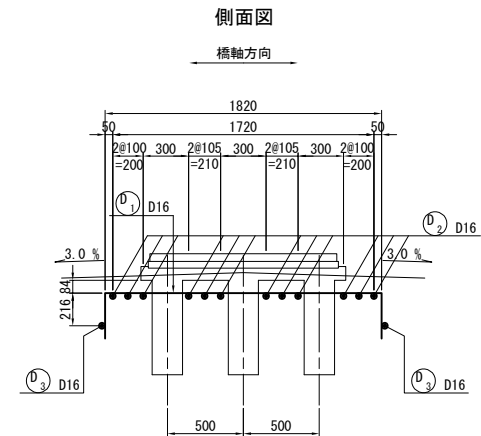
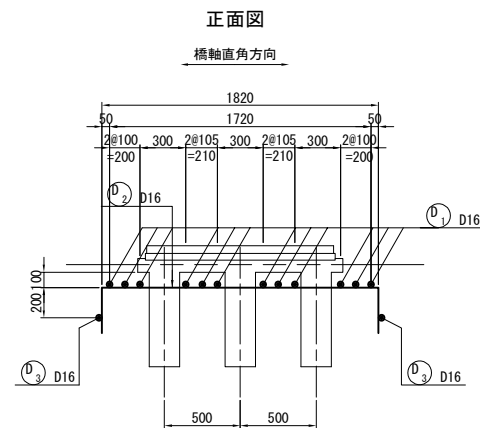
位置図



かぶり詳細図 S=1:50

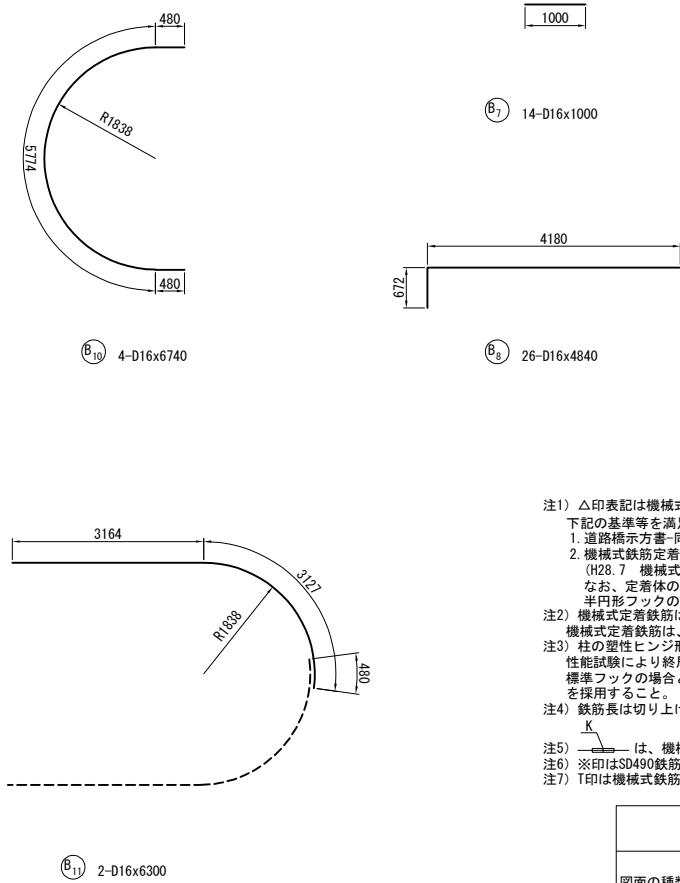
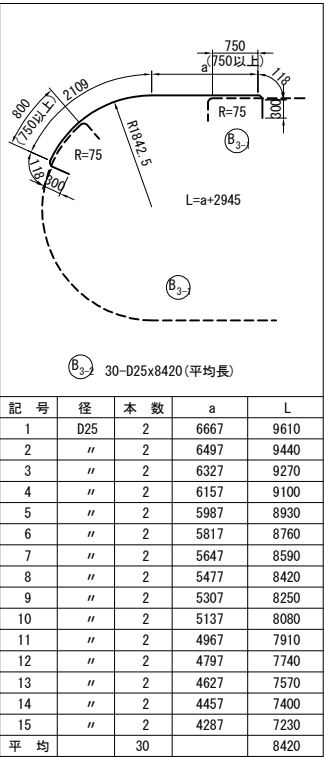
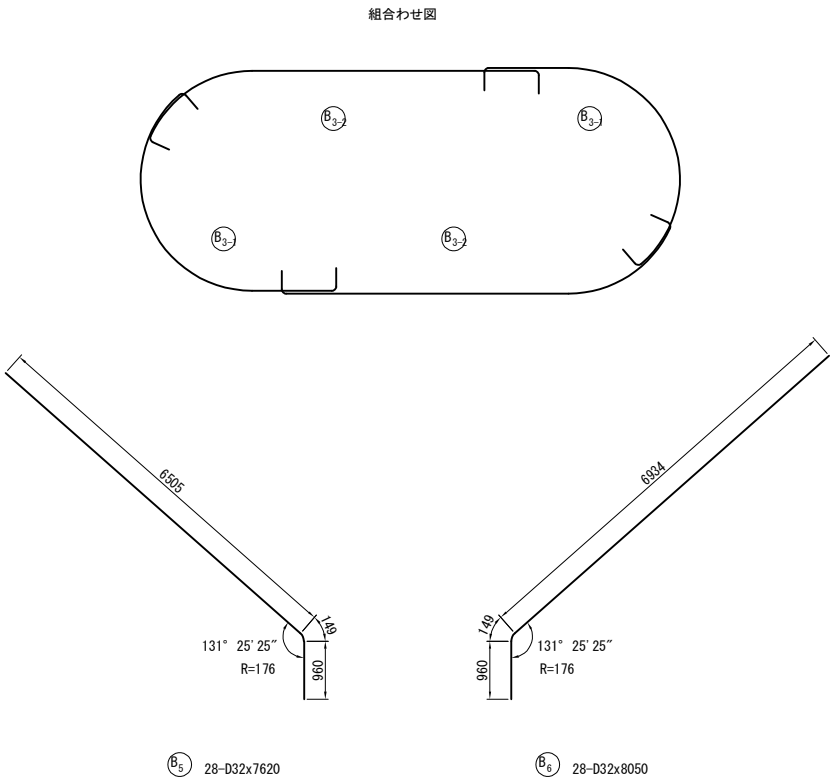
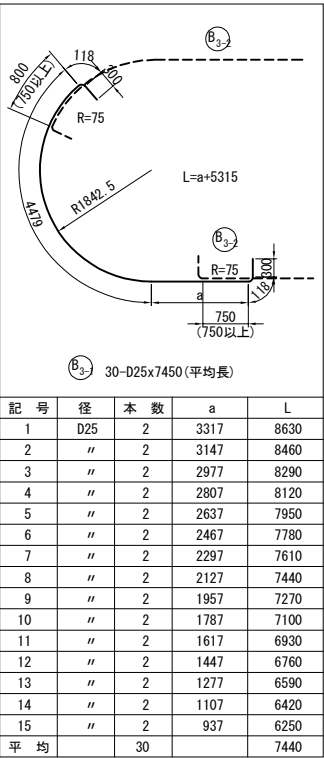


支承部補強鉄筋 S=1:50
3箇所



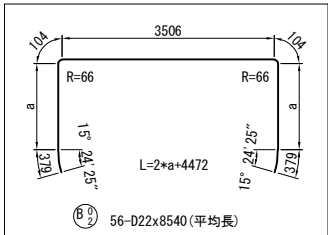
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注5) —は、機械継手位置を示す。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

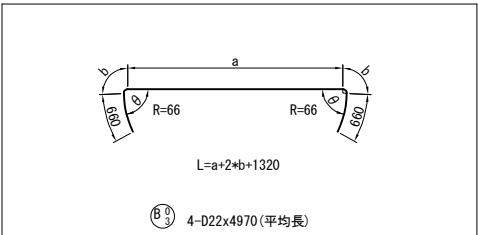


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注5) —△— は、機械継手位置を示す。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

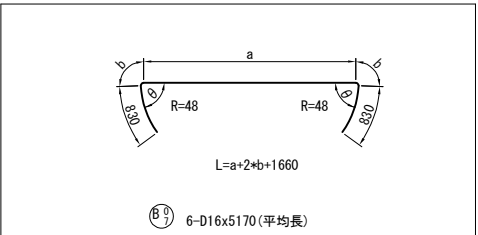
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



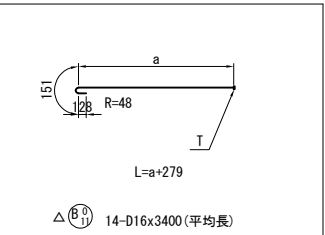
記 号	径	本 数	a	L
1	D22	2	246	4960
2	"	2	335	5140
3	"	2	423	5320
4	"	2	688	5850
5	"	2	776	6020
6	"	2	864	6200
7	"	2	1120	6710
8	"	2	1217	6910
9	"	2	1314	7100
10	"	2	1446	7360
11	"	2	1579	7630
12	"	2	1711	7890
13	"	2	1843	8160
14	"	2	1976	8420
15	"	2	2108	8690
16	"	2	2240	8950
17	"	2	2373	9220
18	"	2	2505	9480
19	"	2	2638	9750
20	"	2	2770	10010
21	"	2	2902	10280
22	"	2	3035	10540
23	"	2	3167	10810
24	"	2	3299	11070
25	"	2	3432	11340
26	"	2	3538	11550
27	"	2	3643	11760
28	"	2	3749	11970
平 均		56		8539



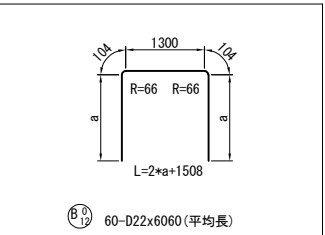
記 号	径	本 数	a	b	L	θ
1	D22	2	3430	110	4970	84° 27' 59"
2	"	2	3441	105	4970	88° 24' 49"
平 均		4			4970	



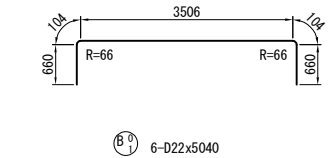
記 号	径	本 数	a	b	L	θ
1	D16	1	3482	77	5300	87° 47' 5"
2	"	1	3458	82	5280	81° 57' 49"
3	"	1	3407	87	5240	76° 7' 16"
4	"	1	3327	92	5170	70° 14' 15"
5	"	1	3216	97	5070	64° 17' 7"
6	"	1	3071	102	4940	58° 13' 28"
平 均		6			5167	



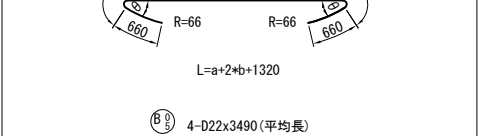
記 号	径	本 数	a	L
1	D16	2	2539	2820
2	"	2	2811	3090
3	"	2	3026	3310
4	"	2	3196	3480
5	"	2	3328	3610
6	"	2	3428	3710
7	"	2	3497	3780
平 均		14		3400



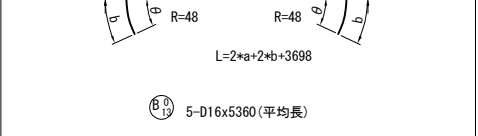
記 号	径	本 数	a	L
1	D22	2	299	2110
2	"	2	432	2370
3	"	2	564	2640
4	"	2	696	2900
5	"	2	829	3170
6	"	2	961	3430
7	"	2	1093	3690
8	"	2	1226	3960
9	"	2	1358	4220
10	"	2	1446	4400
11	"	2	1702	4910
12	"	2	1790	5090
13	"	2	1879	5270
14	"	2	2143	5790
15	"	2	2232	5970
16	"	2	2320	6150
17	"	2	2576	6660
18	"	2	2673	6850
19	"	2	2770	7050
20	"	2	2902	7310
21	"	2	3035	7580
22	"	2	3167	7840
23	"	2	3299	8110
24	"	2	3432	8370
25	"	2	3564	8640
26	"	2	3696	8900
27	"	2	3829	9170
28	"	2	3961	9430
29	"	2	4093	9690
30	"	2	4226	9960
平 均		60		6054



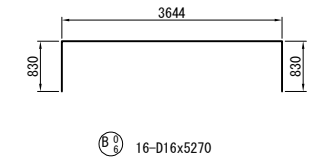
記 号	径	本 数	a	L
1	D22	2	1565	3250
2	"	2	2057	3720
平 均		4		3485



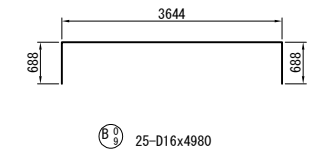
記 号	径	本 数	a	b	L	θ
1	D22	2	1565	180	3250	23° 50' 37"
2	"	2	2057	170	3720	32° 50' 58"
平 均		4			3485	



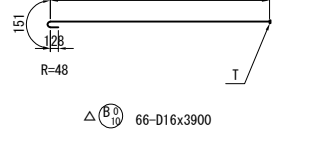
記 号	径	本 数	a	b	L	θ
1	D16	1	647	183	5360	7° 52' 32"
2	"	1	558	272	5360	11° 40' 28"
3	"	1	303	527	5360	22° 19' 33"
4	"	1	214	616	5360	25° 55' 59"
5	"	1	82	748	5360	31° 9' 14"
平 均		5			5360	



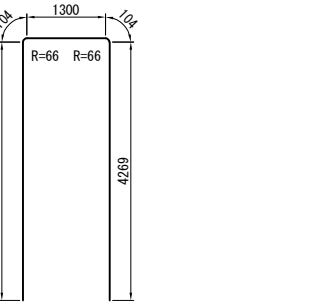
記 号	径	本 数	a	b	L	θ
1	D16	1	2869	107	4740	51° 43' 28"
2	"	1	2634	113	4520	45° 10' 26"
3	"	1	2336	119	4230	38° 10' 3"
4	"	1	1976	125	3890	30° 48' 26"
5	"	1	1434	133	3360	21° 21' 51"
平 均		5			4148	



記 号	径	本 数	a	b	L	θ
1	D16	1	647	183	5360	7° 52' 32"
2	"	1	558	272	5360	11° 40' 28"
3	"	1	303	527	5360	22° 19' 33"
4	"	1	214	616	5360	25° 55' 59"
5	"	1	82	748	5360	31° 9' 14"
平 均		5			5360	



記 号	径	本 数	a	b	L	θ
1	D16	1	647	183	5360	7° 52' 32"
2	"	1	558	272	5360	11° 40' 28"
3	"	1	303	527	5360	22° 19' 33"
4	"	1	214	616	5360	25° 55' 59"
5	"	1	82	748	5360	31° 9' 14"
平 均		5			5360	

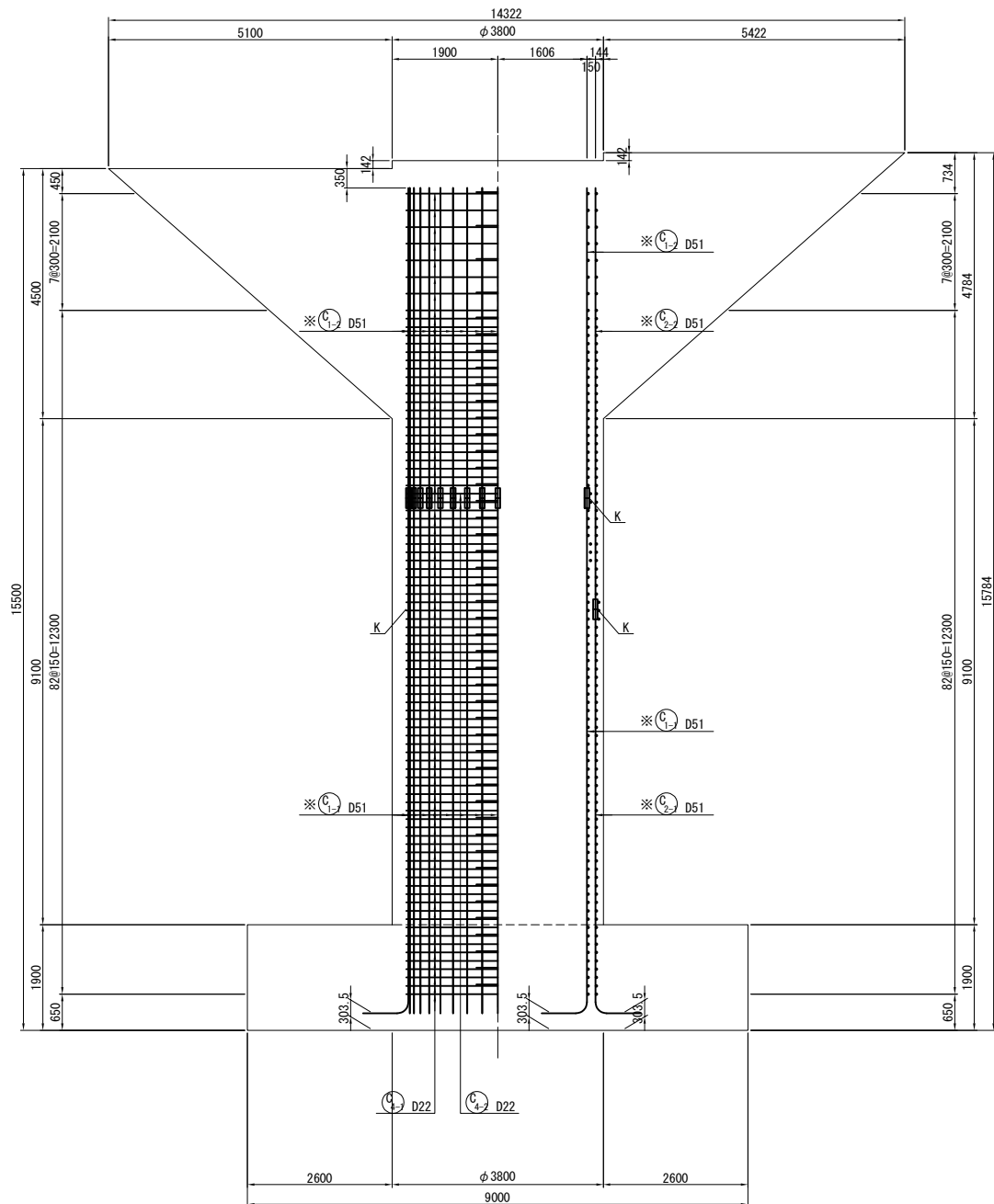


記 号	径	本 数	a	L
1	D22	2	299	2110
2	"	2	432	2370
3	"	2	564	2640
4	"	2	696	2900
5	"	2	829	3170
6	"	2	961	3430
7	"	2	1093	3690
8	"	2	1226	3960
9	"	2	1358	4220
10	"	2	1446	4400
11	"	2	1702	4910
12	"	2	1790	5090
13	"	2	1879	5270
14	"	2	2143	5790
15	"	2	2232	5970
16	"	2	2320	6150
17	"	2	2576	6660
18	"	2	2673	6850
19	"	2	2770	7050
20	"	2	2902	7310
21	"	2	3035	7580
22	"	2	3167	7840
23	"	2	3299	8110
24	"	2	3432	8370
25	"	2	3564	8640
26	"	2	3696	8900
27	"	2	3829	9170
28	"	2	3961	9430
29	"	2	4093	9690
30	"	2	4226	9960
平 均		60		6054

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注5) —K— は、機械継手位置を示す。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

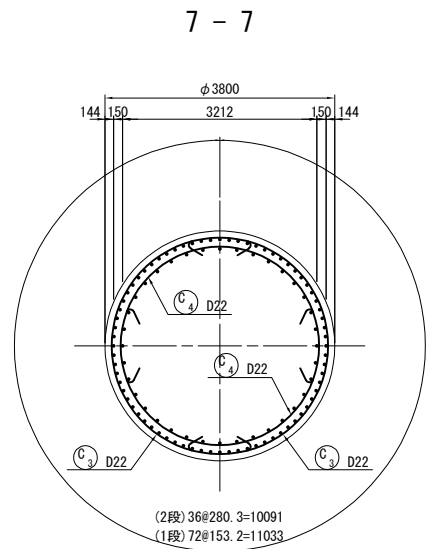
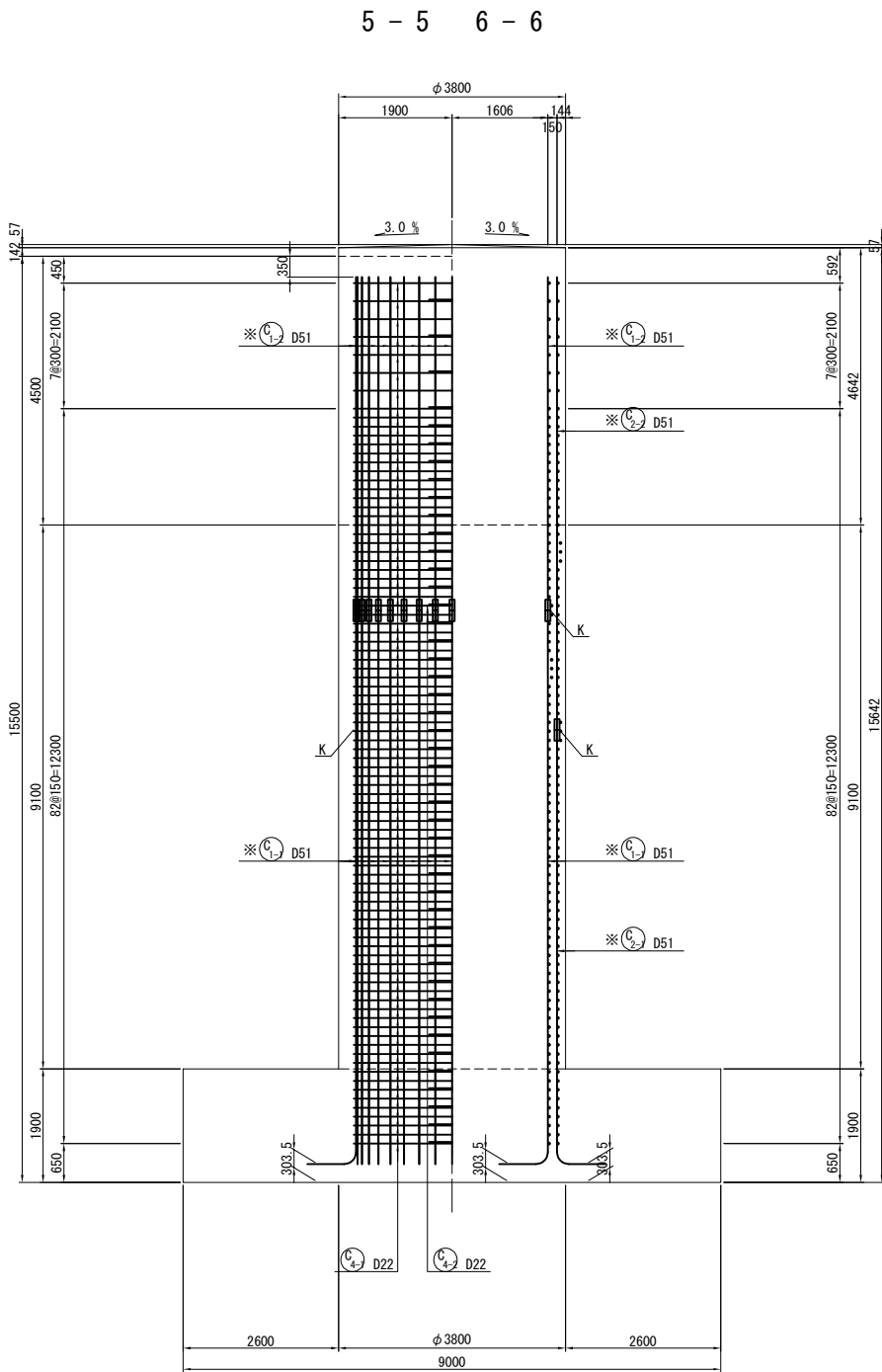
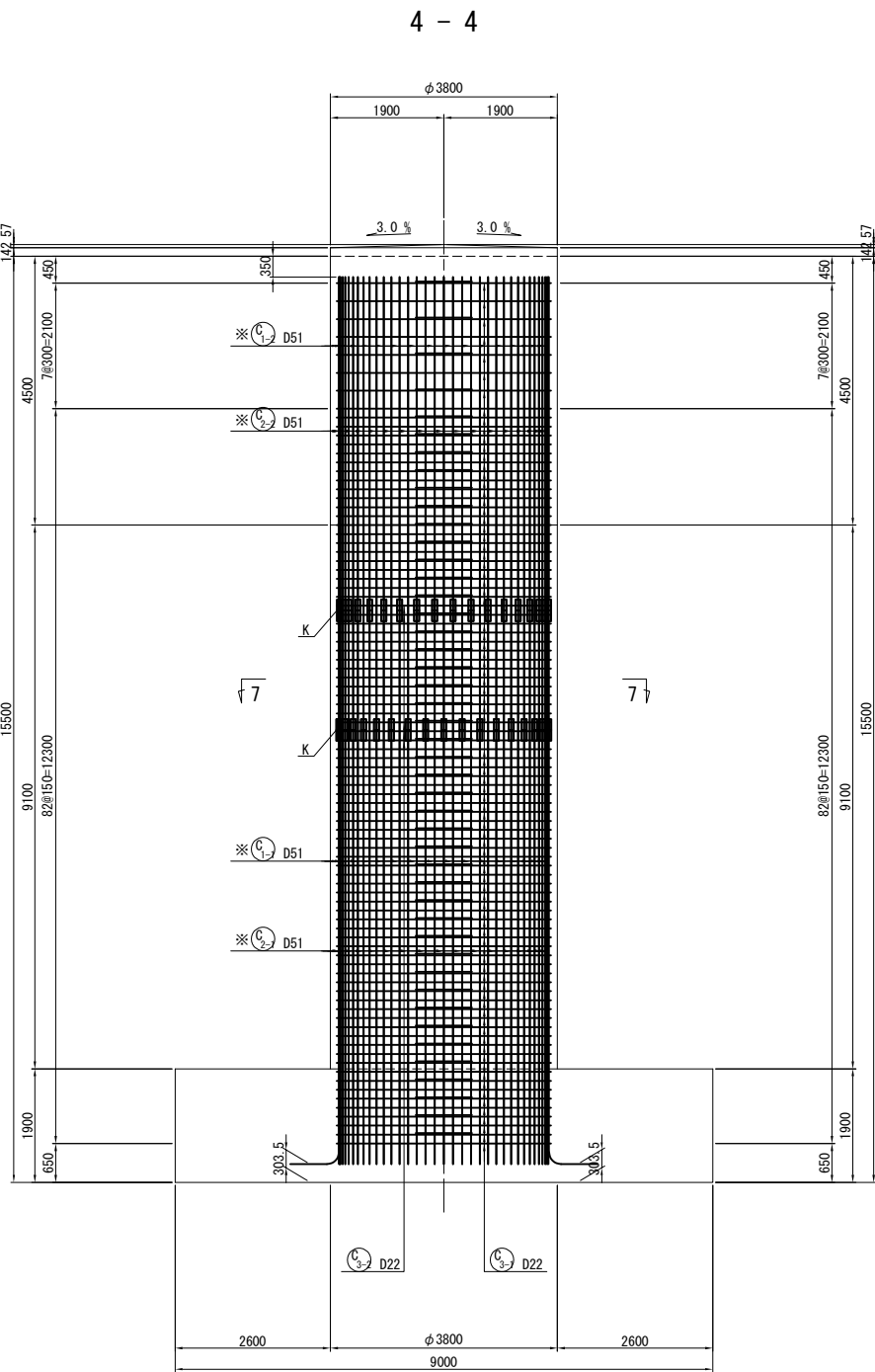
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

3 - 3

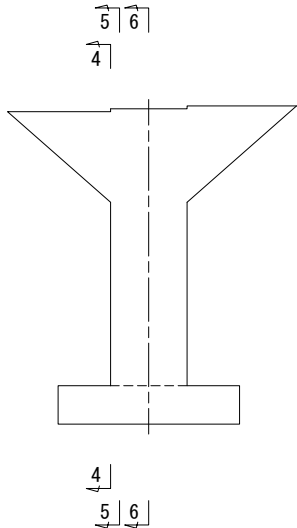


The diagram shows a T-shaped cross-section with a vertical stem and a horizontal flange. The stem has a height of 100 and a width of 20. The flange has a width of 100 and a height of 20. The total height is 120. The centroid is marked with a dashed line at a distance of 40 from the bottom. The section properties are given as $I_x = 10000$ and $I_y = 10000$. The diagram is labeled with dimensions and section properties.

道東自動車道 占冠地区下留工事			
図面の種類	本流越川第一橋（下り線） P 1橋脚配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋構造梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

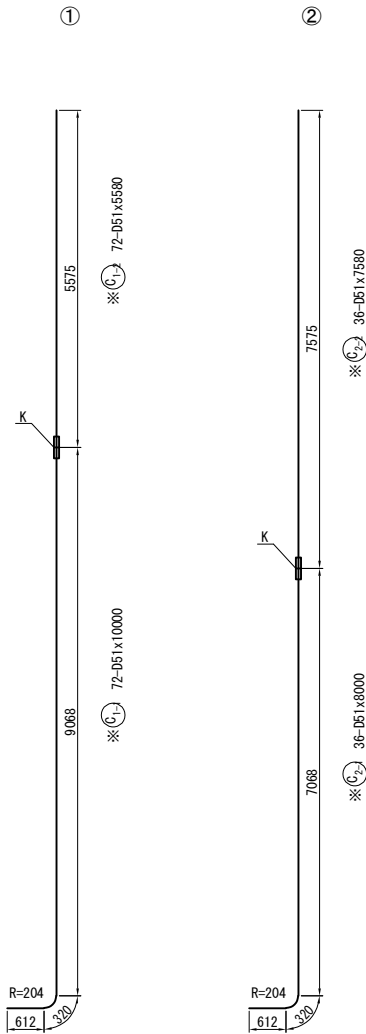


位置図

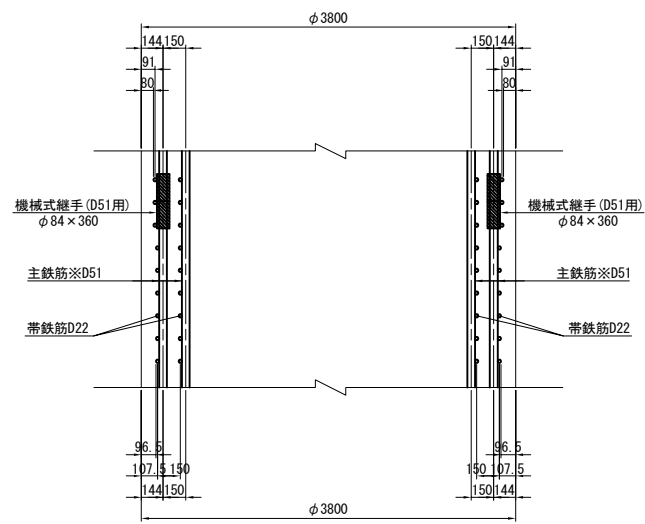


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注5) —△— は、機械継手位置を示す。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

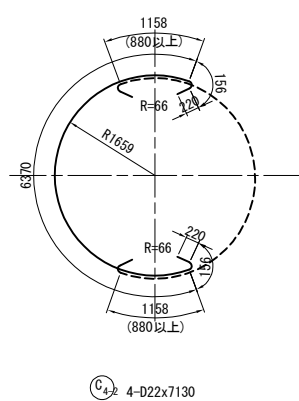
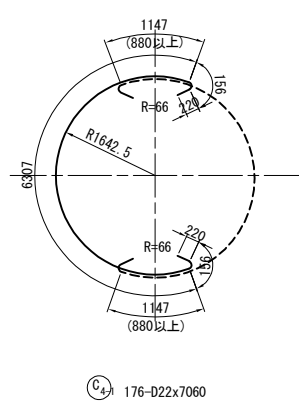
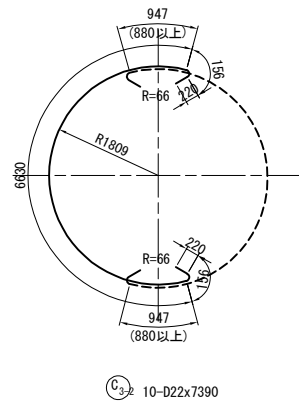
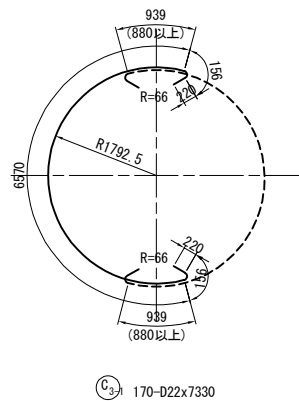
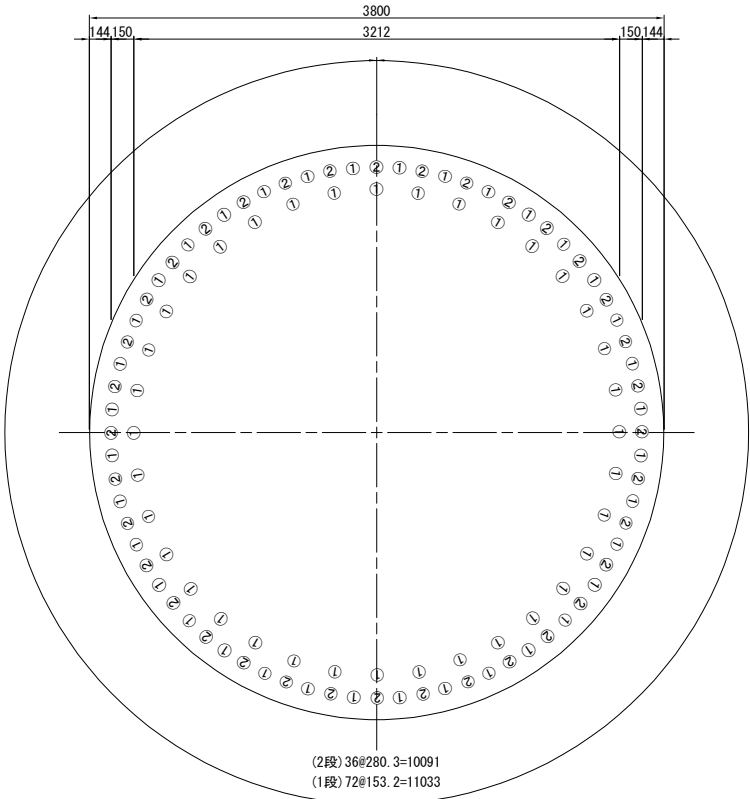
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



かぶり詳細図 S=1 : 50

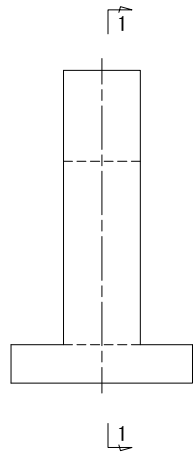
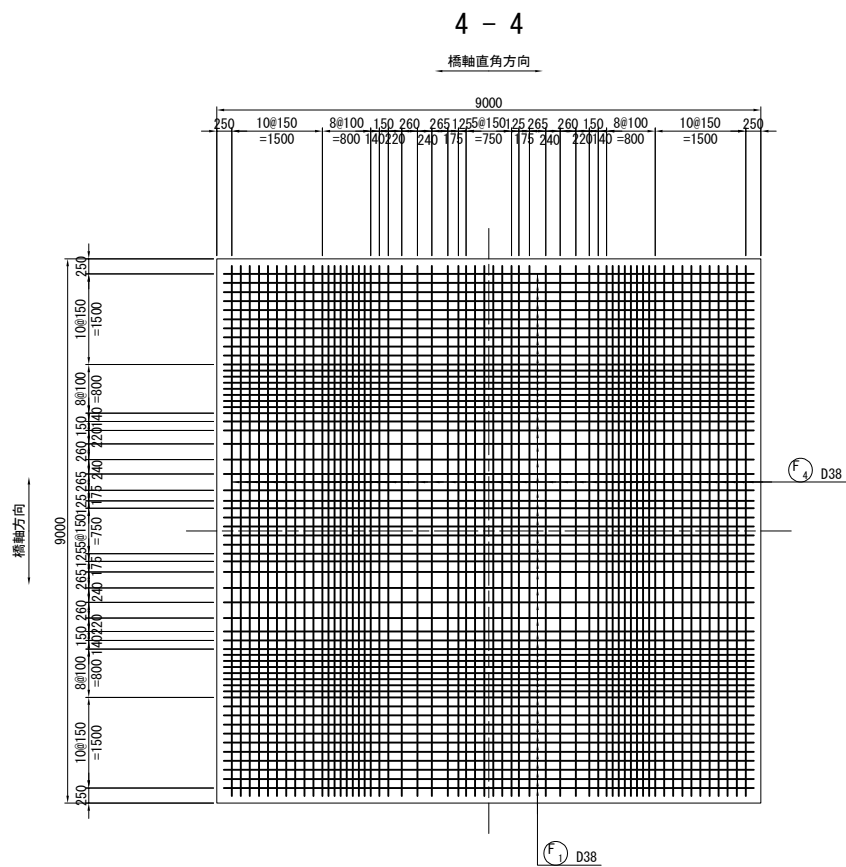
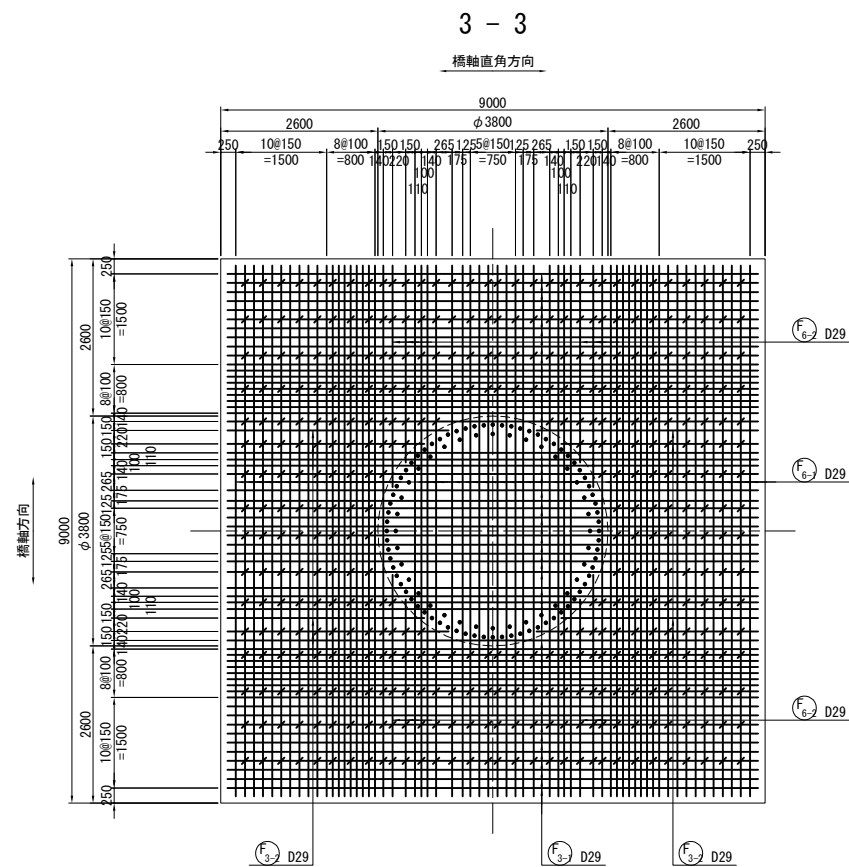
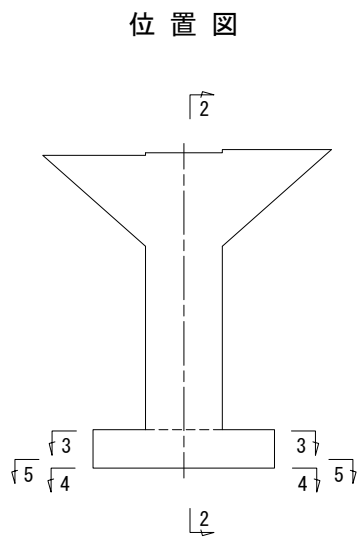
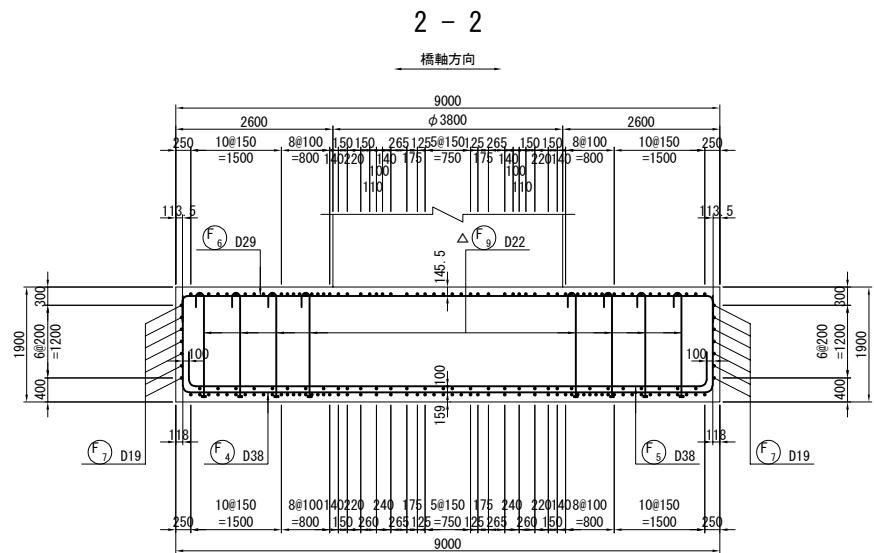
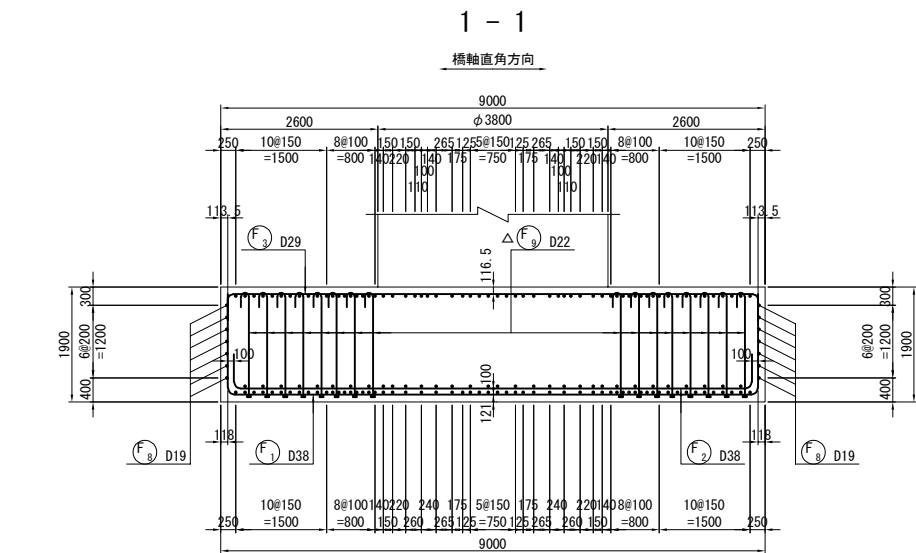


主鉄筋配置詳細図 S=1 : 50



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注5) —K— は、機械継手位置を示す。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。










道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第一橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		














- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注5) ——— は、機械継手位置を示す。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表

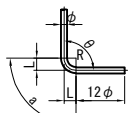
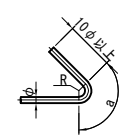
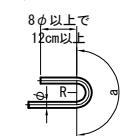
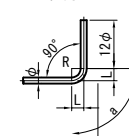
種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
下部工施工鉄筋							
B1-1	D38	7460	26	8.95	66.8	1737	 K ^[26] 平均長
B1-2	D38	5960	26	8.95	53.3	1386	 K 平均長
B2-1	D38	7190	26	8.95	64.4	1674	 K ^[26] 平均長
B2-2	D38	5690	26	8.95	50.9	1323	 K 平均長
B3-1	D25	7440	30	3.98	29.6	888	 平均長
B3-2	D25	8420	30	3.98	33.5	1005	 平均長
B 4	D25	9690	24	3.98	38.6	926	 平均長
B 5	D32	7620	28	6.23	47.5	1330	
B 6	D32	8050	28	6.23	50.2	1406	
B 7	D16	1000	14	1.56	1.56	22	
B 8	D16	4840	26	1.56	7.55	196	
B 9	D16	5460	26	1.56	8.52	222	 平均長
B 10	D16	6740	4	1.56	10.5	42	
B 11	D16	6300	2	1.56	9.83	20	
B * 1	D22	5040	6	3.04	15.3	92	
B * 2	D22	8540	56	3.04	26.0	1456	 平均長
B * 3	D22	4970	4	3.04	15.1	60	 平均長
B * 4	D22	4610	14	3.04	14.0	196	 平均長
B * 5	D22	3490	4	3.04	10.6	42	 平均長
B * 6	D16	5270	16	1.56	8.22	132	
B * 7	D16	5170	6	1.56	8.07	48	 平均長
B * 8	D16	4150	5	1.56	6.47	32	 平均長
B * 9	D16	4980	25	1.56	7.77	194	
B * 10	D16	3900	66	1.56	6.08	401	 C ⁽⁶⁶⁾
B * 11	D16	3400	14	1.56	5.30	74	 C ⁽¹⁴⁾ 平均長
B * 12	D22	6060	60	3.04	18.4	1104	
B * 13	D16	5360	5	1.56	8.36	42	 平均長
B * 14	D22	10050	16	3.04	30.6	490	
						16540	kg [52]
D 1	D16	2380	36	1.56	3.71	134	
D 2	D16	2380	36	1.56	3.71	134	
D 3	D16	4140	6	1.56	6.46	39	
						307	kg
※	C1-1	D51	10000	72	15.9	159	11448  K [72]
※	C1-2	D51	5580	72	15.9	88.7	6386  K
※	C2-1	D51	8000	36	15.9	127	4572  K [36]
※	C2-2	D51	7580	36	15.9	121	4356  K
	C3-1	D22	7330	170	3.04	22.3	3791 
	C3-2	D22	7390	10	3.04	22.5	225 
	C4-1	D22	7060	176	3.04	21.5	3784 
	C4-2	D22	7130	4	3.04	21.7	87 
						34649	kg [108]

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
F 1	D38	12000	58	8.95	107	6206	
F 2	D38	9610	32	8.95	86.0	2752	
F3-1	D29	9570	58	5.04	48.2	2796	
F3-2	D29	3860	8	5.04	19.5	156	 平均長
F 4	D38	11860	58	8.95	106	6148	
F 5	D38	9610	32	8.95	86.0	2752	
F6-1	D29	9570	58	5.04	48.2	2796	
F6-2	D29	3860	8	5.04	19.5	156	 平均長
F 7	D19	9350	14	2.25	21.0	294	
F 8	D19	8830	14	2.25	19.9	279	
F 9	D22	2030	414	3.04	6.17	2554	 C (414)
						26889	kg
下部工施工鉄筋							
鉄筋質量集計 (SD345)							
鉄筋A		鉄筋B	鉄筋C	合計	機械継手	機械式定着	
D38	17858 kg	6120 kg	—	23978 kg	[52]		
D32	2736 kg	—	—	2736 kg			
D29	5904 kg	—	—	5904 kg			
D25	2819 kg	—	—	2819 kg			
D22	11327 kg	—	2554 kg	13881 kg		(414)	
D19	573 kg	—	—	573 kg			
D16	1257 kg	—	475 kg	1732 kg		(80)	
合 計	42474 kg	6120 kg	3029 kg	51623 kg	[52]	(494)	
鉄筋質量集計 (SD490)							
鉄筋B		合計	機械継手	機械式定着			
D51	26762 kg	26762 kg	[108]				

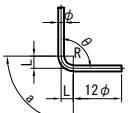
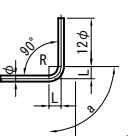
機械式鉄筋定着工法数量表 (下部工施工)

鉄筋径	箇 所 数					
	0<=L≦1m	1m<=L≦2m	2m<=L≦3m	3m<=L≦4m	4m<=L≦5m	5m<=L≦6m
D13						
D16			2	78		
D19						
D22			414			
D25						
小計			416	78		
合計						494

鉄筋加工寸法表 (SD345)

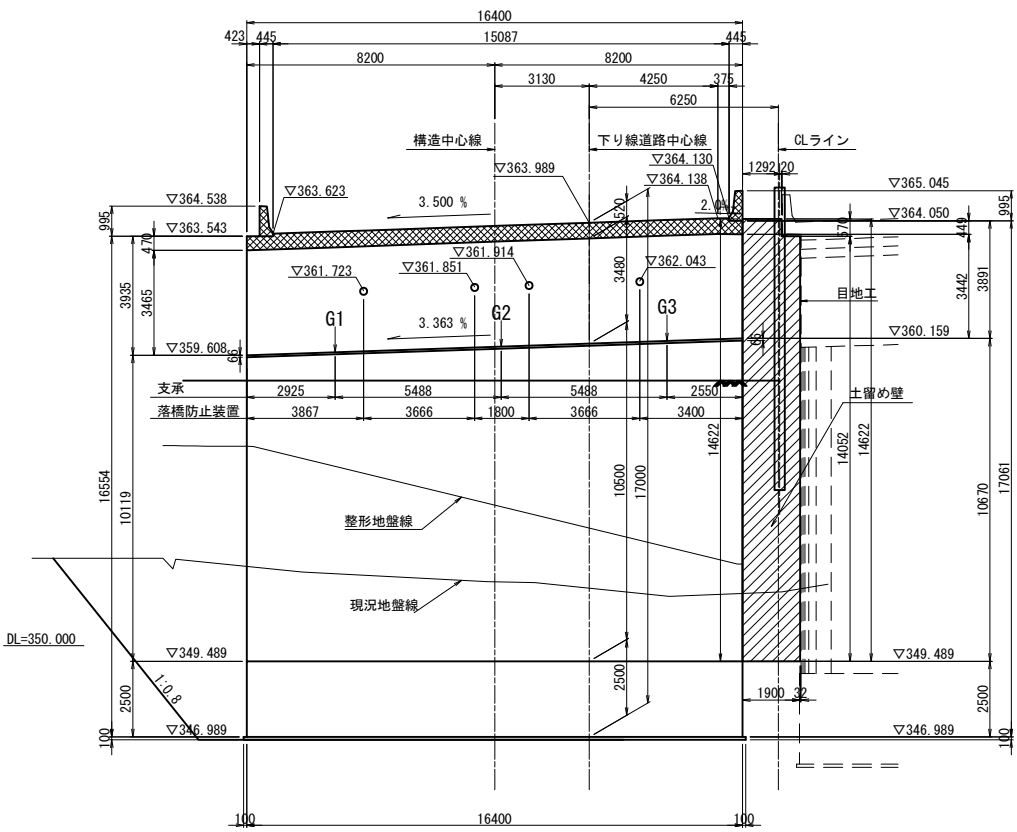
主 筋 せん断補強筋				鋭角フック				半円形フック				直角フック			
														△L=2L-a	
主 筋	径	θ ≤90° R=3.0φ	θ >90° R=5.5φ	θ =45°		θ =60°		θ =90°		θ =135°					
				a	△L	a	△L	a	△L	a	△L	a	△L	a	△L
	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3				
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4				
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5				
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5				
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6				
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7				
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8				
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8				
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9				
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10				
	D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12				
せん断補強筋 及び帯鉄筋	径	R=2.5φ		θ =45°		θ =60°		θ =90°							
				a	△L	a	△L	a	△L						
	D13	32.5		77	80	68	45	51	14						
	D16	40		94	99	84	55	63	17						
	D19	47.5		112	117	99	66	75	20						
	D22	55		130	136	115	76	86	24						
	D25	62.5		147	155	131	86	98	27						
	D29	72.5		171	179	152	99	114	31						
フ ッ ク	径	R=3.0φ		鋭角フック		半円形フック		直角フック							
				a		a		a				△L			
	D13	39		92		123		61				17			
	D16	48		113		151		75				21			
	D19	57		134		179		89				25			
	D22	66		156		207		104				28			
	D25	75		177		236		118				32			
	D29	87		205		273		137				37			

鉄筋加工寸法表 (SD490)

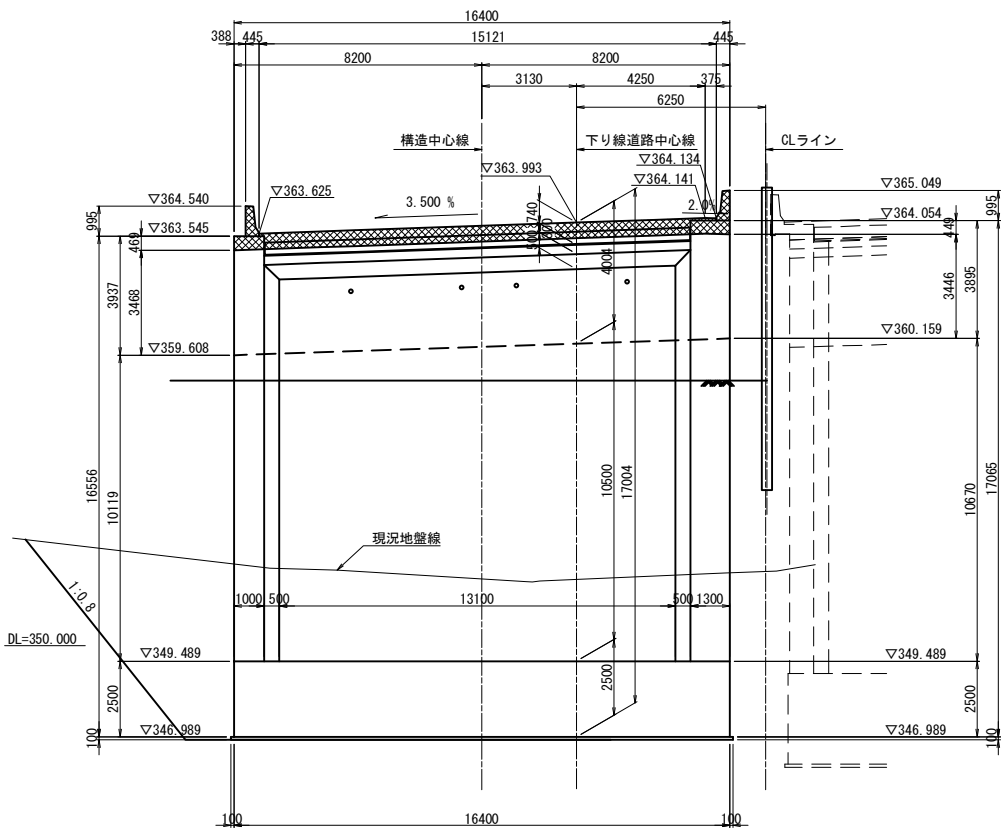
主 筋 せん断補強筋				直角フック	
					
				△L=2L-a	
主 筋	径	θ ≤90° R=4.0φ	θ =90°		
			a	△L	
	D13	52	82	22	
	D16	64	101	28	
	D19	76	119	33	
	D22	88	138	28	
	D25	100	157	43	
	D29	116	182	50	
	D32	128	201	55	
	D35	140	220	60	
	D38	152	239	65	
	D41	164	258	70	
	D51	204	321	88	

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴

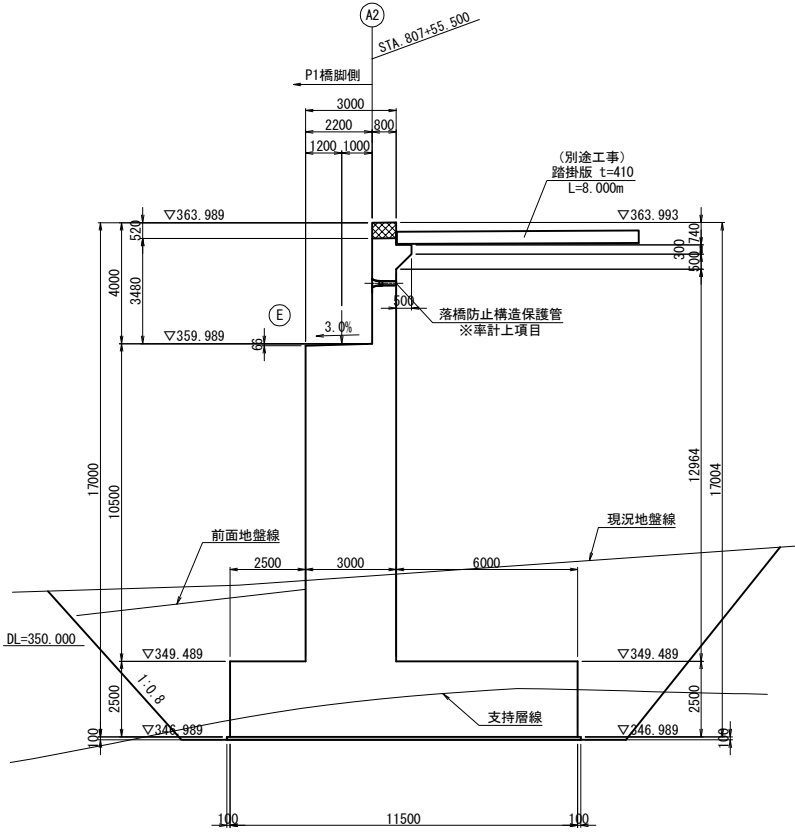
正面図（1-1）



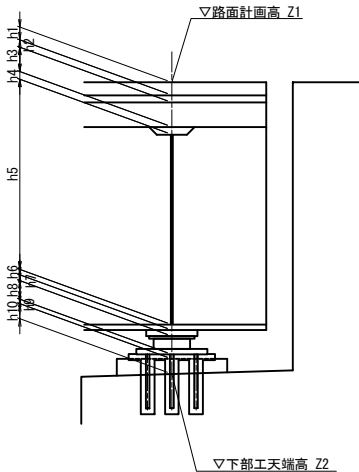
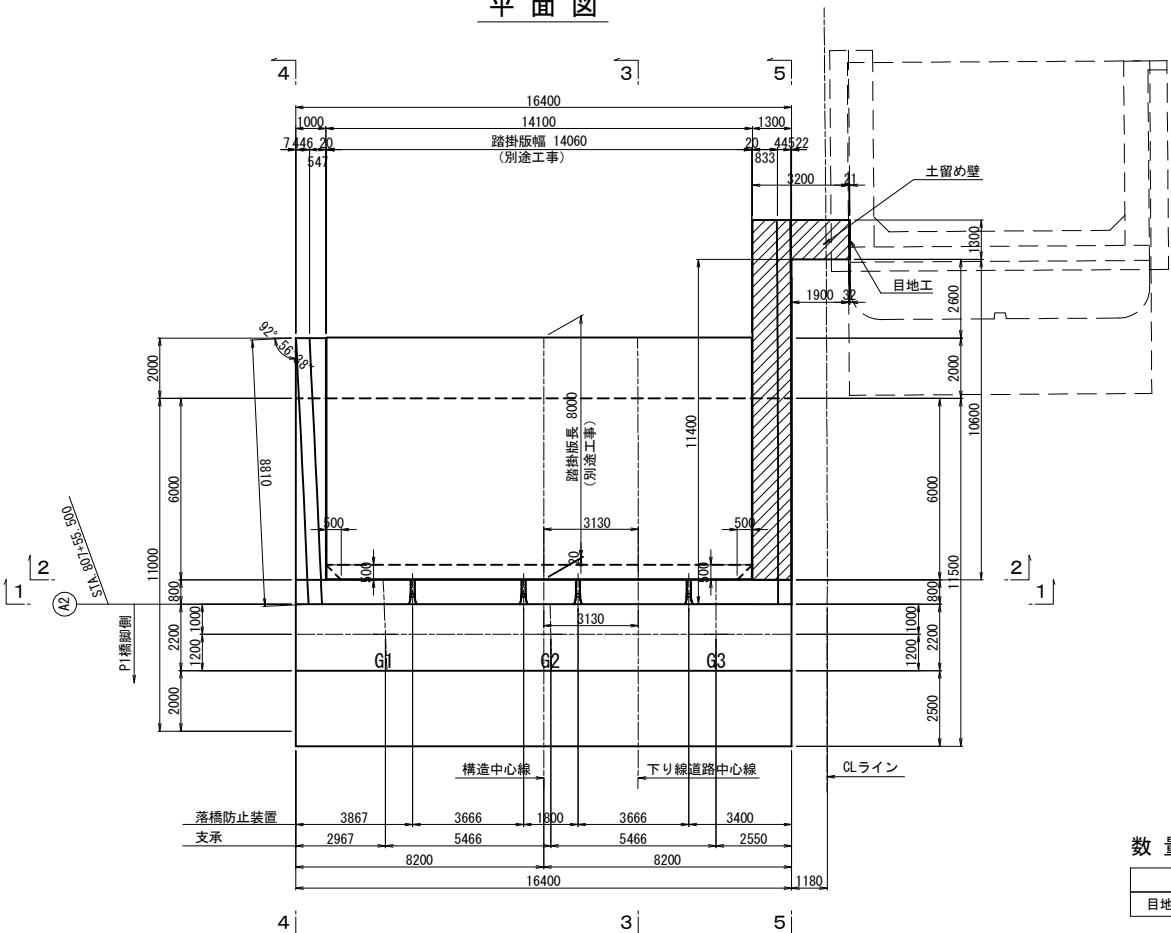
背面図（2-2）



断面図（3-3）



平面図



構造高表		A2橋台		
		G1	G2	G3
路面計画高	Z1	363.691	363.883	364.074
舗装厚	h1	0.080	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.003	0.010	0.018
床版厚	h3	0.290	0.290	0.290
ハンチ高	h4	0.100	0.100	0.100
主桁高	h5	2.900	2.900	2.900
下フランジ厚	h6	0.027	0.027	0.027
ソールプレート厚	h7	0.040	0.040	0.040
支承高	h8	0.343	0.343	0.343
寄座モルタル厚	h9	0.030	0.030	0.030
台座	h10	0.200	0.200	0.200
構造高合計	Σh	4.013	4.020	4.028
下部工天端高	Z2	359.678	359.862	360.046

使用材料表		
コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	フーチング	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
鉄筋	躯体	SD345
	フーチング	SD345

注：[ハッチ] は上部工施工範囲を表す。
[斜線] は土留め壁施工範囲を表す。

数量表

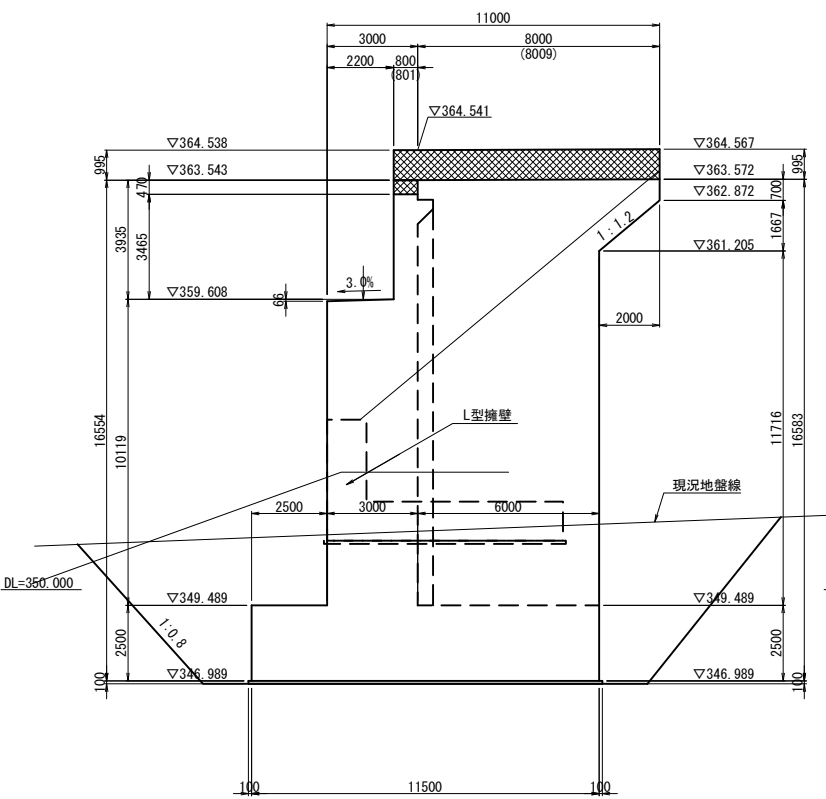
項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
目地工		m2	18.3	土留め壁

数量表

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
構造物掘削	特殊部B 2	m3	1,973.6	土砂
		m3	736.1	軟岩

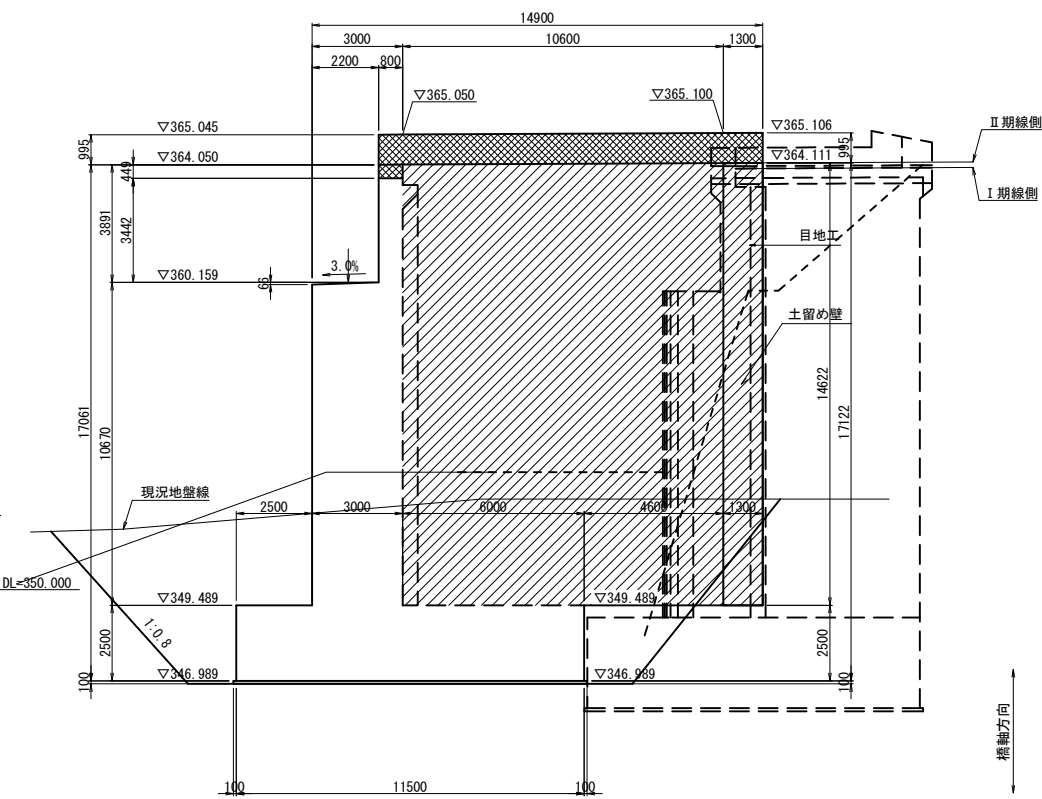
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 2 橋台構造一般図（その 1）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋樑研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

断面図（4-4）

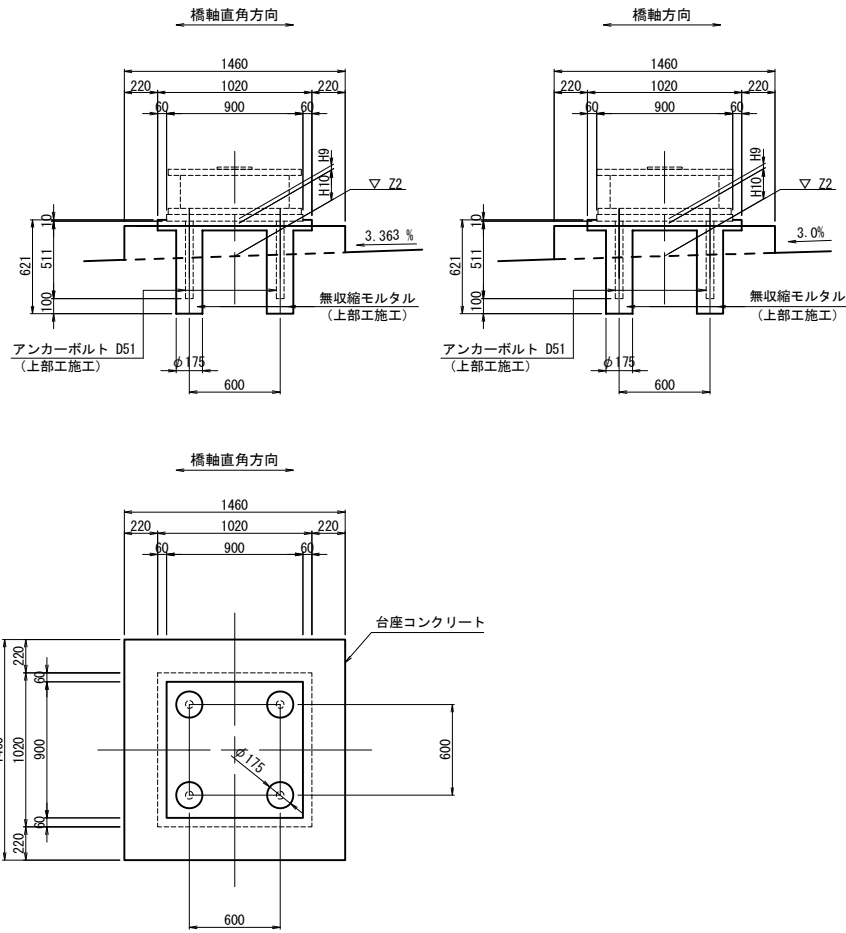


注）（ ）は、壁高欄長を示す。

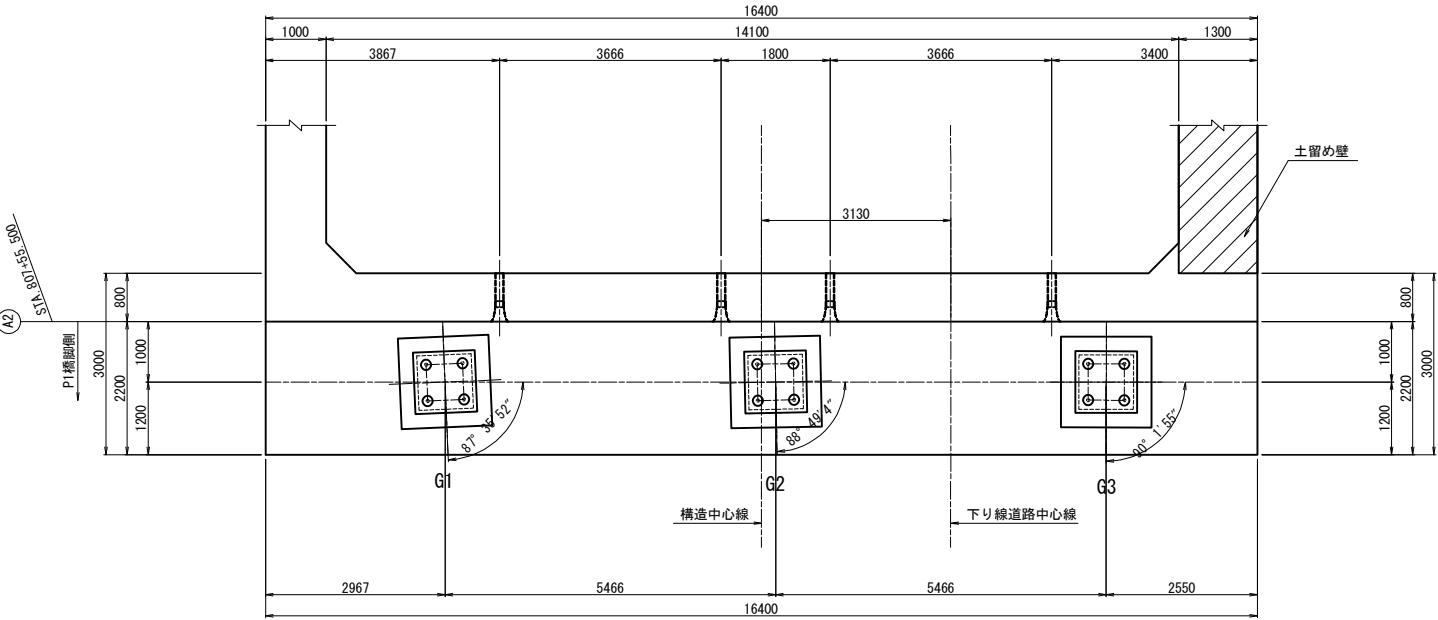
断面図（5-5）



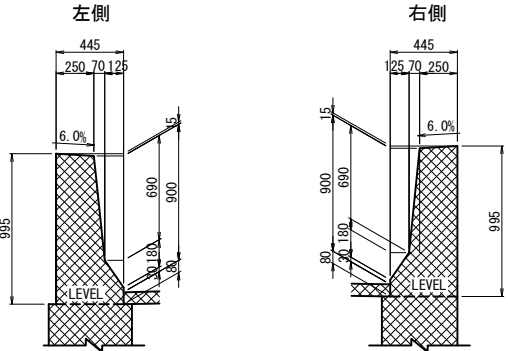
支承部詳細図 S=1:75





支承配置図 S=1:125



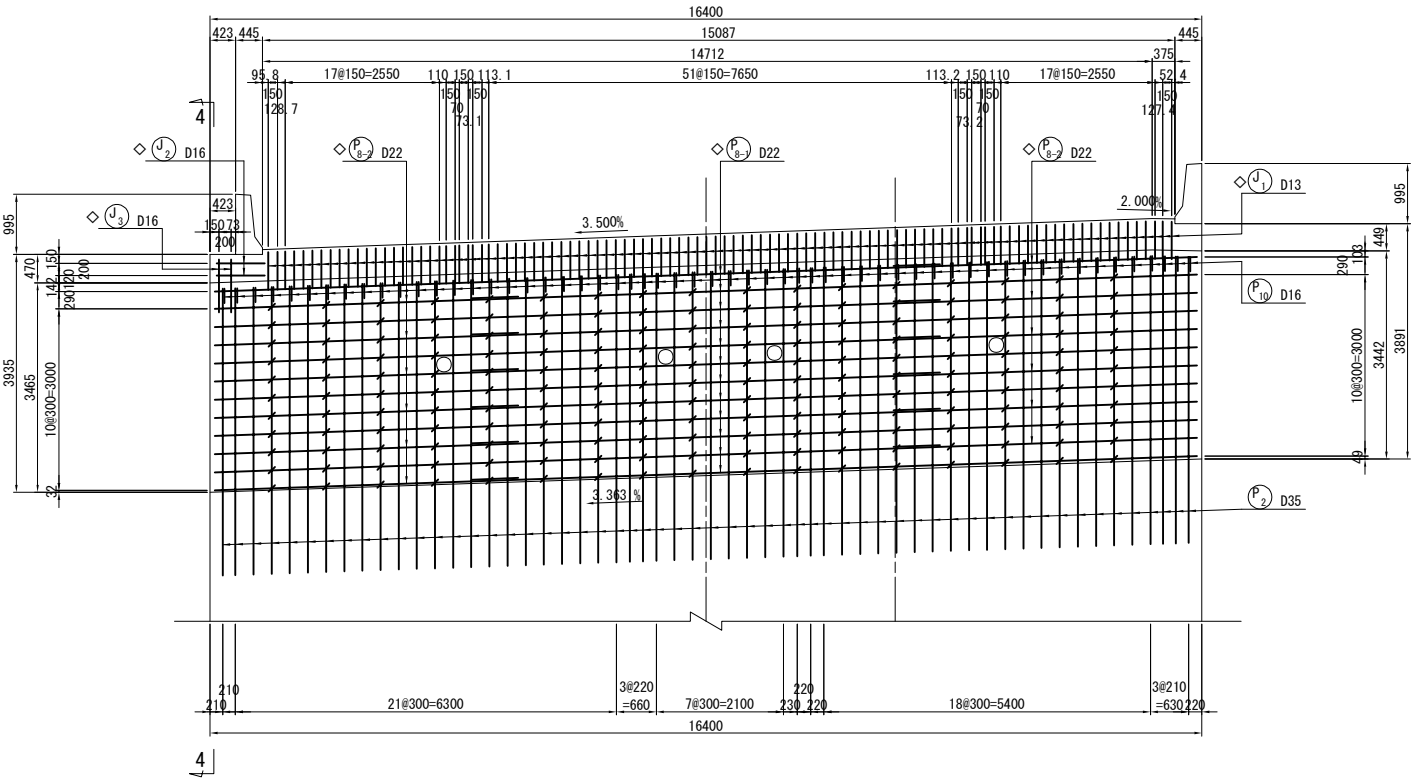
壁高欄詳細 S=1:50



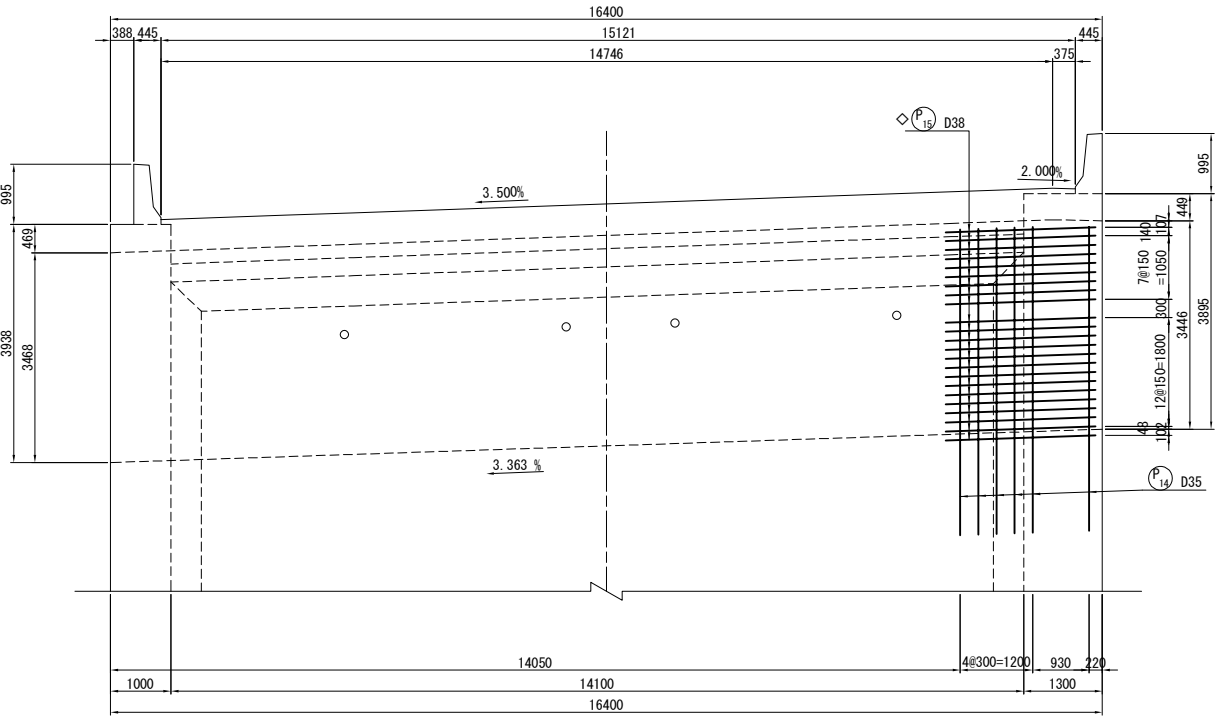
注） は上部工施工範囲を表す。
 は土留め壁施工範囲を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 2 橋台構造一般図（その 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

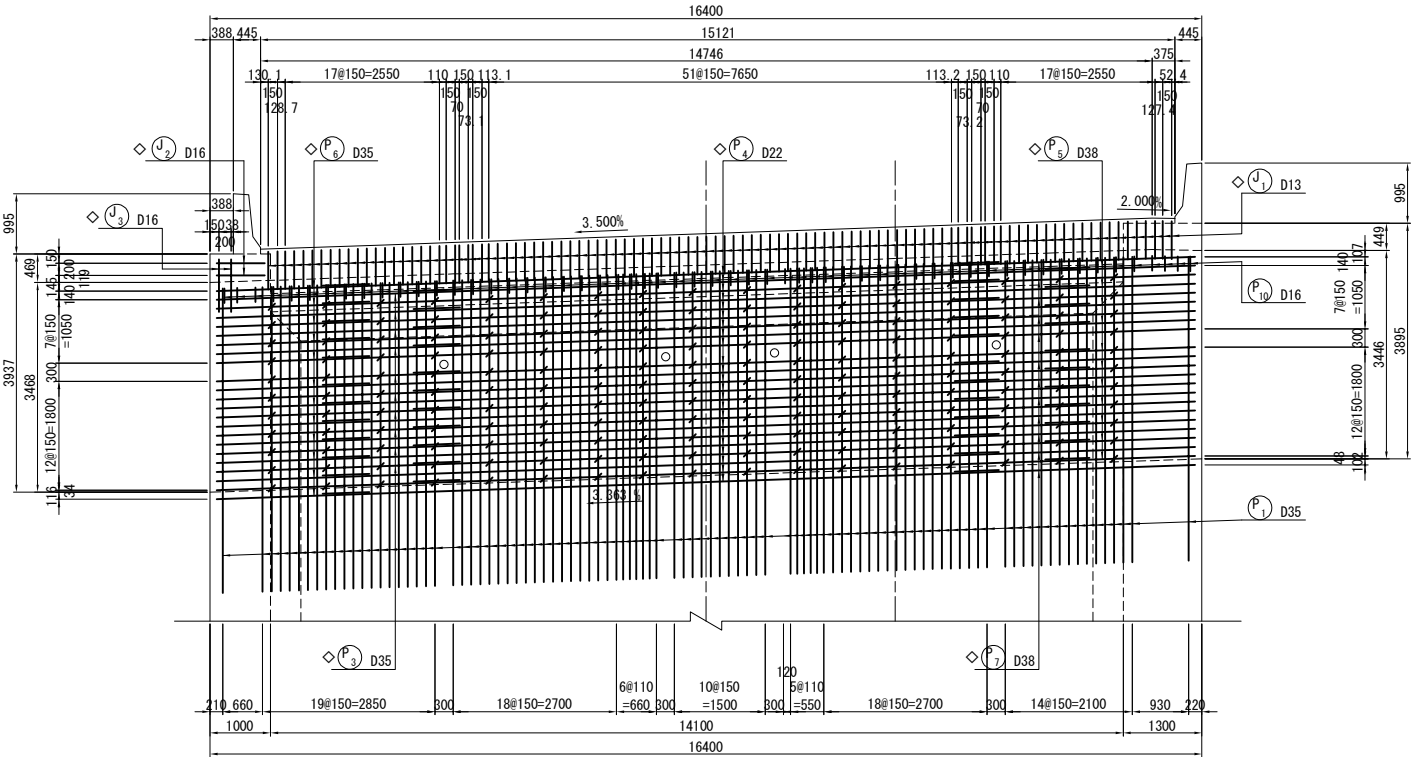
パラペット正面図
1 - 1



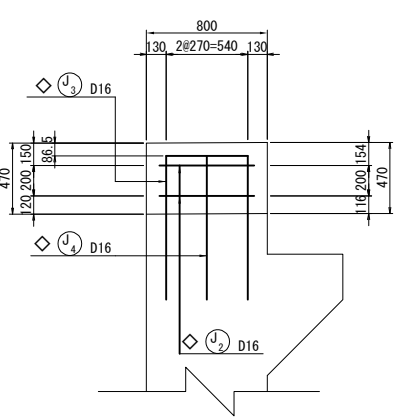
パラペット背面図
3 - 3



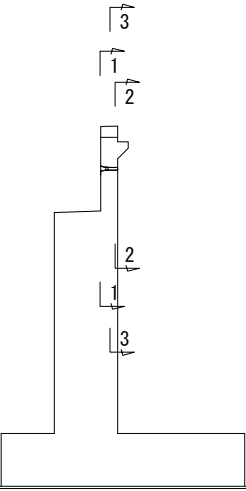
パラペット背面図
2 - 2



4 - 4 S=1:50



位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

橋座面

1672

P₁

98-D35×5050（平均長）

記 号	径	本数	a	L	記 号	径	本数	a	L
1	D35	1	5033	5030	51	D35	1	5044	5040
2	D35	1	5034	5030	52	D35	1	5044	5040
3	D35	1	5034	5030	53	D35	1	5044	5040
4	D35	1	5034	5030	54	D35	1	5044	5040
5	D35	1	5034	5030	55	D35	1	5045	5050
6	D35	1	5034	5030	56	D35	1	5045	5050
7	D35	1	5035	5040	57	D35	1	5045	5050
8	D35	1	5035	5040	58	D35	1	5045	5050
9	D35	1	5035	5040	59	D35	1	5046	5050
10	D35	1	5035	5040	60	D35	1	5046	5050
11	D35	1	5035	5040	61	D35	1	5046	5050
12	D35	1	5036	5040	62	D35	1	5046	5050
13	D35	1	5036	5040	63	D35	1	5046	5050
14	D35	1	5036	5040	64	D35	1	5046	5050
15	D35	1	5036	5040	65	D35	1	5047	5050
16	D35	1	5037	5040	66	D35	1	5047	5050
17	D35	1	5037	5040	67	D35	1	5047	5050
18	D35	1	5037	5040	68	D35	1	5047	5050
19	D35	1	5037	5040	69	D35	1	5047	5050
20	D35	1	5037	5040	70	D35	1	5048	5050
21	D35	1	5038	5040	71	D35	1	5048	5050
22	D35	1	5038	5040	72	D35	1	5048	5050
23	D35	1	5038	5040	73	D35	1	5048	5050
24	D35	1	5038	5040	74	D35	1	5048	5050
25	D35	1	5039	5040	75	D35	1	5049	5050
26	D35	1	5039	5040	76	D35	1	5049	5050
27	D35	1	5039	5040	77	D35	1	5049	5050
28	D35	1	5039	5040	78	D35	1	5049	5050
29	D35	1	5039	5040	79	D35	1	5049	5050
30	D35	1	5040	5040	80	D35	1	5050	5050
31	D35	1	5040	5040	81	D35	1	5050	5050
32	D35	1	5040	5040	82	D35	1	5050	5050
33	D35	1	5040	5040	83	D35	1	5050	5050
34	D35	1	5040	5040	84	D35	1	5051	5050
35	D35	1	5041	5040	85	D35	1	5051	5050
36	D35	1	5041	5040	86	D35	1	5051	5050
37	D35	1	5041	5040	87	D35	1	5051	5050
38	D35	1	5041	5040	88	D35	1	5051	5050
39	D35	1	5041	5040	89	D35	1	5052	5050
40	D35	1	5042	5040	90	D35	1	5052	5050
41	D35	1	5042	5040	91	D35	1	5052	5050
42	D35	1	5042	5040	92	D35	1	5052	5050
43	D35	1	5042	5040	93	D35	1	5052	5050
44	D35	1	5042	5040	94	D35	1	5053	5050
45	D35	1	5042	5040	95	D35	1	5053	5050
46	D35	1	5043	5040	96	D35	1	5053	5050
47	D35	1	5043	5040	97	D35	1	5053	5050
48	D35	1	5043	5040	98	D35	1	5022	5020
49	D35	1	5043	5040	平均長		98		5044
50	D35	1	5044	5040					

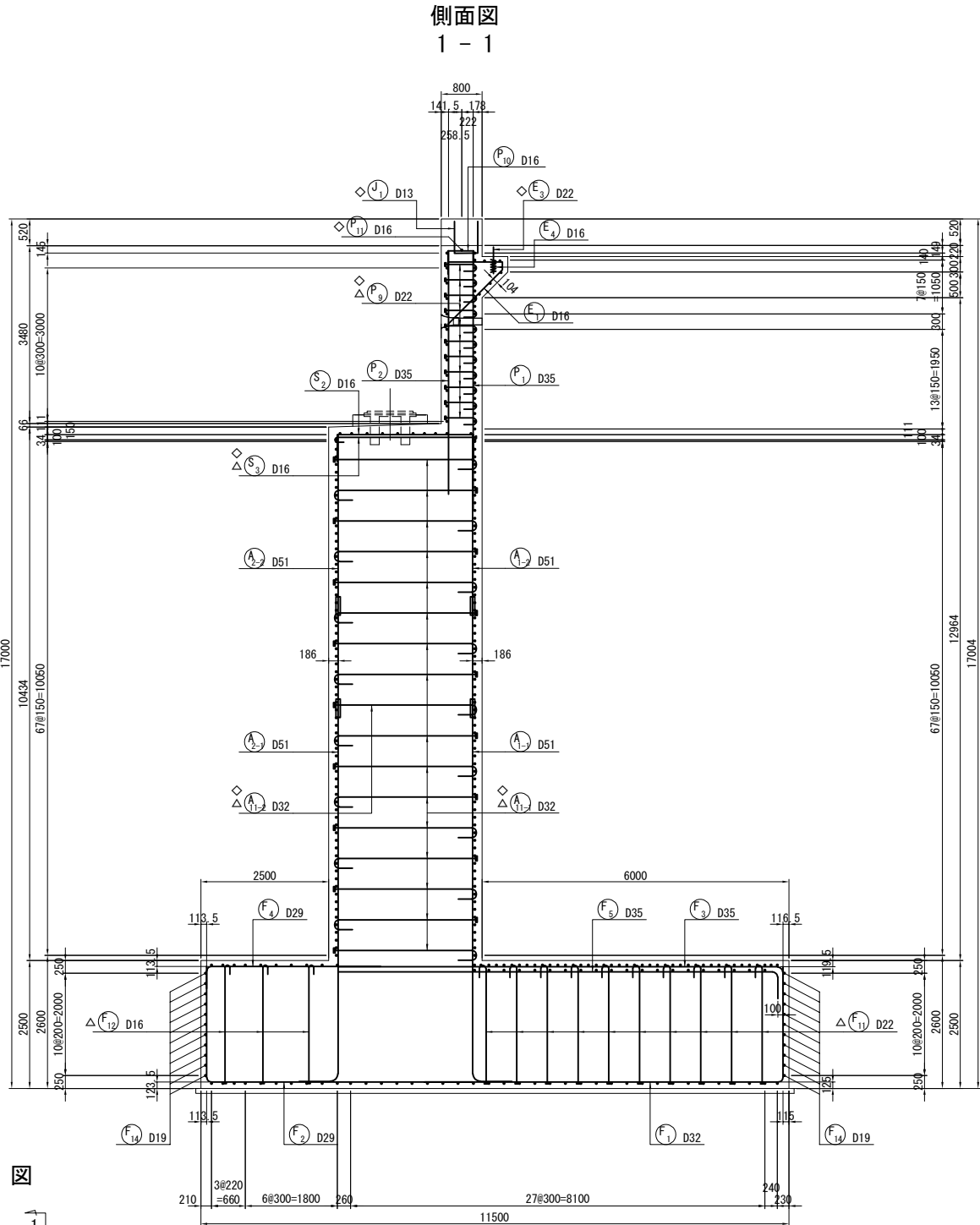
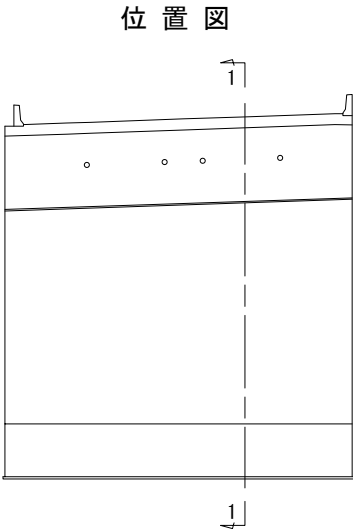
橋座面

1380

P₂

57-D35×4760（平均長）

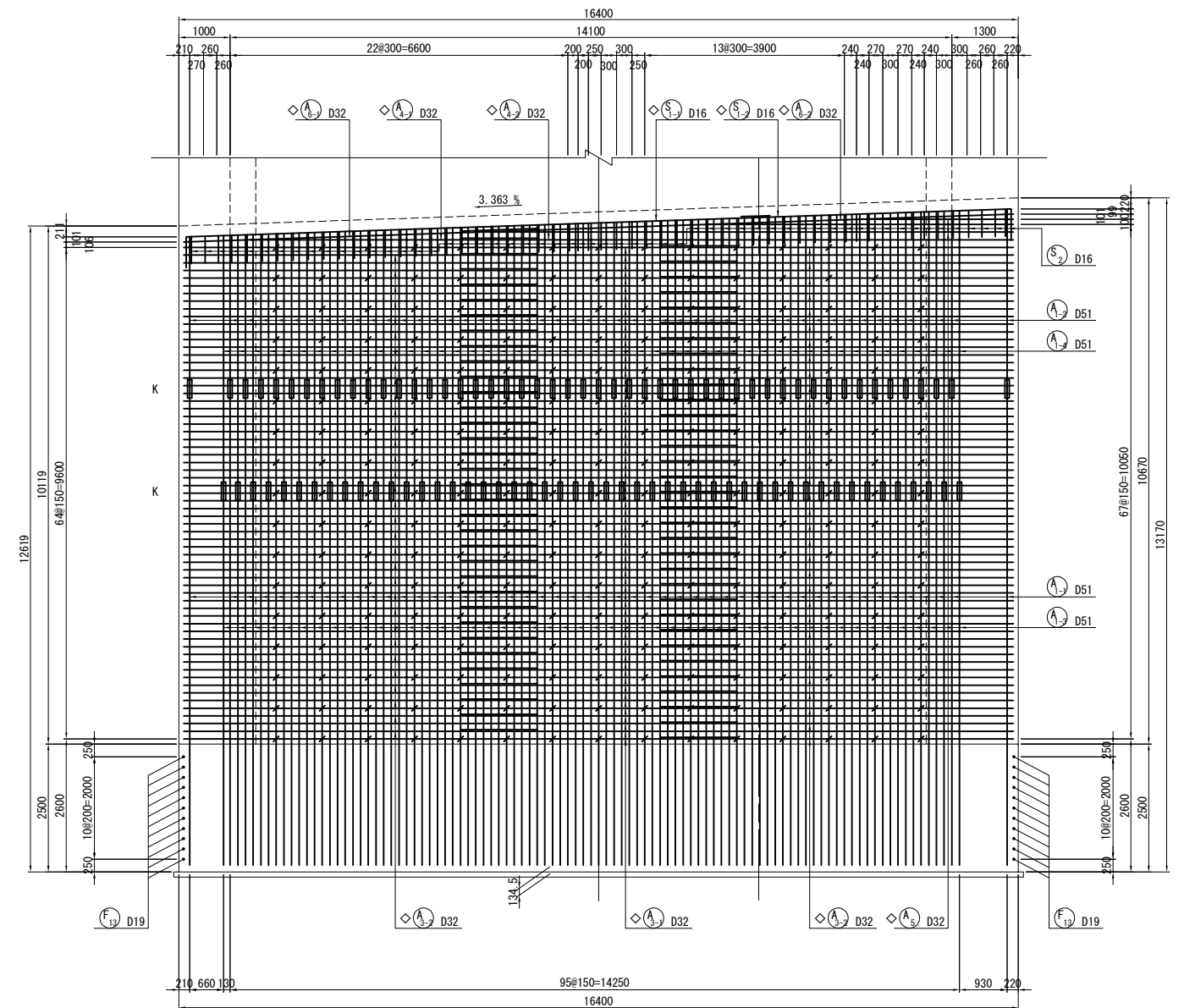
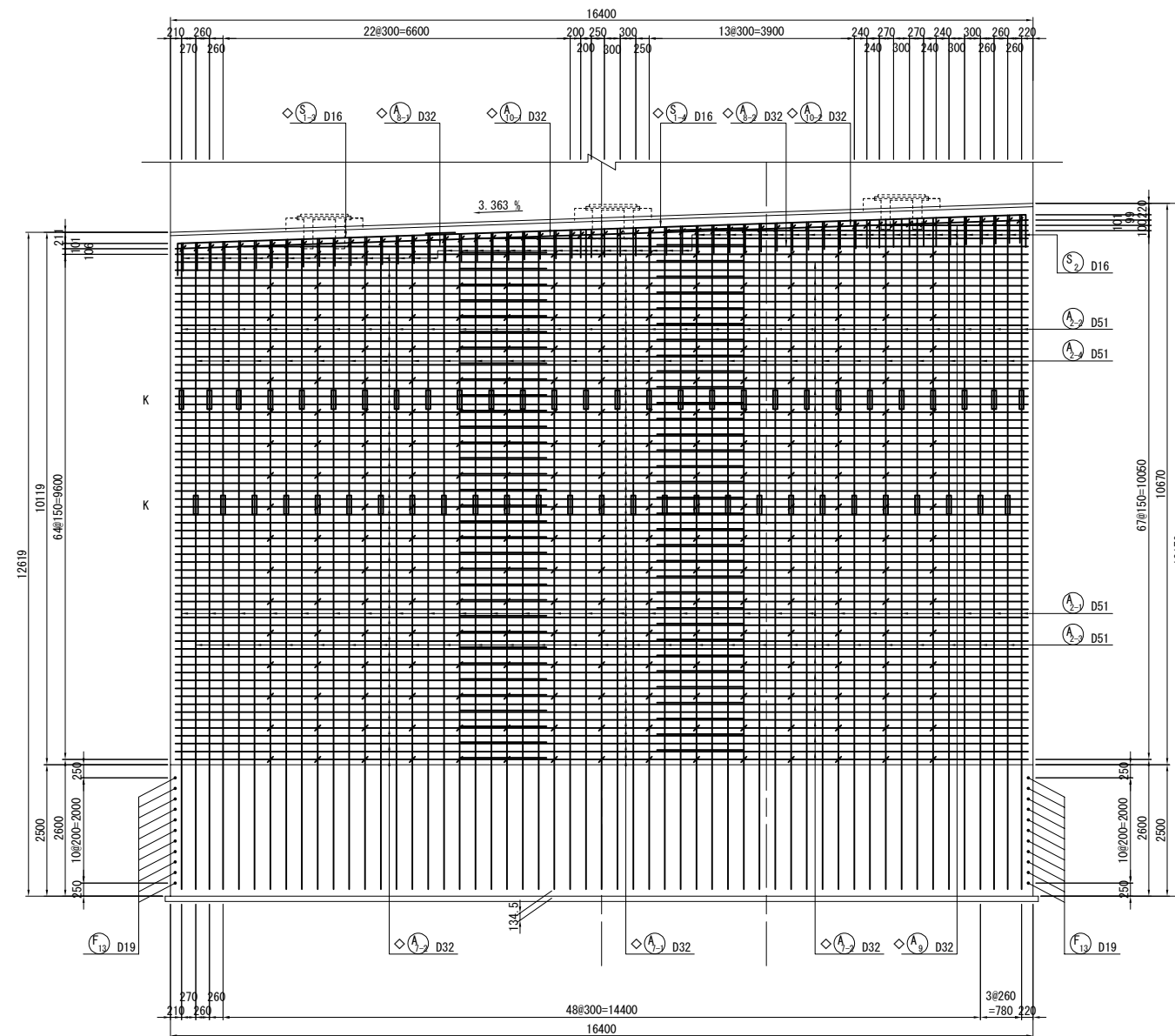
記 号	径	本数	a	L
1	D35	1	4741	4740
2	D35	1	4741	4740
3	D35	1	4742	4740
4	D35	1	4742	4740
5	D35	1	4742	4740
6	D35	1	4743	4740
7	D35	1	4743	4740
8	D35	1	4744	4740
9	D35	1	4744	4740
10	D35	1	4744	4740
11	D35	1	4745	4750
12	D35	1	4745	4750
13	D35	1	4746	4750
14	D35	1	4746	4750
15	D35	1	4746	4750
16	D35	1	4747	4750
17	D35	1	4747	4750
18	D35	1	4748	4750
19	D35	1	4748	4750
20	D35	1	4748	4750
21	D35	1	4749	4750
22	D35	1	4749	4750
23	D35	1	4750	4750
24	D35	1	4750	4750
25	D35	1	4750	4750
26	D35	1	4751	4750
27	D35	1	4751	4750
28	D35	1	4751	4750
29	D35	1	4752	4750
30	D35	1	4752	4750
31	D35	1	4753	4750
32	D35	1	4753	4750
33	D35	1	4753	4750
34	D35	1	4754	4750
35	D35	1	4754	4750
36	D35	1	4754	4750
37	D35	1	4755	4760
38	D35	1	4755	4760
39	D35	1	4756	4760
40	D35	1	4756	4760
41	D35	1	4756	4760
42	D35	1	4757	4760
43	D35	1	4757	4760
44	D35	1	4758	4760
45	D35	1	4758	4760
46	D35	1	4759	4760
47	D35	1	4759	4760
48	D35	1	4759	4760
49	D35	1	4760	4760
50	D35	1	4760	4760
51	D35	1	4761	4760
52	D35	1	4761	4760
53	D35	1	4761	4760
54	D35	1	4762	4760
55	D35	1	4752	4750
56	D35	1	4741	4740
57	D35	1	4730	4730
平均長		57		4751



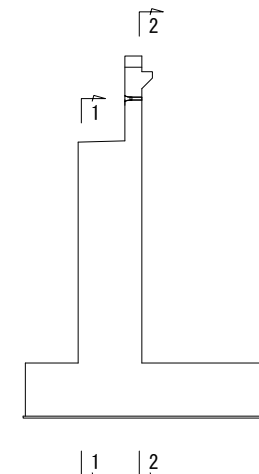
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 2）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

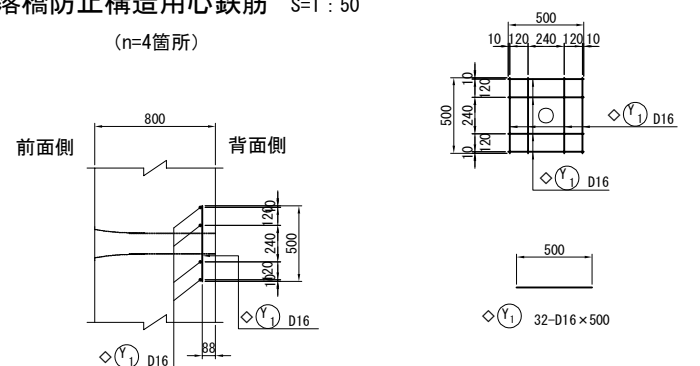
豎壁背面図
2 - 2



位置図



落橋防止構造用心鉄筋 S=1 : 50
(n=4箇所)

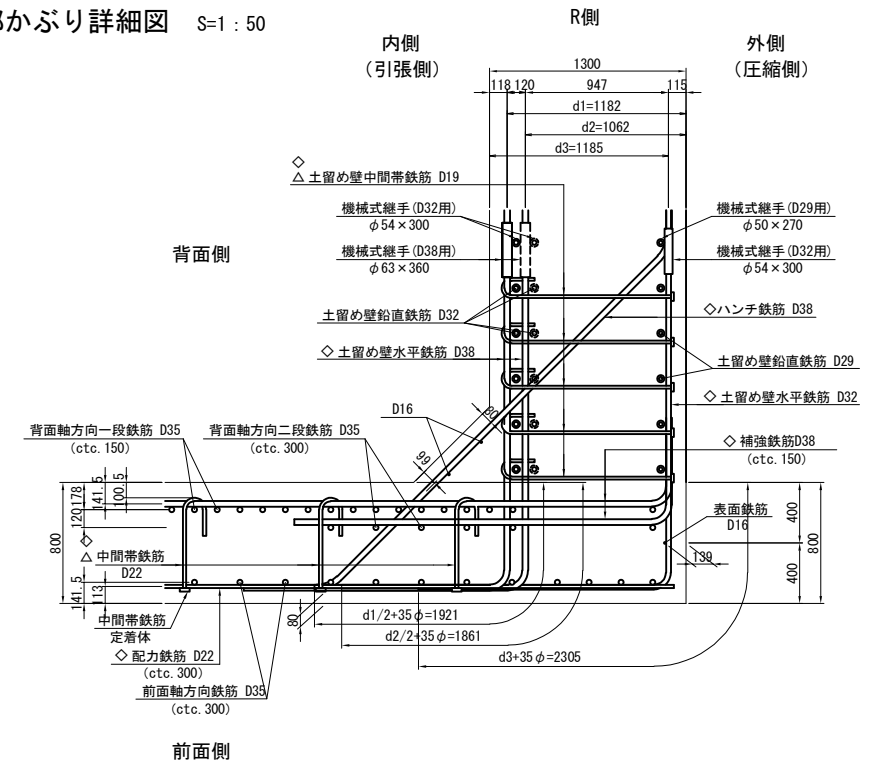
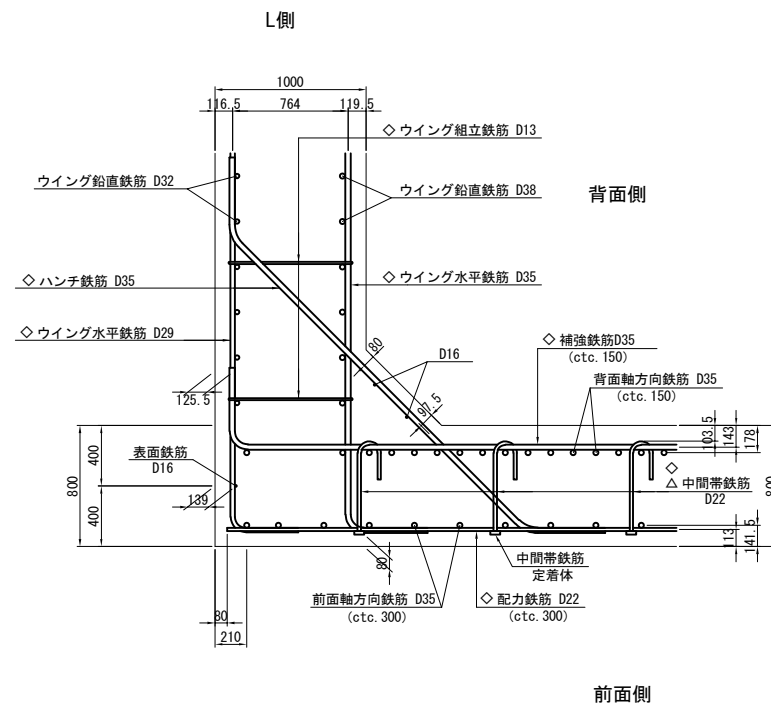


注) 用心鉄筋はコンクリート打設前にセットする。

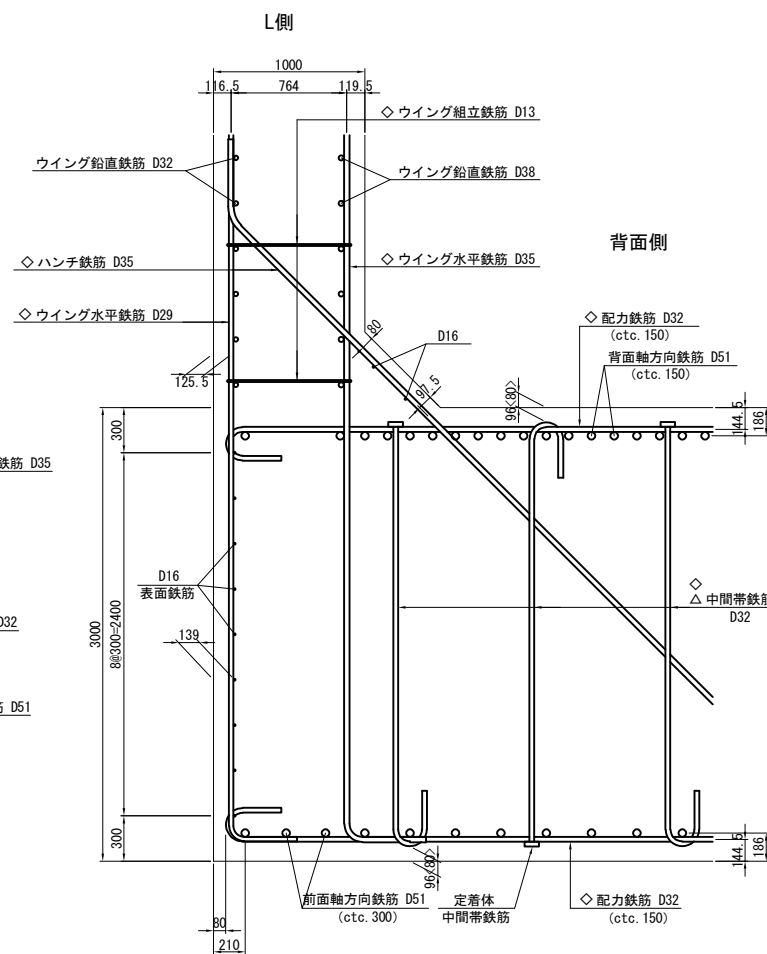
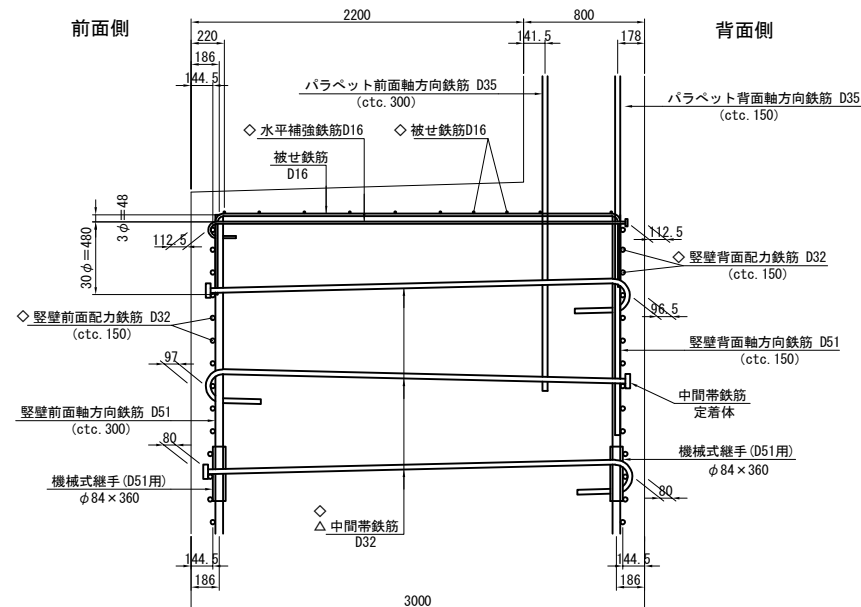
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの0.1mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鶴川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

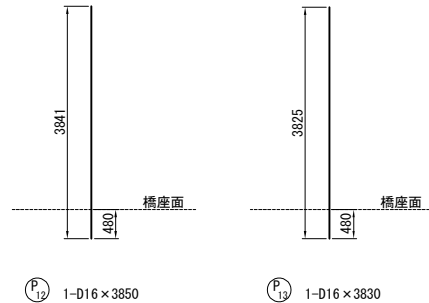
パラペット端部かぶり詳細図 S=1 : 50




たて壁かぶり詳細図 S=1 : 50



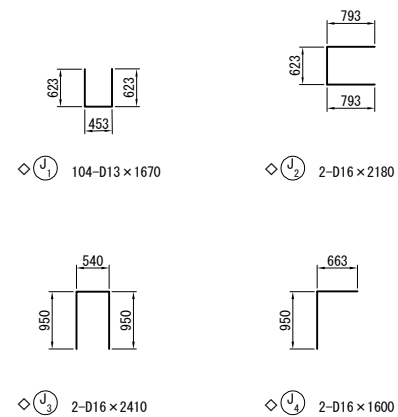
- | | | | | |
|---------------------|--------------------------------|------|---|--|
| 道東自動車道
占冠地区下部工工事 | | | | |
| 図面の種類 | 本流越川第一橋（下り線）
A 2 橋台配筋図（その５） | | | |
| 縮 尺 | 図 示 | 図面番号 | - | |
| 設計会社名 | 株式会社 日本橋造橋梁研究所 | | | |
| 施工会社名 | | | | |
| 事務所名 | 東日本高速道路株式会社 北海道支社
帯広工事事務所 | | | |



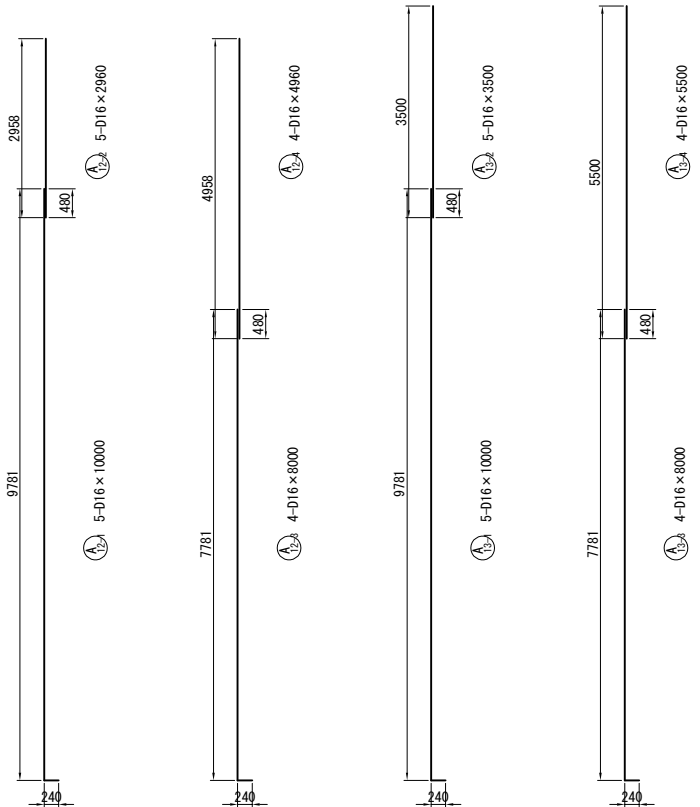
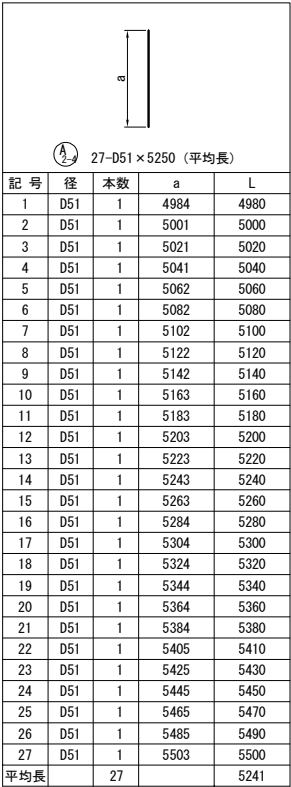
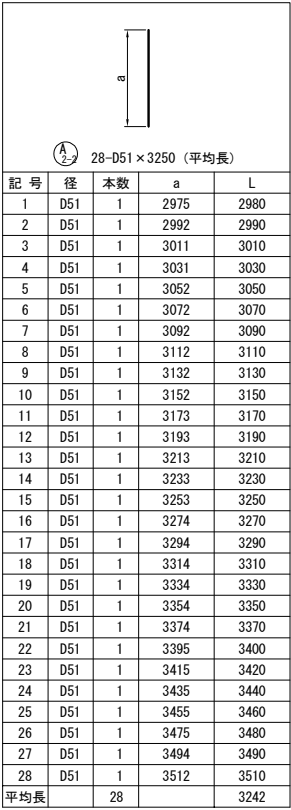
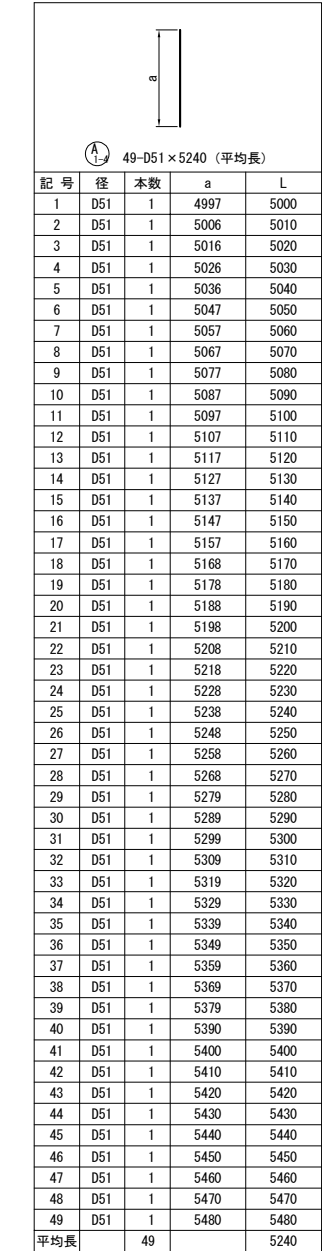
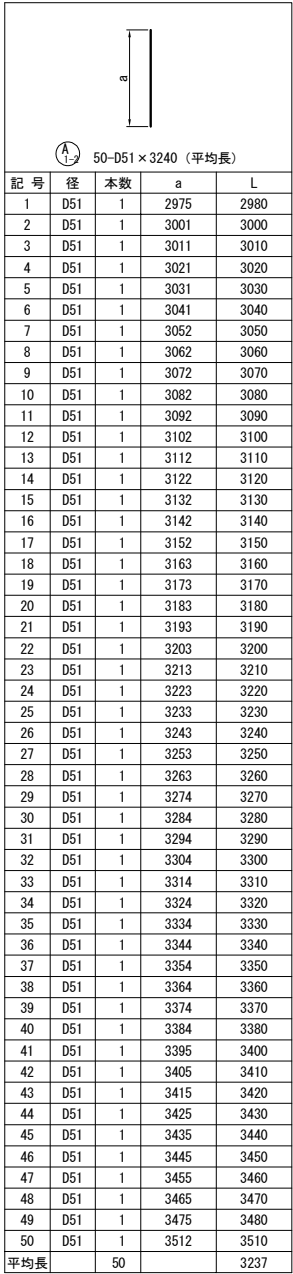


(P₁₄) 6-D35 × 5050 (平均長)

記号	径	本数	a
1	D35	1	5052
2	D35	1	5052
3	D35	1	5052
4	D35	1	5053
5	D35	1	5053
6	D35	1	5022
平均長		6	5045



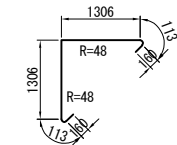
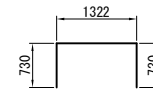
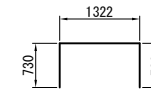
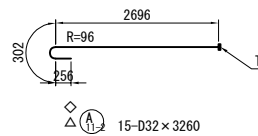
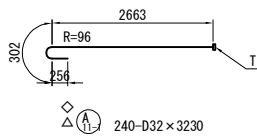
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流越川第一橋（下り橋） A 2 橋台配筋図（その 6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

(n=3箇所)



1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

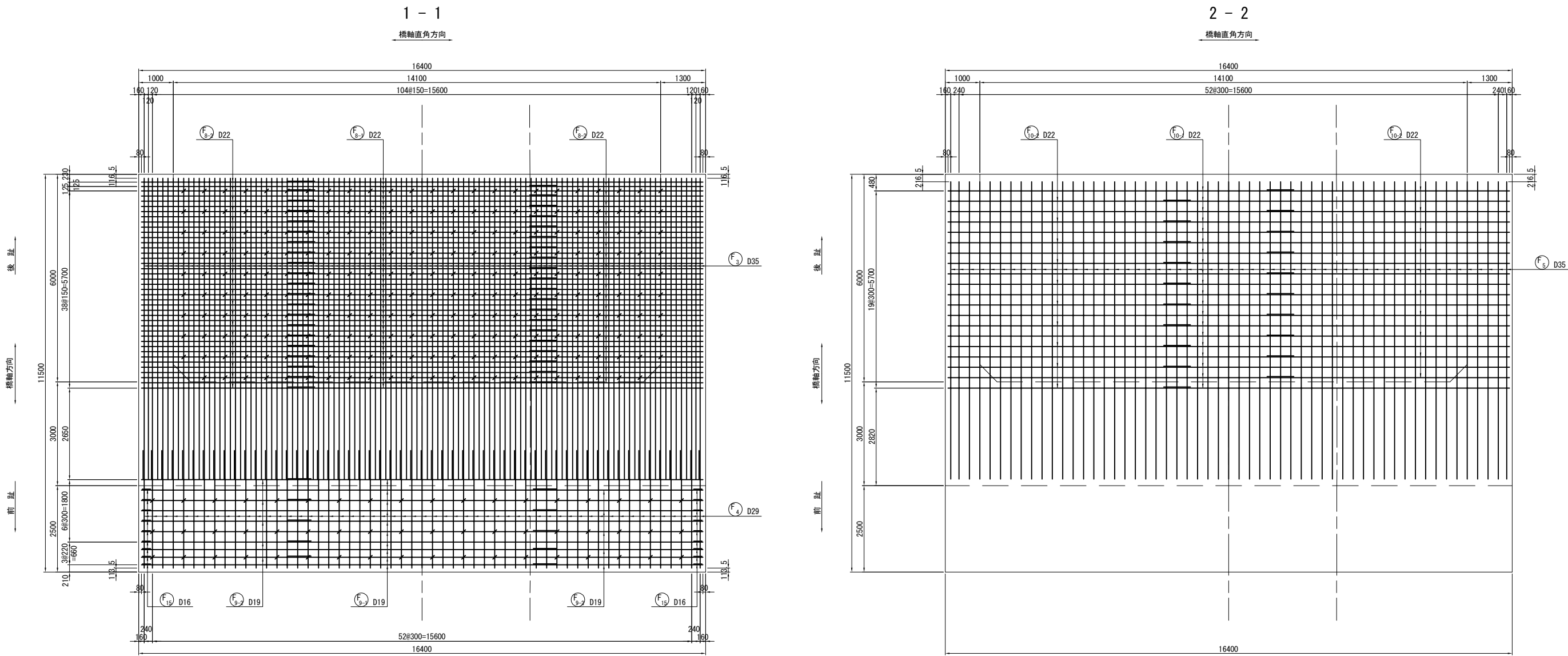
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。

注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

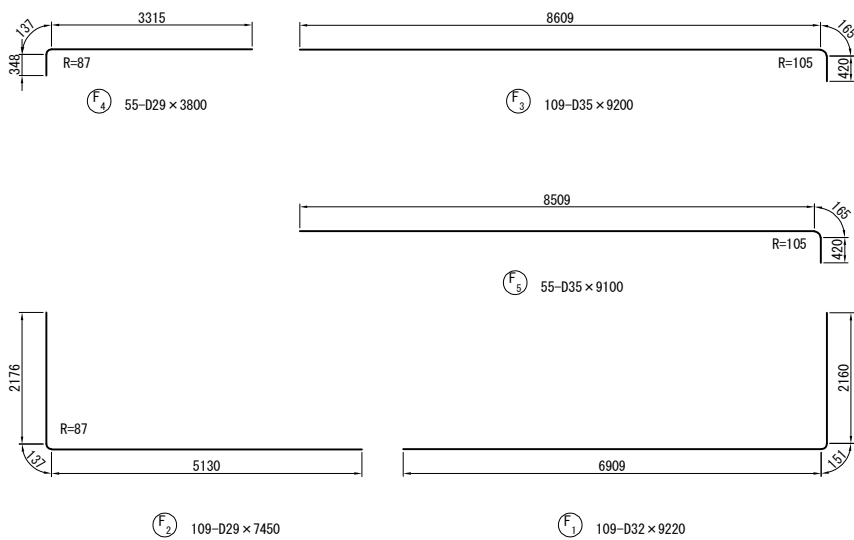
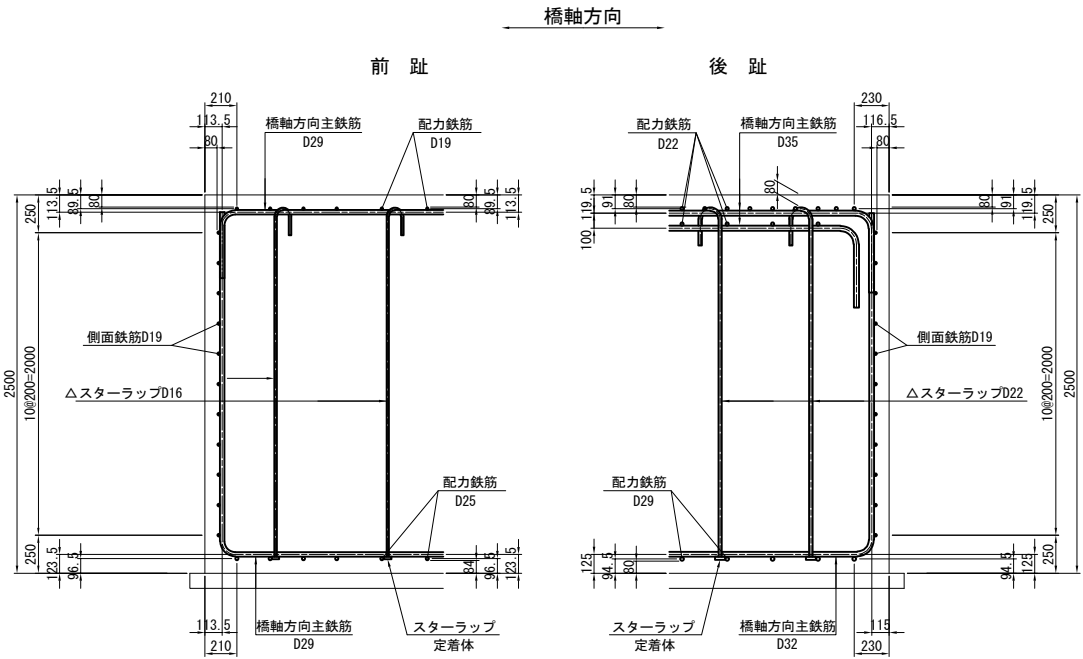
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。

注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

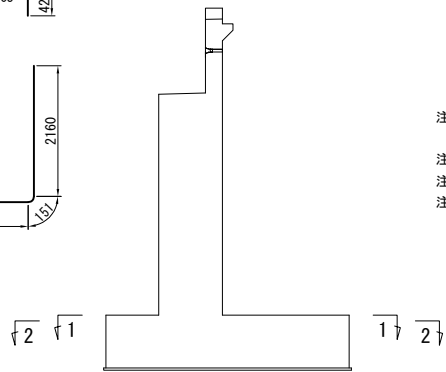
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鶴川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



フーチングかぶり詳細図 S=1:50

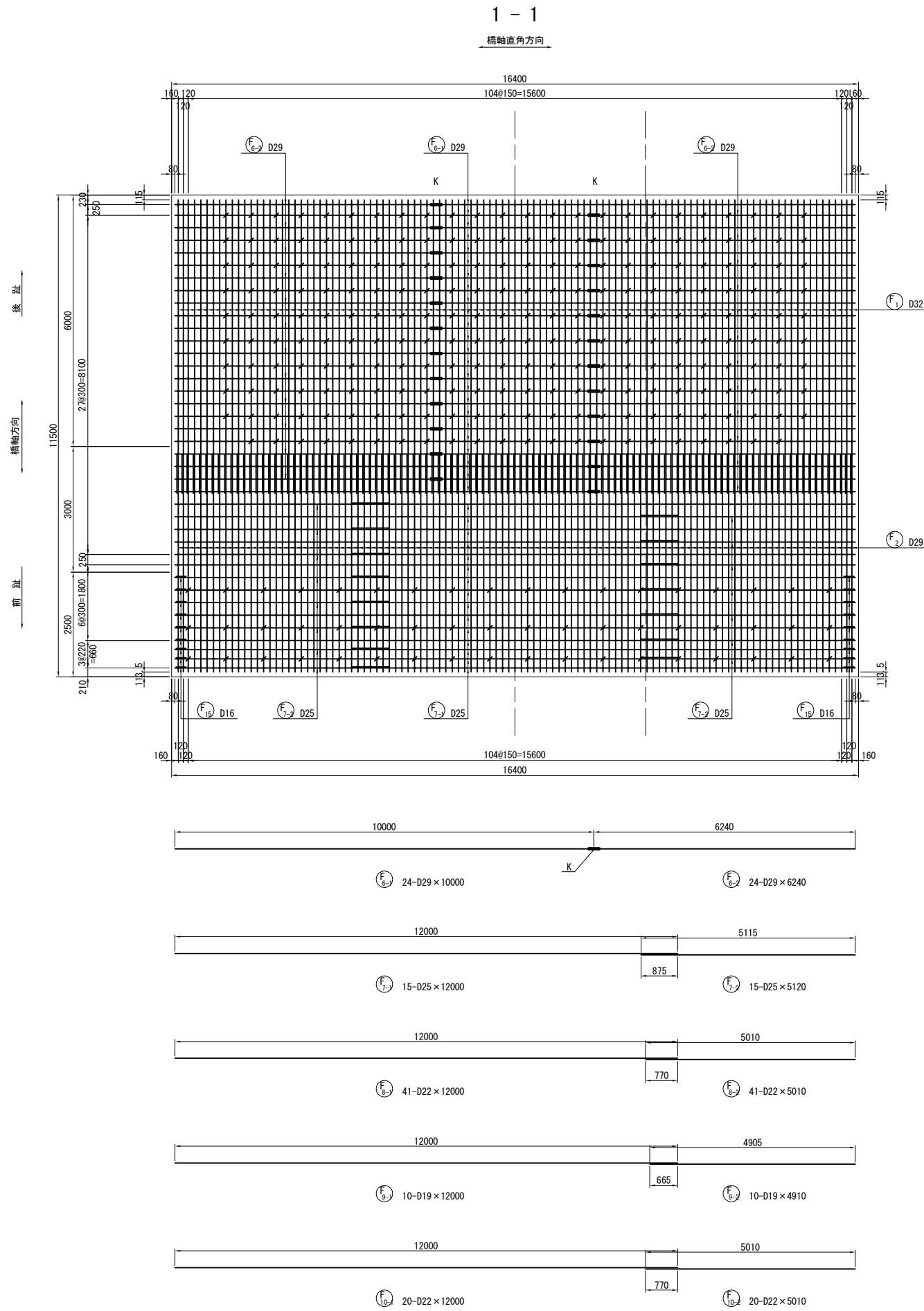


位置図

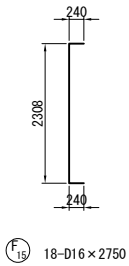
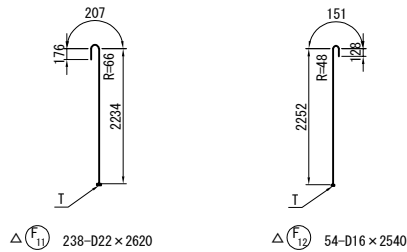
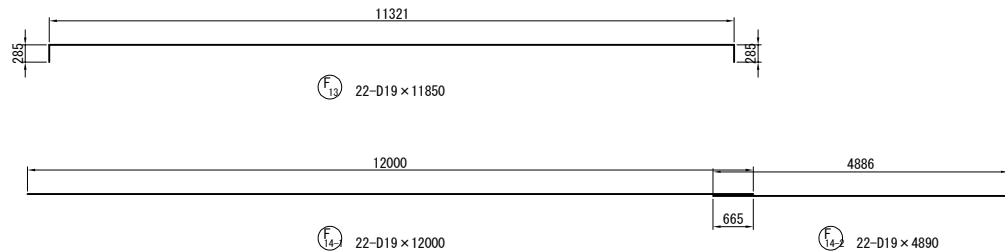
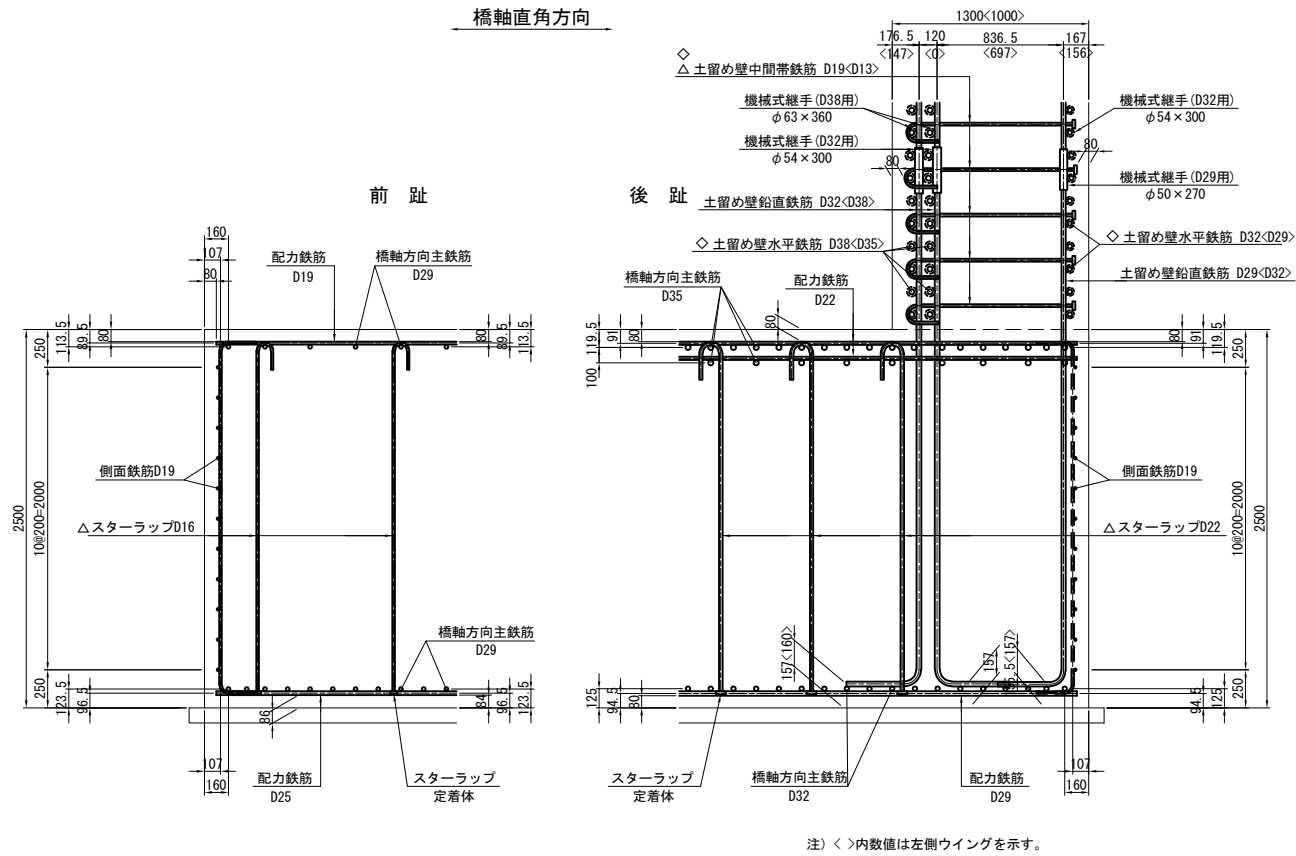


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

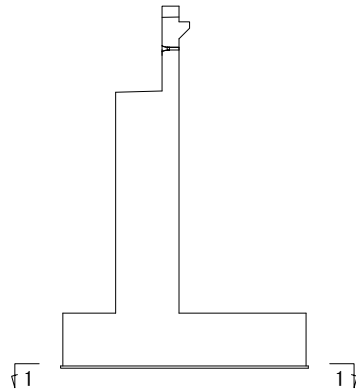
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



フーチングかぶり詳細図 S=1:50



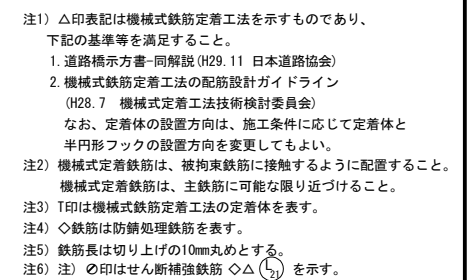
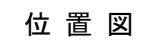
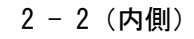
位置図



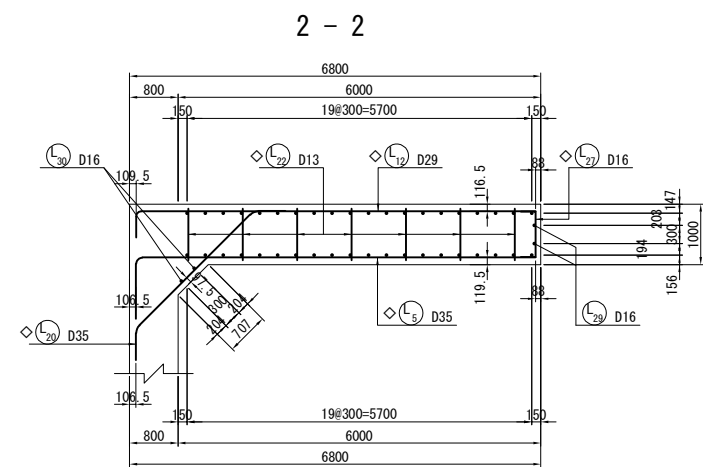
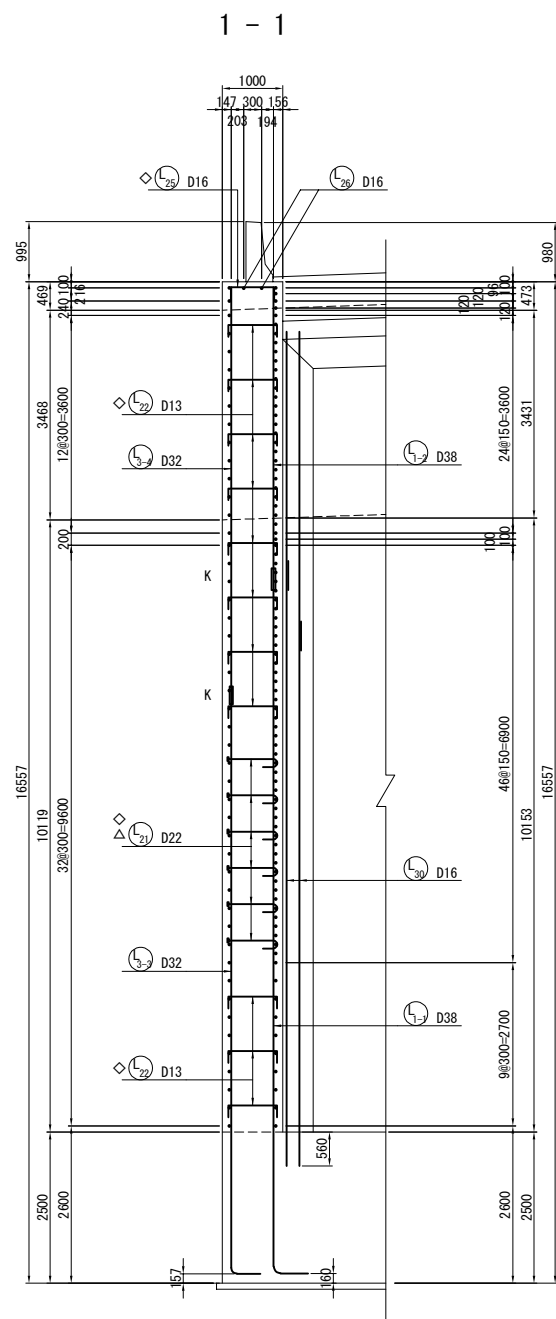
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

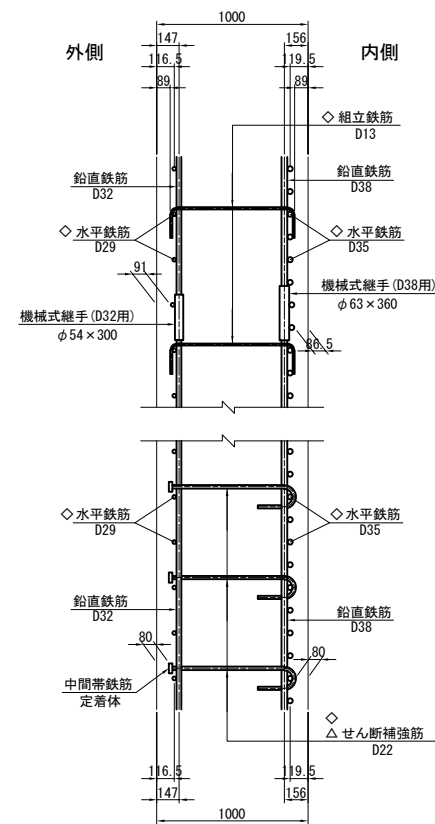
1 - 1 (外側)



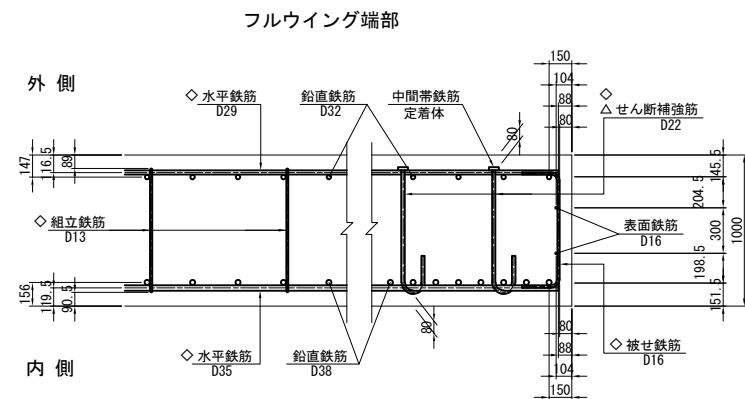
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鶴川第一橋（下り線） A 2 橋台設筋図（その 1 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



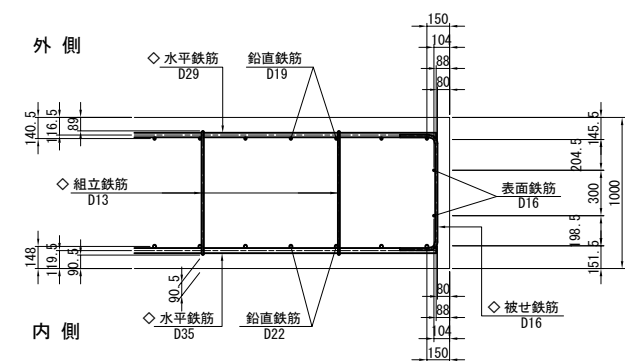
左側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50



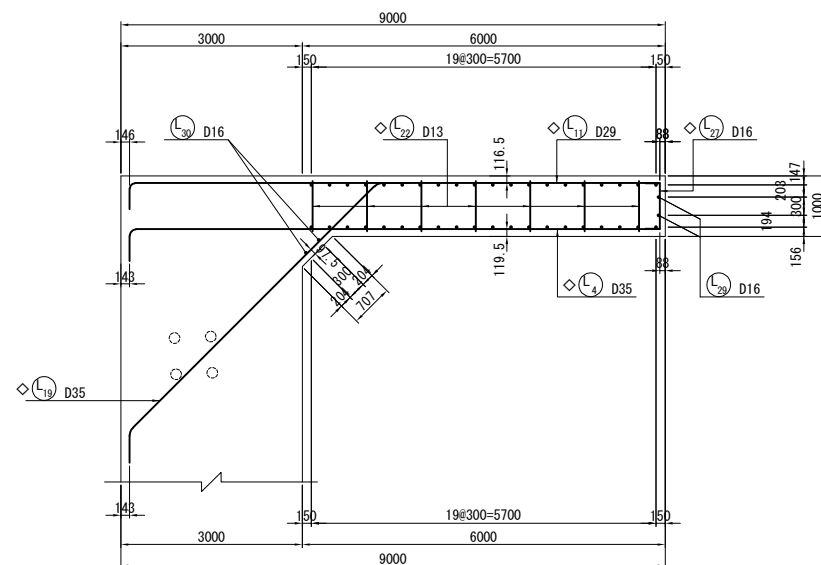
左側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



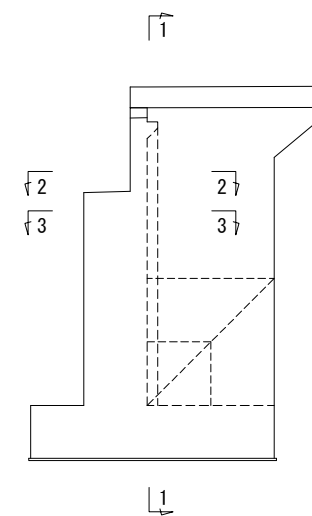
パラルレルウイング端部



3 - 3

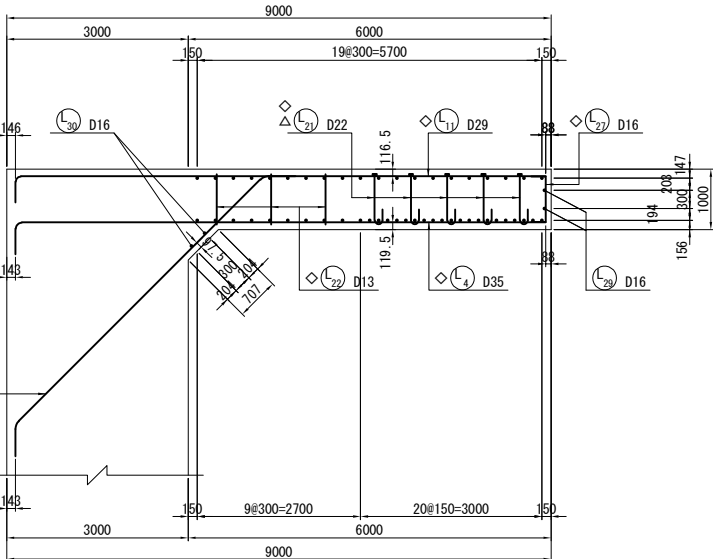


位置図




- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



10-D38 x 6840 (平均長)

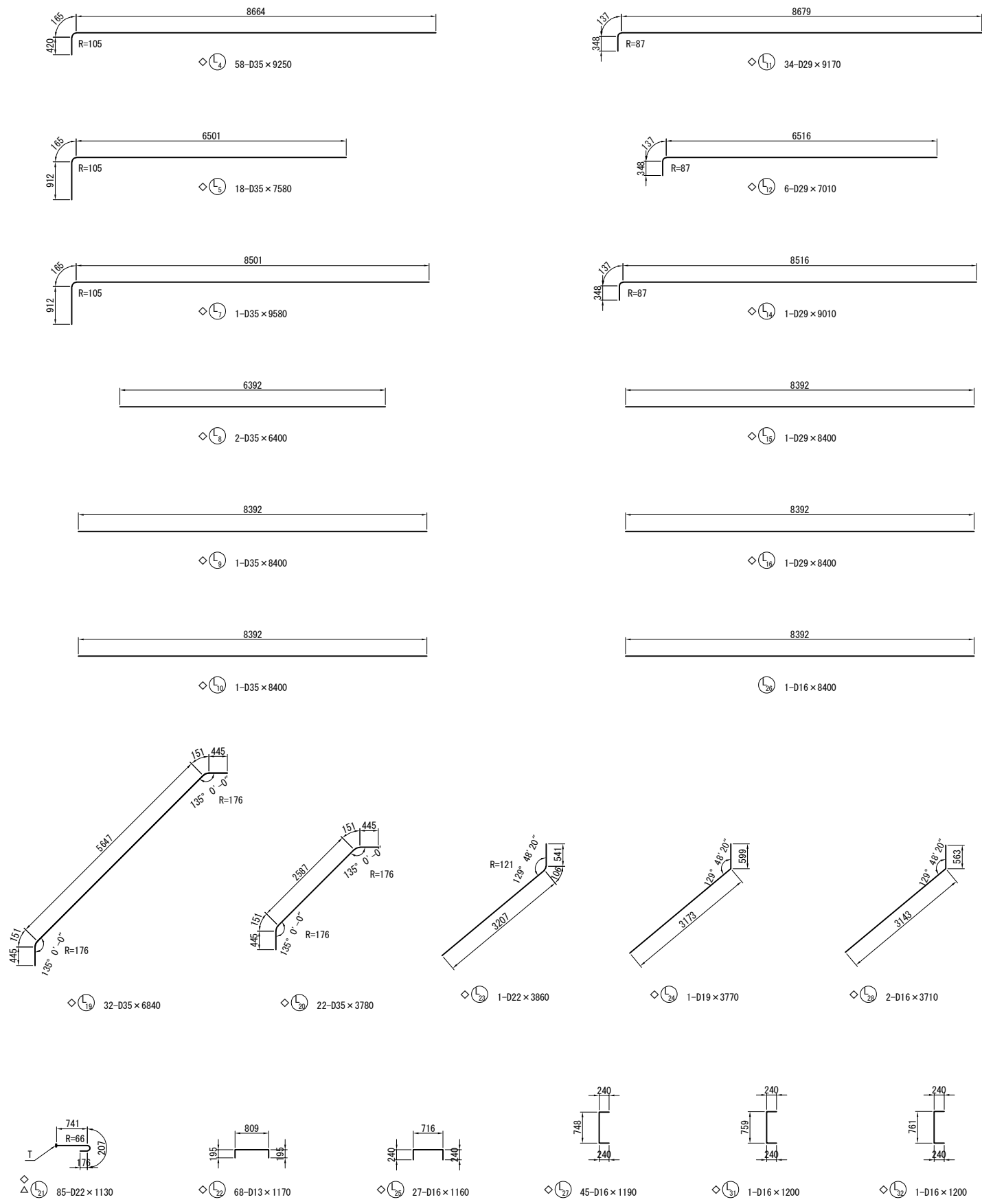
記号	径	本数	a	L
1	D38	1	6830	6830
2	D38	1	6832	6830
3	D38	1	6834	6830
4	D38	1	6836	6840
5	D38	1	6838	6840
6	D38	1	6840	6840
7	D38	1	6842	6840
8	D38	1	6844	6840
9	D38	1	6846	6850
10	D38	1	6848	6850
平均長		10		6839

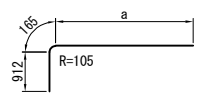


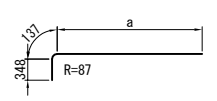
10-D32×6770 (平均長)


記号	径	本数	a	L
1	D32	1	6752	6750
2	D32	1	6754	6750
3	D32	1	6756	6760
4	D32	1	6758	6760
5	D32	1	6760	6760
6	D32	1	6762	6760
7	D32	1	6764	6760
8	D32	1	6766	6770
9	D32	1	6768	6770
10	D32	1	6770	6770
平均長		10		6761


道東自動車道 占冠地区下留工工事			
図面の種類	本流越川第一橋（下り橋） A2橋台訪問図（その13）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



				
◇ L ₅ 5-D35 × 8590 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D35	1	6792	7870
2	D35	1	7152	8230
3	D35	1	7512	8590
4	D35	1	7872	8950
5	D35	1	8232	9310
平均長		5		8590

				
◇ L ₁₃ 5-D29 × 8020 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D29	1	6807	7290
2	D29	1	7167	7650
3	D29	1	7527	8010
4	D29	1	7887	8370
5	D29	1	8247	8730
平均長		5		8010

				
◇ L ₁₇ 6-D22 × 1420 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D22	1	788	790
2	D22	1	1037	1040
3	D22	1	1286	1290
4	D22	1	1535	1540
5	D22	1	1784	1780
6	D22	1	2033	2030
平均長		6	1420	1412

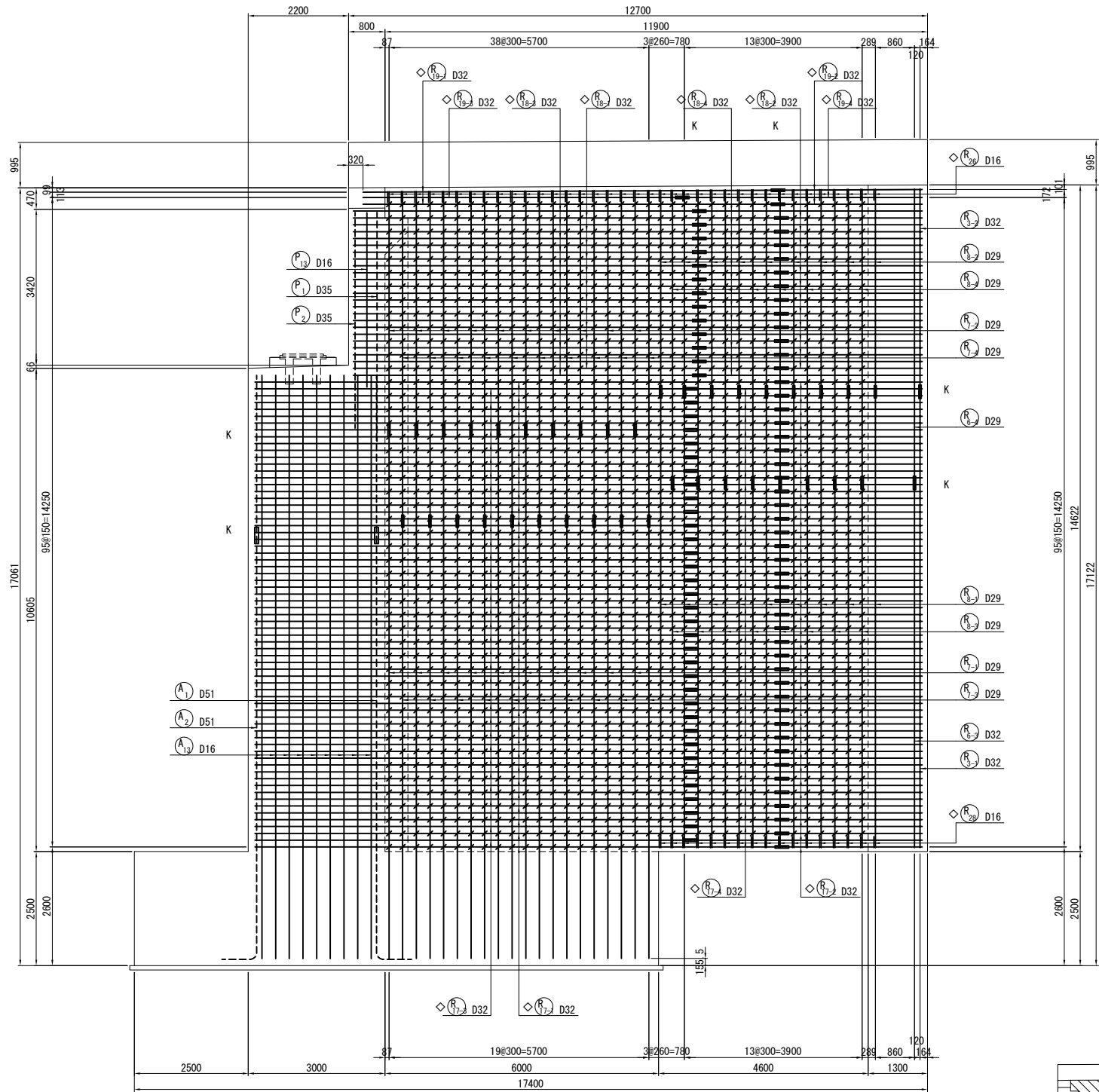
				
◇ L ₁₉ 6-D19 × 1420 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D19	1	788	790
2	D19	1	1037	1040
3	D19	1	1286	1290
4	D19	1	1535	1540
5	D19	1	1784	1780
6	D19	1	2033	2030
平均長		6	1420	1412

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

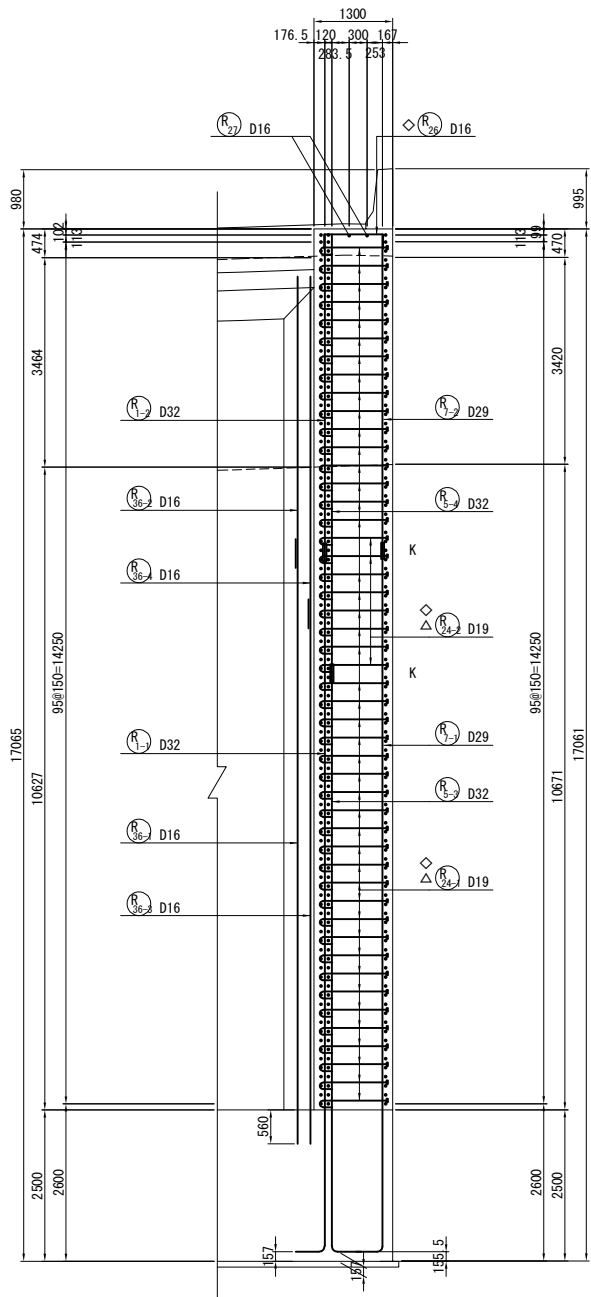
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

土留め壁

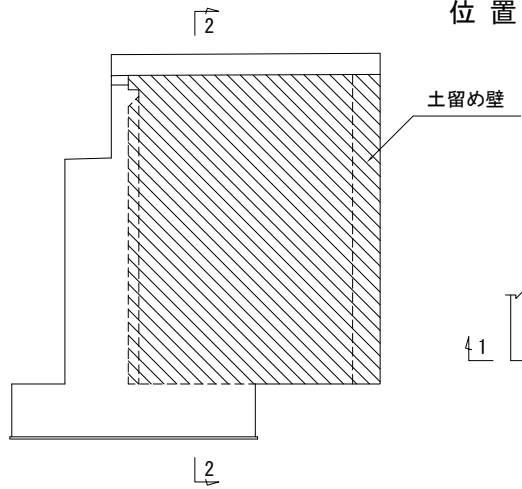
1 - 1 (外側)



2 - 2



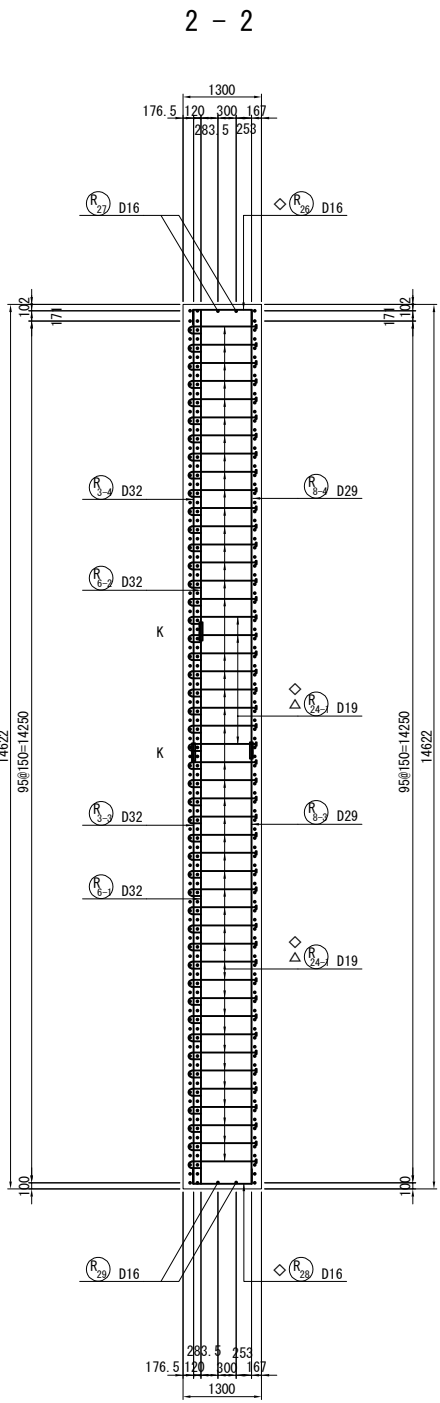
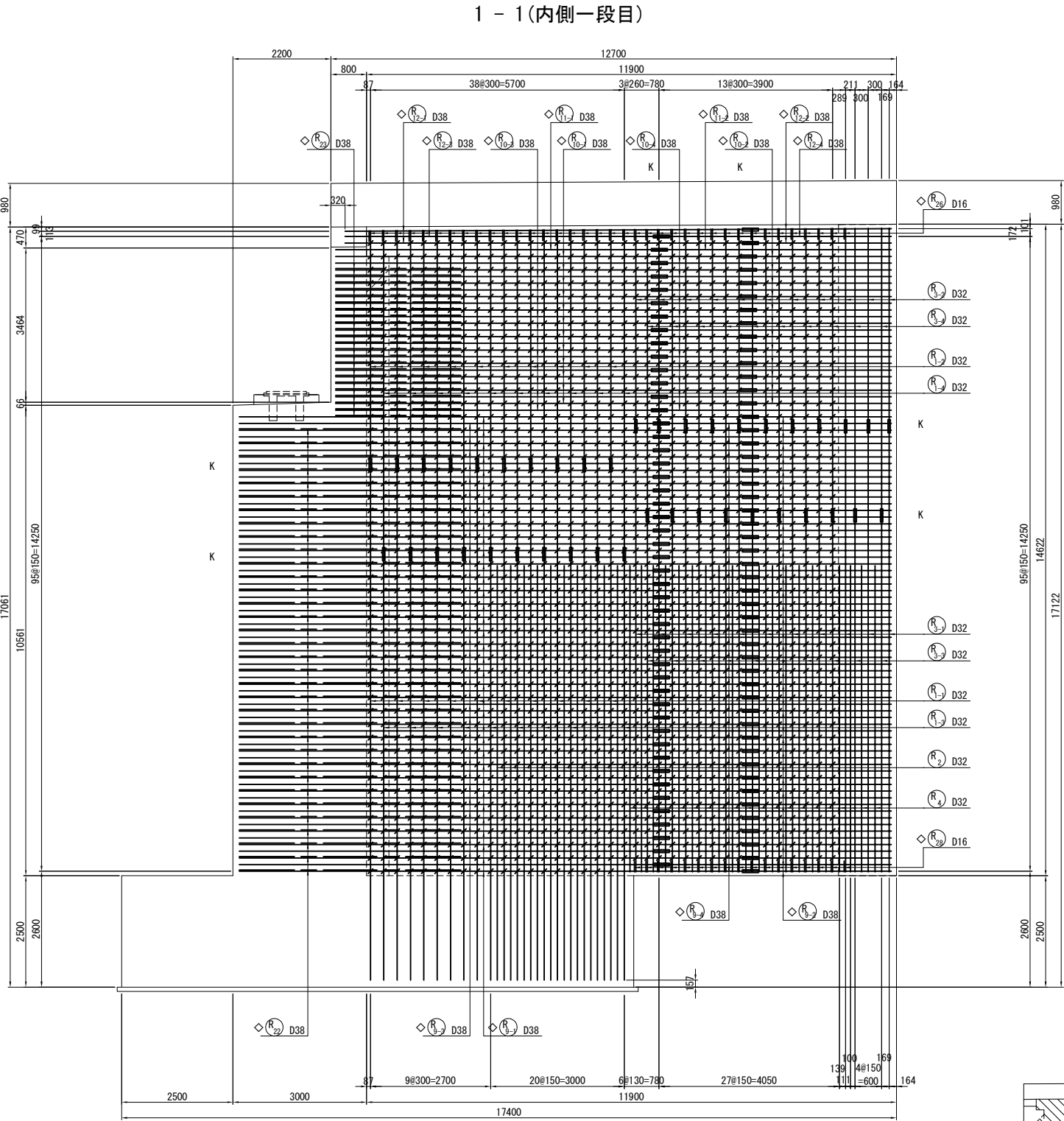
位置図



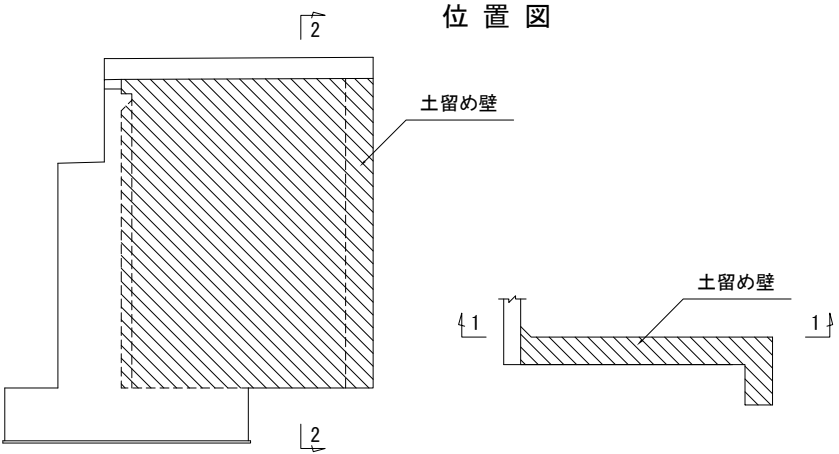
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 注3) 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注4) △印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

土留め壁



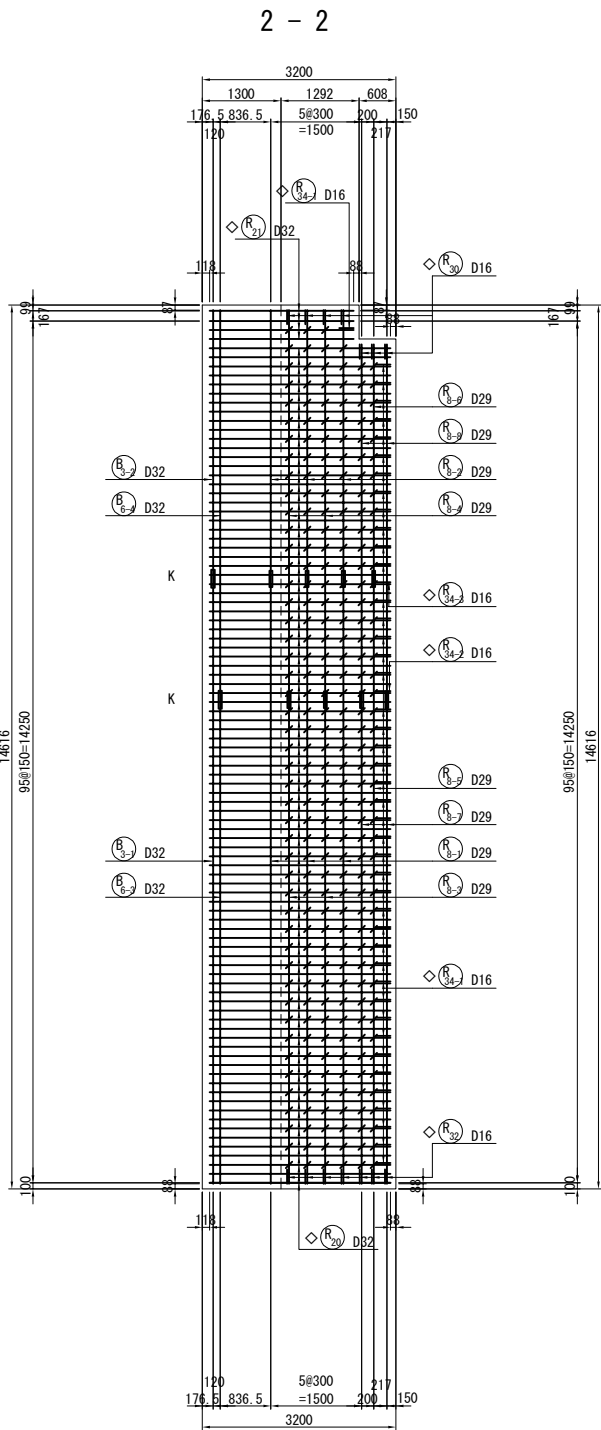
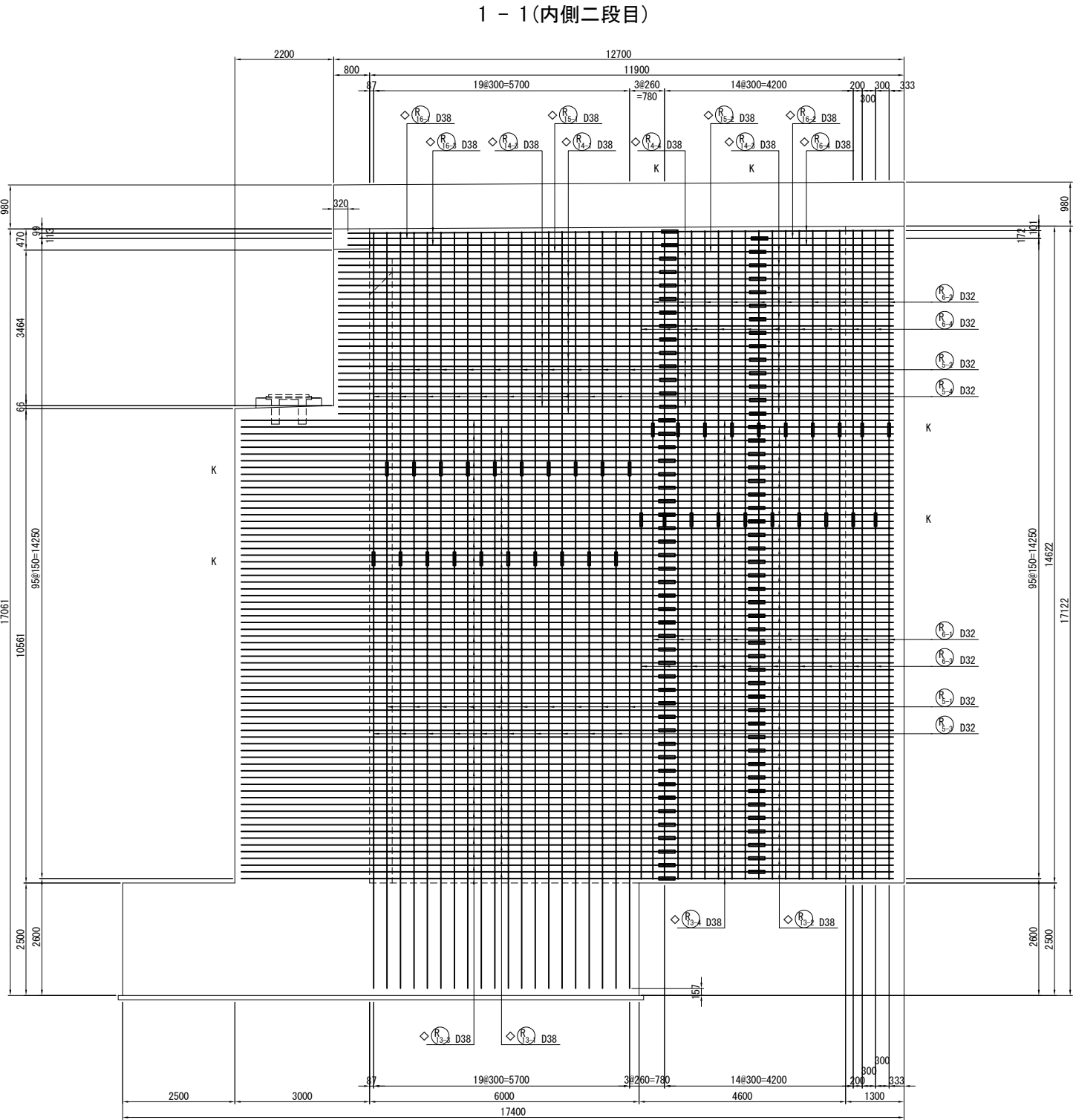
位置図



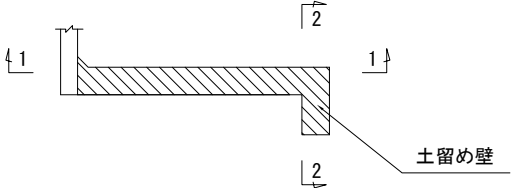
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

土留め壁

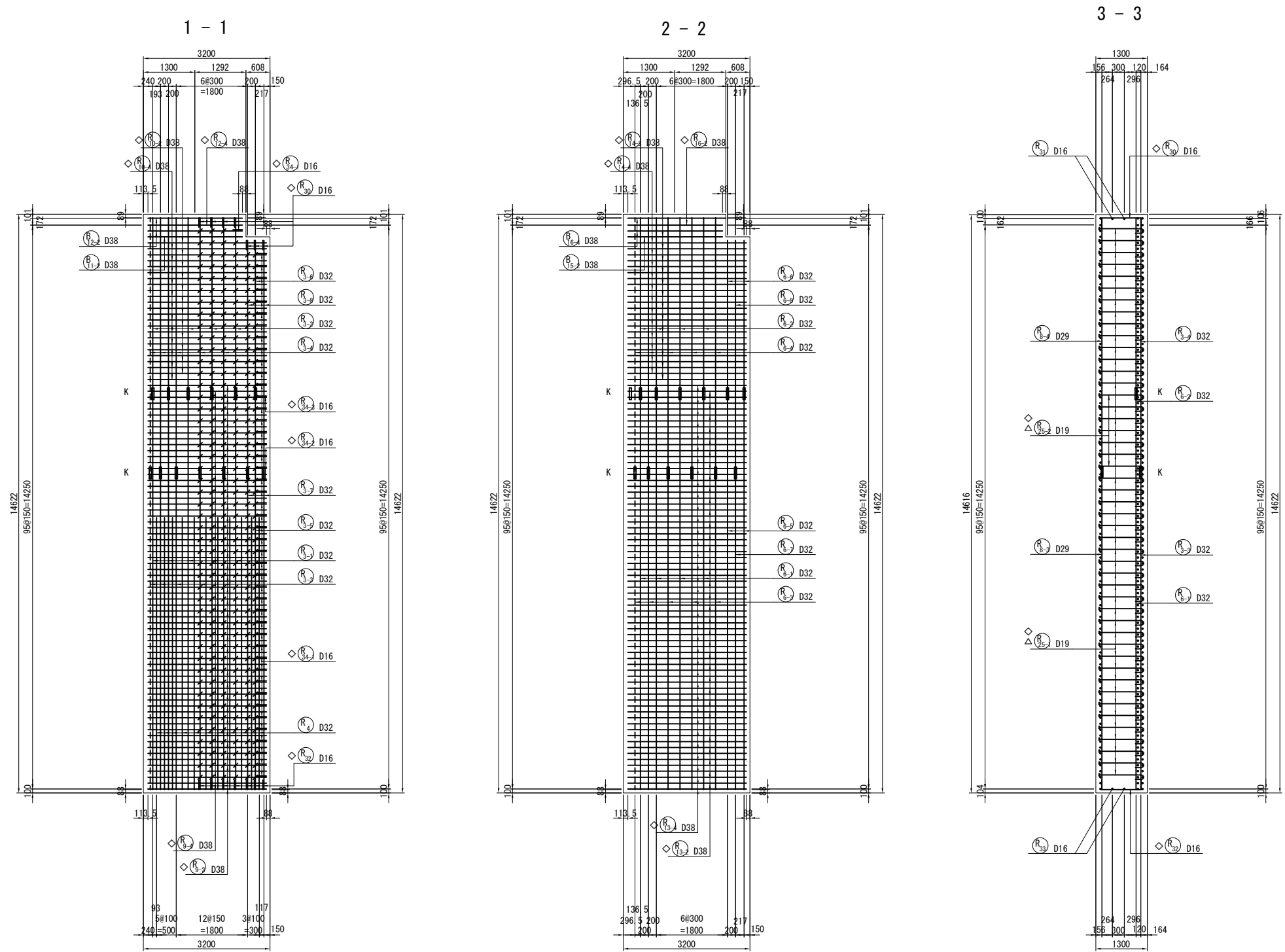


位置図

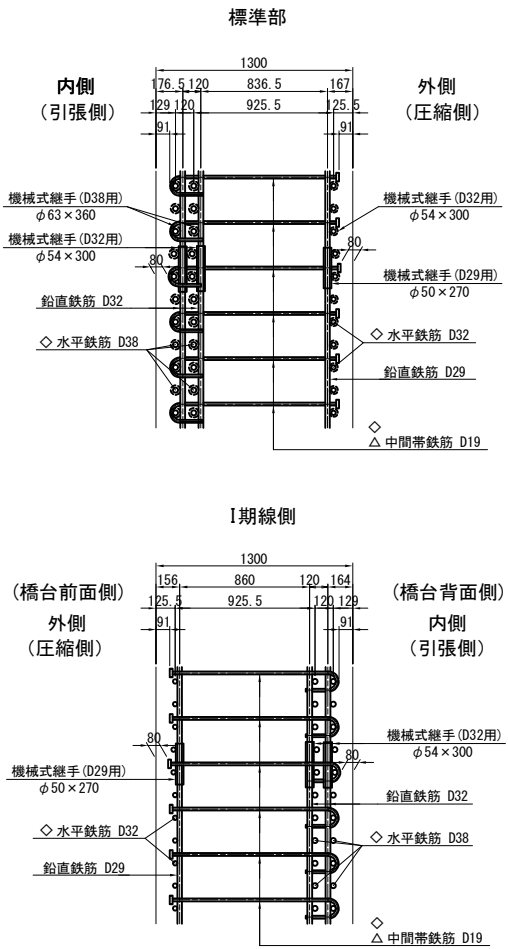


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

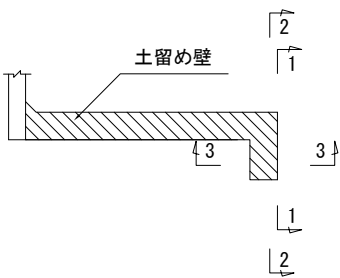
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



土留め壁かぶり詳細図 S=1 : 50

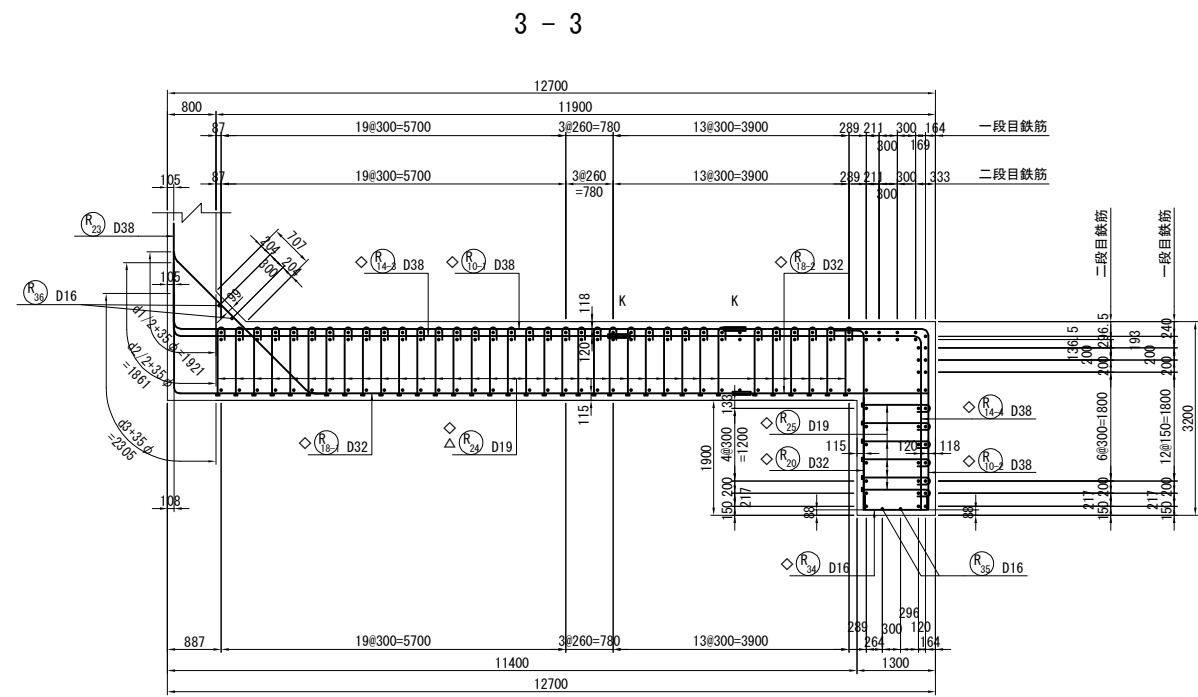
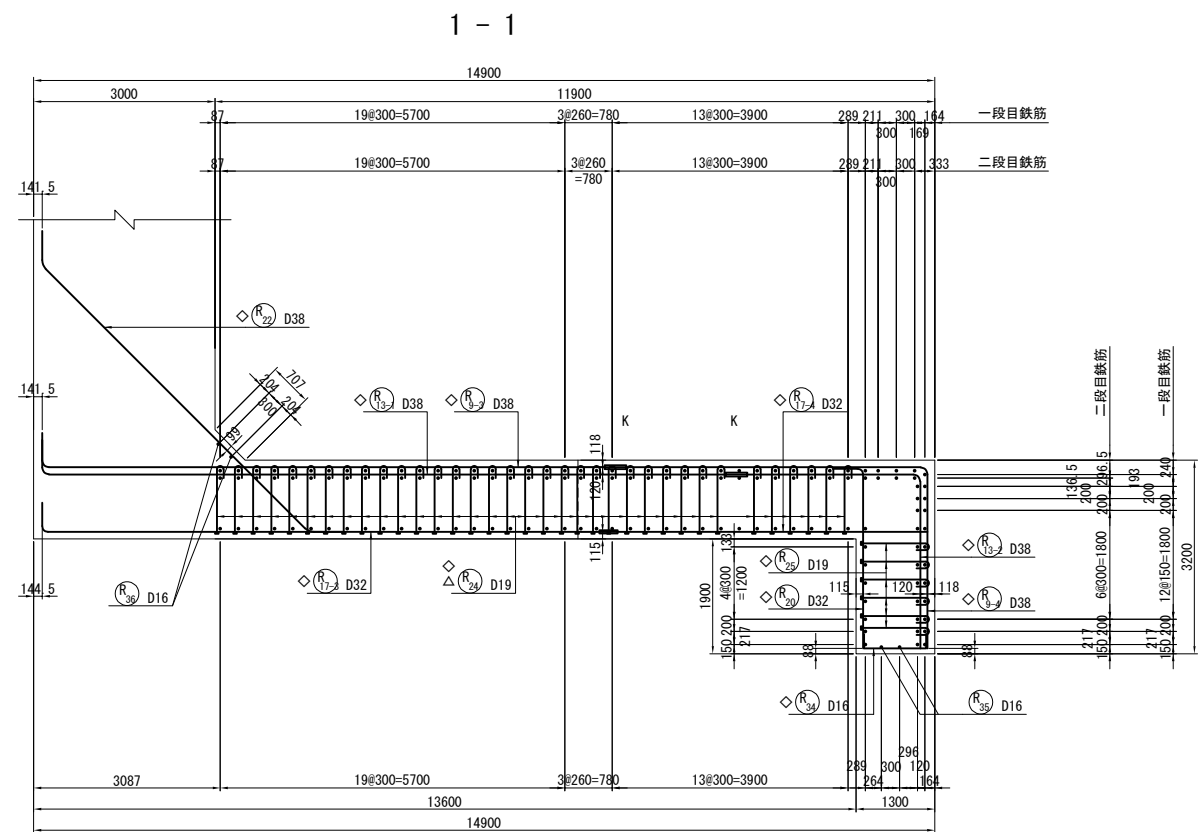


位置 図

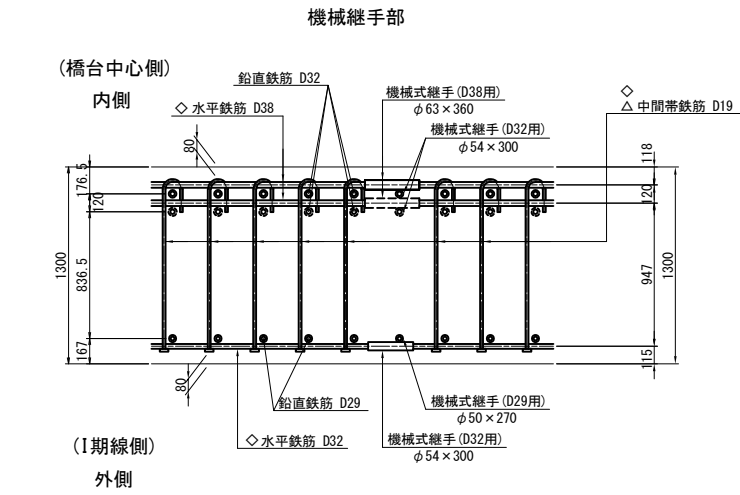
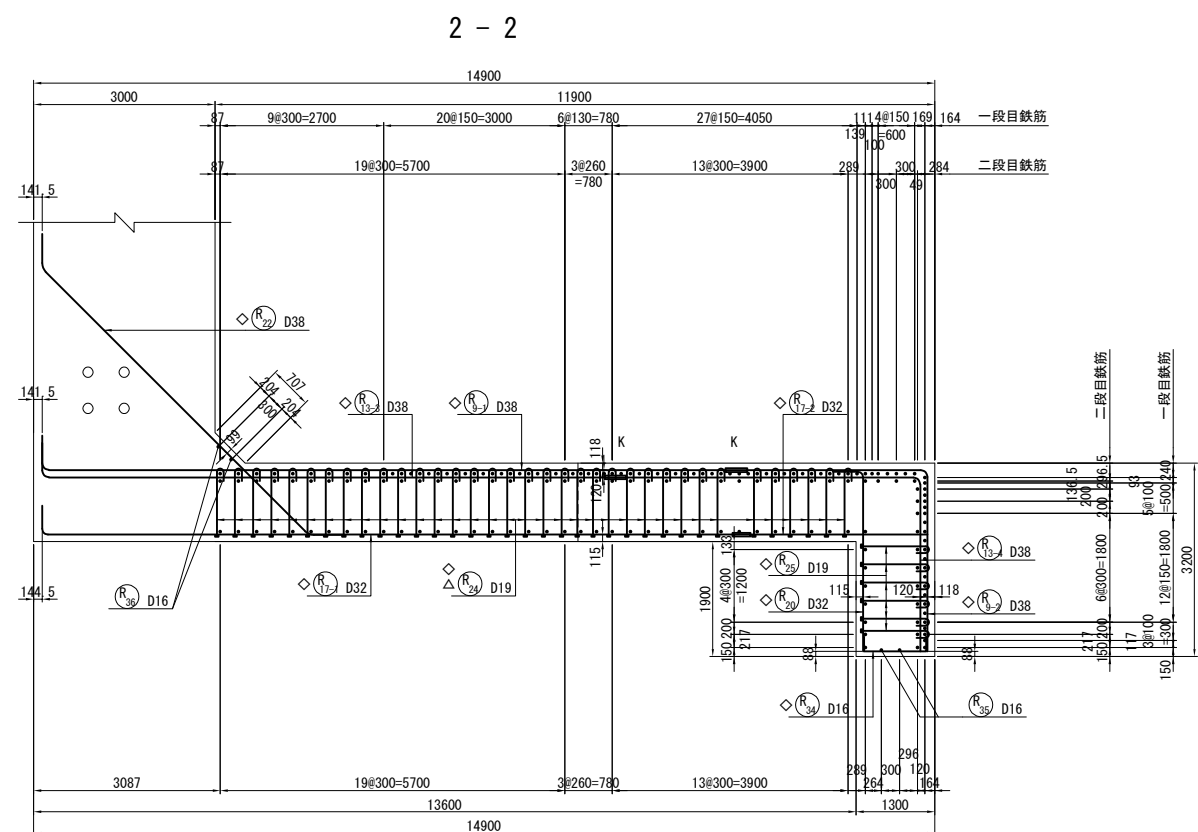


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

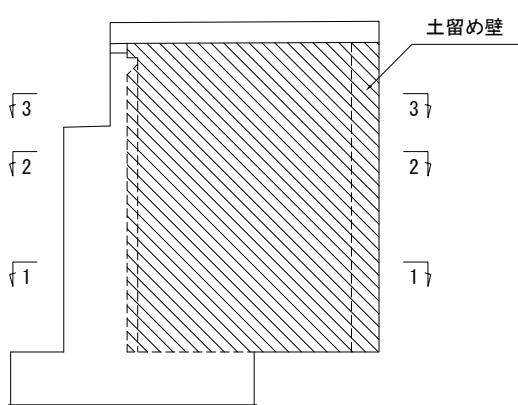
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



土留め壁端部かぶり詳細図 S=1: 50

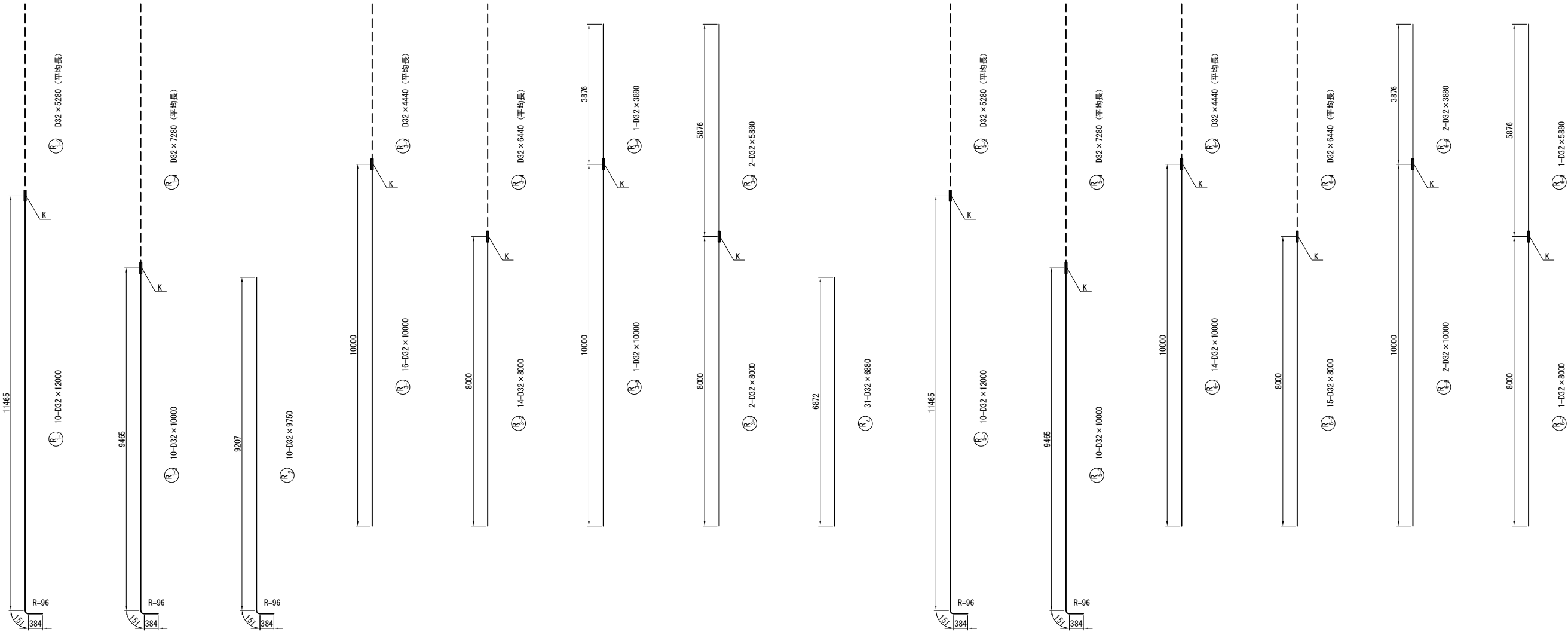


位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵡川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



10-D32 × 5280（平均長）				
記 号	径	本数	a	L
1	D32	1	5259	5260
2	D32	1	5262	5260
3	D32	1	5265	5270
4	D32	1	5268	5270
5	D32	1	5271	5270
6	D32	1	5274	5270
7	D32	1	5277	5280
8	D32	1	5280	5280
9	D32	1	5282	5280
10	D32	1	5285	5290
平均長		10		5273

10-D32 × 7280（平均長）				
記 号	径	本数	a	L
1	D32	1	7261	7260
2	D32	1	7264	7260
3	D32	1	7267	7270
4	D32	1	7269	7270
5	D32	1	7272	7270
6	D32	1	7275	7280
7	D32	1	7278	7280
8	D32	1	7281	7280
9	D32	1	7284	7280
10	D32	1	7287	7290
平均長		10		7274

16-D32 × 4440（平均長）				
記 号	径	本数	a	L
1	D32	1	4416	4420
2	D32	1	4421	4420
3	D32	1	4423	4420
4	D32	1	4426	4430
5	D32	1	4429	4430
6	D32	1	4432	4430
7	D32	1	4435	4440
8	D32	1	4438	4440
9	D32	1	4441	4440
10	D32	1	4443	4440
11	D32	1	4446	4450
12	D32	5	4446	4450
平均長		16		4438

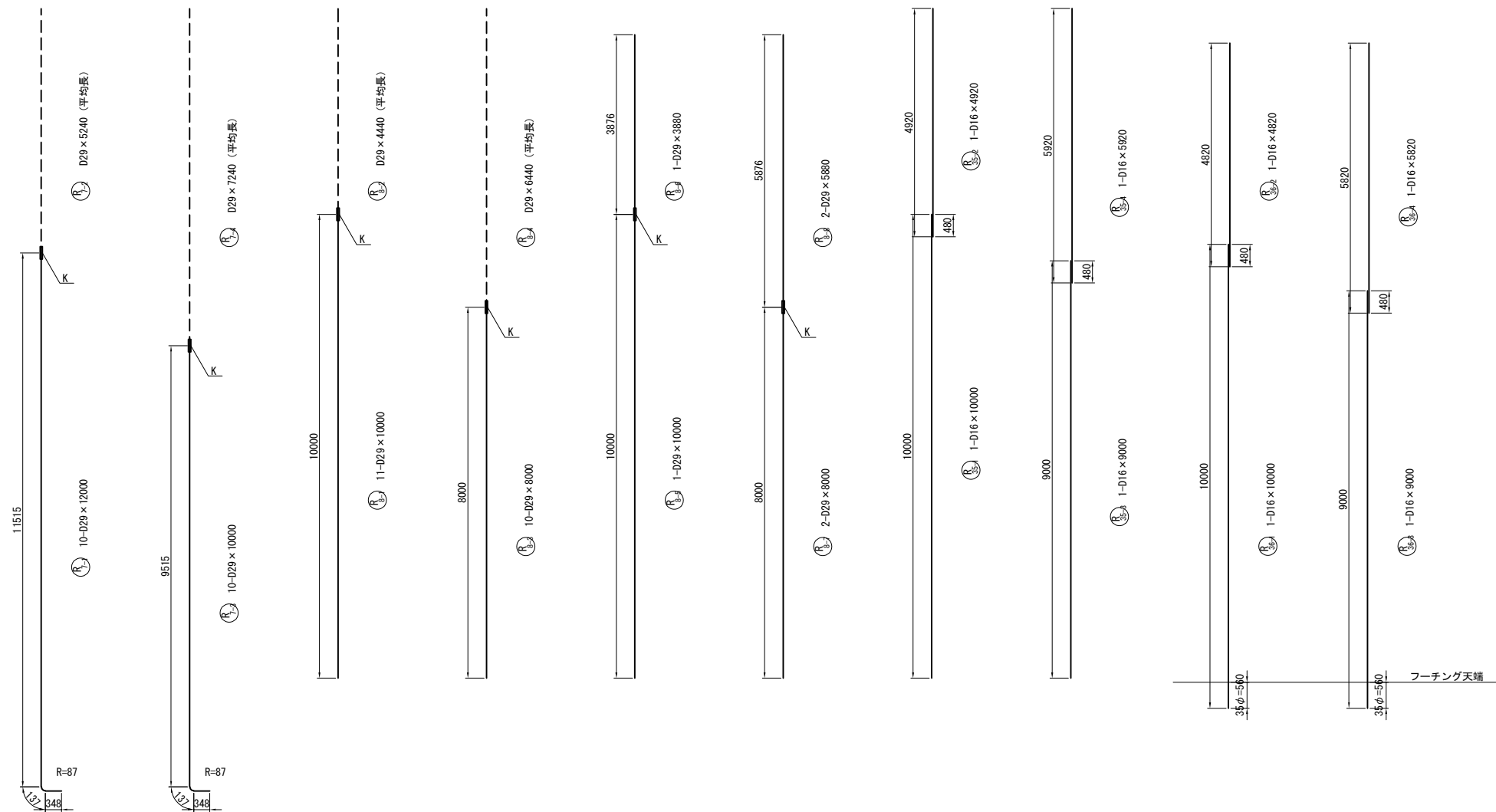
14-D32 × 6440（平均長）				
記 号	径	本数	a	L
1	D32	1	6416	6420
2	D32	1	6422	6420
3	D32	1	6425	6430
4	D32	1	6428	6430
5	D32	1	6431	6430
6	D32	1	6433	6430
7	D32	1	6436	6440
8	D32	1	6439	6440
9	D32	1	6442	6440
10	D32	1	6445	6450
11	D32	4	6446	6450
平均長		14		6438

10-D32 × 5280（平均長）				
記 号	径	本数	a	L
1	D32	1	5261	5260
2	D32	1	5263	5260
3	D32	1	5266	5270
4	D32	1	5269	5270
5	D32	1	5272	5270
6	D32	1	5275	5280
7	D32	1	5278	5280
8	D32	1	5280	5280
9	D32	1	5283	5280
10	D32	1	5286	5290
平均長		10		5274

10-D32 × 7280（平均長）				
記 号	径	本数	a	L
1	D32	1	7259	7260
2	D32	1	7262	7260
3	D32	1	7265	7270
4	D32	1	7267	7270
5	D32	1	7270	7270
6	D32	1	7273	7270
7	D32	1	7276	7280
8	D32	1	7279	7280
9	D32	1	7282	7280
10	D32	1	7285	7290
平均長		10		7273

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 2 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



14-D32×4440（平均長）					
記 号	径	本数	a	L	
1	D32	1	4416	4420	
2	D32	1	4422	4420	
3	D32	1	4425	4430	
4	D32	1	4428	4430	
5	D32	1	4431	4430	
6	D32	1	4433	4430	
7	D32	1	4436	4440	
8	D32	1	4439	4440	
9	D32	1	4442	4440	
10	D32	1	4445	4450	
11	D32	4	4446	4450	
平均長		14		4438	

15-D32×6440（平均長）					
記 号	径	本数	a	L	
1	D32	1	6416	6420	
2	D32	1	6421	6420	
3	D32	1	6423	6420	
4	D32	1	6426	6430	
5	D32	1	6429	6430	
6	D32	1	6432	6430	
7	D32	1	6435	6440	
8	D32	1	6438	6440	
9	D32	1	6441	6440	
10	D32	1	6443	6440	
11	D32	5	6446	6450	
平均長		15		6437	

10-D29×5240（平均長）					
記 号	径	本数	a	L	
1	D29	1	5220	5220	
2	D29	1	5222	5220	
3	D29	1	5225	5230	
4	D29	1	5228	5230	
5	D29	1	5231	5230	
6	D29	1	5234	5230	
7	D29	1	5237	5240	
8	D29	1	5240	5240	
9	D29	1	5242	5240	
10	D29	1	5245	5250	
平均長		10		5233	

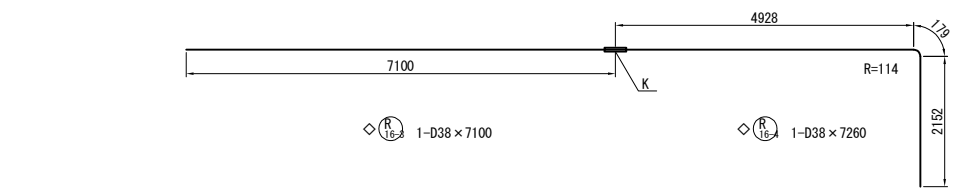
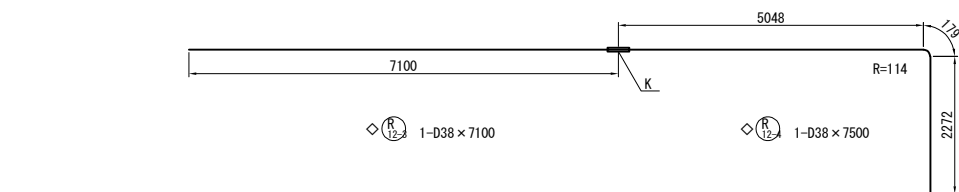
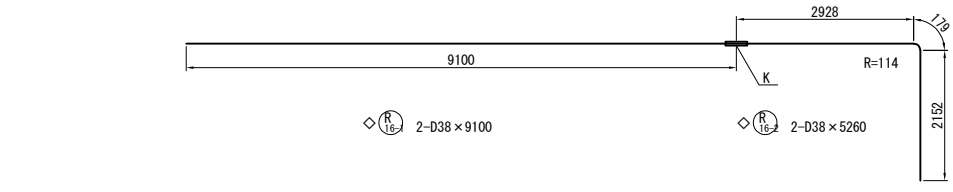
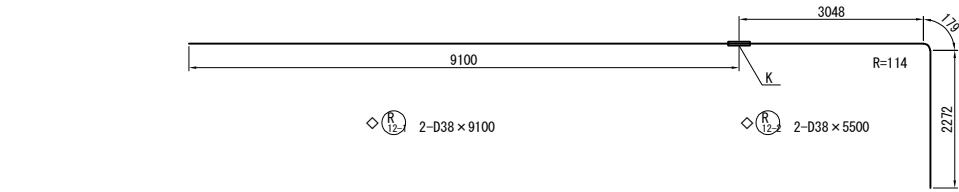
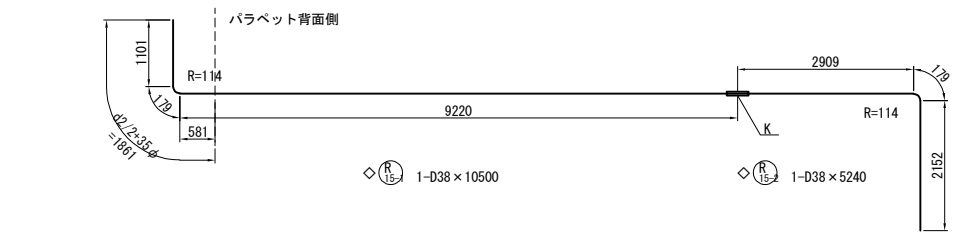
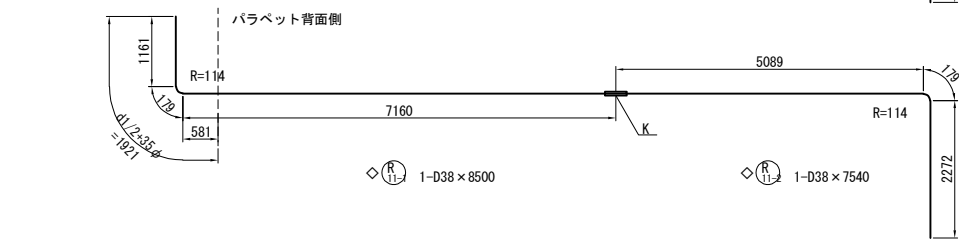
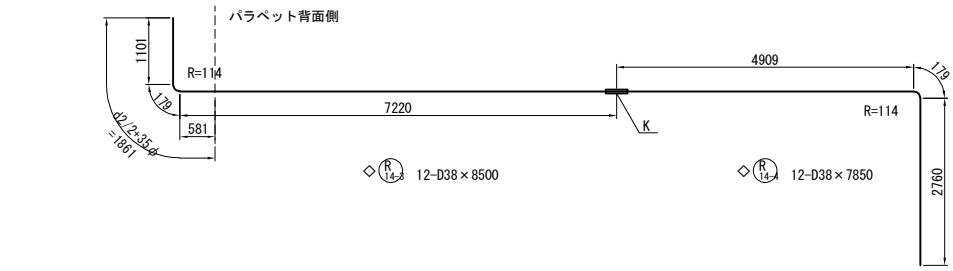
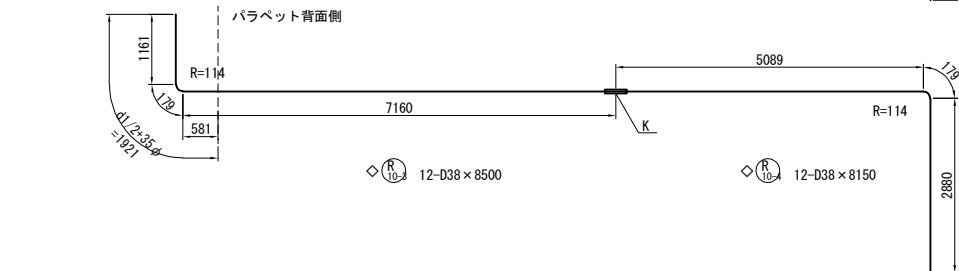
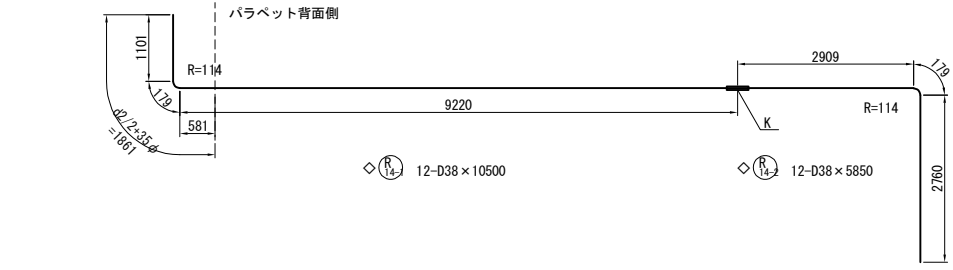
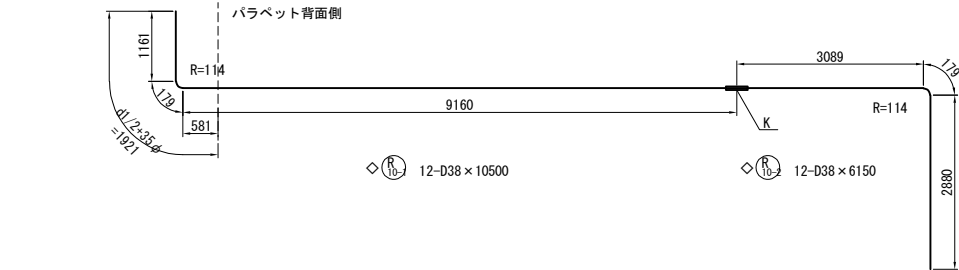
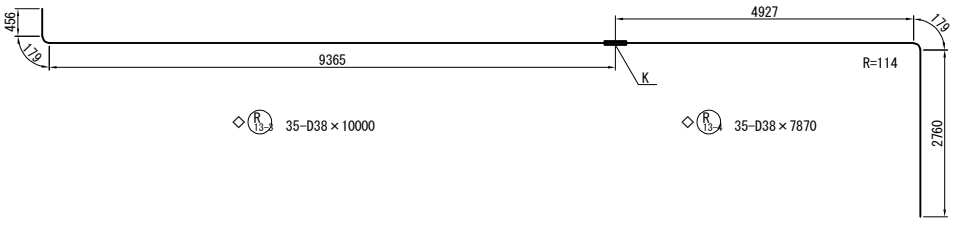
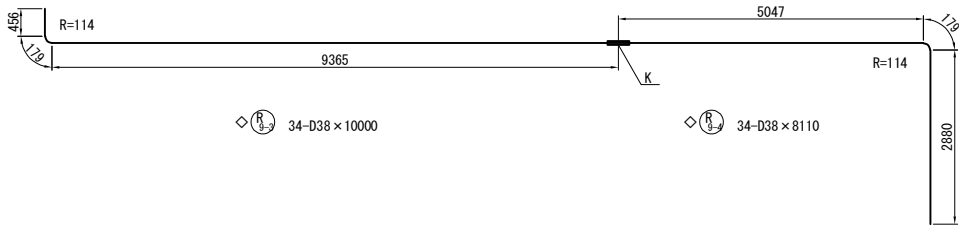
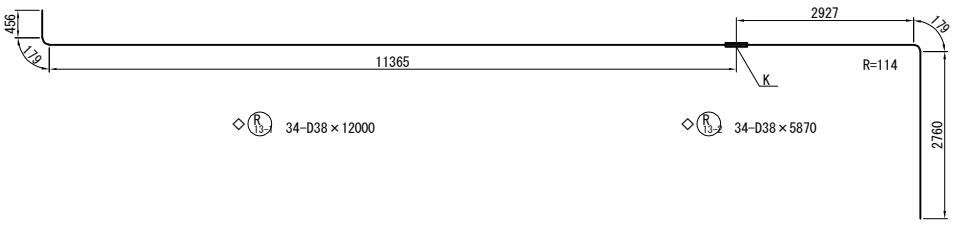
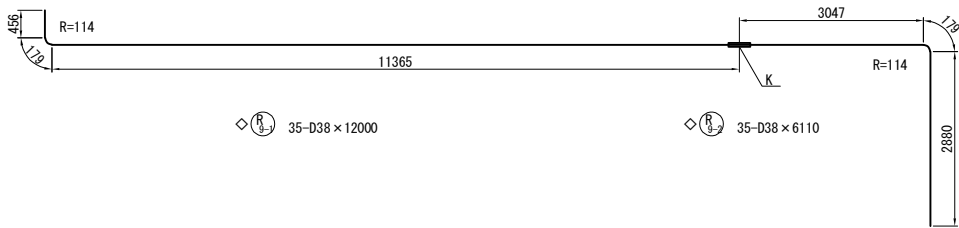
10-D29×7240（平均長）					
記 号	径	本数	a	L	
1	D29	1	7221	7220	
2	D29	1	7224	7220	
3	D29	1	7227	7230	
4	D29	1	7229	7230	
5	D29	1	7232	7230	
6	D29	1	7235	7240	
7	D29	1	7238	7240	
8	D29	1	7241	7240	
9	D29	1	7244	7240	
10	D29	1	7247	7250	
平均長		10		7234	

11-D29×4440（平均長）					
記 号	径	本数	a	L	
1	D29	1	4418	4420	
2	D29	1	4421	4420	
3	D29	1	4423	4420	
4	D29	1	4426	4430	
5	D29	1	4429	4430	
6	D29	1	4432	4430	
7	D29	1	4435	4440	
8	D29	1	4438	4440	
9	D29	3	4441	4440	
平均長		11		4431	

10-D29×6440（平均長）					
記 号	径	本数	a	L	
1	D29	1	6418	6420	
2	D29	1	6421	6420	
3	D29	1	6423	6420	
4	D29	1	6426	6430	
5	D29	1	6429	6430	
6	D29	1	6432	6430	
7	D29	1	6435	6440	
8	D29	1	6438	6440	
9	D29	2	6441	6440	
平均長		10		6431	

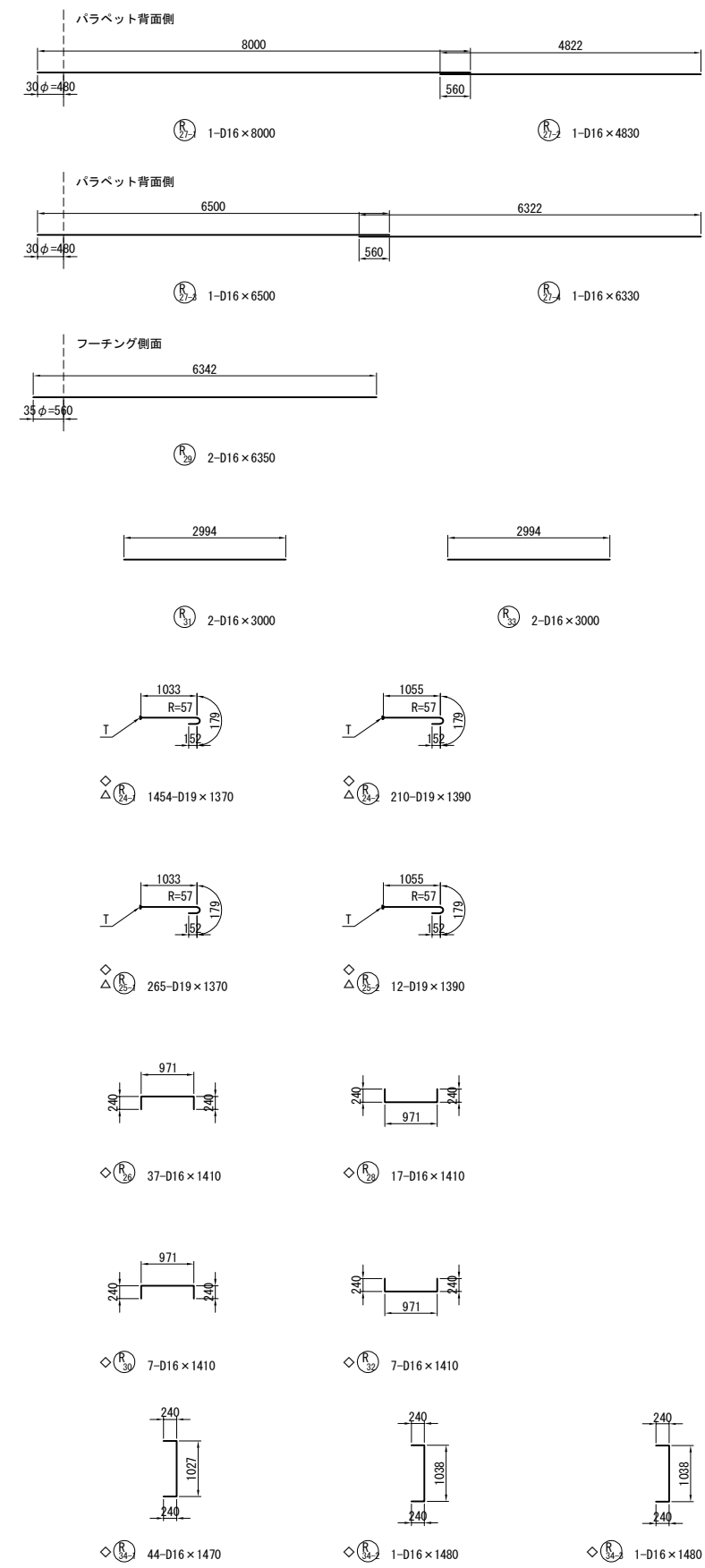
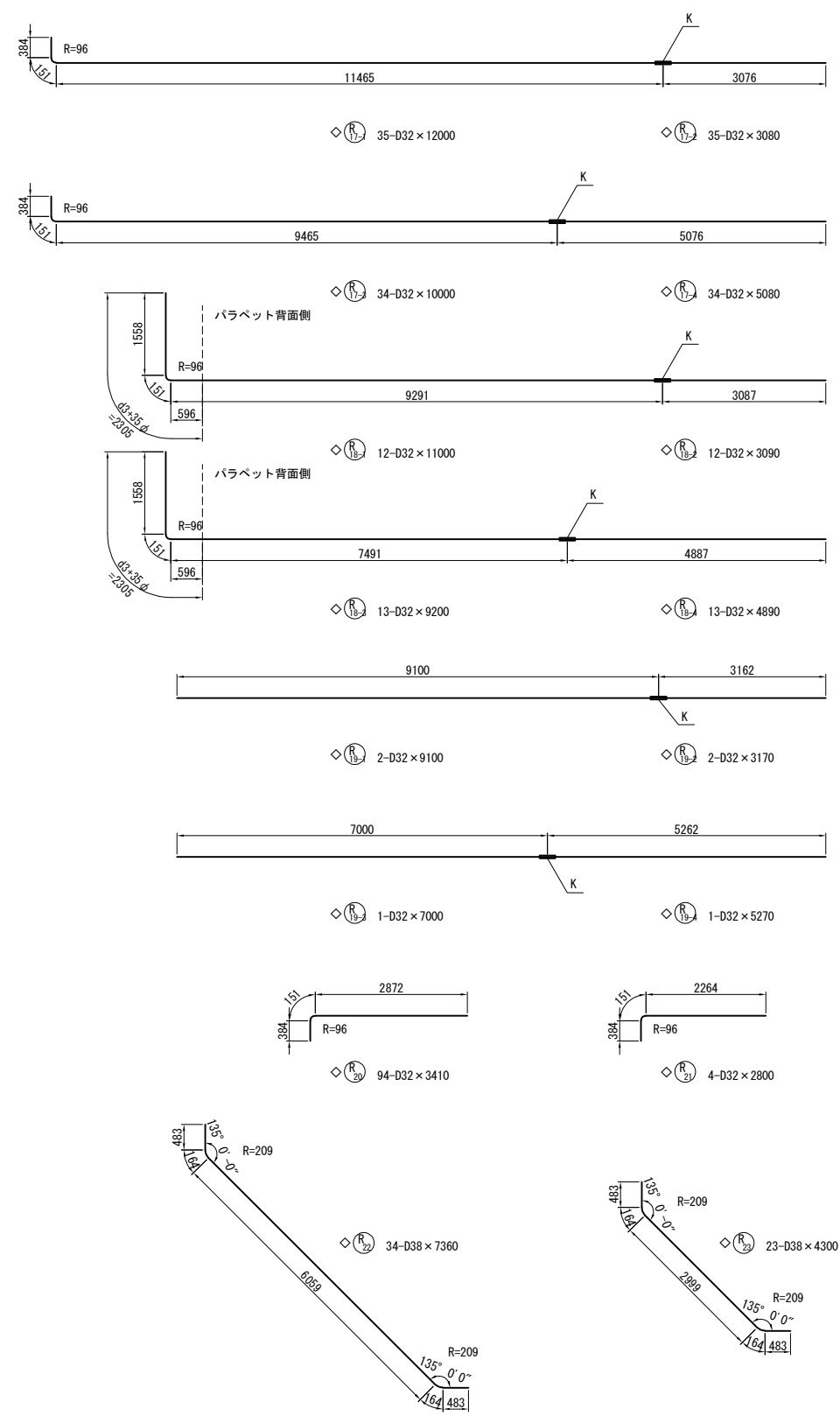
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 2 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

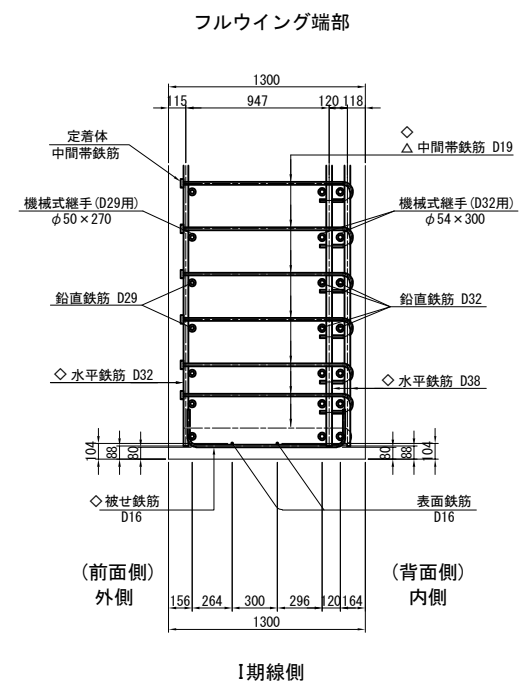


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 2 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



土留め壁端部かぶり詳細図 S=1:50



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 2 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表（下部工施工）

	種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要	
◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇	P	1	D35	5050	98	7.51	37.9	3714	平均長
		2	D35	4760	57	7.51	35.7	2035	平均長
		3	D35	4500	11	7.51	33.8	372	
		4	D22	11230	23	3.04	34.1	784	—
		5	D38	3000	11	8.95	26.9	296	
		6	D35	3000	12	7.51	22.5	270	
		7	D38	4500	12	8.95	40.3	484	
		8-1	D22	12000	12	3.04	36.5	438	—
		8-2	D22	5020	12	3.04	15.3	184	—
		9-1	D22	910	36	3.04	2.77	100	C (36)
		9-2	D22	890	114	3.04	2.71	309	C (114)
		9-3	D22	910	37	3.04	2.77	102	C (37)
		10	D16	940	57	1.56	1.47	84	—
		11-1	D16	12000	1	1.56	18.7	19	—
		11-2	D16	4730	1	1.56	7.38	7	—
◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇		12	D16	3850	1	1.56	6.01	6	
		13	D16	3830	1	1.56	5.97	6	
		14	D35	5050	6	7.51	37.9	227	平均長
		15	D38	3000	23	8.95	26.9	619	
							10056	kg	
	A	1-1	D51	10000	50	15.9	159	7950	K [50]
		1-2	D51	3240	50	15.9	51.5	2575	K 平均長
		1-3	D51	8000	49	15.9	127	6223	K [49]
		1-4	D51	5240	49	15.9	83.3	4082	K 平均長
		2-1	D51	10000	28	15.9	159	4452	K [28]
		2-2	D51	3250	28	15.9	51.7	1448	K 平均長
		2-3	D51	8000	27	15.9	127	3429	K [27]
		2-4	D51	5250	27	15.9	83.5	2255	K 平均長
		3-1	D32	11830	65	6.23	73.7	4791	
		3-2	D32	8080	65	6.23	50.3	3270	
◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇		4-1	D32	6310	1	6.23	39.3	39	
		4-2	D32	11830	1	6.23	73.7	74	
		5	D32	6950	3	6.23	43.3	130	平均長
		6-1	D32	8080	1	6.23	50.3	50	
		6-2	D32	11830	1	6.23	73.7	74	
		7-1	D32	11830	65	6.23	73.7	4791	
		7-2	D32	8080	65	6.23	50.3	3270	
		8-1	D32	6310	1	6.23	39.3	39	
		8-2	D32	11830	1	6.23	73.7	74	
		9	D32	6950	3	6.23	43.2	130	平均長
		10-1	D32	11830	1	6.23	73.7	74	
		10-2	D32	8080	1	6.23	50.3	50	
		11-1	D32	3230	240	6.23	20.1	4824	(240)
		11-2	D32	3260	15	6.23	20.3	305	(15)
	◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇		12-1	D16	10000	5	1.56	15.6	78
		12-2	D16	2960	5	1.56	4.62	23	
		12-3	D16	8000	4	1.56	12.5	50	
		12-4	D16	4960	4	1.56	7.74	31	
		13-1	D16	10000	5	1.56	15.6	78	
		13-2	D16	3500	5	1.56	5.46	27	
		13-3	D16	8000	4	1.56	12.5	50	
		13-4	D16	5500	4	1.56	8.58	34	
							54770	kg	
H		1	D16	2740	33	1.56	4.27	141	
		2	D16	2740	33	1.56	4.27	141	
		3	D16	3140	12	1.56	4.90	59	
							341	kg	
E		1	D16	2920	47	1.56	4.56	214	
		2-1	D16	12000	5	1.56	18.7	94	—
	2-2	D16	3780	5	1.56	5.90	30	—	
	3	D22	520	18	3.04	1.58	28		
	4	D13	1590	18	0.995	1.58	28		
						394	kg		
Y	1	D16	500	32	1.56	0.780	25	—	
						25	kg		
J	1	D13	1670	104	0.995	1.66	173		
	2	D16	2180	2	1.56	3.40	7		
	3	D16	2410	2	1.56	3.76	8		
	4	D16	1600	2	1.56	2.50	5		
						193	kg		

	種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要	
△ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △	F	1	D32	9220	109	6.23	57.4	6257	└
		2	D29	7450	109	5.04	37.5	4088	└
		3	D35	9200	109	7.51	69.1	7532	└
		4	D29	3800	55	5.04	19.2	1056	└
		5	D35	9100	55	7.51	68.3	3757	└
		6-1	D29	10000	24	5.04	50.4	1210	K└ [24]
		6-2	D29	6240	24	5.04	31.4	754	K└
		7-1	D25	12000	15	3.98	47.8	717	└
		7-2	D25	5120	15	3.98	20.4	306	└
		8-1	D22	12000	41	3.04	36.5	1497	└
		8-2	D22	5010	41	3.04	15.2	623	└
		9-1	D19	12000	10	2.25	27.0	270	└
		9-2	D19	4910	10	2.25	11.0	110	└
		10-1	D22	12000	20	3.04	36.5	730	└
		10-2	D22	5010	20	3.04	15.2	304	└
◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇		11	D22	2620	238	3.04	7.96	1894	C┐ (238)
		12	D16	2540	54	1.56	3.96	214	C┐ (54)
		13	D19	11850	22	2.25	26.7	587	└
		14-1	D19	12000	22	2.25	27.0	594	└
		14-2	D19	4890	22	2.25	11.0	242	└
		15	D16	2750	18	1.56	4.29	77	└
							32819	kg	
	S	1-1	D16	12000	5	1.56	18.7	94	└
		1-2	D16	5870	5	1.56	9.16	46	└
		1-3	D16	5870	5	1.56	9.16	46	└
		1-4	D16	12000	5	1.56	18.7	94	└
		2	D16	3680	57	1.56	5.74	327	└
		3	D16	2990	40	1.56	4.66	186	└ (40)
							793	kg	
	◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇	L	1-1	D38	12000	10	8.95	107	1070
		1-2	D38	4850	10	8.95	43.4	434	K└ 平均長
		1-3	D38	10000	10	8.95	89.5	895	K└ [10]
		1-4	D38	6840	10	8.95	61.2	612	K└ 平均長
		2	D38	10010	10	8.95	89.6	896	└
		3-1	D32	12000	10	6.23	74.8	748	K└ [10]
		3-2	D32	4770	10	6.23	29.7	297	K└ 平均長
		3-3	D32	10000	10	6.23	62.3	623	K└ [10]
		3-4	D32	6770	10	6.23	42.2	422	K└ 平均長
		4	D35	9250	58	7.51	69.5	4031	└
		5	D35	7580	18	7.51	56.9	1024	└
		6	D35	8590	5	7.51	64.5	323	└ 平均長
		7	D35	9580	1	7.51	71.9	72	└
		8	D35	6400	2	7.51	48.1	96	└
		9	D35	8400	1	7.51	63.1	63	└
◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇		10	D35	8400	1	7.51	63.1	63	└
		11	D29	9170	34	5.04	46.2	1571	└
		12	D29	7010	6	5.04	35.3	212	└
		13	D29	8010	5	5.04	40.4	202	└ 平均長
		14	D29	9010	1	5.04	45.4	45	└
		15	D29	8400	1	5.04	42.3	42	└
		16	D29	8400	1	5.04	42.3	42	└
		17	D22	1420	6	3.04	4.32	26	└ 平均長
		18	D19	1420	6	2.25	3.20	19	└ 平均長
		19	D35	6840	32	7.51	51.4	1645	└
		20	D35	3780	22	7.51	28.4	625	└
		21	D22	1130	85	3.04	3.44	292	└ (85)
		22	D13	1170	68	0.995	1.16	79	└
		23	D22	3860	1	3.04	11.7	12	└
		24	D19	3770	1	2.25	8.48	8	└
◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇		25	D16	1160	27	1.56	1.81	49	└
		26	D16	8400	1	1.56	13.1	13	└
		27	D16	1190	45	1.56	1.86	84	└
		28	D16	3710	2	1.56	5.79	12	└
		29-1	D16	12000	1	1.56	18.7	19	└
		29-2	D16	3280	1	1.56	5.12	5	└
		29-3	D16	10000	1	1.56	15.6	16	└
		29-4	D16	5280	1	1.56	8.24	8	└
		30-1	D16	10000	1	1.56	15.6	16	└
		30-2	D16	4270	1	1.56	6.66	7	└
		30-3	D16	9000	1	1.56	14.0	14	└
		30-4	D16	5270	1	1.56	8.22	8	└
		31	D16	1200	1	1.56	1.87	2	└
		32	D16	1200	1	1.56	1.87	2	└
							16744	kg	
◇ ◇ ◇ ◇ ◇	KL	1	D16	2450	17	1.56	3.82	65	└
		2	D16	1390	17	1.56	2.17	37	└
		3	D13	2030	52	0.995	2.02	105	└
		4	D13	1240	52	0.995	1.23	64	└
							271	kg	

鉄筋表（下部工施工）

		種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
◇△	25-1	D19		1370	265	2.25	3.08	816	C (265)
◇△	25-2	D19		1390	12	2.25	3.13	38	C (12)
◇	26	D16		1410	37	1.56	2.20	81	┐
	27-1	D16		8000	1	1.56	12.5	13	—
	27-2	D16		4830	1	1.56	7.53	8	—
	27-3	D16		6500	1	1.56	10.1	10	—
	27-4	D16		6330	1	1.56	9.87	10	—
◇	28	D16		1410	17	1.56	2.20	37	┐
	29	D16		6350	2	1.56	9.91	20	—
◇	30	D16		1410	7	1.56	2.20	15	┐
	31	D16		3000	2	1.56	4.68	9	—
◇	32	D16		1410	7	1.56	2.20	15	┐
	33	D16		3000	2	1.56	4.68	9	—
◇	34-1	D16		1470	44	1.56	2.29	101	┐
◇	34-2	D16		1480	1	1.56	2.31	2	┐
◇	34-3	D16		1480	1	1.56	2.31	2	┐
	35-1	D16		10000	1	1.56	15.6	16	
	35-2	D16		4920	1	1.56	7.68	8	
	35-3	D16		9000	1	1.56	14.0	14	
	35-4	D16		5920	1	1.56	9.24	9	
	36-1	D16		10000	1	1.56	15.6	16	
	36-2	D16		4820	1	1.56	7.52	8	
	36-3	D16		9000	1	1.56	14.0	14	
	36-4	D16		5820	1	1.56	9.08	9	
66403 kg									
◇	KR 1	D16		2450	17	1.56	3.82	65	┐
◇	2	D16		1390	17	1.56	2.17	37	┐
◇	3	D13		2030	83	0.995	2.02	168	┐
◇	4	D13		1240	83	0.995	1.23	102	┐
372 kg									
下部工施工鉄筋質量									
普通鉄筋									
		SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	〔機械継手〕(機械式定着)		
		D51		32414		32414	kg	[154]	
		D41					kg		
		D38	896	3011		3907	kg	[20]	
		D35	17265			17265	kg		
		D32	8194	12224		20418	kg	[125]	
		D29	5144	5440		10584	kg	[68]	
		D25	1023			1023	kg		
		D22	3180		1894	5074	kg	(238)	
		D19	1822			1822	kg		
		D16	1364		214	1578	kg	(54)	
		D13	28			28	kg		
		合 計	38916	53089	2108	94113	kg	[367]	(292)
下部工施工鉄筋質量									
エポキシ樹脂塗装鉄筋									
		SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	〔機械継手〕(機械式定着)		
		D51					kg		
		D41					kg		
		D38	4526	30344		34870	kg	[194]	
		D35	8584			8584	kg		
		D32	18919	8907	5129	32955	kg	[97]	(255)
		D29	2114			2114	kg		
		D25					kg		
		D22	1738		511	2249	kg	(272)	
		D19	8		5989	5997	kg	(1941)	
		D16	1608			1608	kg	(40)	
		D13	691			691	kg		
		合 計	38188	39251	11629	89068	kg	[291]	(2508)
下部工施工鉄筋総質量									
総合計									
		SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	〔機械継手〕(機械式定着)		
		D51		32414		32414	kg	[154]	
		D41					kg		
		D38	5422	33355		38777	kg	[214]	
		D35	25849			25849	kg		
		D32	27113	21131	5129	53373	kg	[222]	(255)
		D29	7258	5440		12698	kg	[68]	
		D25	1023			1023	kg		
		D22	4918		2405	7323	kg	(510)	
		D19	1830		5989	7819	kg	(1941)	
		D16	2972		214	3186	kg	(94)	
		D13	719			719	kg		
		合 計	77104	92340	13737	183181	kg	[658]	(2800)

鉄筋加工寸法表 (SD345)

主筋
せん断補強筋

鋭角フック

半円形フック

直角フック

$$\Delta L = 2L - a$$

	径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
				a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
主筋	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
	D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12
せん断補強筋及び帯鉄筋	径	R=2.5φ		$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$			
				a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL		
	D13	32.5		77	80	68	45	51	14		
	D16	40		94	99	84	55	63	17		
	D19	47.5		112	117	99	66	75	20		
	D22	55		130	136	115	76	86	24		
	D25	62.5		147	155	131	86	98	27		
	D29	72.5		171	179	152	99	114	31		
フック	径	R=3.0φ		鋭角フック		半円形フック		直角フック			
				a		a		a		ΔL	
	D13	39		92		123		61		17	
	D16	48		113		151		75		21	
	D19	57		134		179		89		25	
	D22	66		156		207		104		28	
	D25	75		177		236		118		32	
	D29	87		205		273		137		37	

機械式鉄筋定着工法数量表(箇所数)-下部工施工(普通鉄筋)

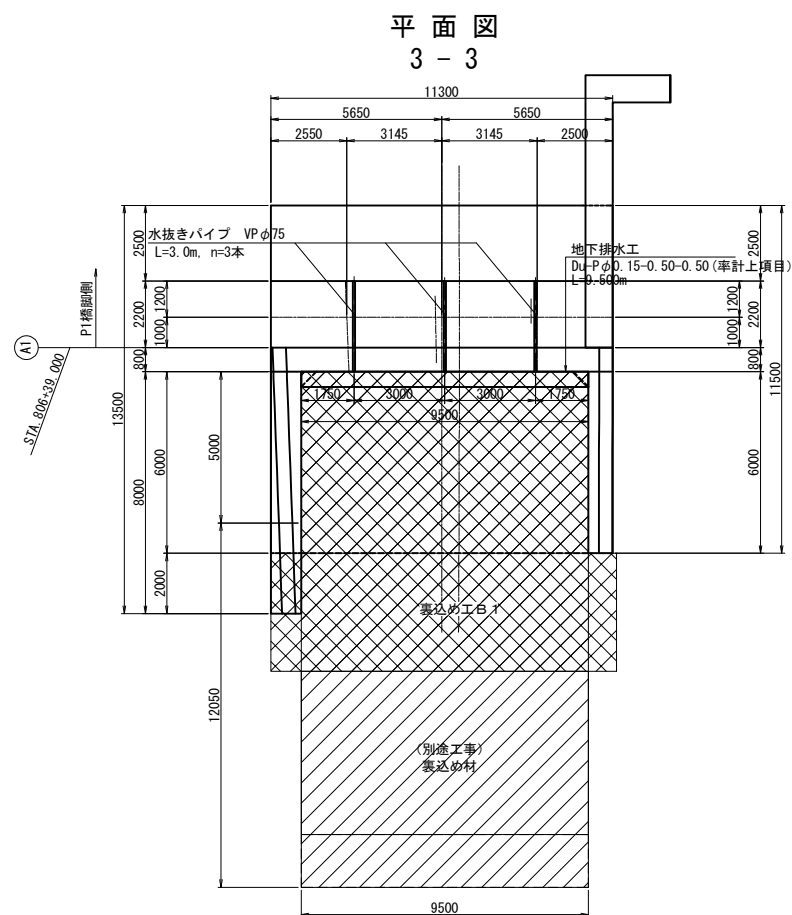
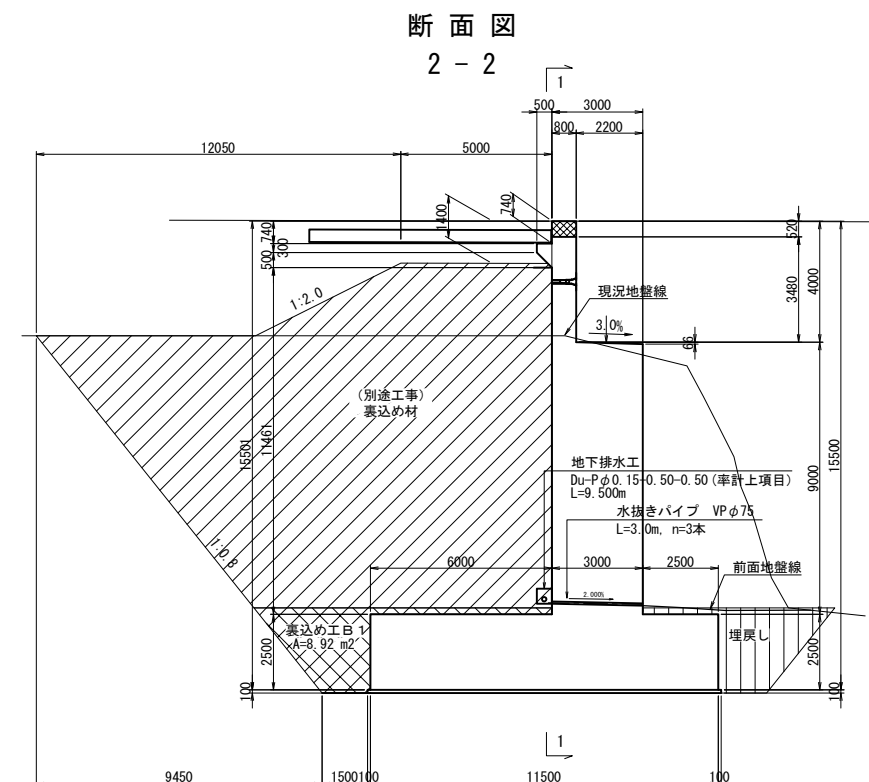
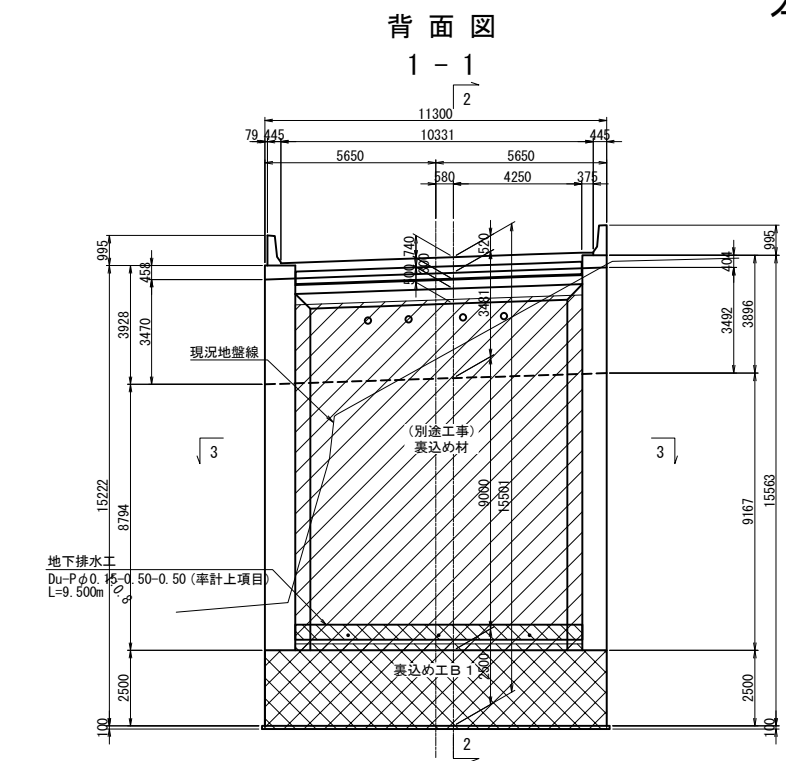
鉄筋径	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m	6m<L≤7m	7m<L≤8m	8m<L≤9m	9m<L≤10m
D13										
D16			54							
D19										
D22			238							
D25										
D29										
D32										
小計			292							
合計										292

機械式鉄筋定着工法数量表(箇所数)-下部工施工(エポキシ樹脂塗装鉄筋)

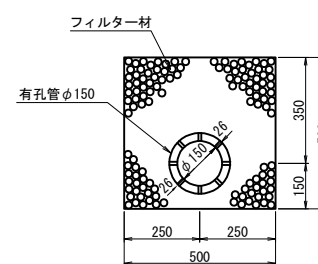
鉄筋径	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m	6m<L≤7m	7m<L≤8m	8m<L≤9m	9m<L≤10m
D13										
D16			40							
D19		1941								
D22	187	85								
D25										
D29										
D32				255						
小計	187	2026	40	255						
合計										2508

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
- 注7) ()内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。
- 注8) []内は機械継手箇所数を示す。
- 注9) Kは機械継手を示す。
- 注10) Cは機械式鉄筋定着工法を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第一橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 2 6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



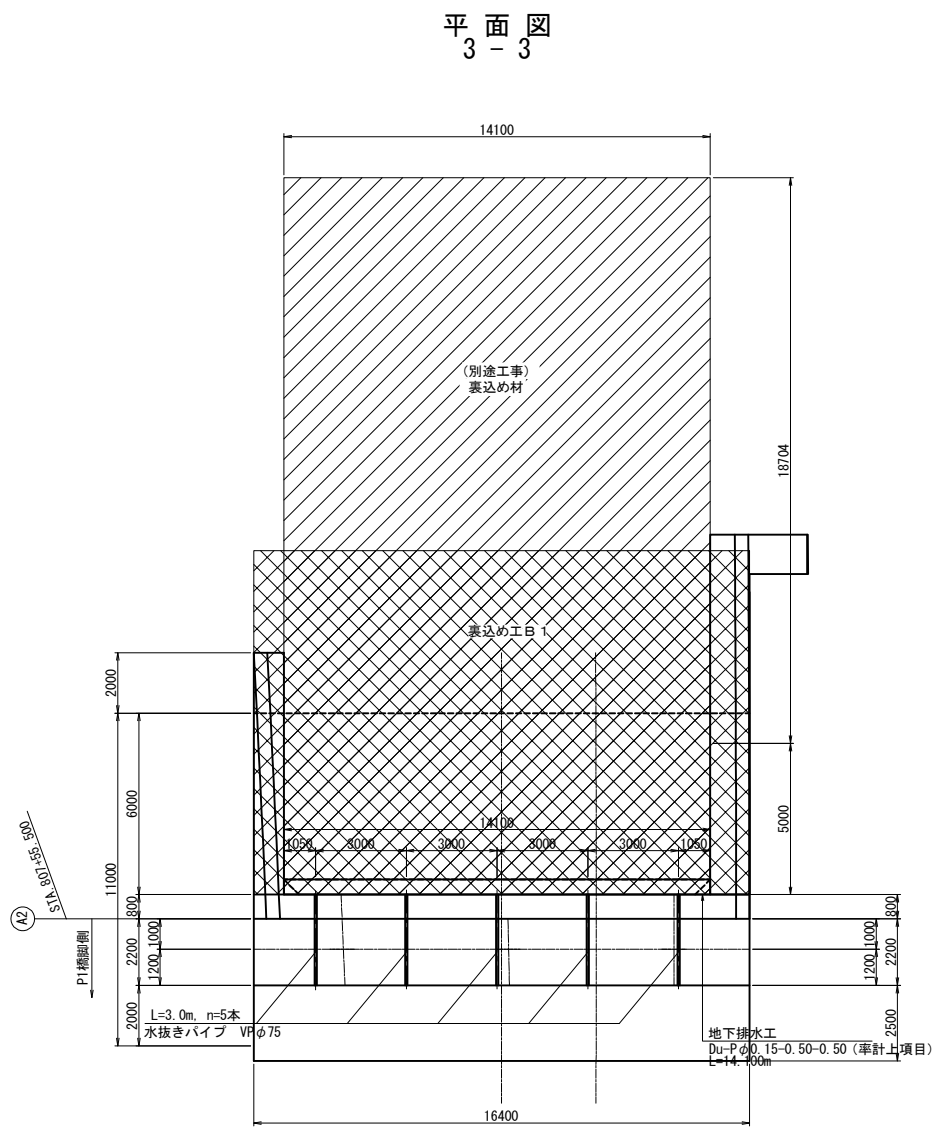
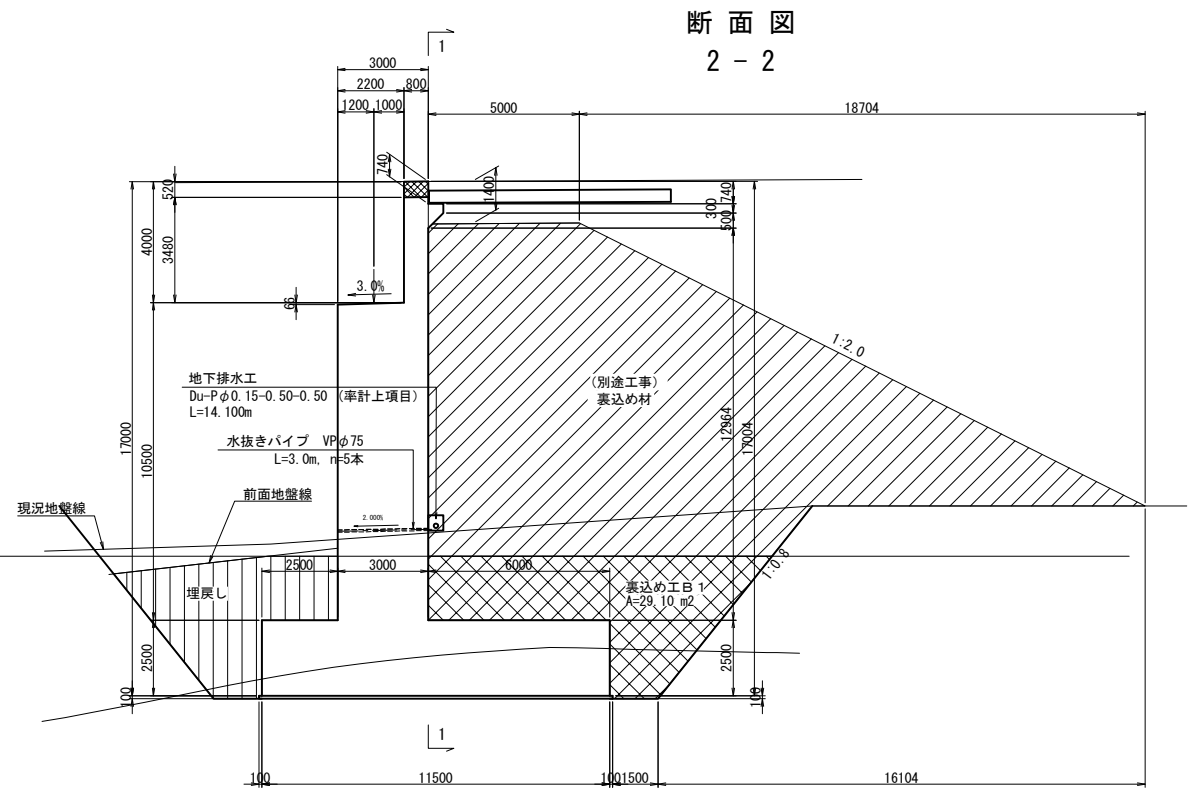
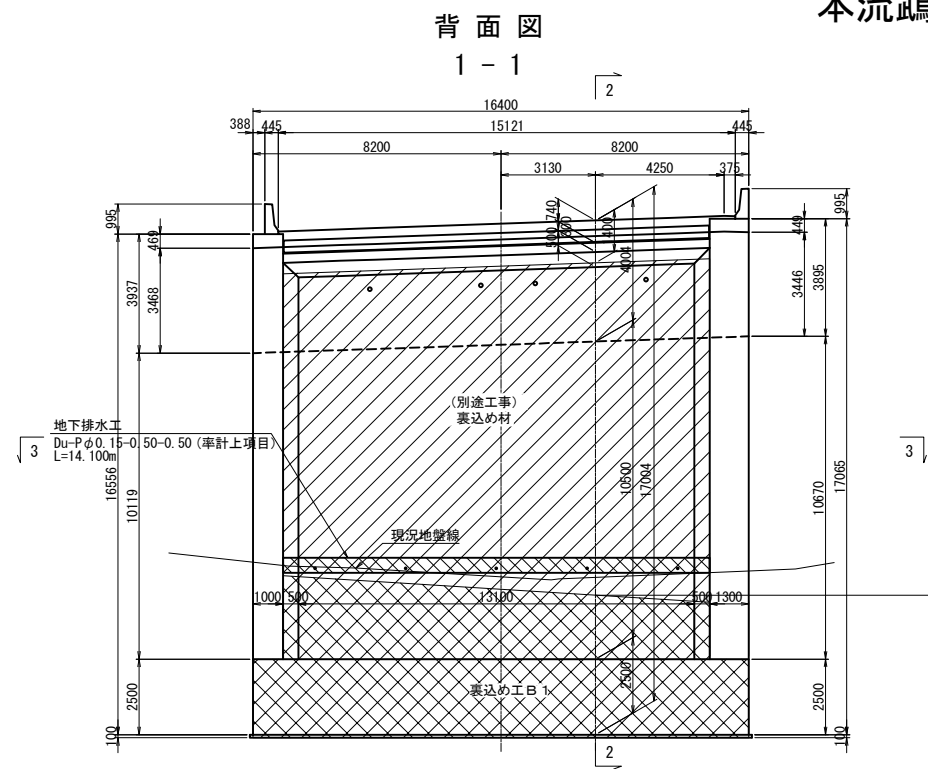
地下排水工詳細図 S=1/25



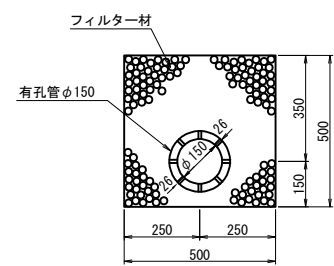
裏込め工及び地下排水工

項目	規格	単位	数量	備考
構造物裏込め工	裏込め工B 1	m ³	98.5	
地下排水工	Du-Pφ0.15-0.50-0.50	m	9.5	率計上項目
水抜きパイプ	VPφ75	m	9.0	

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 1 橋台裏込め工図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



地下排水工詳細図 S=1/25



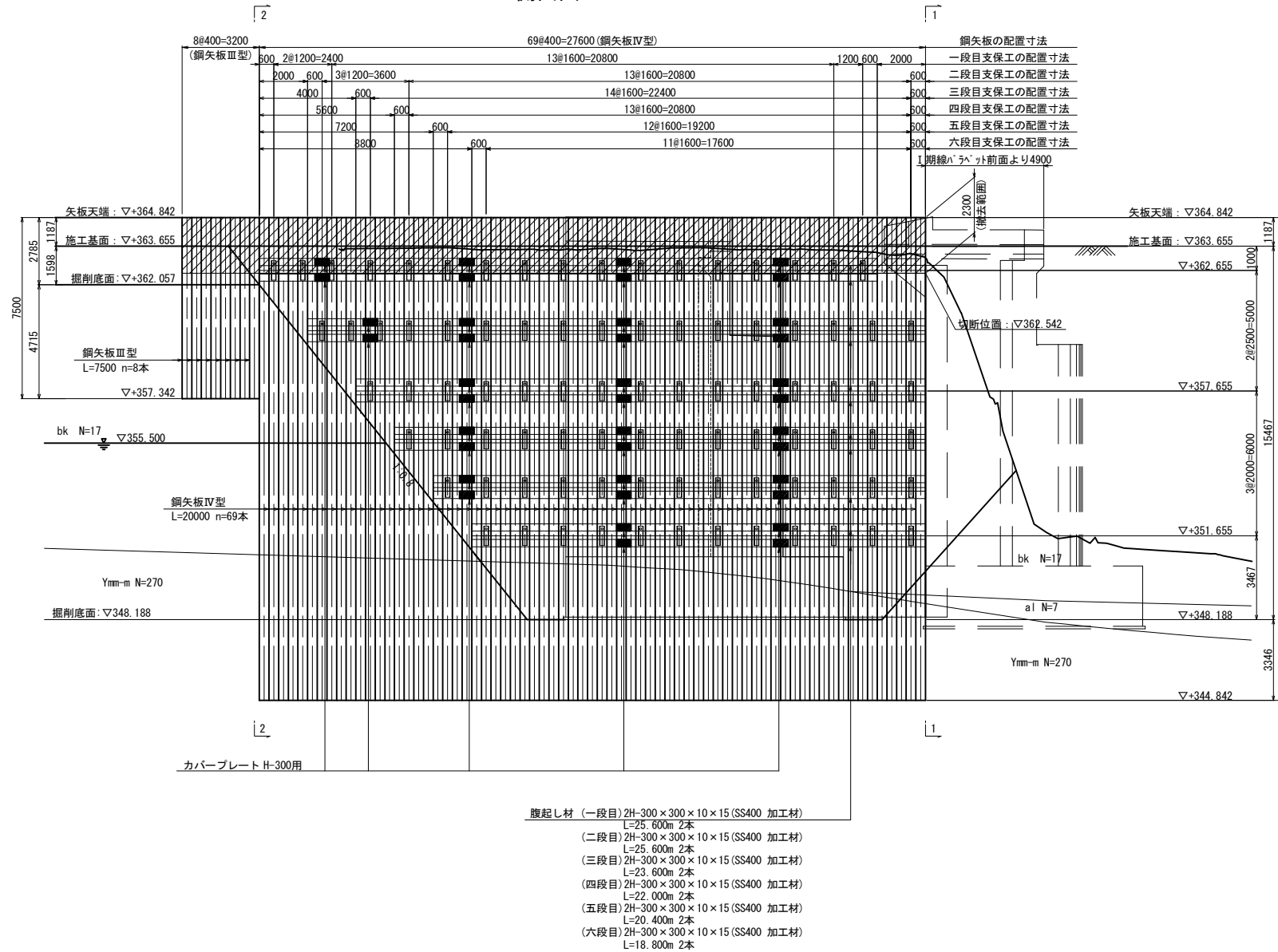
裏込め工及び地下排水工

項目	規格	単位	数量	備考
構造物裏込め工	裏込め工B 1	m ³	447.6	下部工施工
地下排水工	Du-P φ0.15-0.50-0.50	m	14.1	率計上項目
水抜きパイプ	VP φ75	m	15.0	

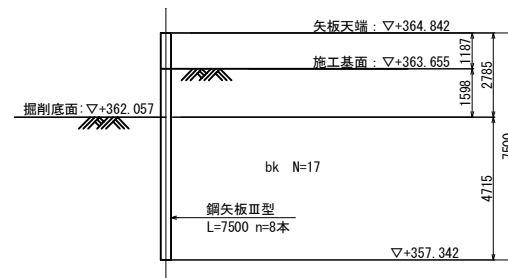
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 2 橋台裏込め工図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

構造物掘削 特殊部 B 1

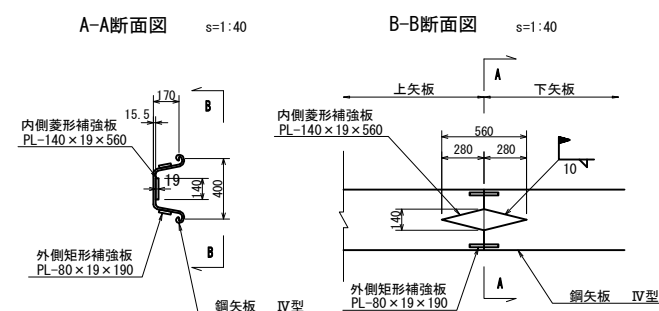
側面図



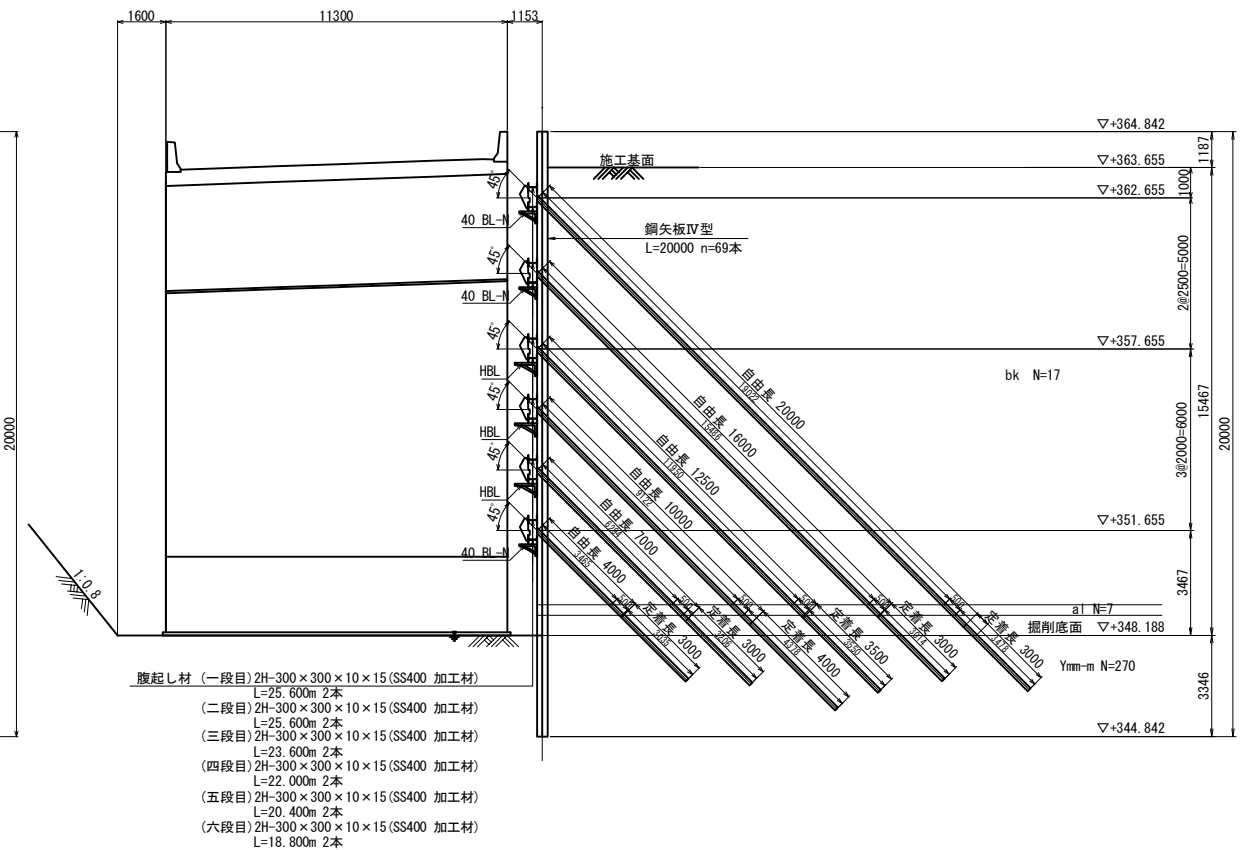
断面図
(2 - 2)



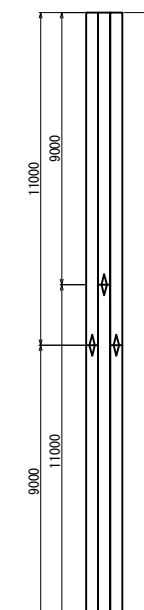
鋼矢板取付け詳細図



断面图
(1 - 1)



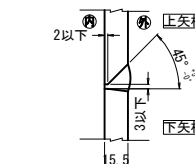
継手配置図 S=1:200



開先加工範圍圖 s=1:40



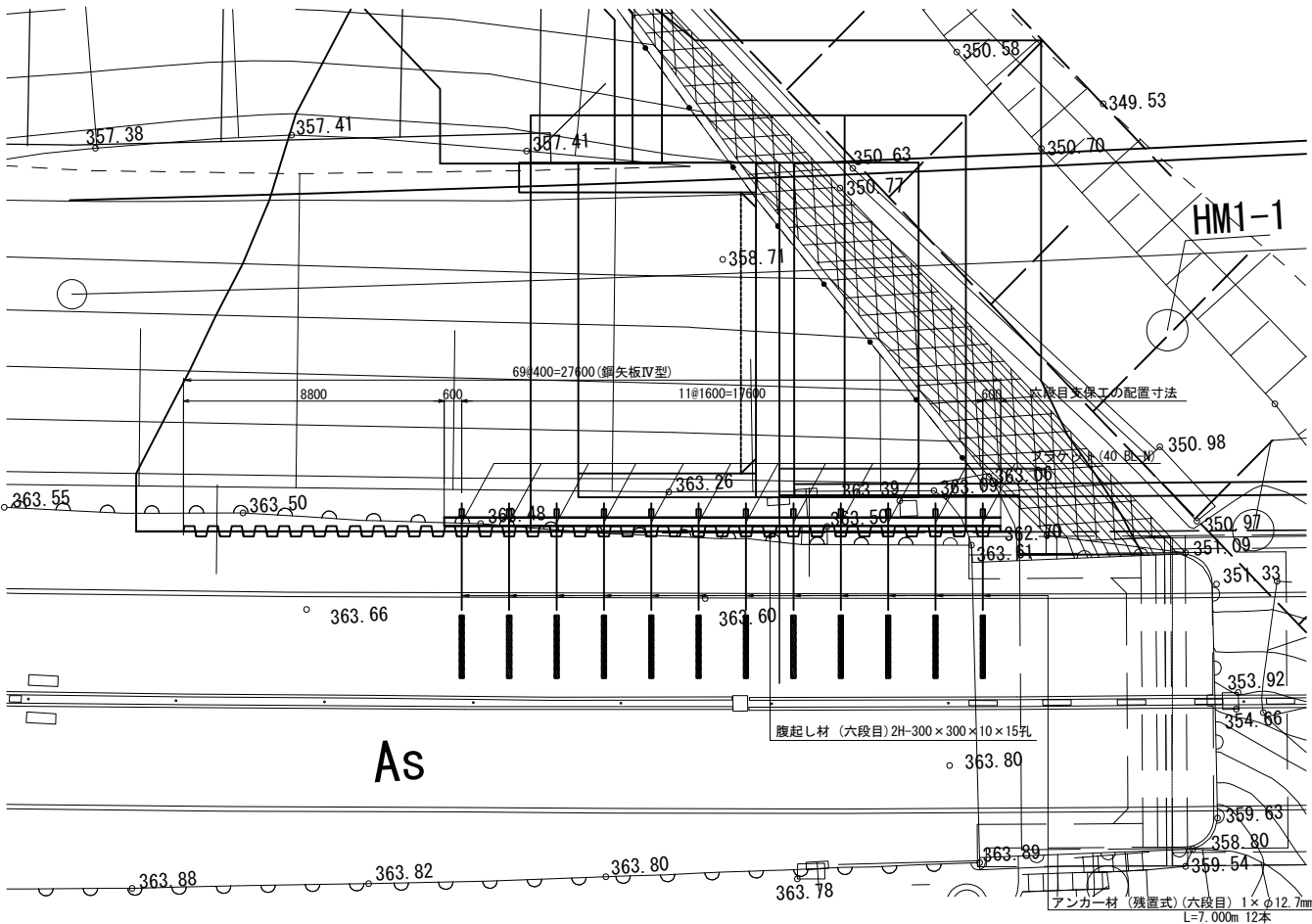
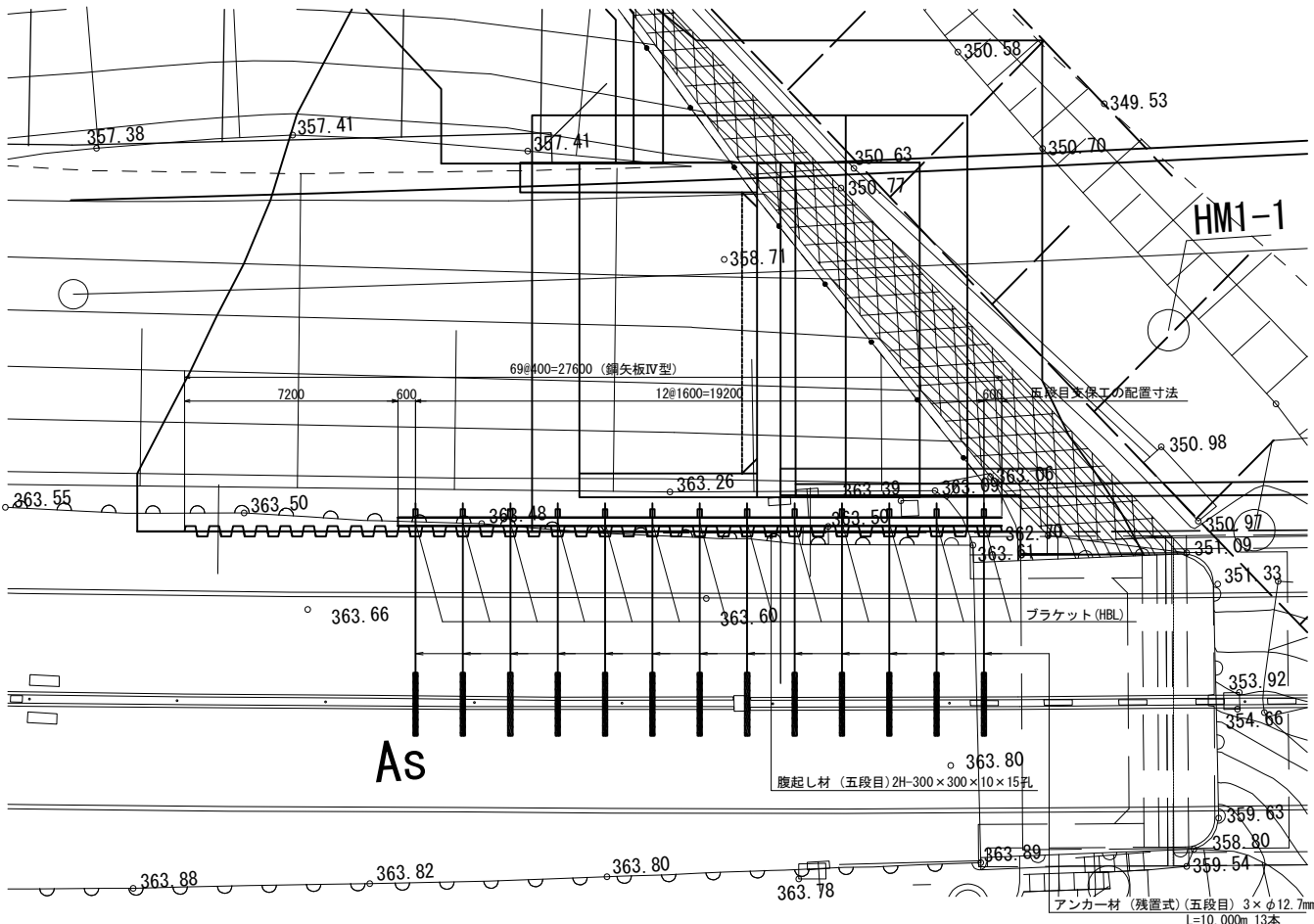
開先形状図 s=1



道東自動車道 占冠地区下郷工工事			
図面の種類	本流瀧川橋第一橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

平面図(五段目)

平面図(六段目)



材 料 表		1基当り	
項 目	細 目	単位	数量
腹起し	L=25600	本	2
	L=25600	本	2
	L=23600	本	2
	L=22000	本	2
	L=20400	本	2
	L=18800	本	2
ブラケット	L=65×65×6	本	46
	L=75×75×9	L=2000	42
台 座	鋼製	組	88
カバープレート	H-300用	組	76

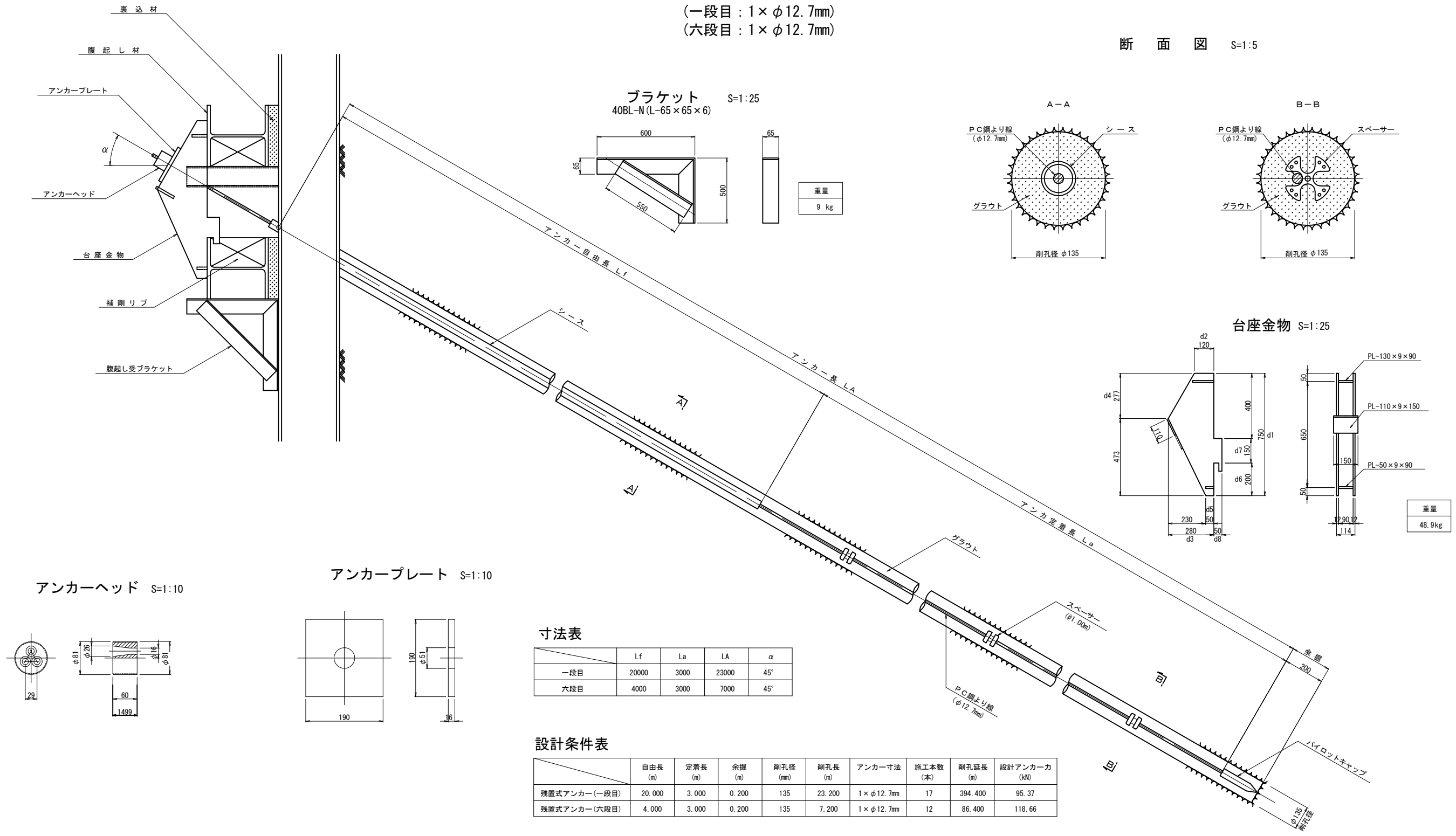
数 量 表						
工 種		項目		単位	合 計	摘 要
鋼矢板Ⅳ型 鋼矢板Ⅲ型	最大 地盤 N値	270	9.0m	枚	69	鋼矢板Ⅳ型
			11.0m	枚	69	鋼矢板Ⅳ型
		17	7.5m	枚	8	鋼矢板Ⅲ型
			20.0m	枚	69	継施工：1
	打込み	7.5m	枚	8		
ガス切断	鋼矢板Ⅲ型	L=2.3m	箇所	8		
	鋼矢板Ⅳ型	L=2.3m	箇所	69		
スクラップ	鋼矢板Ⅲ型	L=2.3m	t	1.104		
	鋼矢板Ⅳ型	L=2.3m	t	12.077		
継施工	PL-140×19×560	t	0.404			
	PL-80×19×190	t	0.313			
	腹起し					
ブラケット	H-300×300×10×15孔	t	27.200			
	L-65×65×6	t	0.414			
	L-75×75×9	t	0.840			
	1×φ12.7mm	23.0m	本	17		
	2×φ12.7mm	19.0m	本	17		
	3×φ12.7mm	16.0m	本	15		
	4×φ12.7mm	14.0m	本	14		
	3×φ12.7mm	10.0m	本	13		
	1×φ12.7mm	7.0m	本	12		
台 座	鋼製	t	4.303			
カバープレート	H-300用	t	1.292			

数 量 表					
工 種	項目	單位	合 計	摘 要	
削孔長 (φ 135)	硬質土	19.5m	本	17	
		16.0m	本	17	
		12.5m	本	15	
		9.6m	本	14	
		6.8m	本	13	
	軟 岩	4.0m	本	12	
		3.5m	本	17	
		3.0m	本	17	
		3.5m	本	15	
		4.4m	本	14	
注 入	φ 135	3.2m	本	13	
		3.0m	本	12	
		23.0m	本	17	
		19.0m	本	17	
		16.0m	本	15	
		14.0m	本	14	
		10.0m	本	13	
		7.0m	本	12	

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第一橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その4）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

残置式アンカー詳細図
(一段目：1×φ12.7mm)
(六段目：1×φ12.7mm)

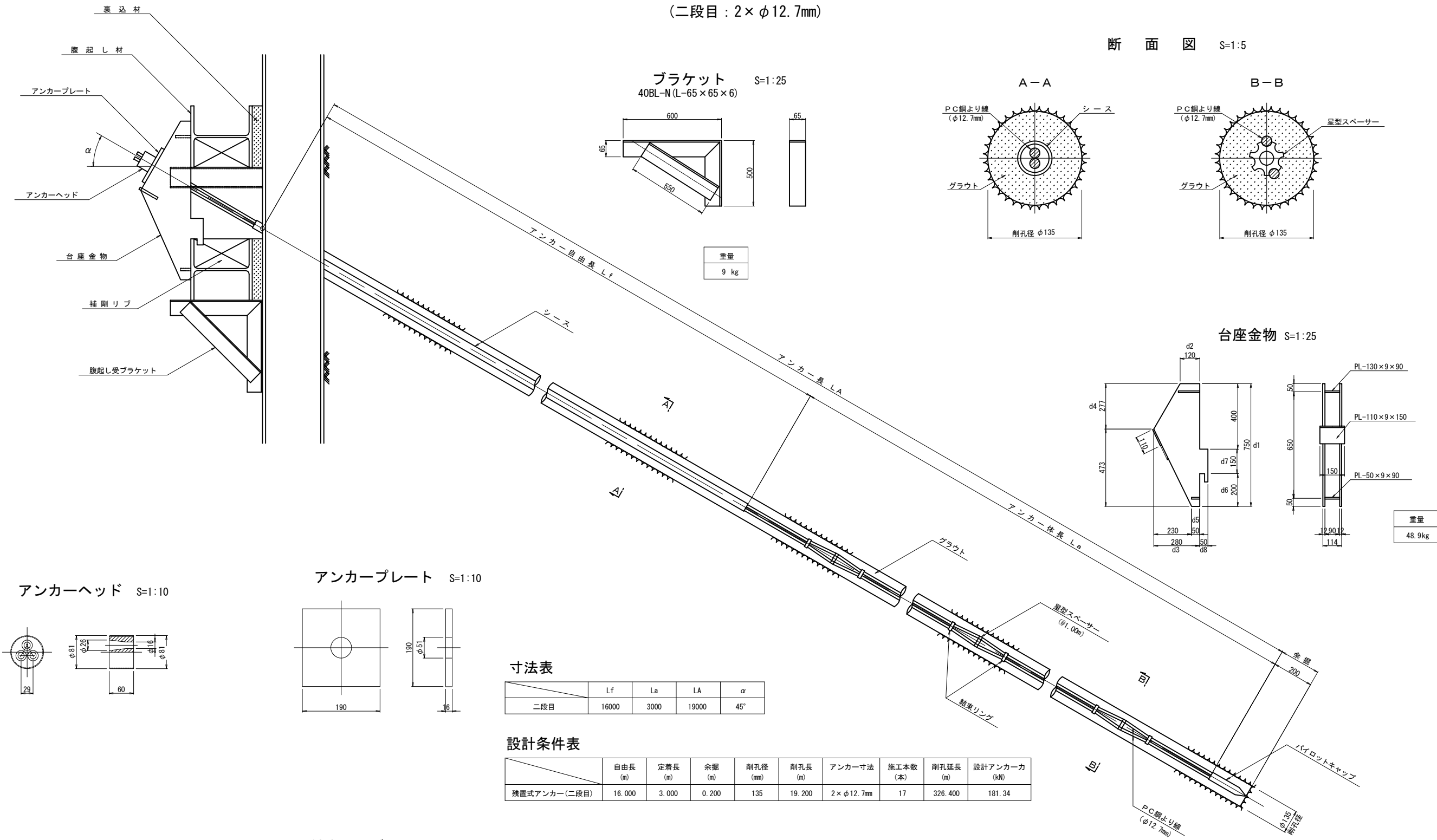
断面図 S=1:5



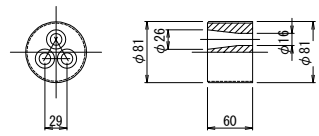
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川橋第一橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

残置式アンカー詳細図
(二段目：2×φ12.7mm)

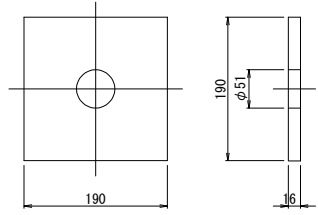
断面図 S=1:5



アンカーヘッド S=1:10



アンカープレート S=1:10



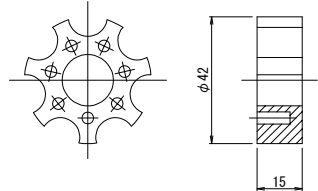
寸法表

	Lf	La	Lb	α
二段目	16000	3000	19000	45°

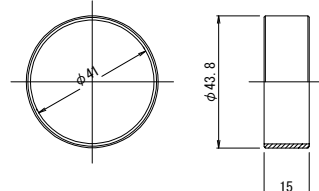
設計条件表

	自由長 (m)	定着長 (m)	余量 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(二段目)	16.000	3.000	0.200	135	19.200	2×φ12.7mm	17	326.400	181.34

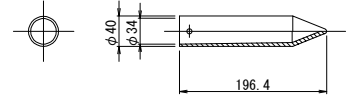
星型スペーサー S=1:2.5



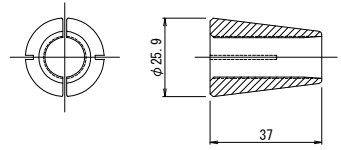
結束リング S=1:2.5



パイロットキャップ S=1:10



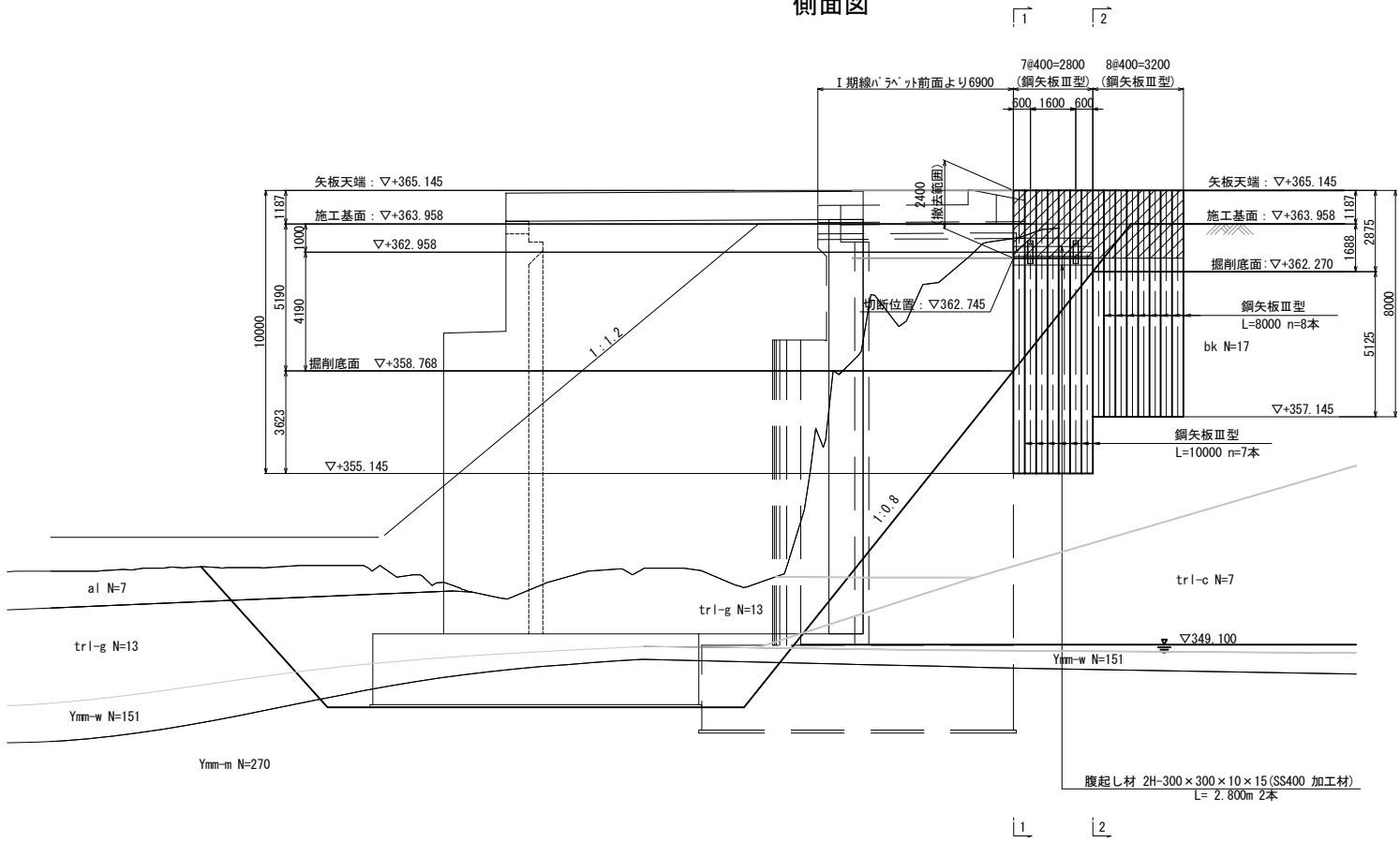
クサビ S=1:2.5
(12.7mm用)



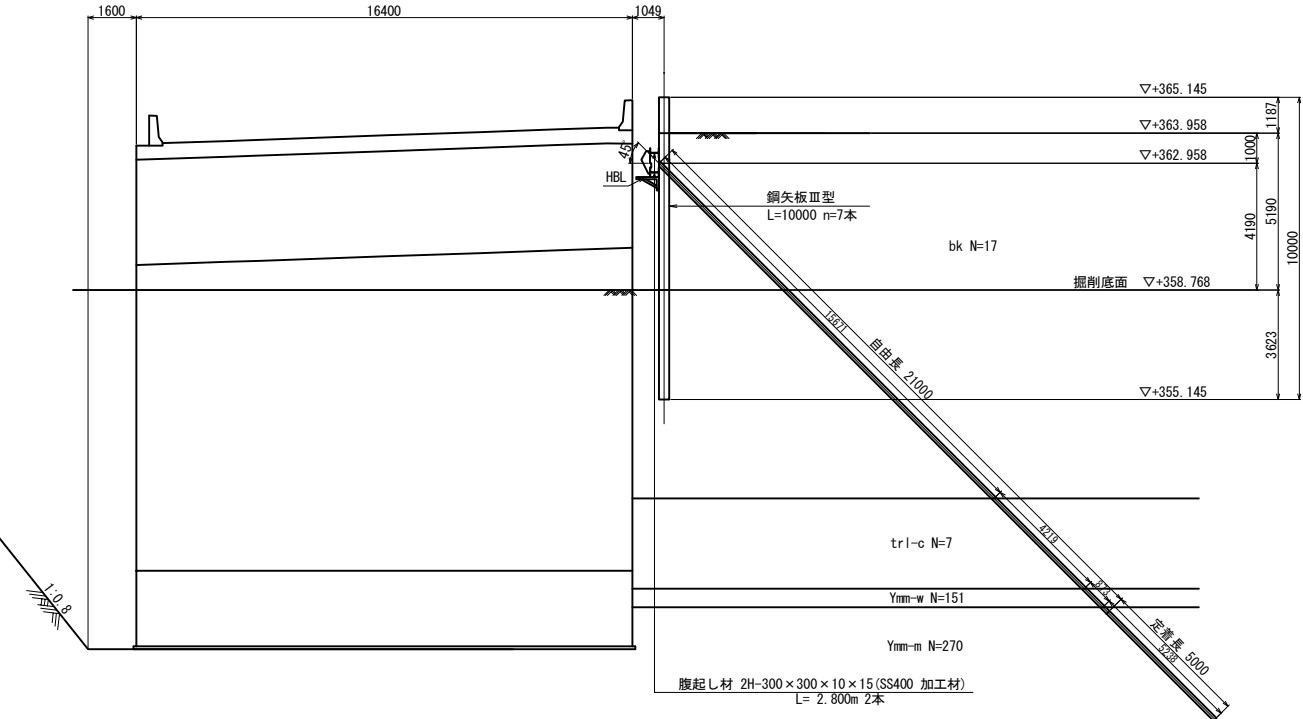
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その6）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

構造物掘削 特殊部 B 2

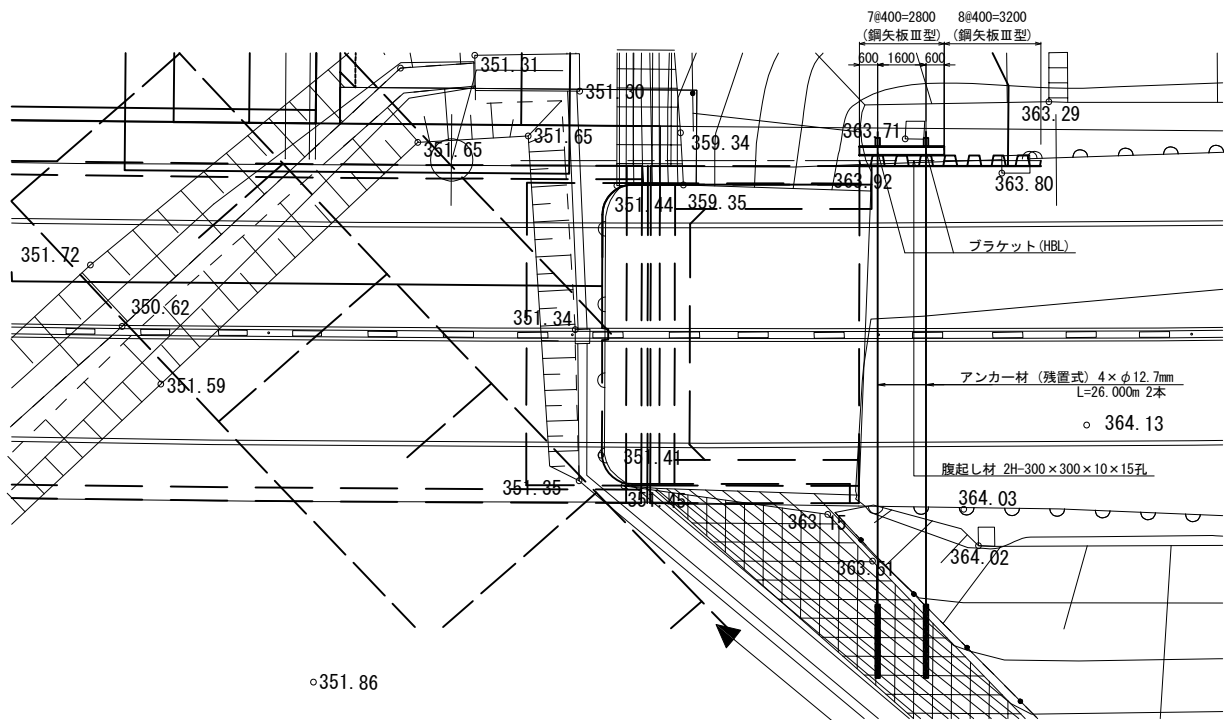
側面図



断面図
(1 - 1)



平面図



断面図
(2 - 2)

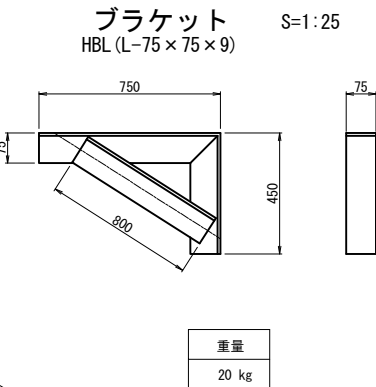
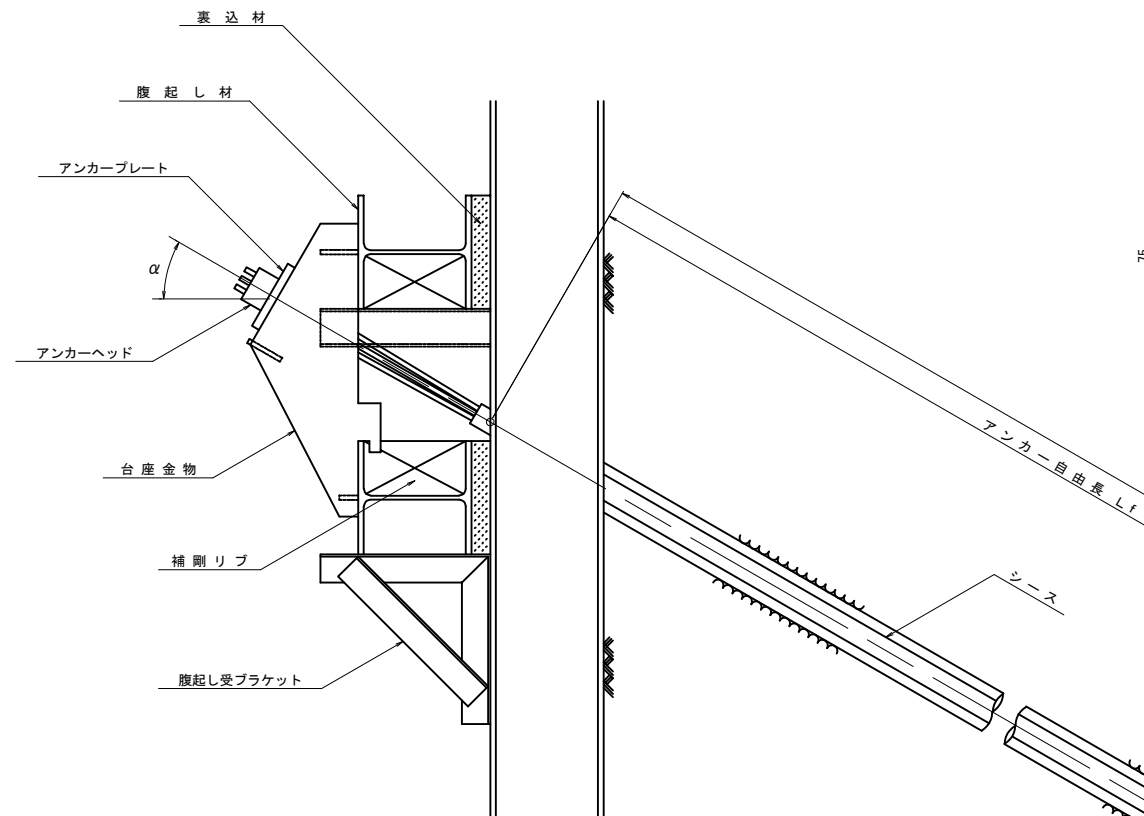


材 料 表		1基当り	
項 目	細 目	単 位	数 量
腹起し	H-300×300×10×15孔	L=2800 本	2
ブラケット	L-75×75×9	L=2000 本	2
台 座	鋼製	組	2

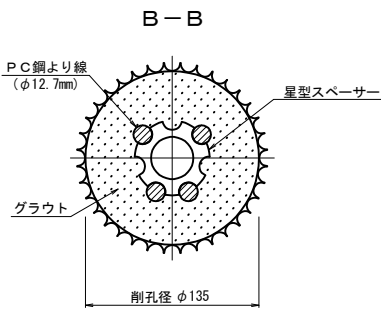
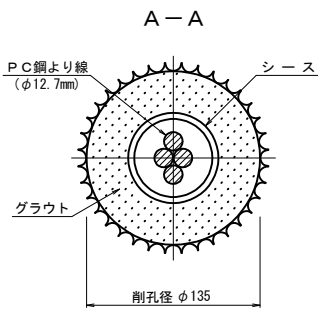
工 種	項目	単位	合 計	摘 要
鋼矢板Ⅲ型	最大地盤N値 17	10.0m	枚	7 鋼矢板Ⅲ型
		8.0m	枚	8 鋼矢板Ⅲ型
	打込み	10.0m	枚	7
		8.0m	枚	8
ガス切断	鋼矢板Ⅲ型	L=2.4m	箇所	15
スクラップ	鋼矢板Ⅲ型	L=2.4m	t	2.160
腹起し	H-300×300×10×15孔	t	0.560	
ブラケット	L-75×75×9	t	0.040	
仮設アンカー (残置式)	4×φ12.7mm	26.0m	本	2
削孔長 (φ135)	硬質土	20.1m	本	2
	軟 岩	5.9m	本	2
注 入	φ135	26.0m	本	2
台 座	鋼製	t	0.098	

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

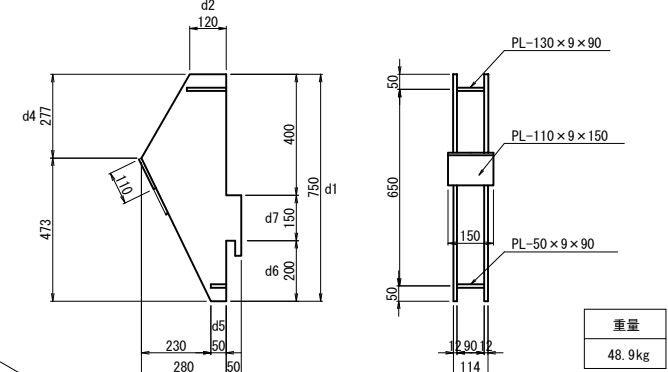
残置式アンカー詳細図
(4 × φ12.7mm)



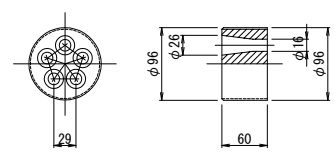
断面図 S=1:5



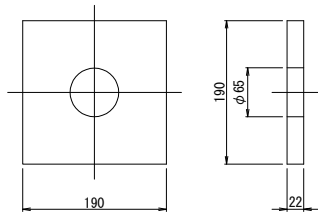
台座金物 S=1:25



アンカーヘッド S=1:10



アンカープレート S=1:10



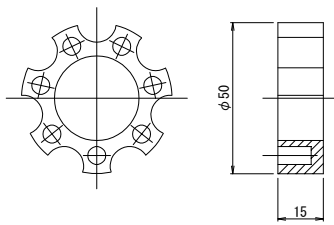
寸法表

	Lf	La	LA	α
一段目	21000	5000	26000	45°

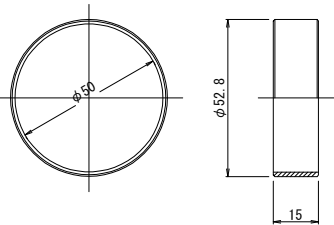
設計条件表

	自由長 (m)	定着長 (m)	余掘 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(一段目)	21.000	5.000	0.200	135	26.200	4 × φ12.7mm	2	52.400	450.47

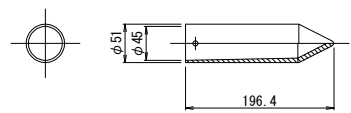
星型スペーサー S=1:2.5



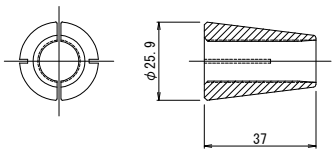
結束リング S=1:2.5



パイロットキャップ S=1:10

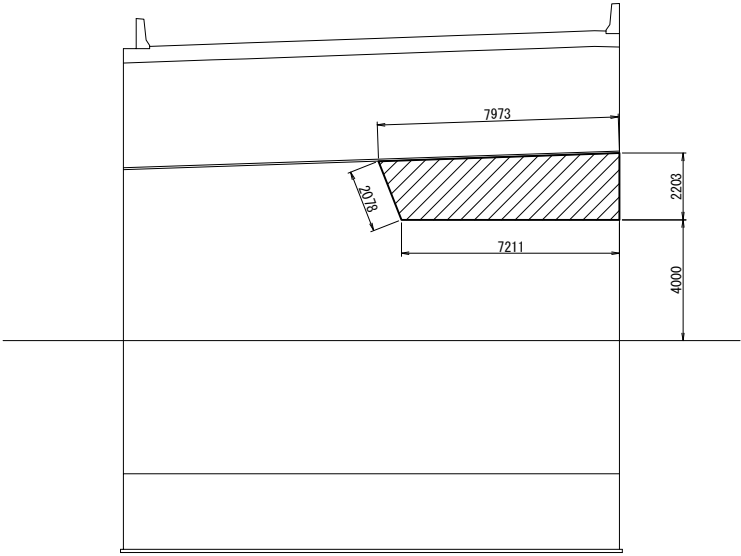


クサビ S=1:2.5
(12.7mm用)

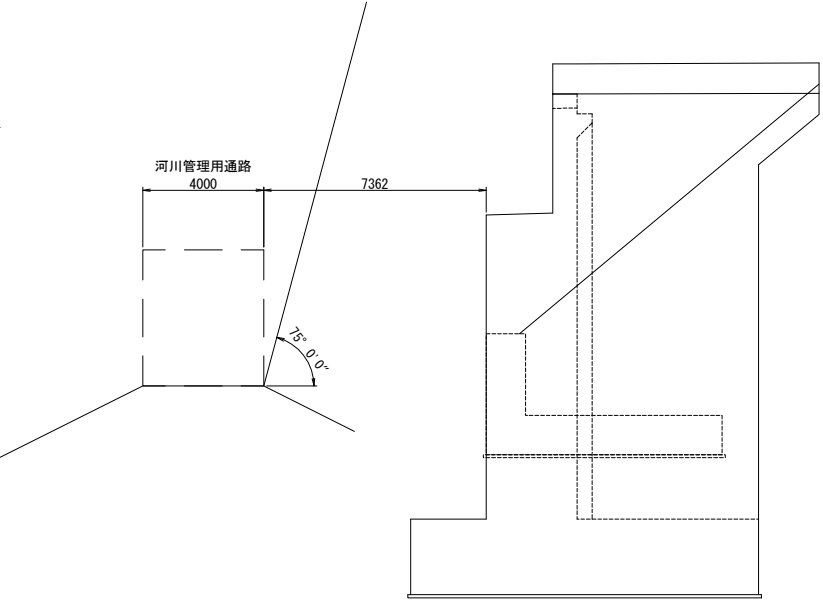


道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第一橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その 2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

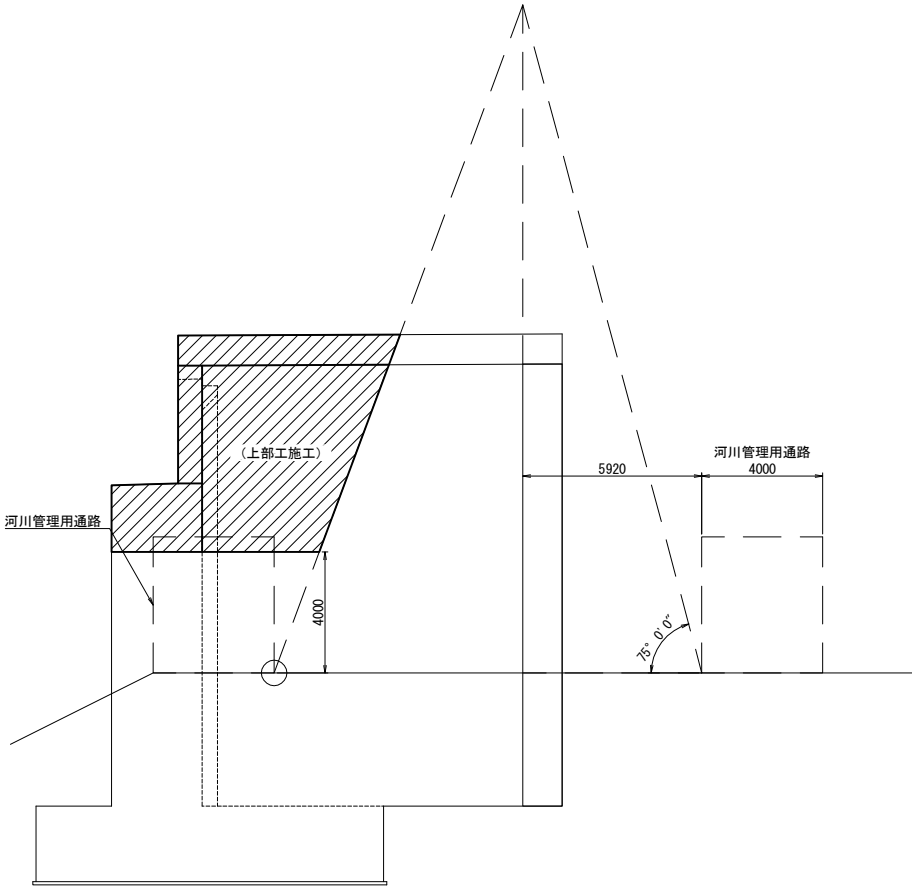
正面図(1-1)



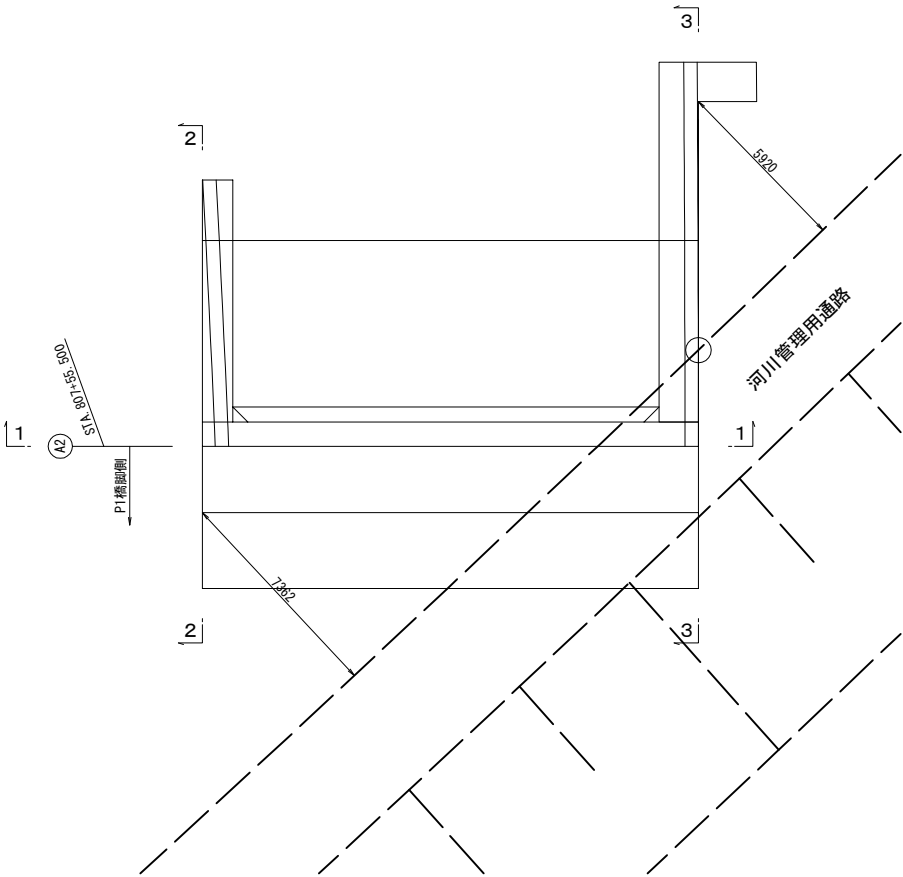
断面図(2-2)



断面図(3-3)




平面図



数量表

種 別	単位	数量
はく落防止対策工 A	m2	15.8

※ 3-3断面は、上部工事で施工予定

注):  は、はく落防止範囲を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第一橋（下り線） A 2 橋台はく落防止対策工		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		